

3. クロス集計および分析結果

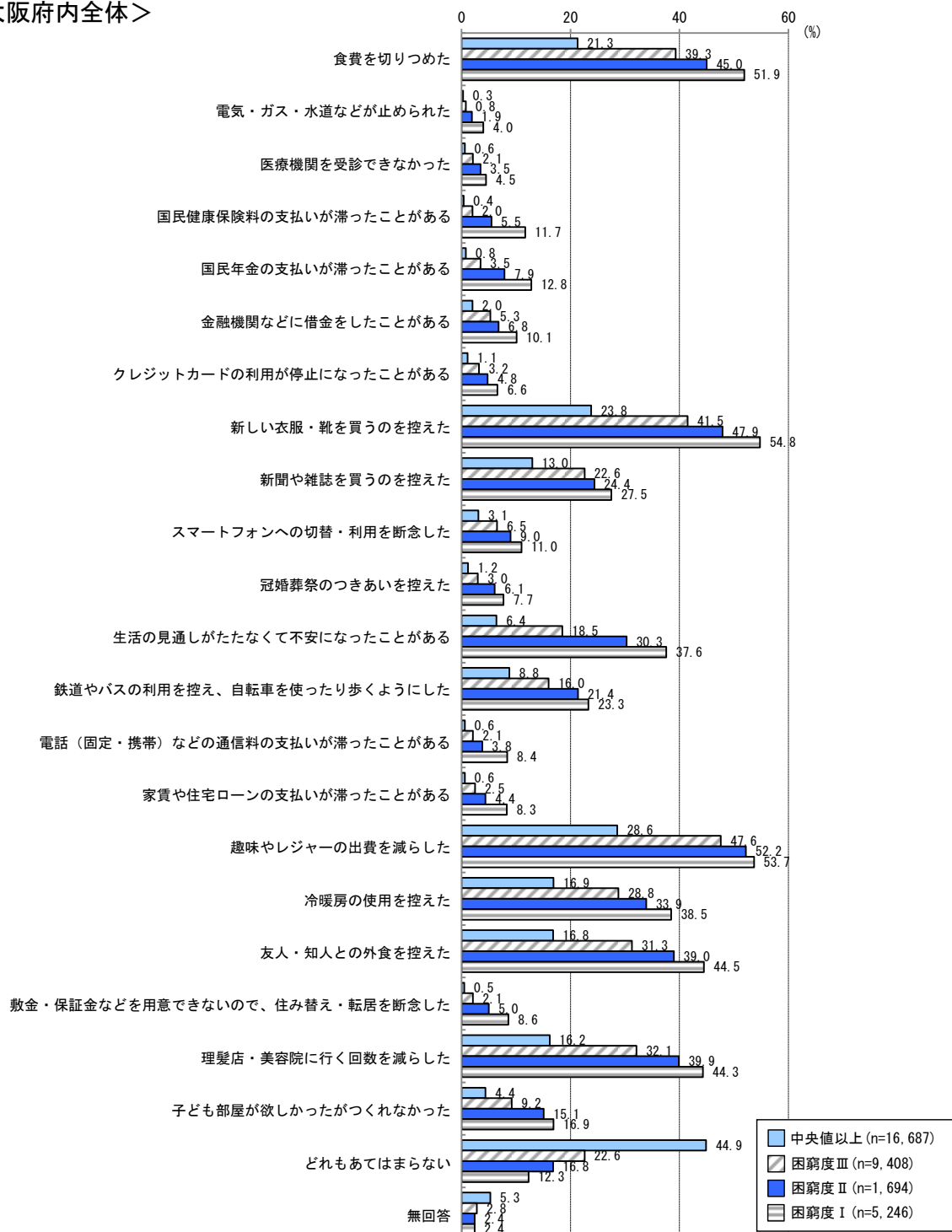
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

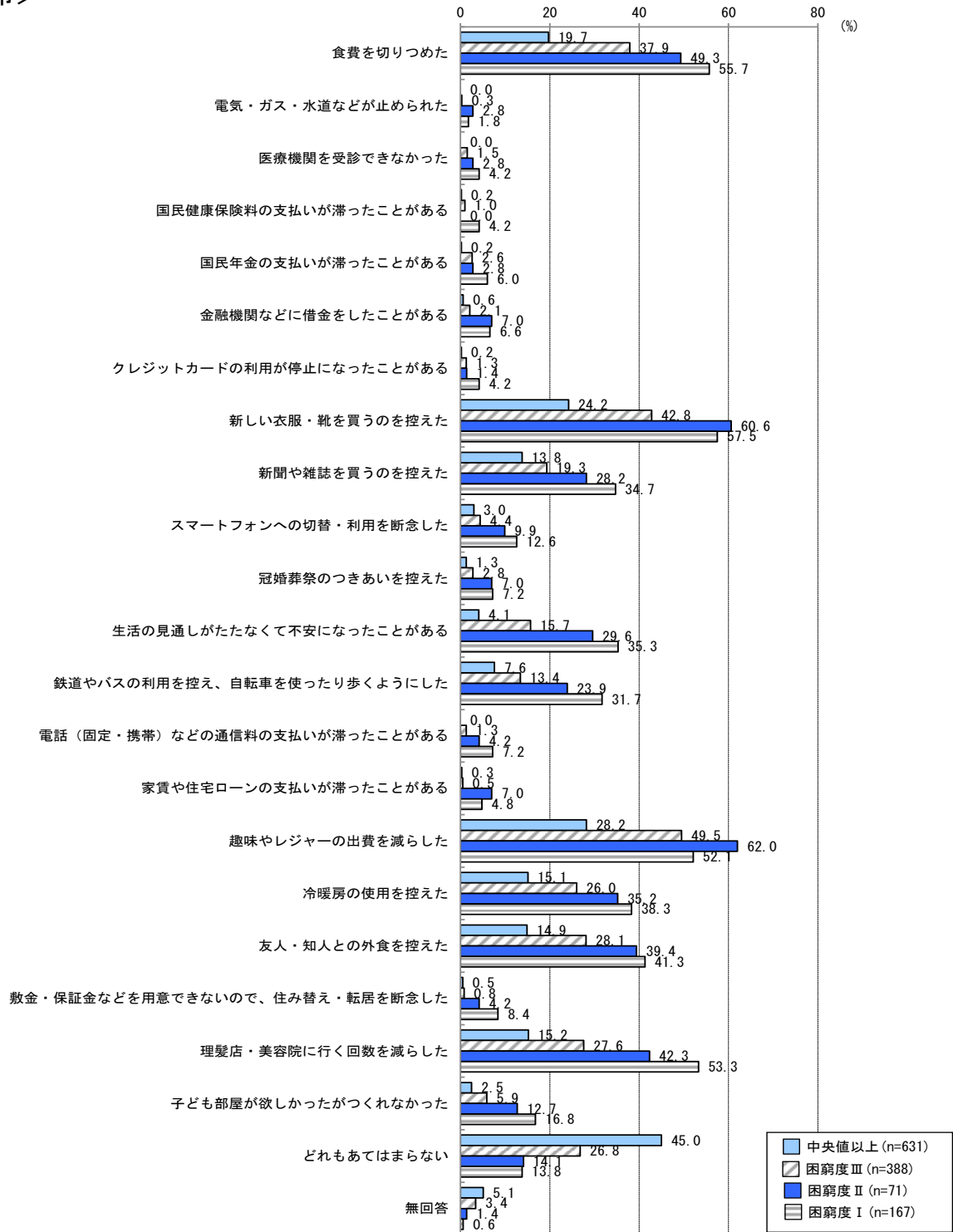
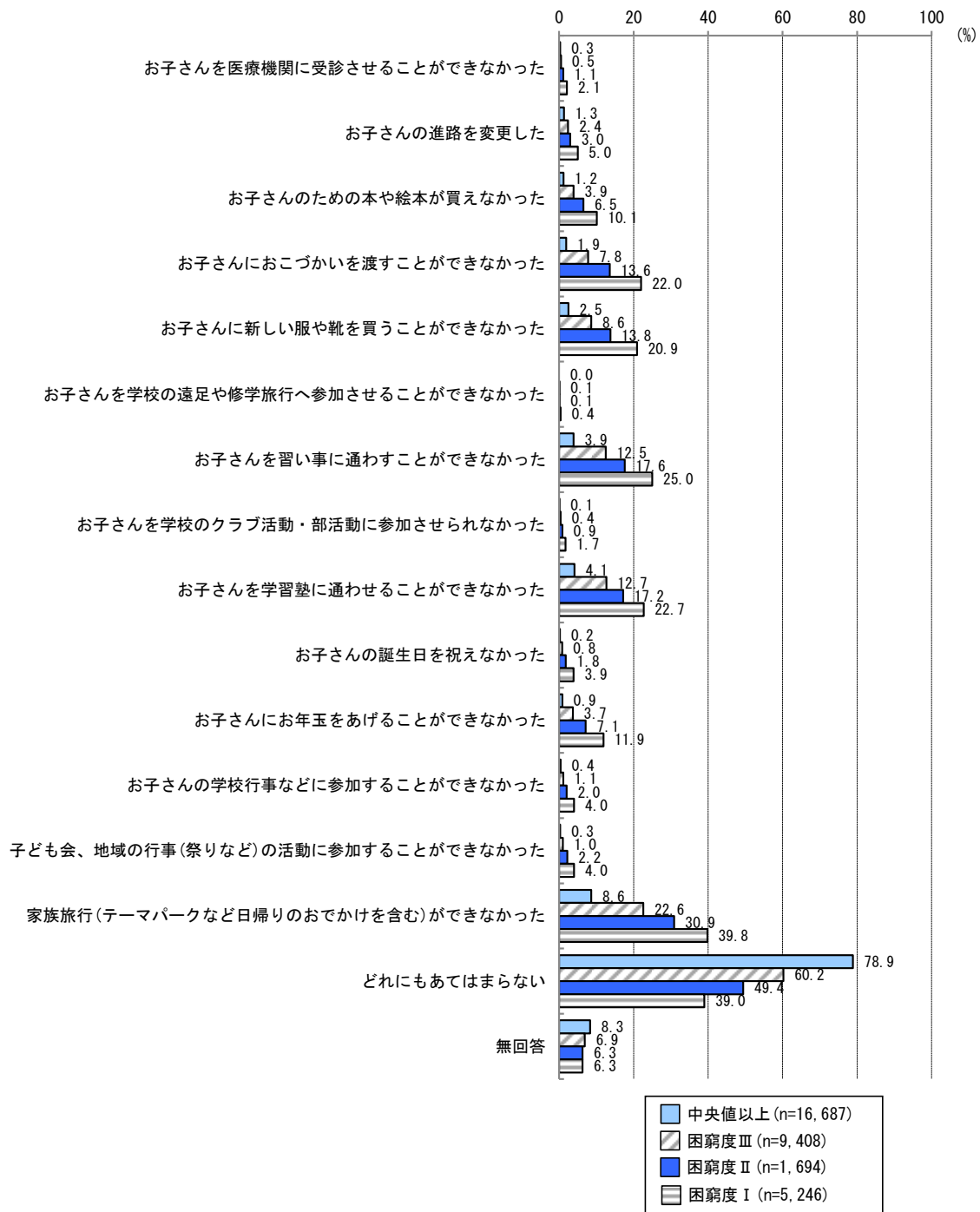


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「国民年金の支払いが滞ったことがある」が6.0%（中央値以上群に対して30.0倍）、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」、「クレジットカードの利用が停止になったことがある」が4.2%（同じく21.0倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で45.0%に対して、困窮度Ⅰ群において13.8%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<枚方市>

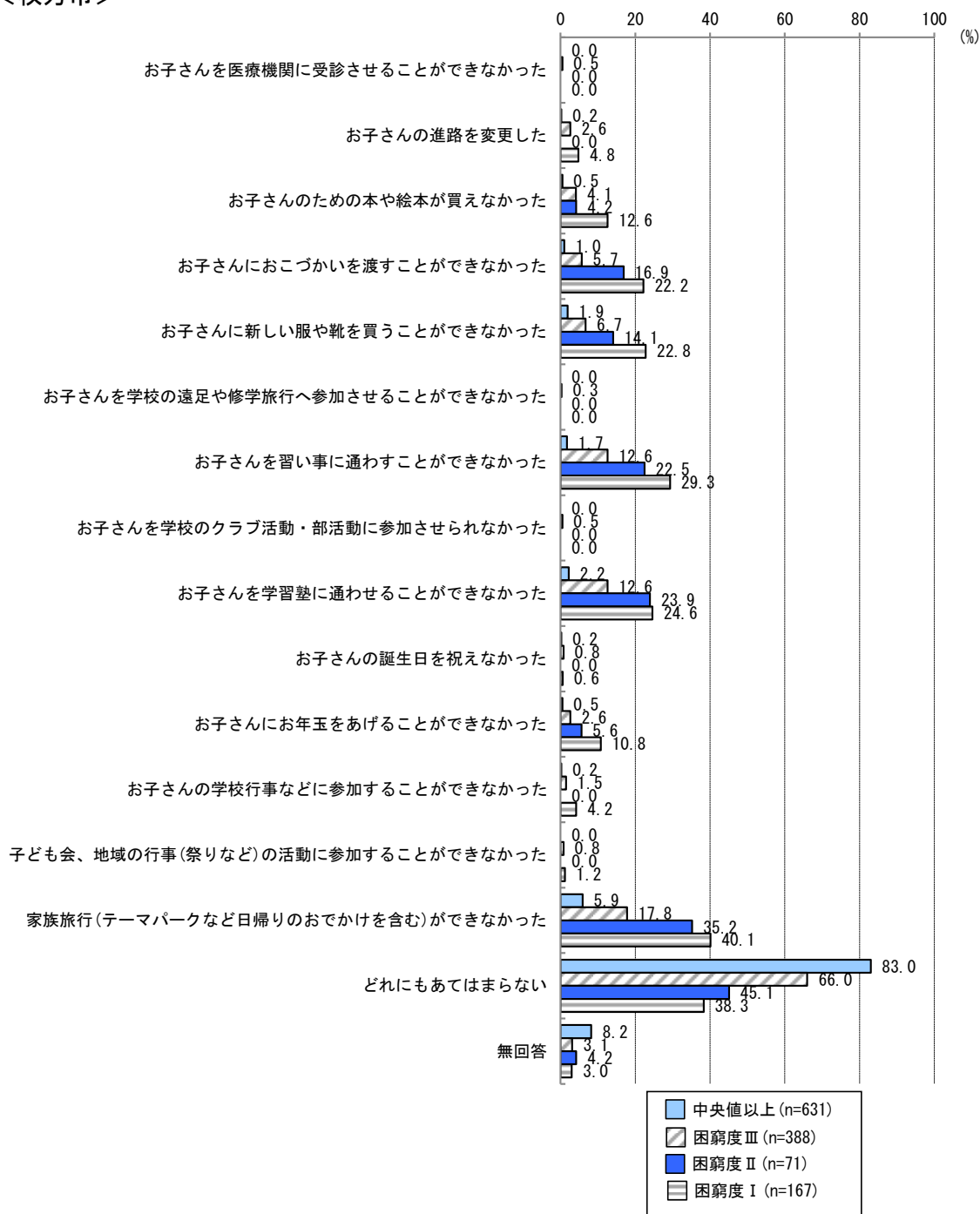


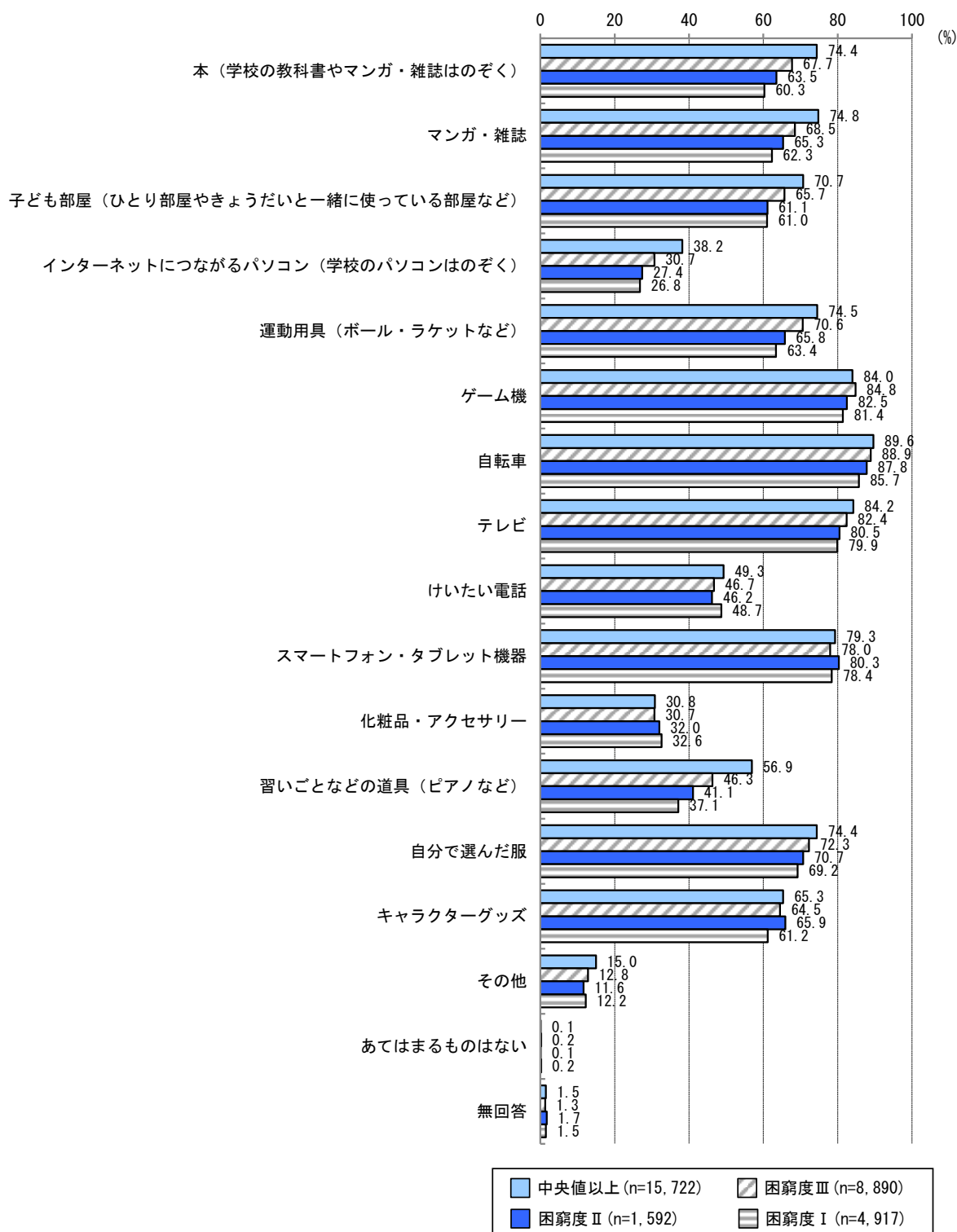
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんのための本や絵本が買えなかった」が12.6%（中央値以上群に対して25.2倍）、「お子さんの進路を変更した」が4.8%（同じく24.0倍）、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が22.2%（同じく22.2倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で83.0%に対して、困窮度Ⅰ群において38.3%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

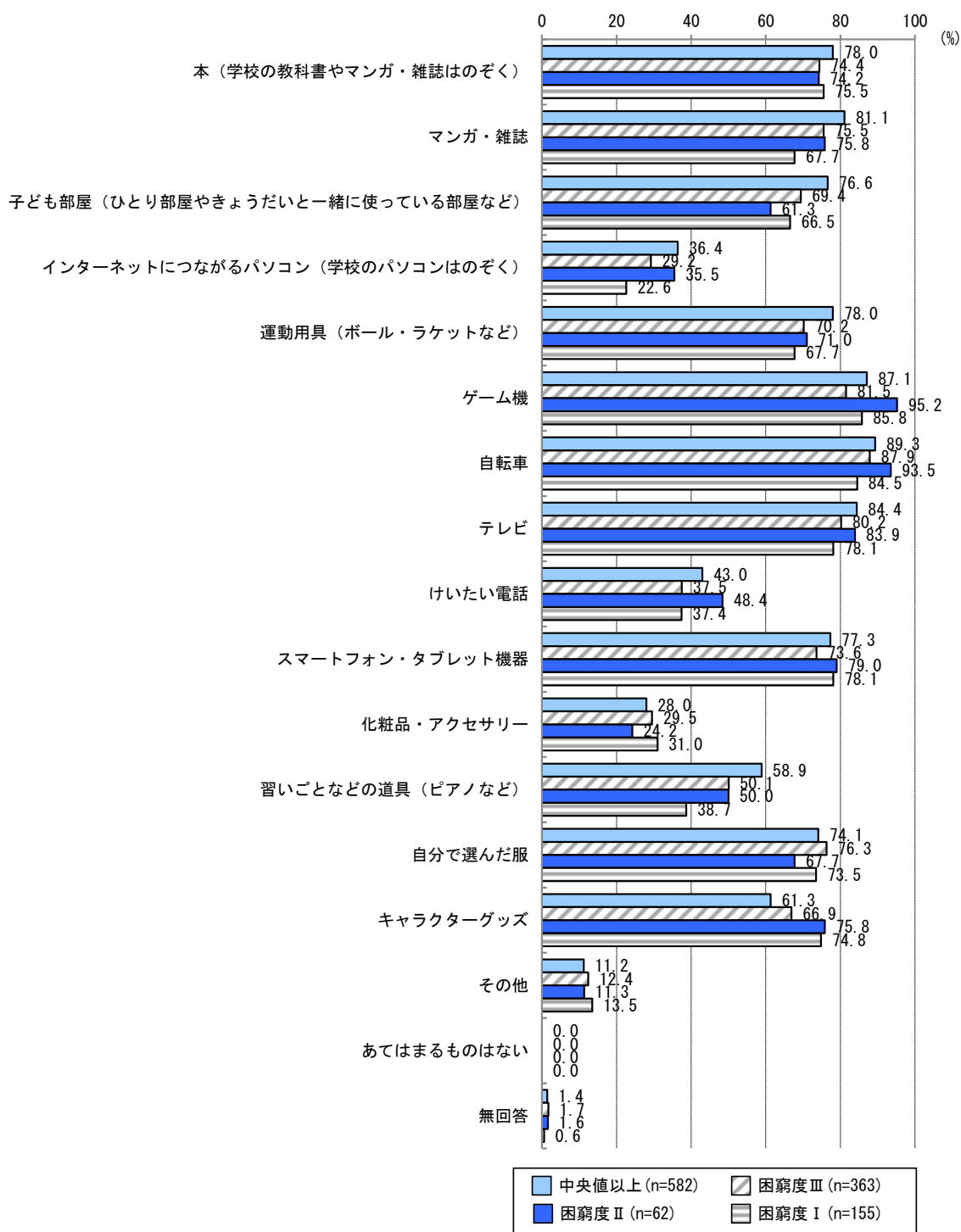
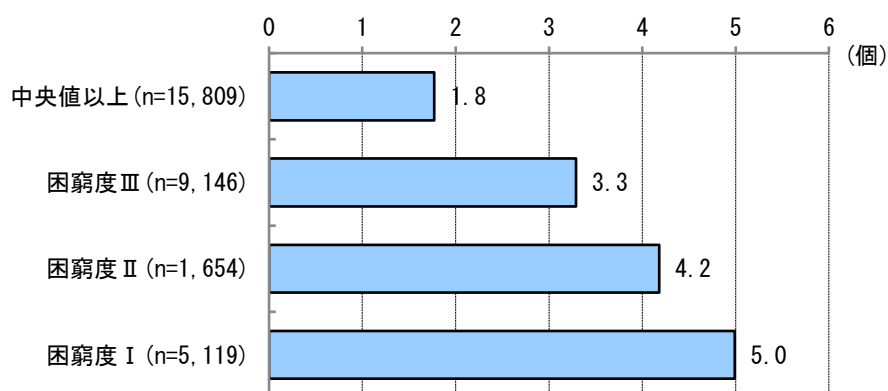


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」が36.4%（困窮度Ⅰ群に対して1.6倍）、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」が58.9%（同じく1.5倍）、「マンガ・雑誌」が81.1%（同じく1.2倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<枚方市>

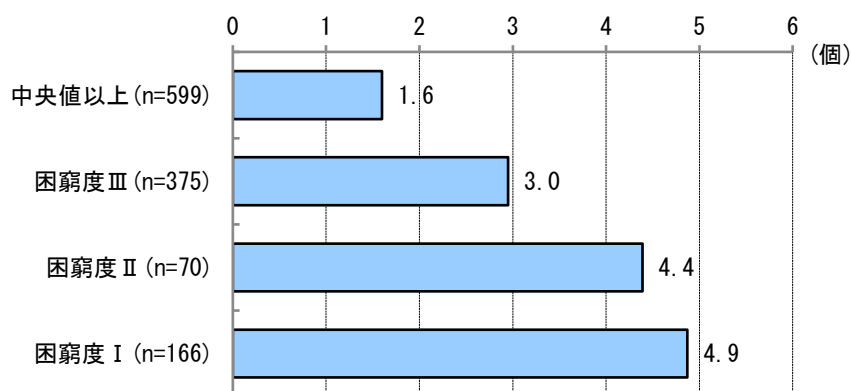


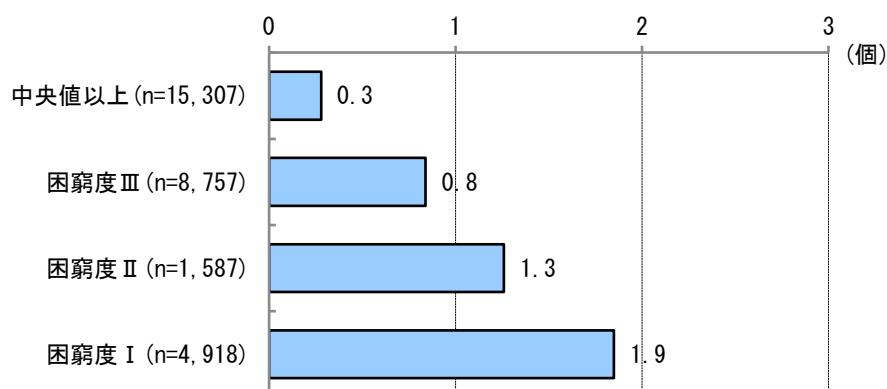
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<枚方市>

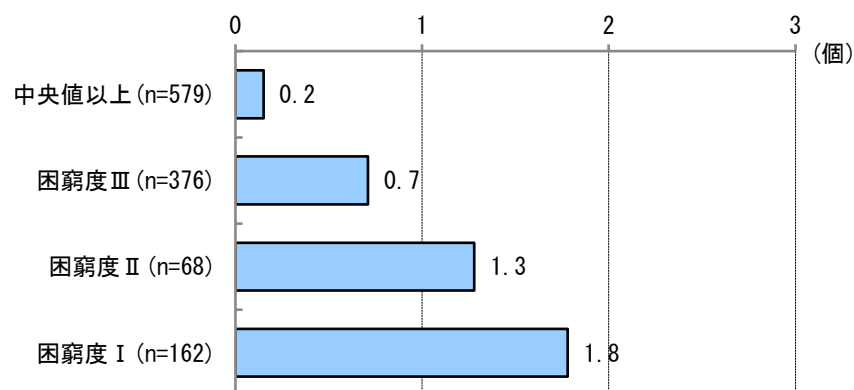


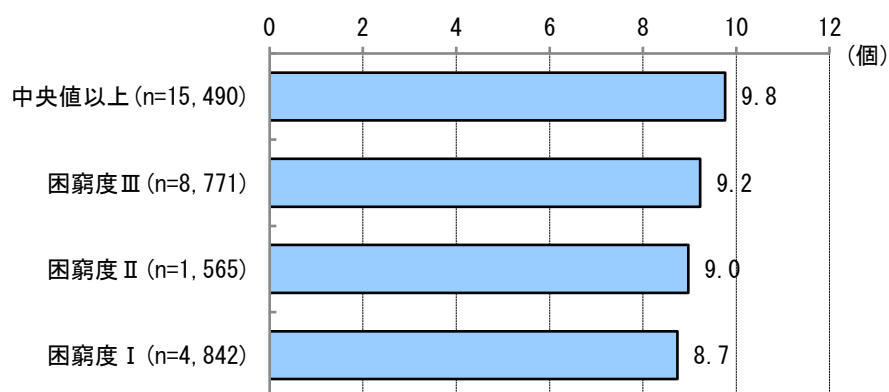
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<枚方市>

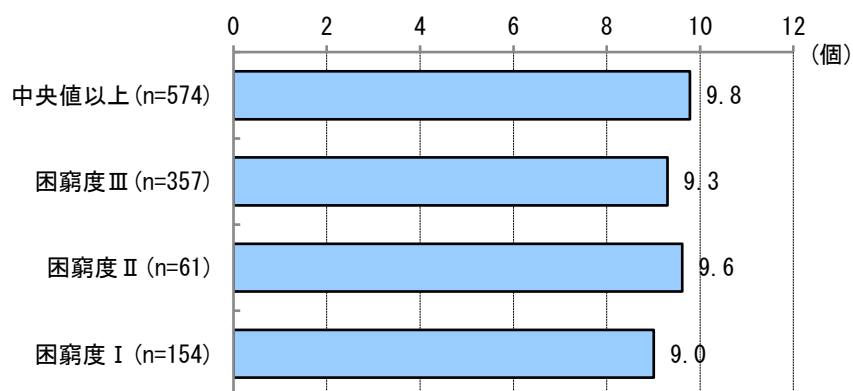


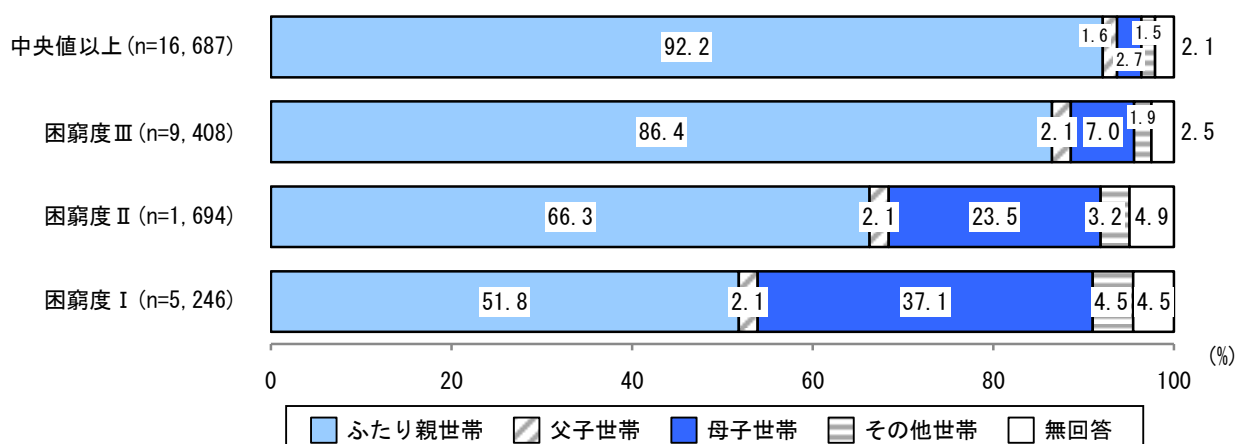
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度によって子どもの持ちもの、使えるものの該当数に大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<枚方市>

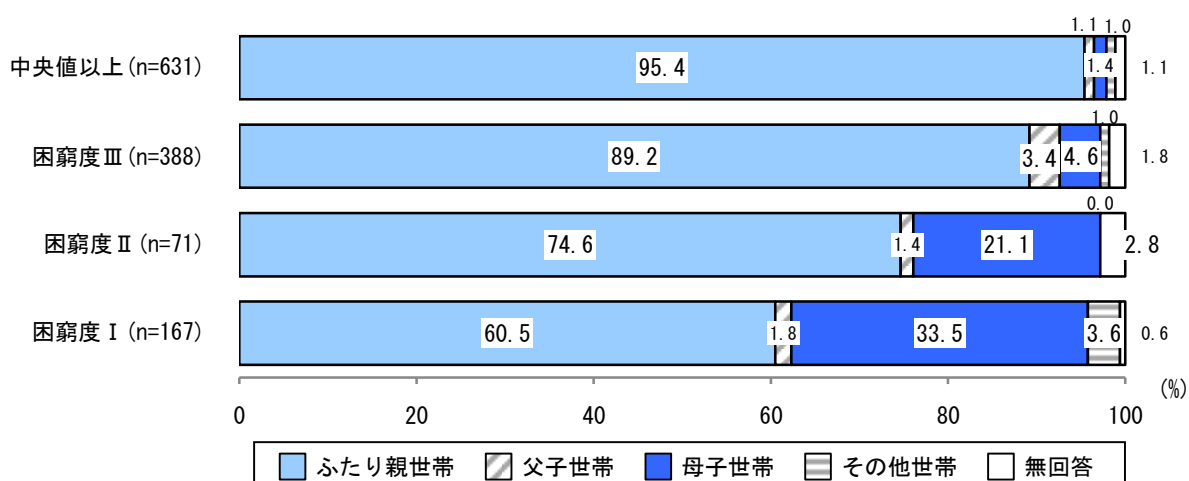


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が95.4%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は60.5%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が1.4%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は33.5%だった。

<2016年度調査との比較／枚方市>

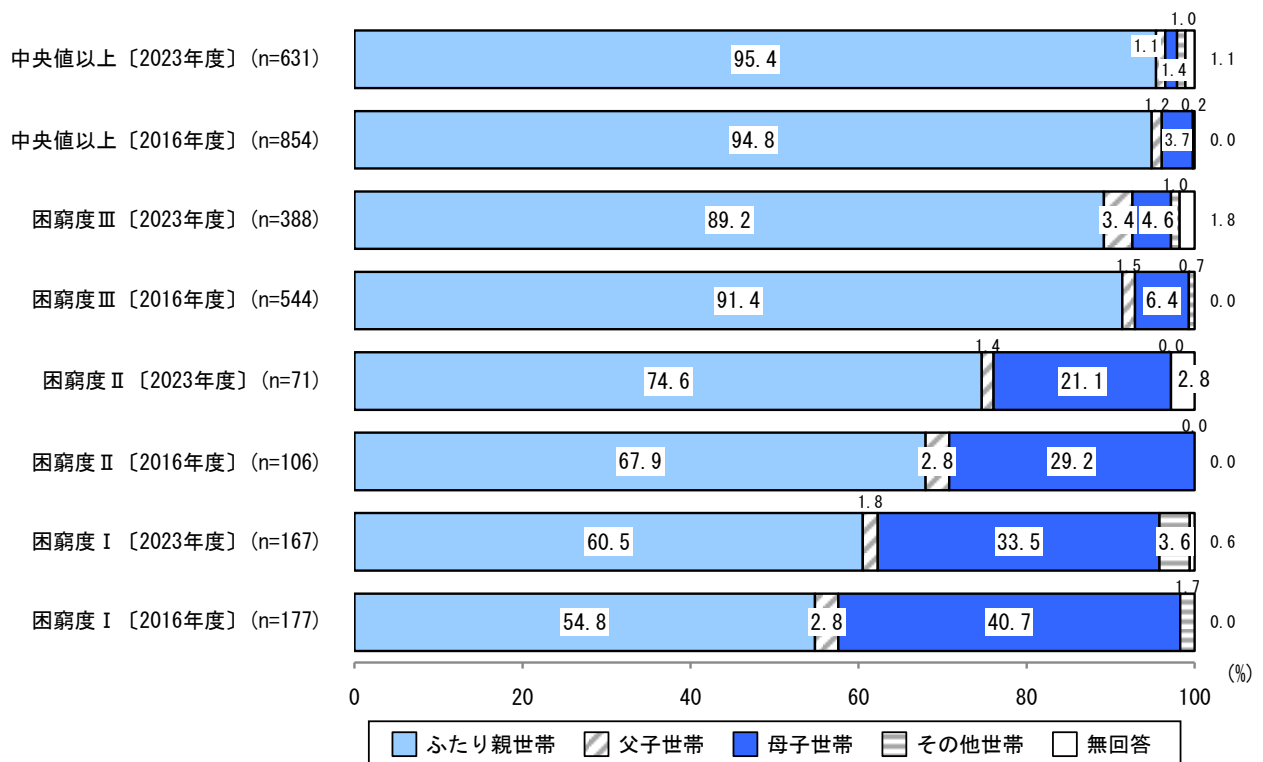
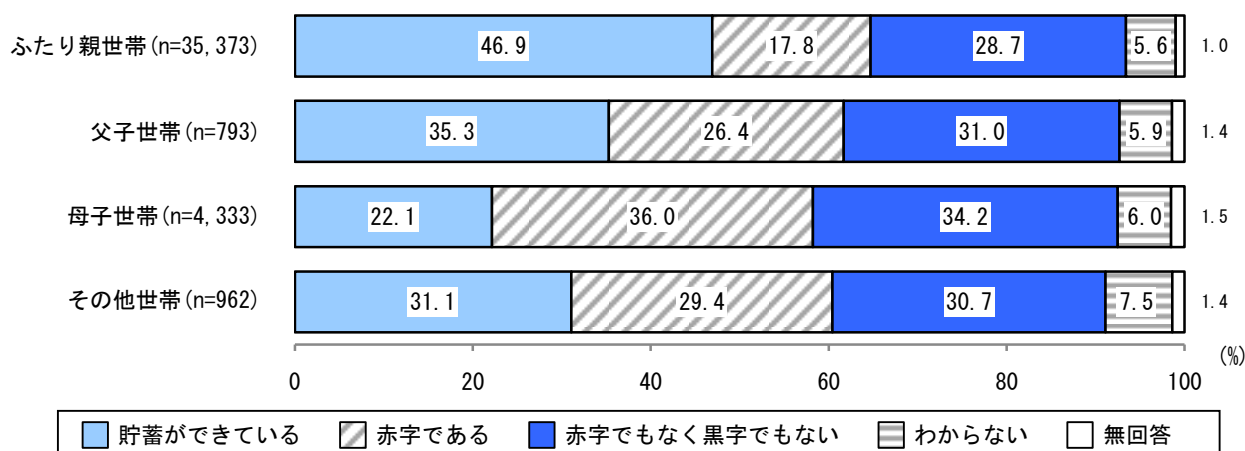


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、中央値以上群と困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群は2016年度調査に比べて高くなっているが、困窮度Ⅲ群は、2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

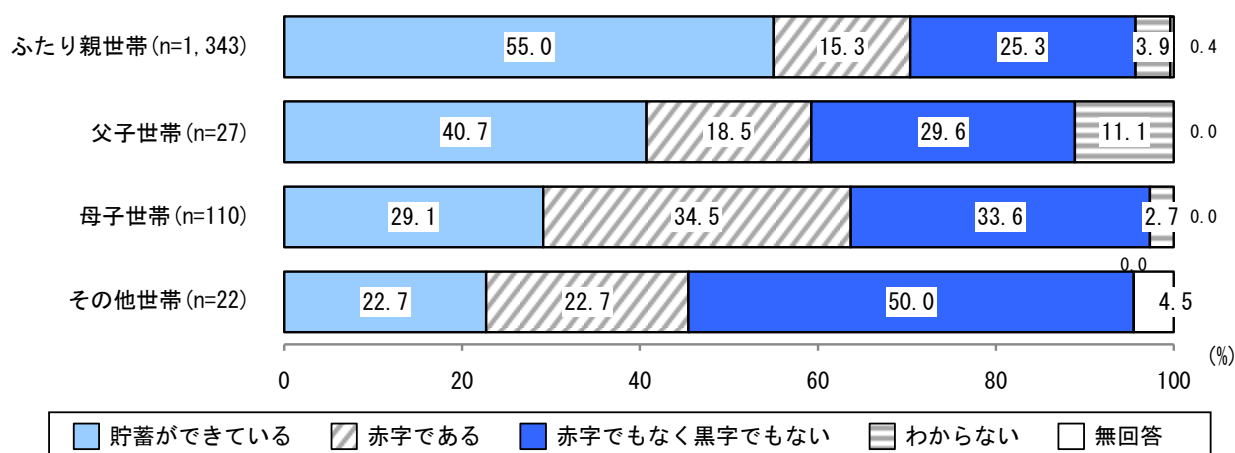
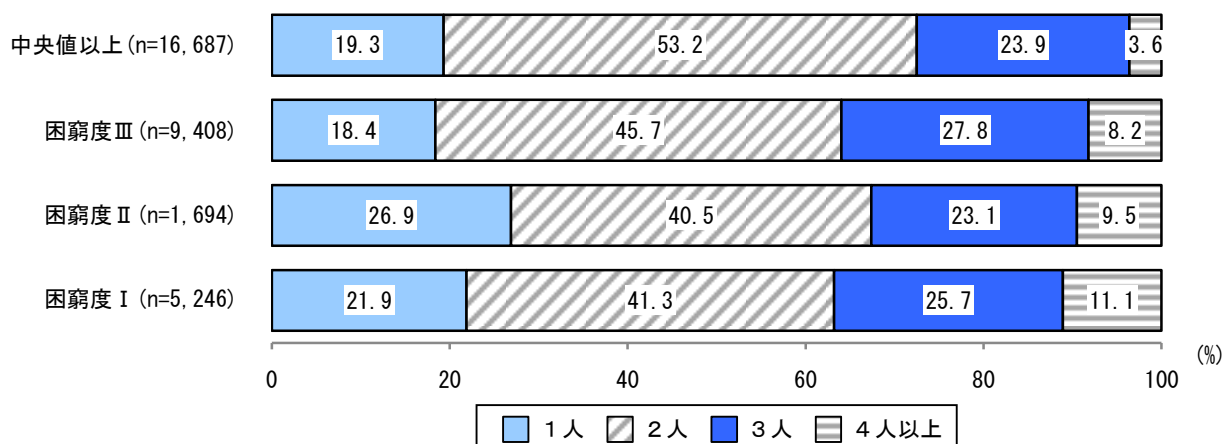


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が 55.0%なのに対して、父子世帯40.7%、母子世帯29.1%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が15.3%なのに対して、母子世帯は34.5%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<枚方市>

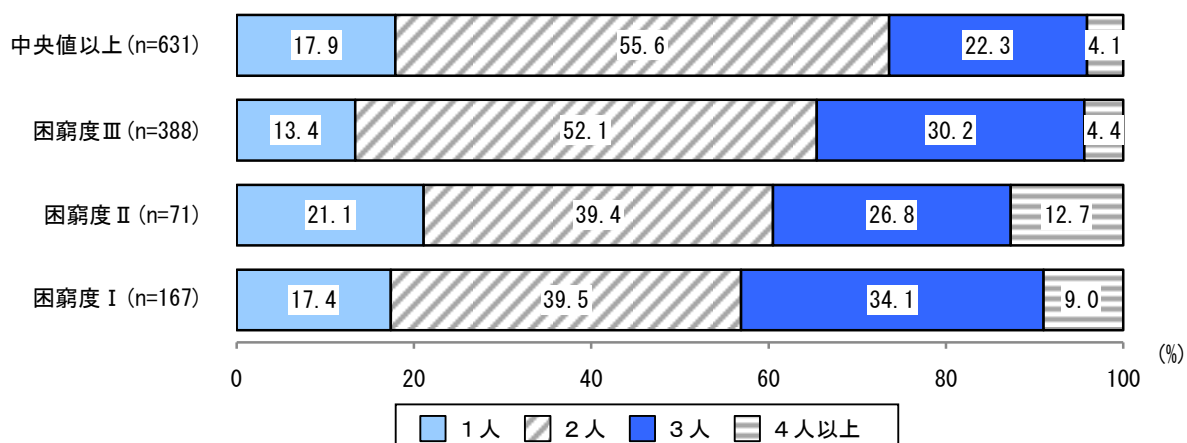
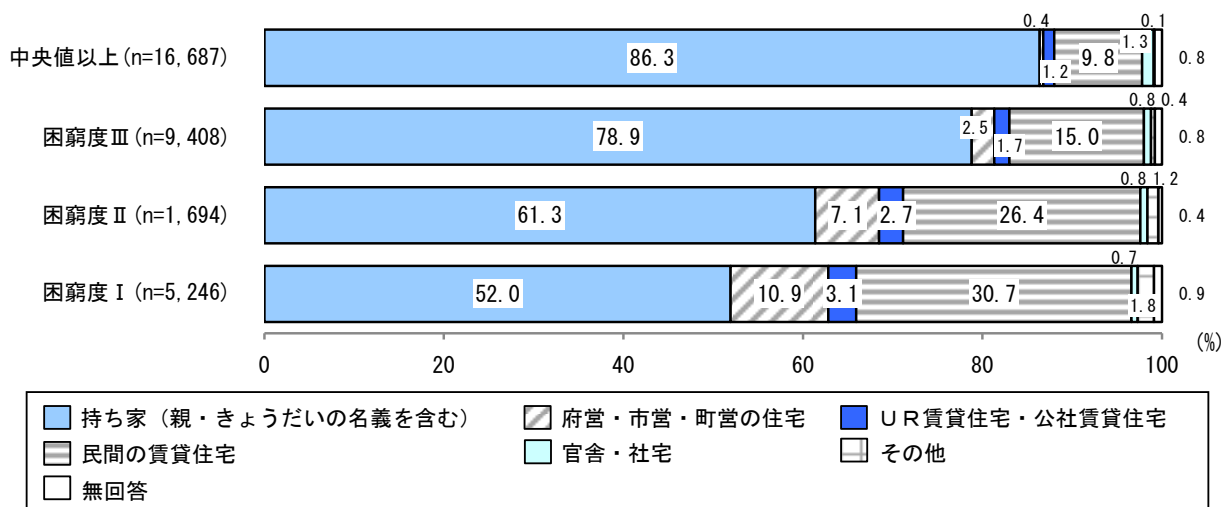


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が26.4%（3人22.3%、4人以上4.1%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、3人以上が43.1%（3人34.1%、4人以上9.0%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<枚方市>

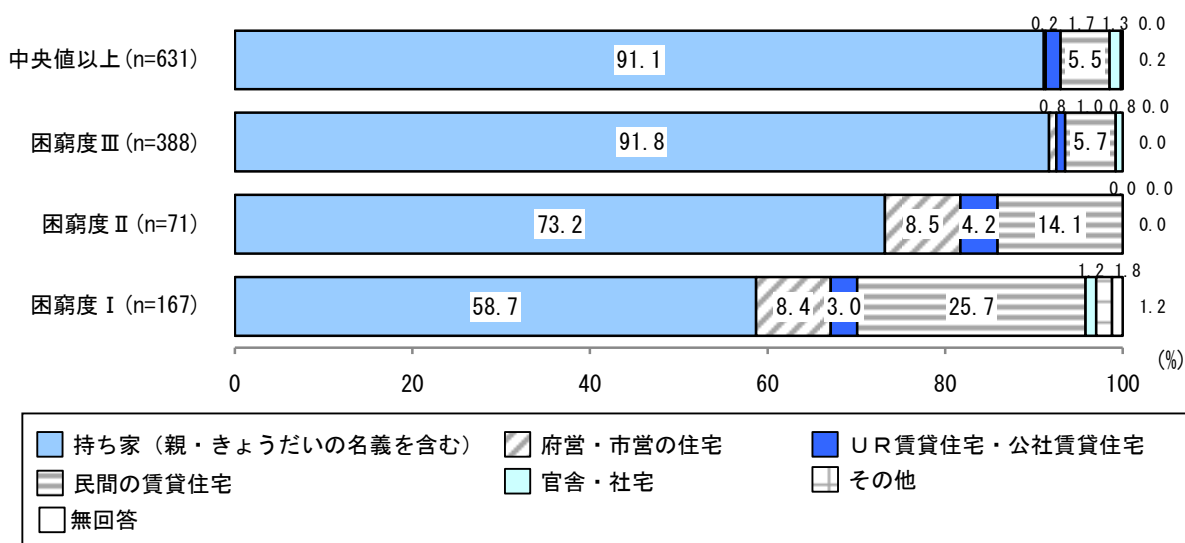
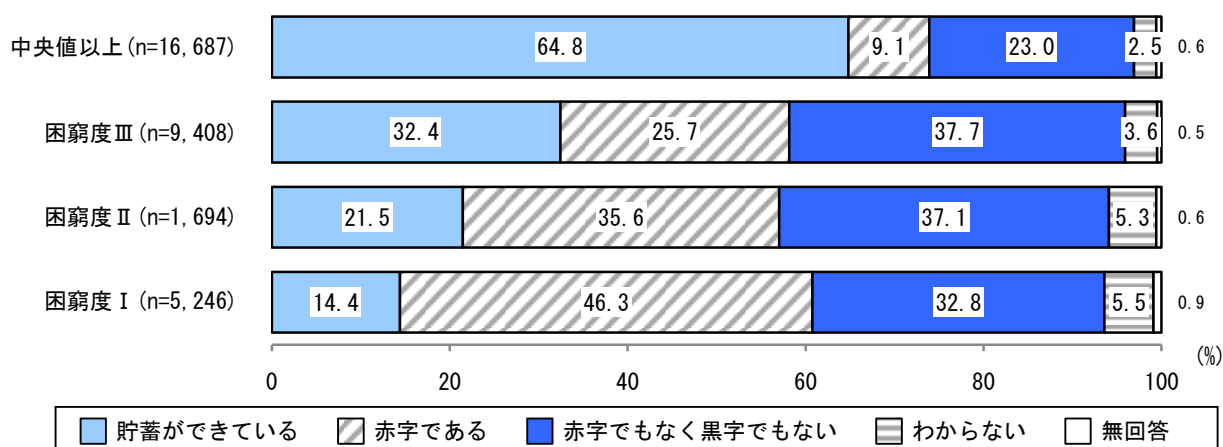


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は概ね低くなっている。中央値以上群と困窮度Ⅲ群では、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」と回答した割合は91.1%、91.8%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、58.7%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

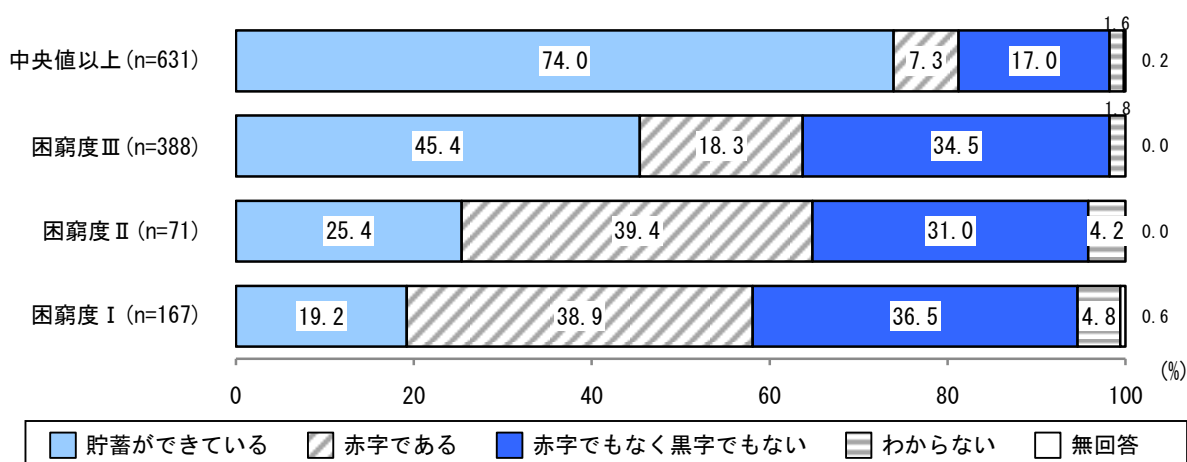
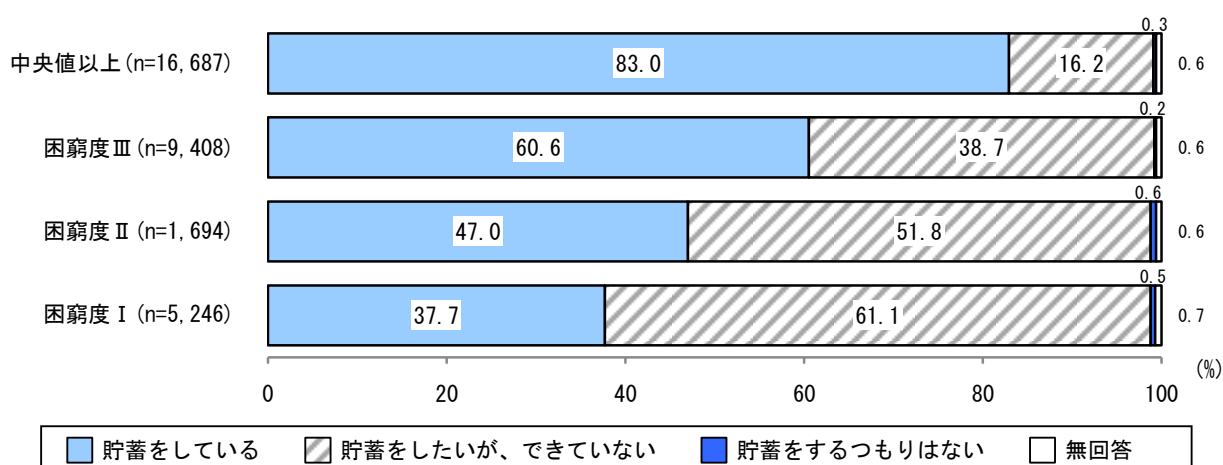


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、7.3%であるのに対して、困窮度Ⅰ・Ⅱ群では、38.9%、39.4%となり、困窮度Ⅰ・Ⅱ群で約4割を占めている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

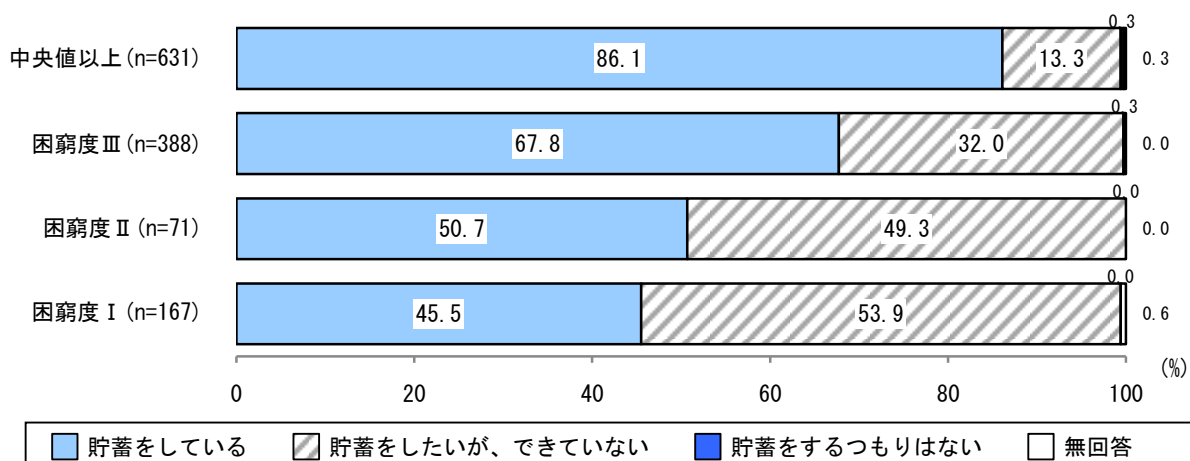
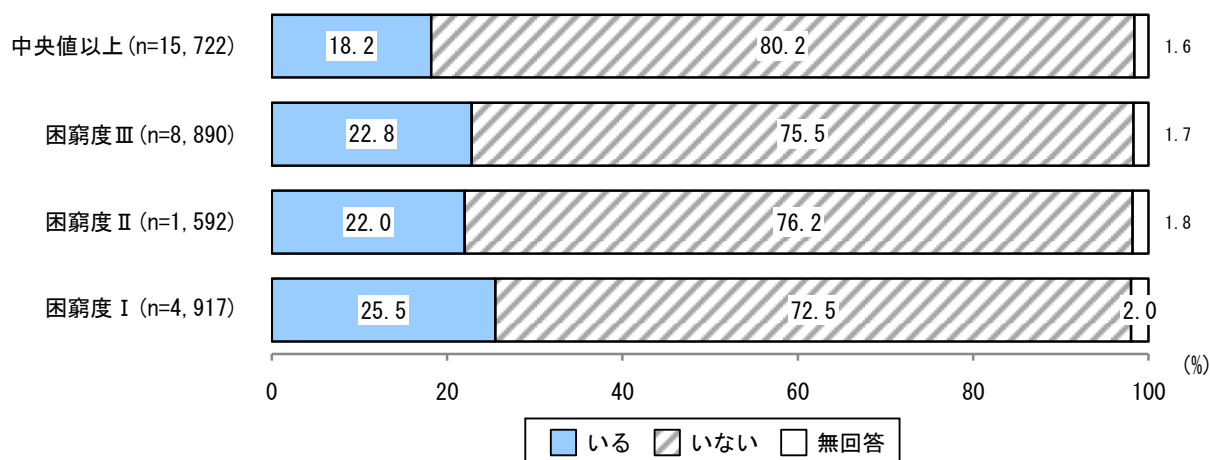


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答した割合が86.1%を占めたが、困窮度Ⅰ群では45.5%にとどまり、約5割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

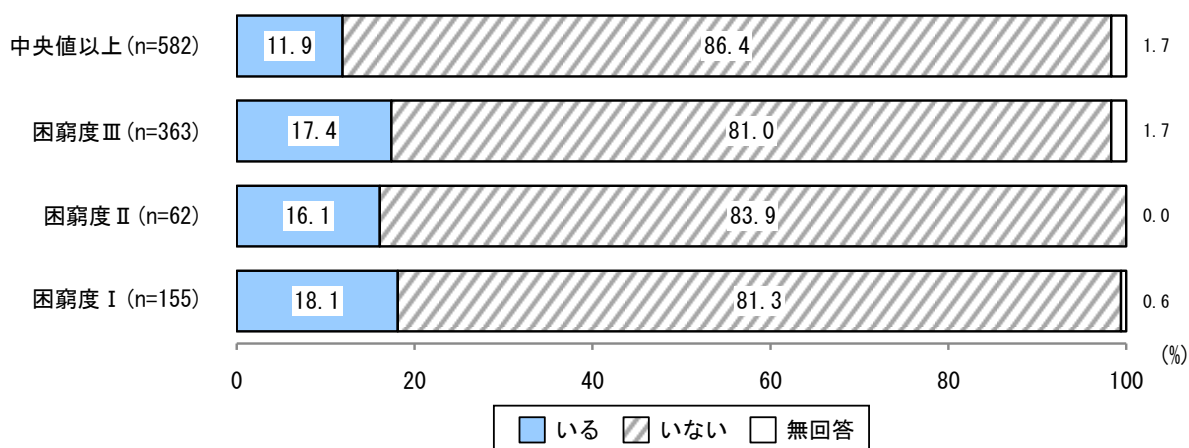


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で18.1%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答した割合が86.4%を占め、最も高くなっている。

<経済状況に関する考察>

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で45.0%に対して、困窮度Ⅰ群では13.8%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、「食費を切り詰めた」(55.7%対19.7%)、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」(53.3%対15.2%)では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が30ポイント以上高く、嗜好的要因である「趣味やレジャーの出費を減らした」(52.1%対28.2%)、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」(57.5%対24.2%)でも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が20ポイント以上高くなっているほか、ほぼすべての項目で中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(6.0%対0.2%)でも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高く、子どもの親（保護者）の将来（老後）の生活困難を示唆するデータも見られた。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(35.3%対4.1%)では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が30ポイント以上高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(29.3%対1.7%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(24.6%対2.2%)では、いずれも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が20ポイント以上高く、象徴的には「お子さんの進路を変更した」(4.8%対0.2%)でも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、「家族旅行（日帰りのおでかけを含む）ができなかった」(40.1%対5.9%)では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が30ポイント以上高く、経験に大きな差がある。以上のように、所得階群によって体験の機会に差が見られるが、修学旅行への参加やクラブ・部活動への参加などでは大きな格差は見られず、子どもに対して貴重な体験や勉強の機会が提供しようとしている姿勢がデータから読み取れる。

また、経済的状況と世帯員の続柄の項目では、「お母さん」(96.8%対94.0%)では大きな差がないのに対して、「お父さん」(96.5%対62.3%)では中央値以上群の方が困窮度Ⅰ群より30ポイント以上高く、母子家庭の経済的困難が示唆されているほか、「姉・兄」(52.1%対49.4%)、「妹・弟」(50.9%対42.3%)、「おばあさん」(10.8%対4.0%)、「おじいさん」(7.2%対3.2%)といずれも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっているほか、世帯児童数でも3人以上では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっており、困窮度は世帯構成員が多い方で厳しい状況が示唆されている。「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」(86.1%対45.5%)、と回答した割合が40ポイント以上高くなっているのに対して、「貯蓄をしたいが、できていない」(53.9%対13.3%)と回答した割合では、中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が40ポイント以上高くなっており、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来

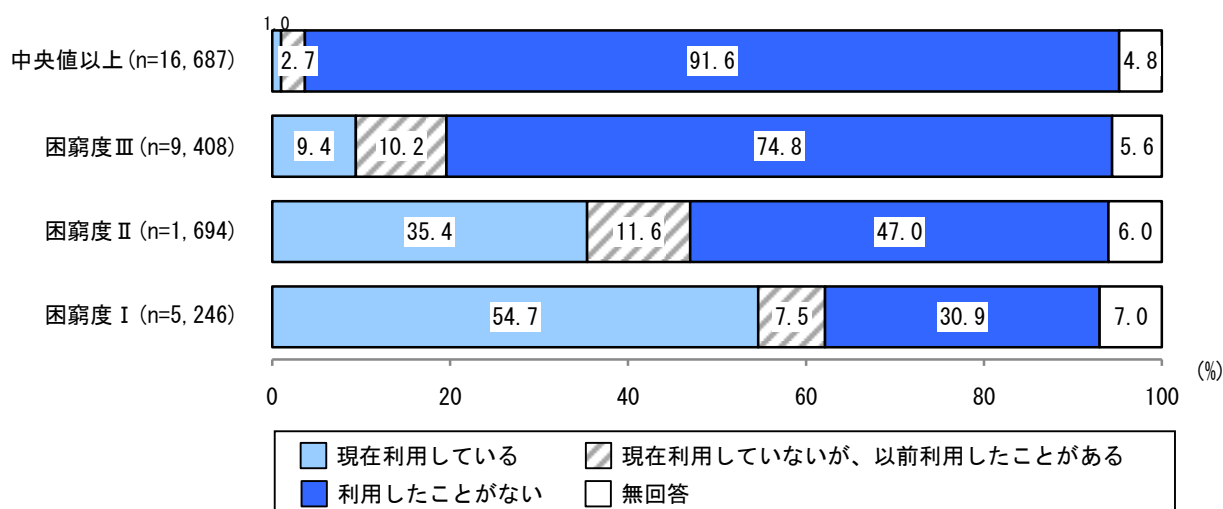
子どもに起こり得るリスク（病気や進路選択など）に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、経済状況との関係で本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、全体においては14.3%であるが、中央値以上群と比べて困窮度Ⅰ群の方が「いる」(18.1%対11.9%)と答えた割合が高くなっている。これらの結果から、枚方市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合は、経済的困難な家庭で高いことが読み取れる。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<枚方市>

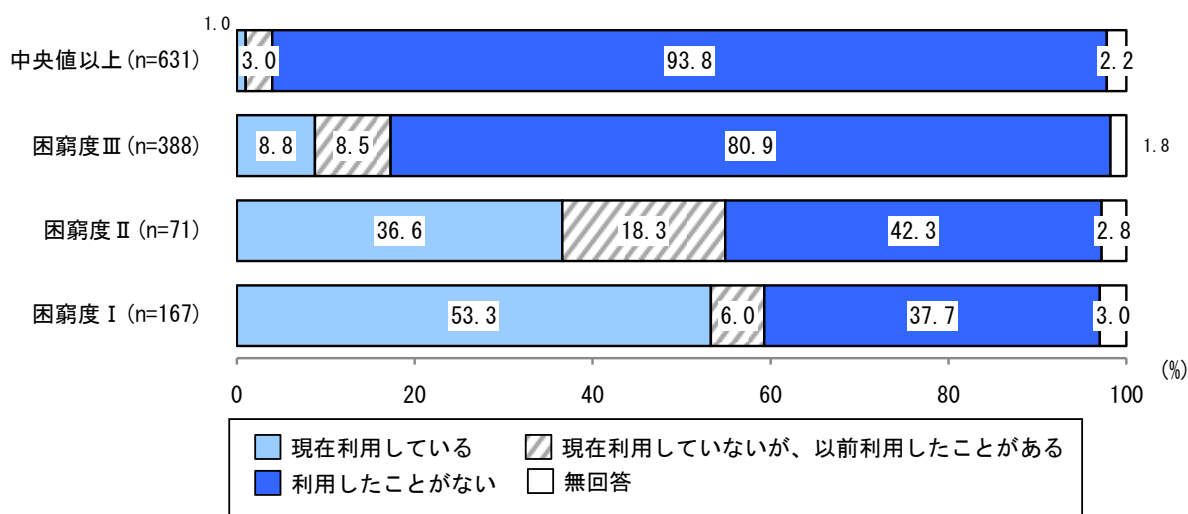
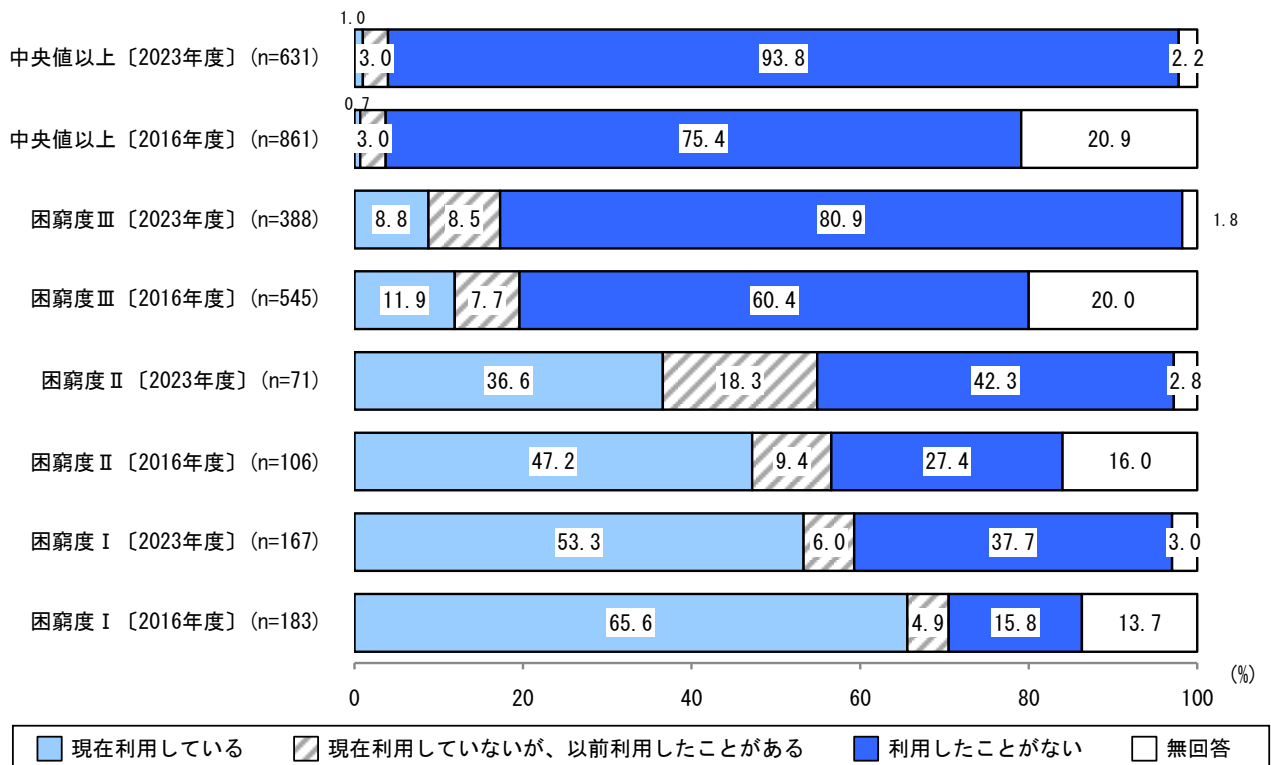


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／枚方市>



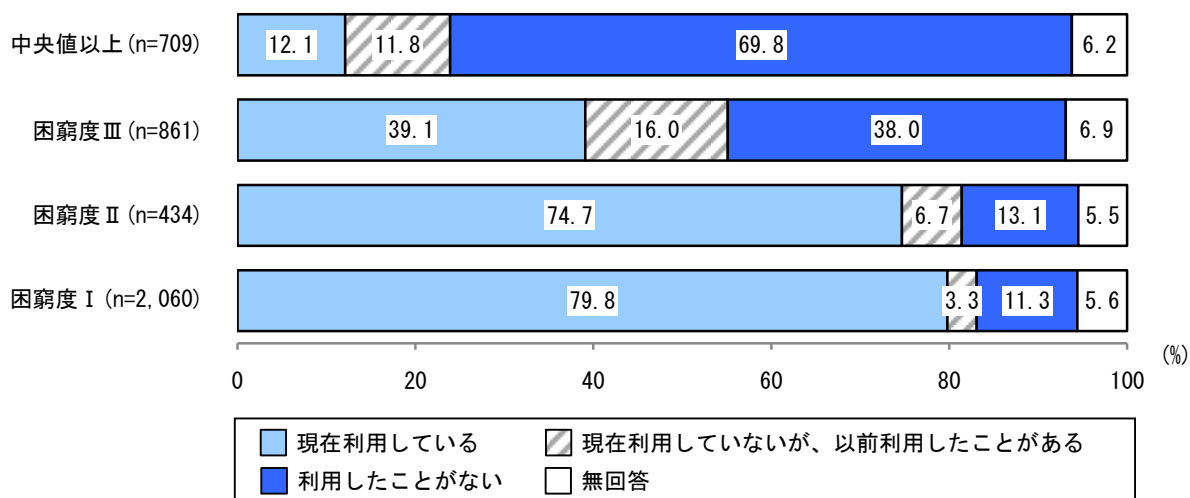
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、中央値以上群は2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、困窮度Ⅲ・Ⅱ・Ⅰ群では2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

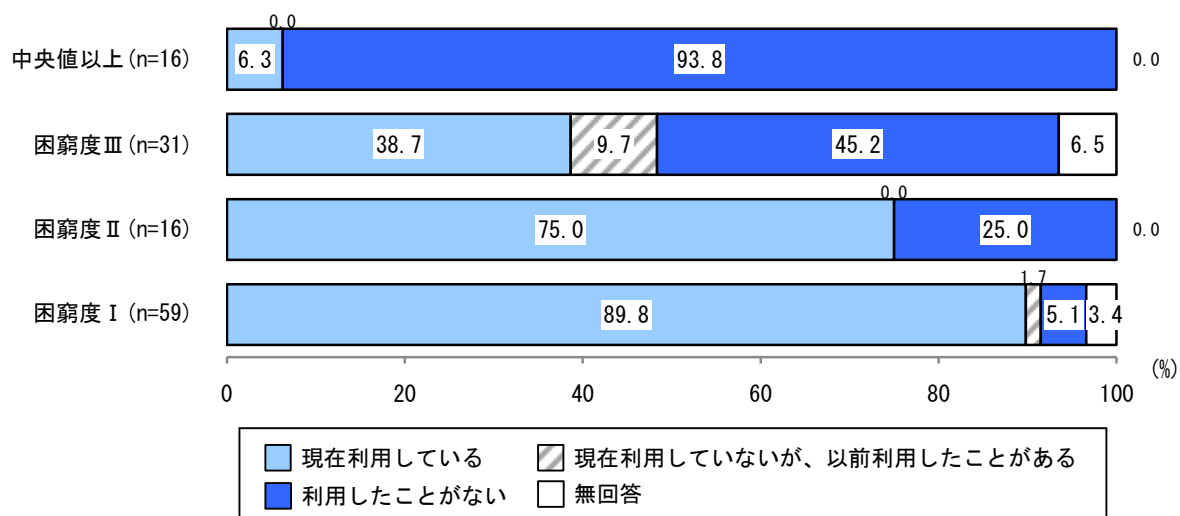


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「利用したことがない」と回答した割合は5.1%となっている。

<2016年度調査との比較／枚方市>

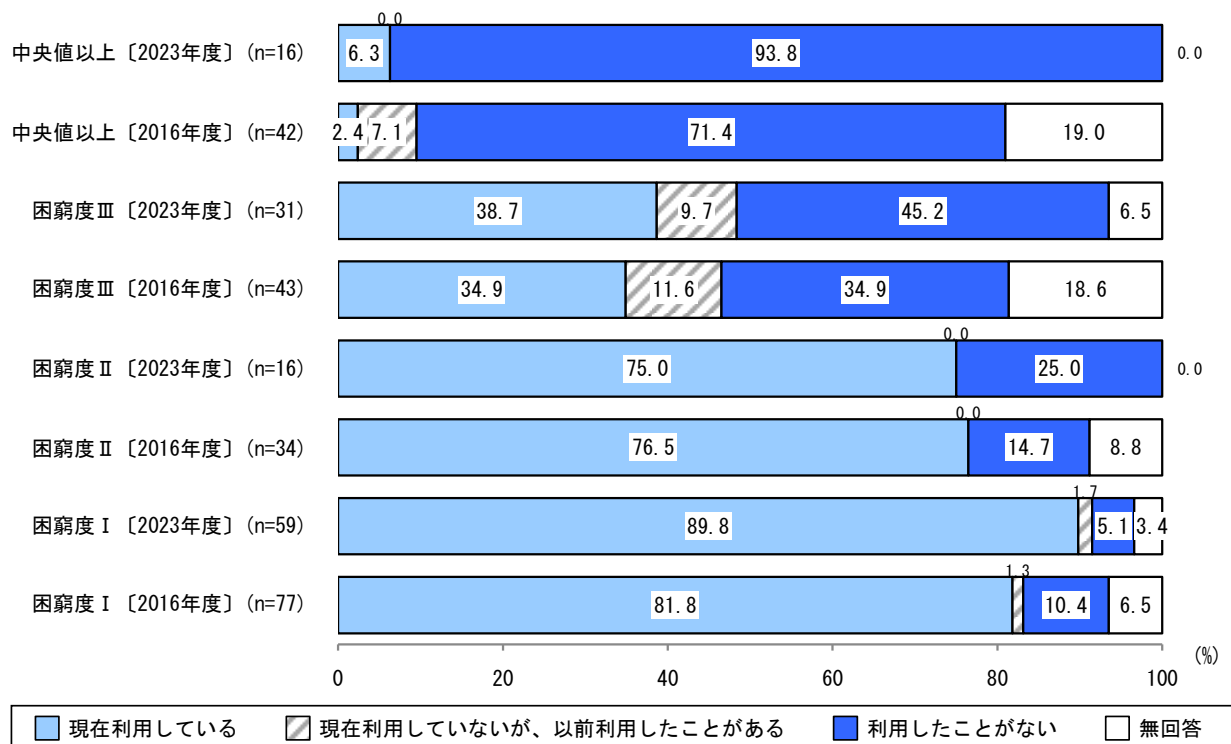
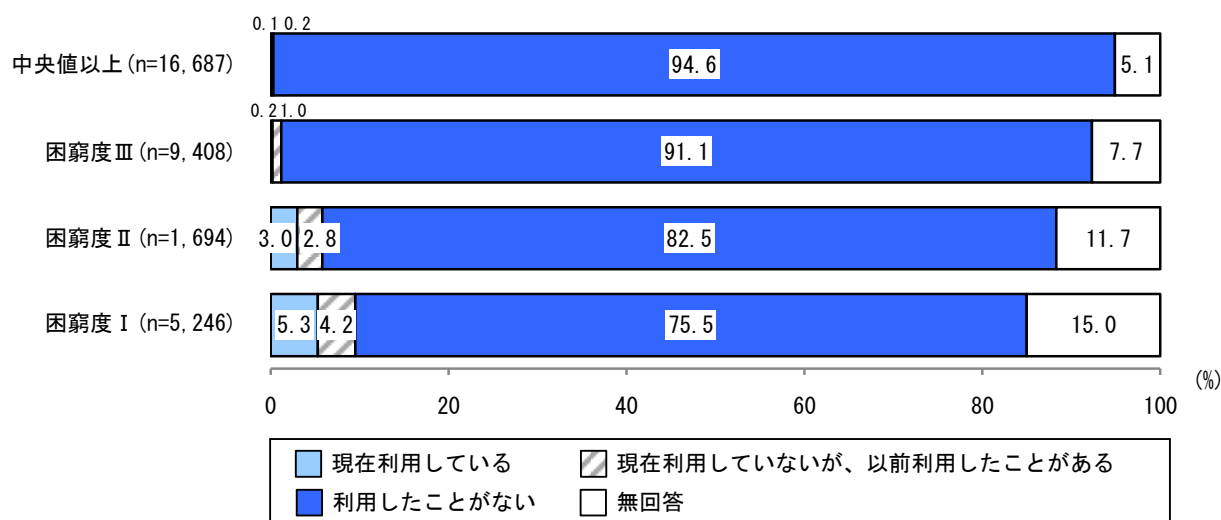


図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群では2016年度調査より割合が低い、困窮度Ⅲ群と困窮度Ⅰ群では2016年度調査よりも高くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<枚方市>

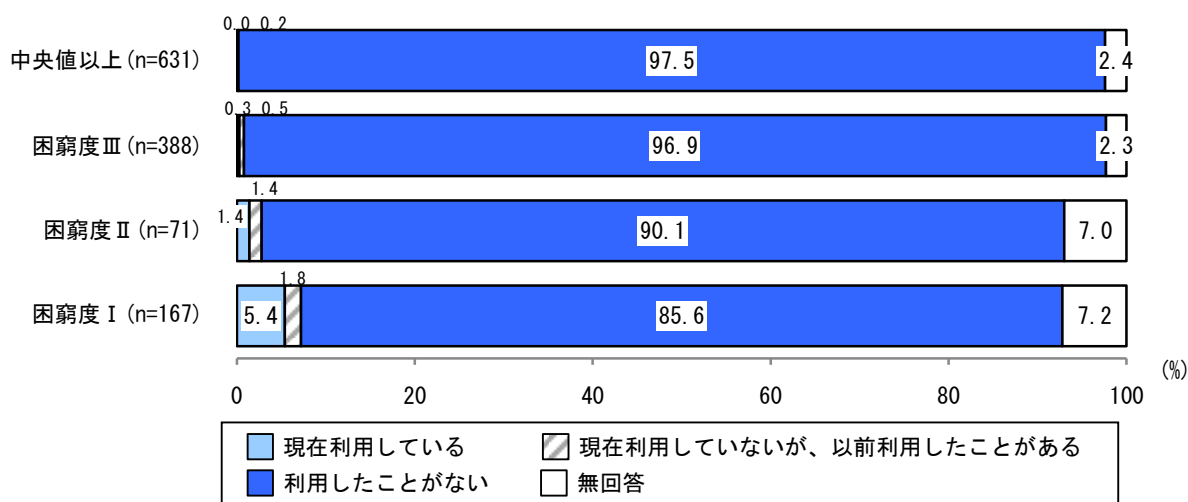


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は5.4%となっている。困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」の割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／枚方市>

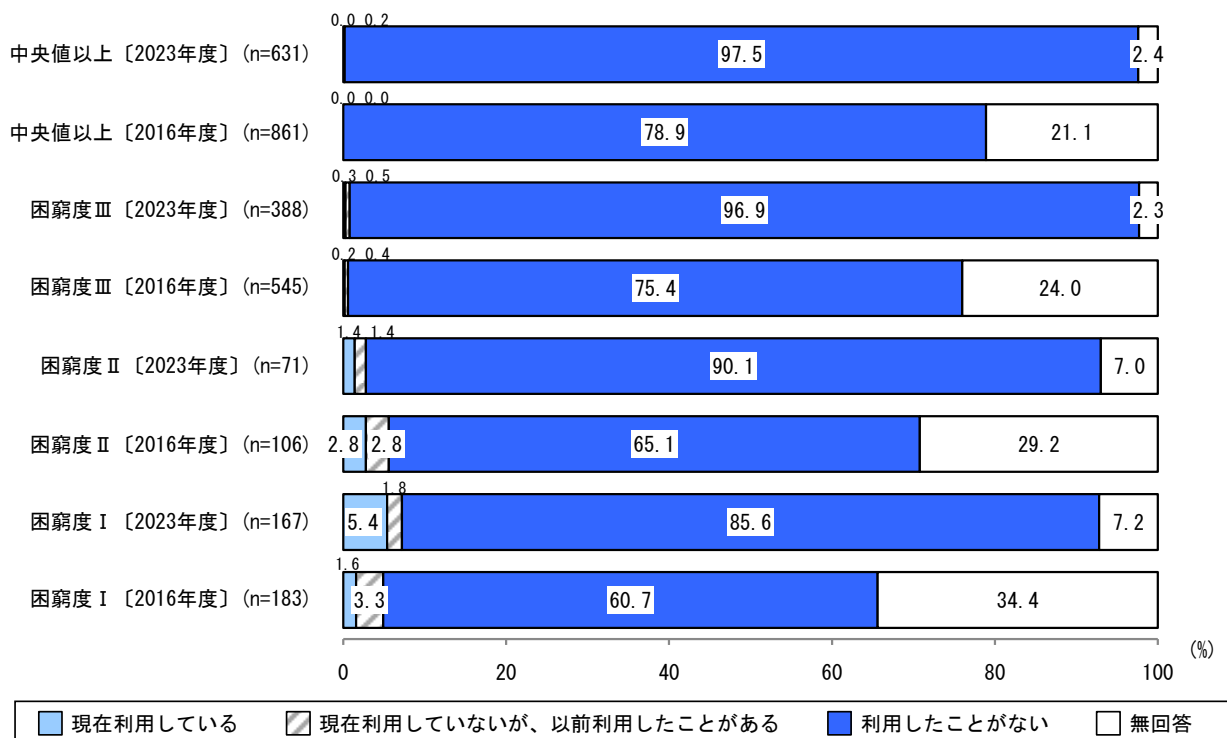
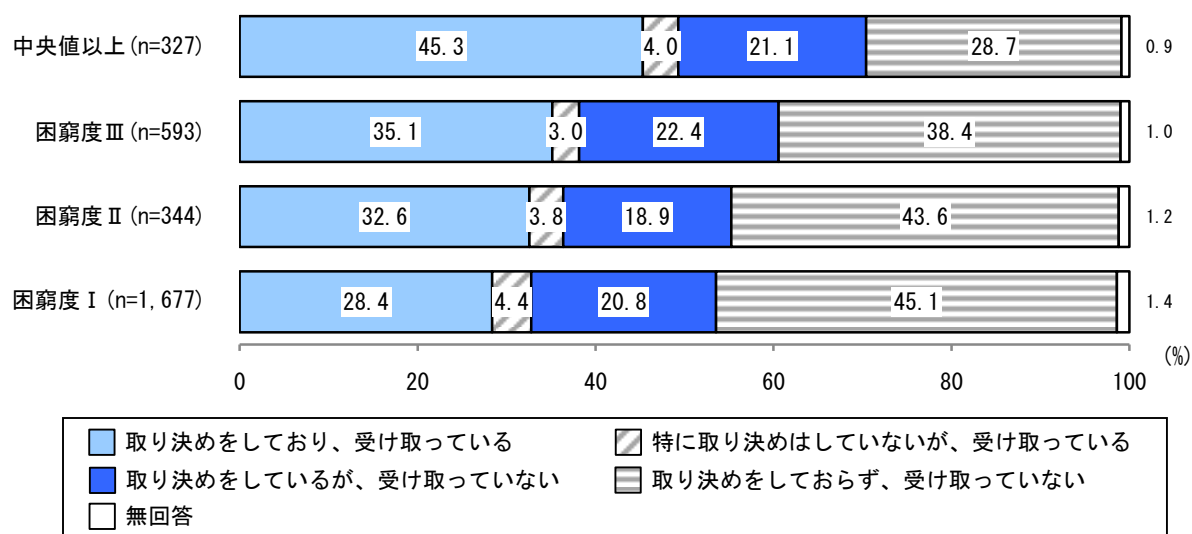


図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群は2016年度調査より割合が低くなっているが、困窮度Ⅲ群と困窮度Ⅰ群は高くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

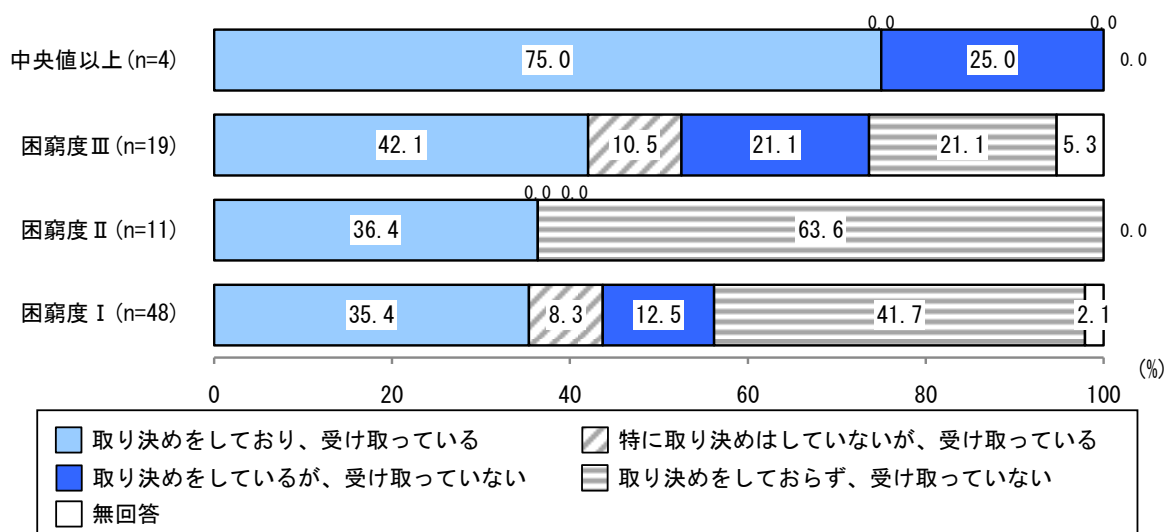
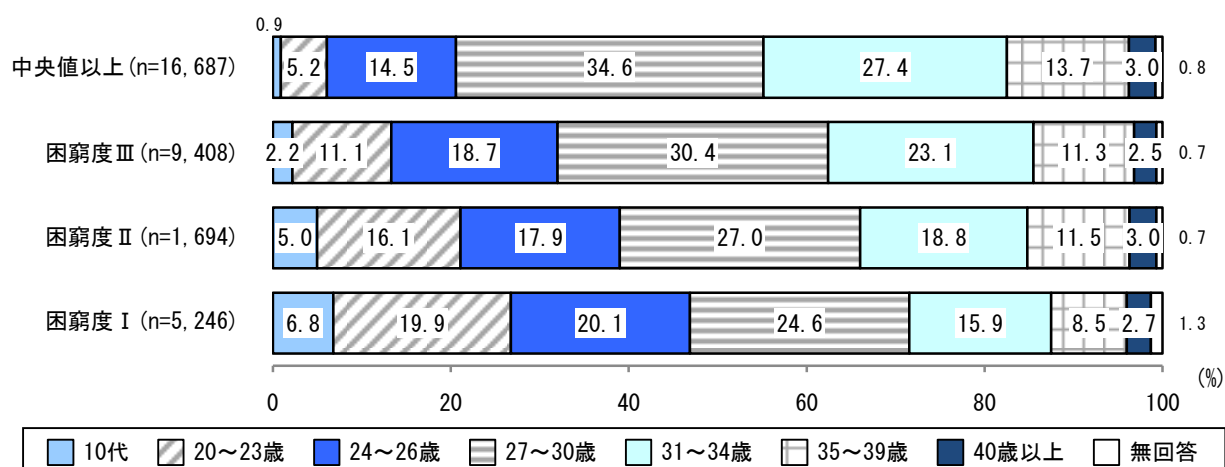


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は35.4%であり、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が41.7%と高く「取り決めをしているが、受け取っていない」の12.5%をあわせた養育費を受け取っていない人が54.2%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<枚方市>

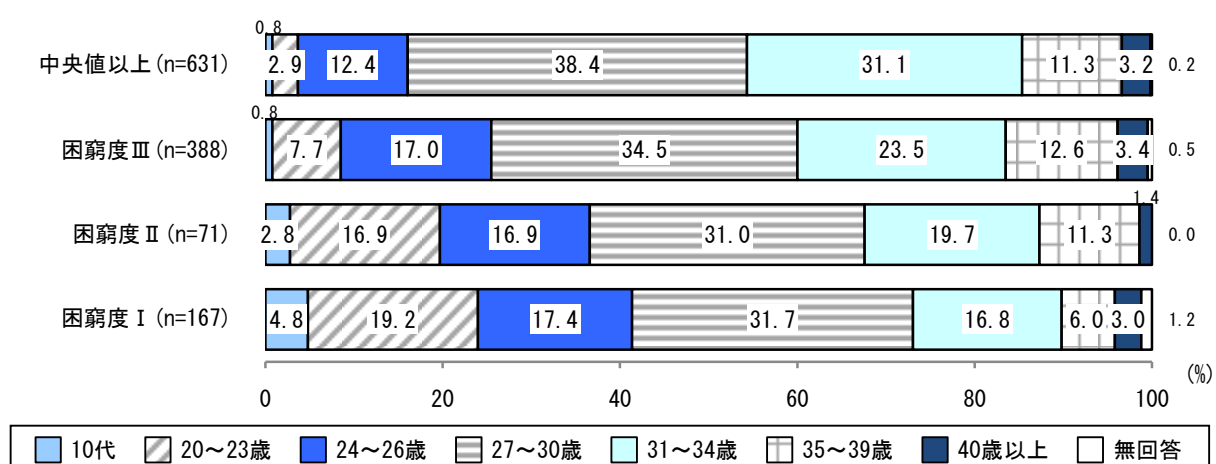
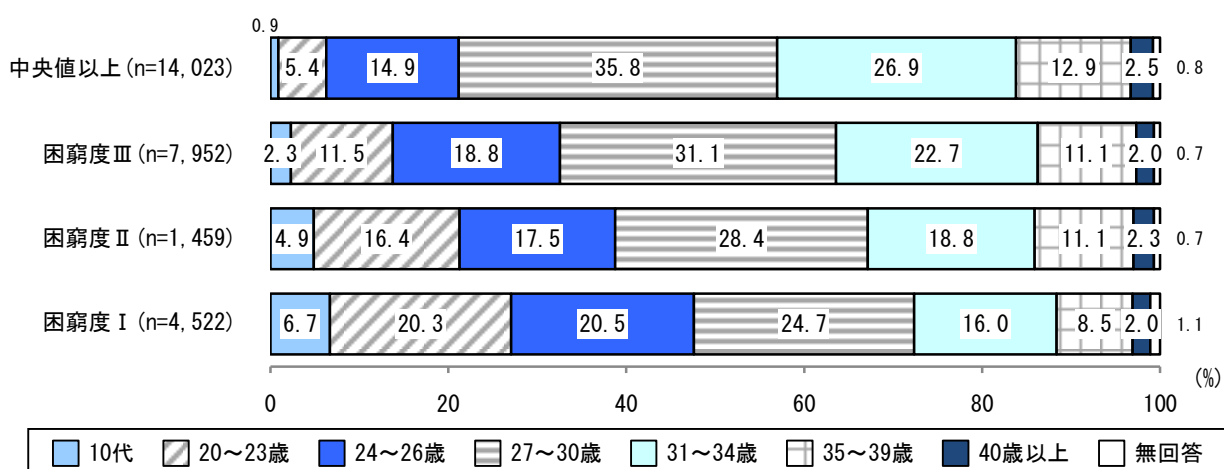


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

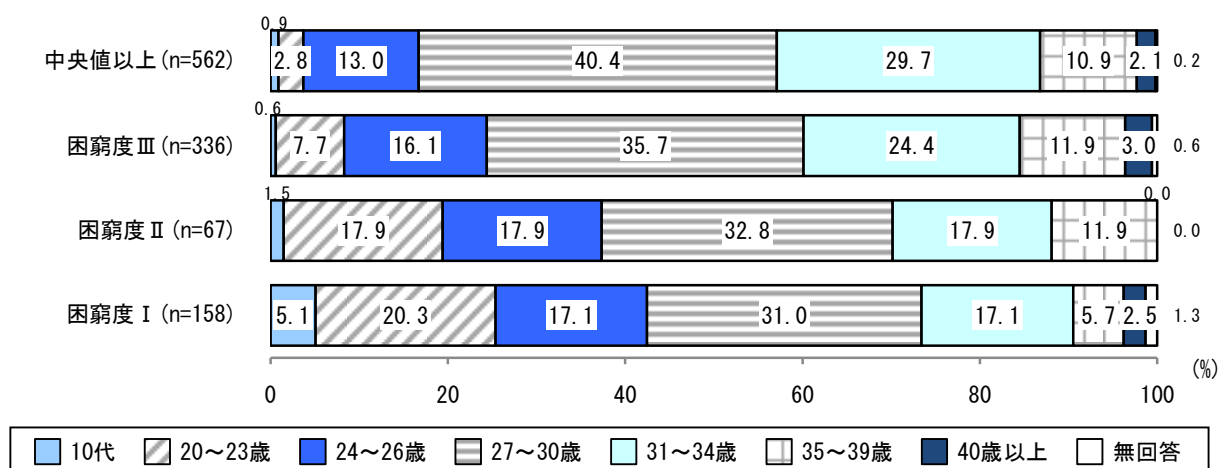
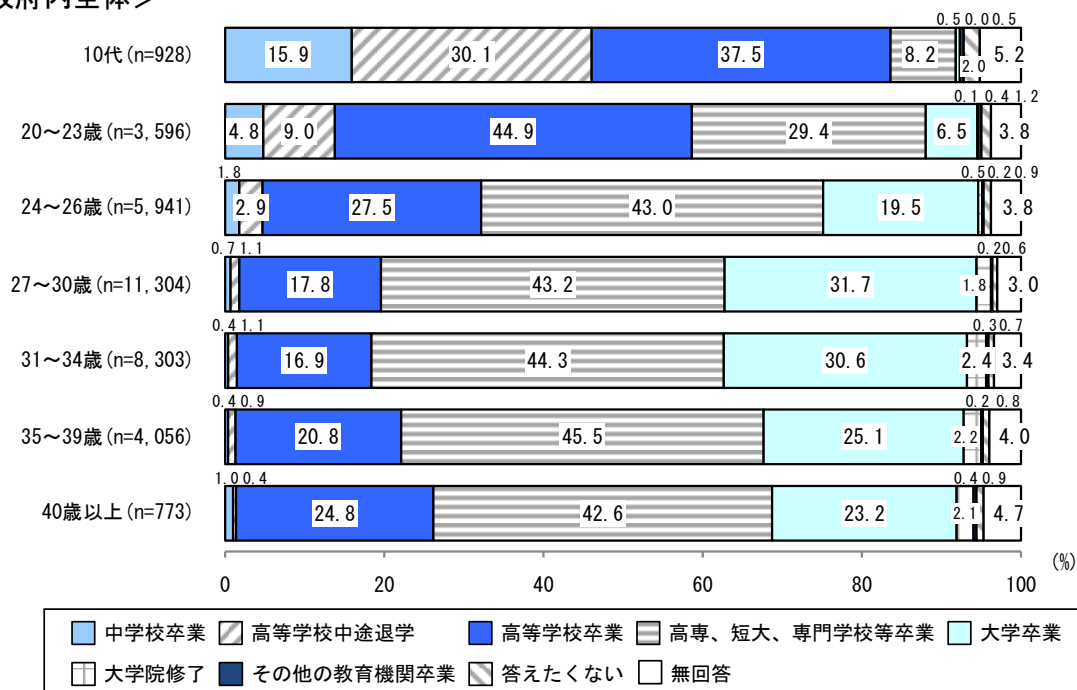


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

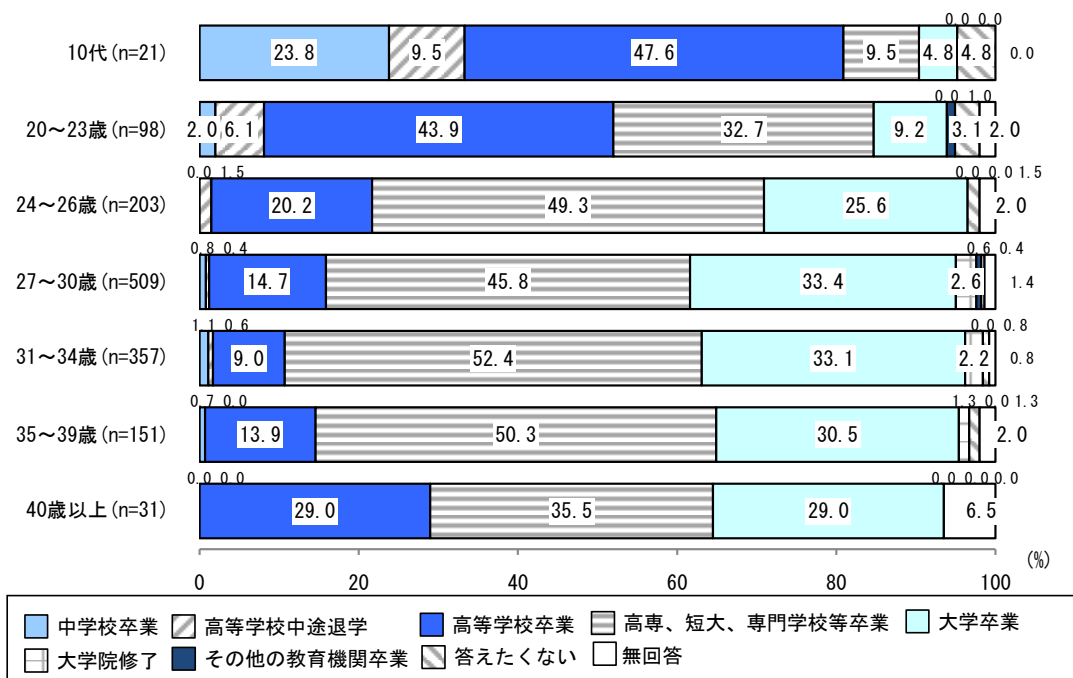
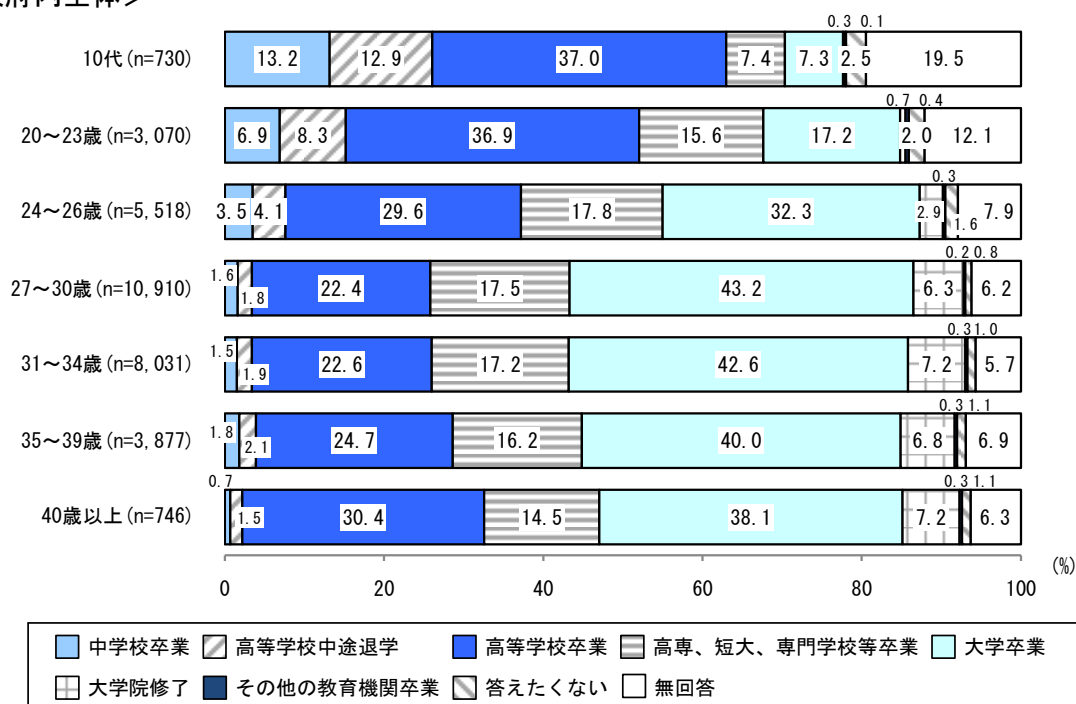


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（23.8%）または「高等学校卒業」（47.6%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

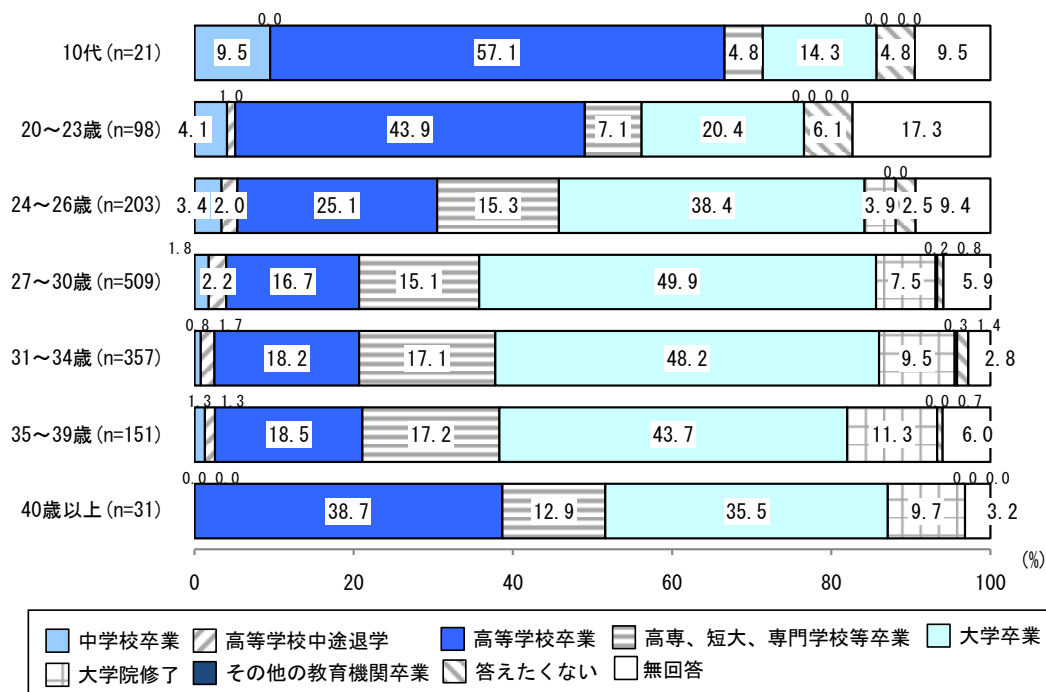
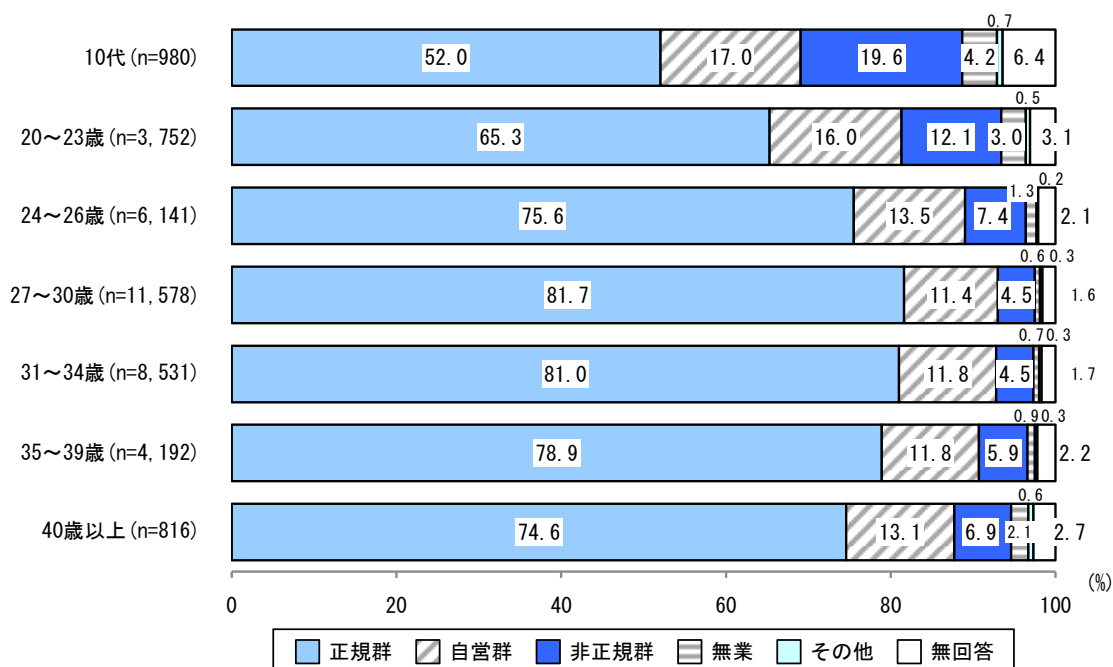


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「高等学校卒業」（57.1%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

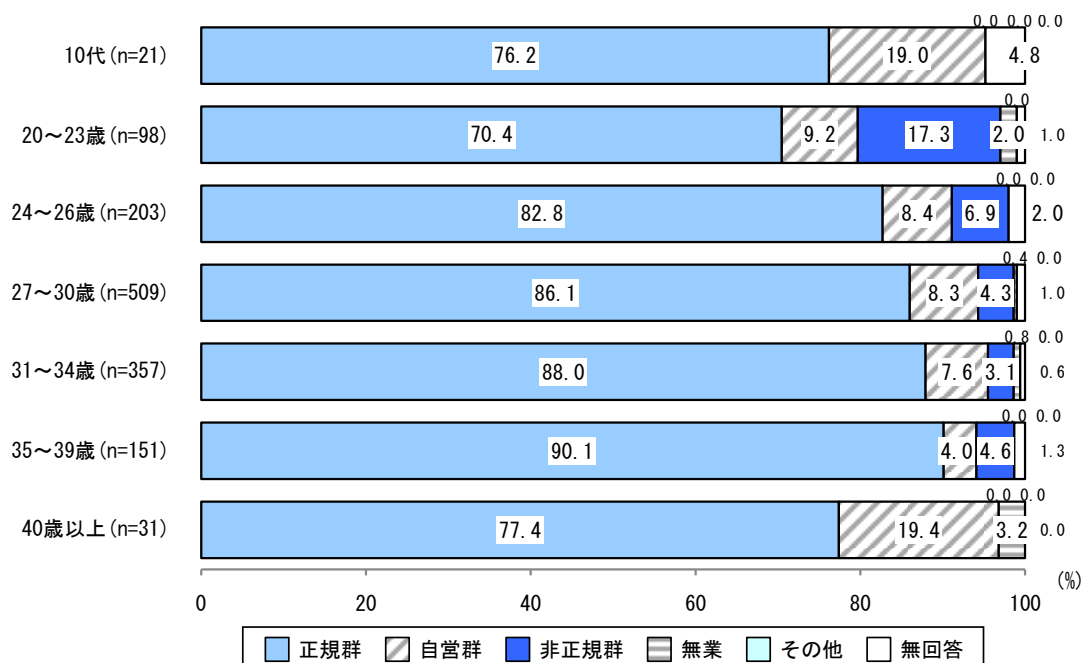
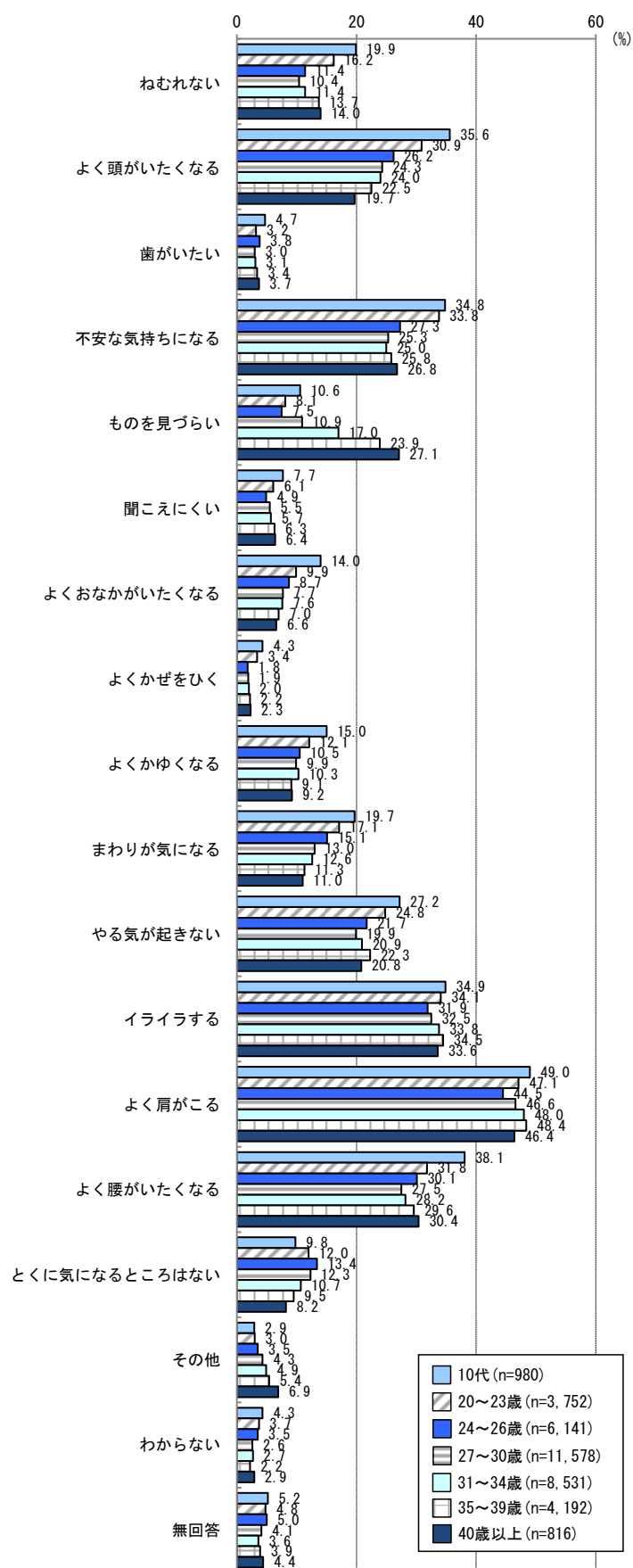


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

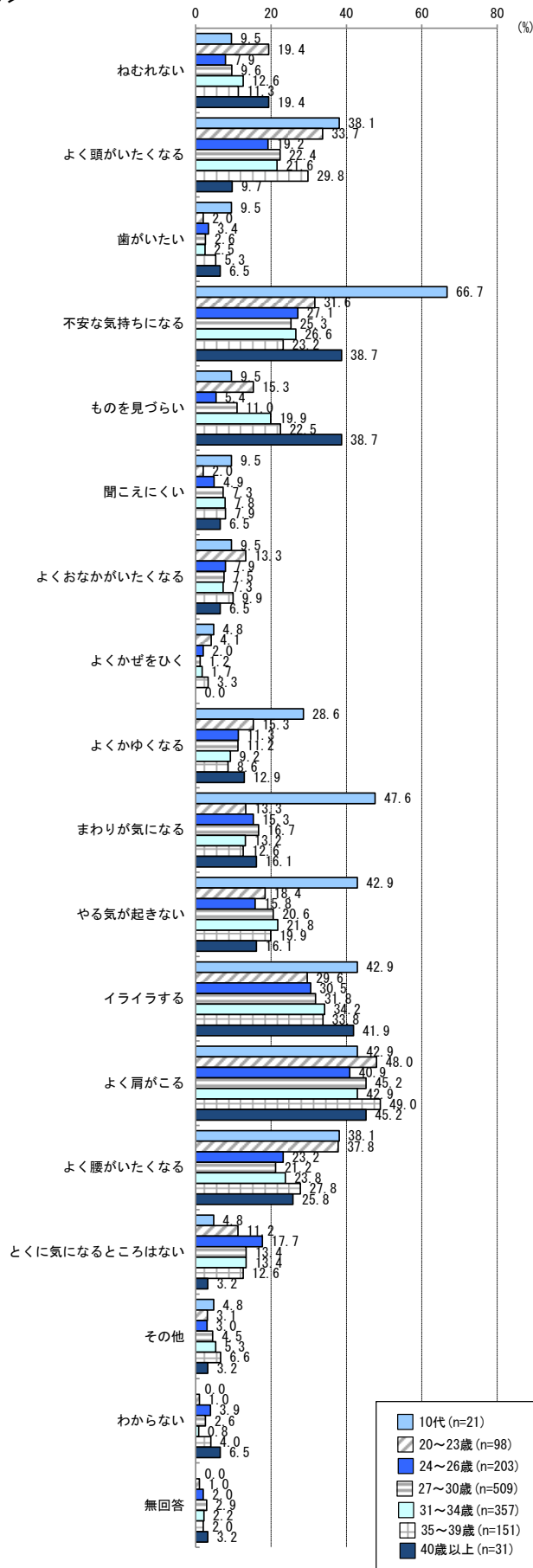
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代において「非正規群」の回答は見られなかったが、20～23歳が17.3%で最も高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

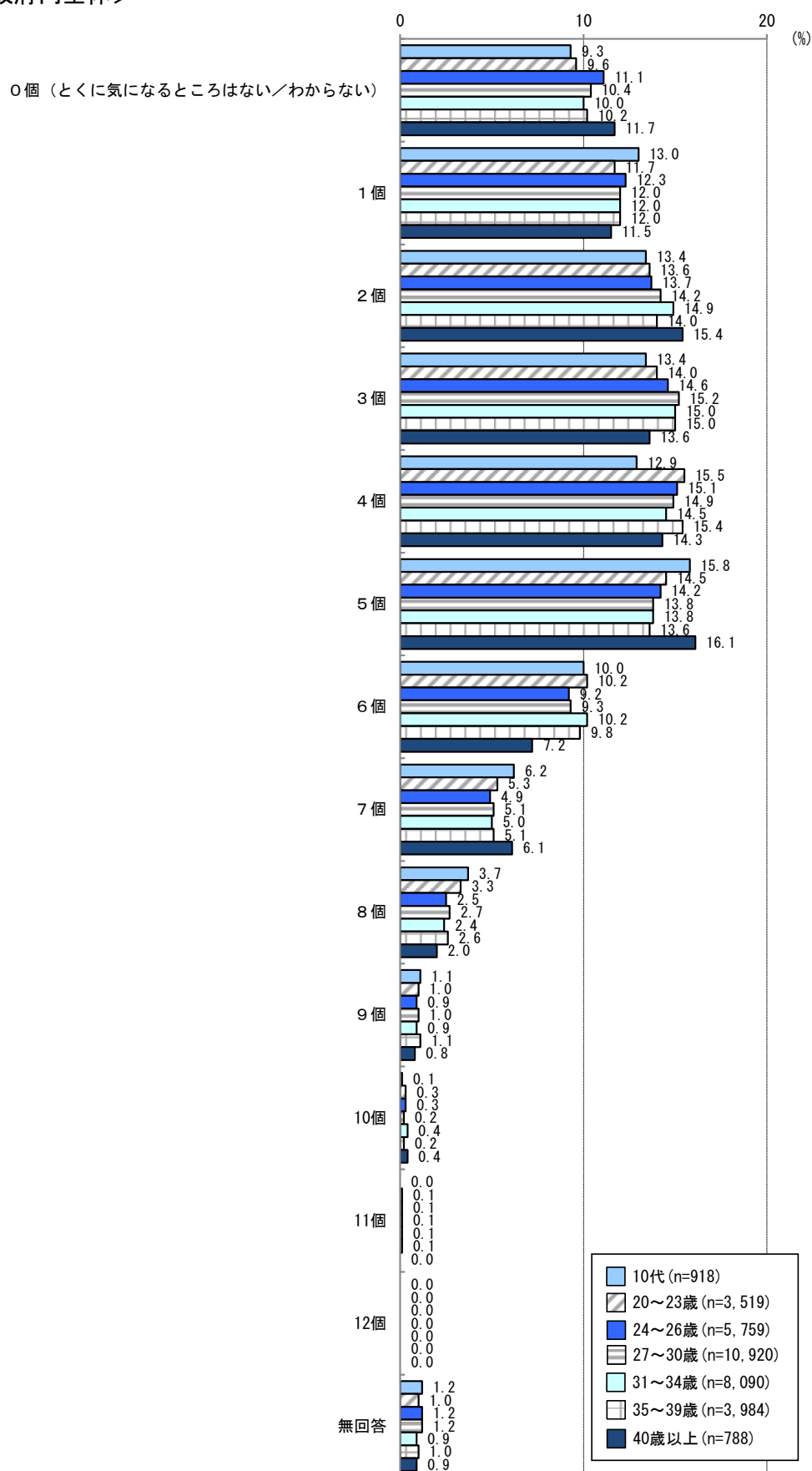


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、10代は他の年代と比較して「よく頭がいたくなる」や「不安な気持ちになる」、「よくかゆくなる」、「まわりが気になる」、「やる気が起きない」、「イライラする」、「よく腰がいたくなる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

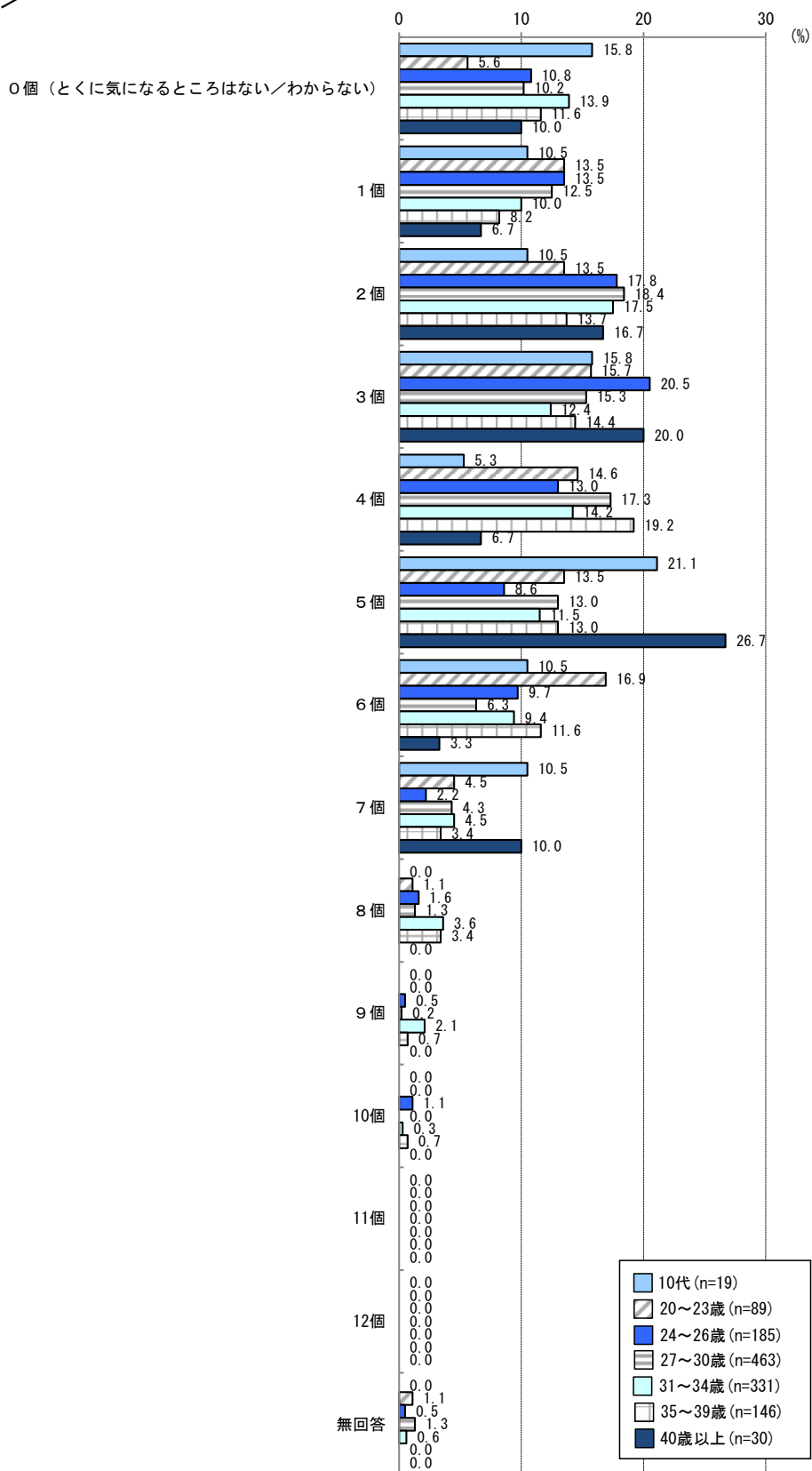
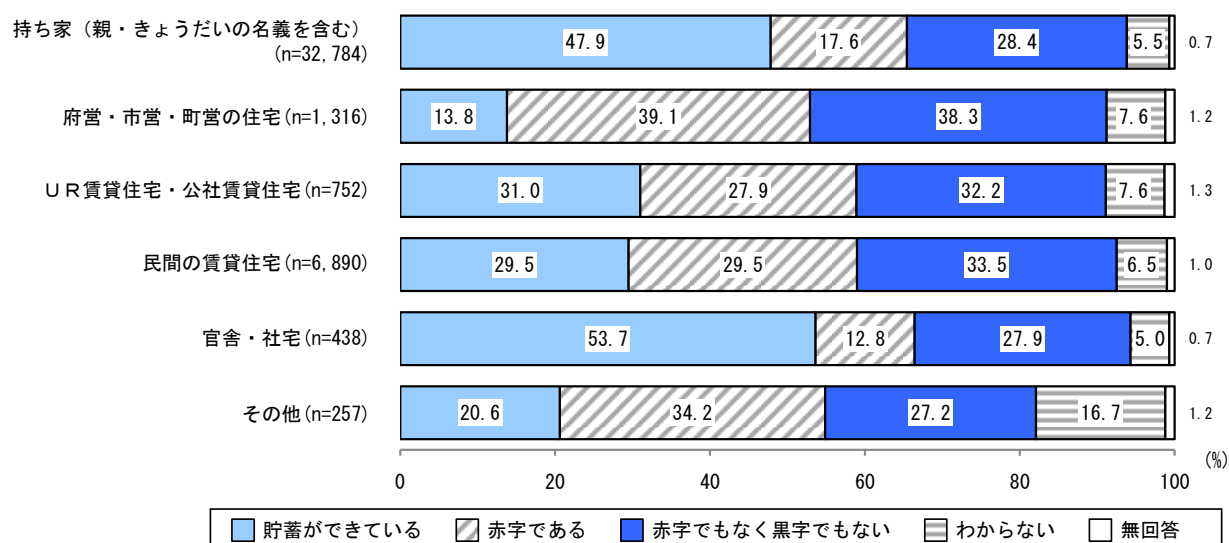


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年代と比較して「0個（とくに気になるところはない／わからない）」（15.8%）と「7個」（10.5%）の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

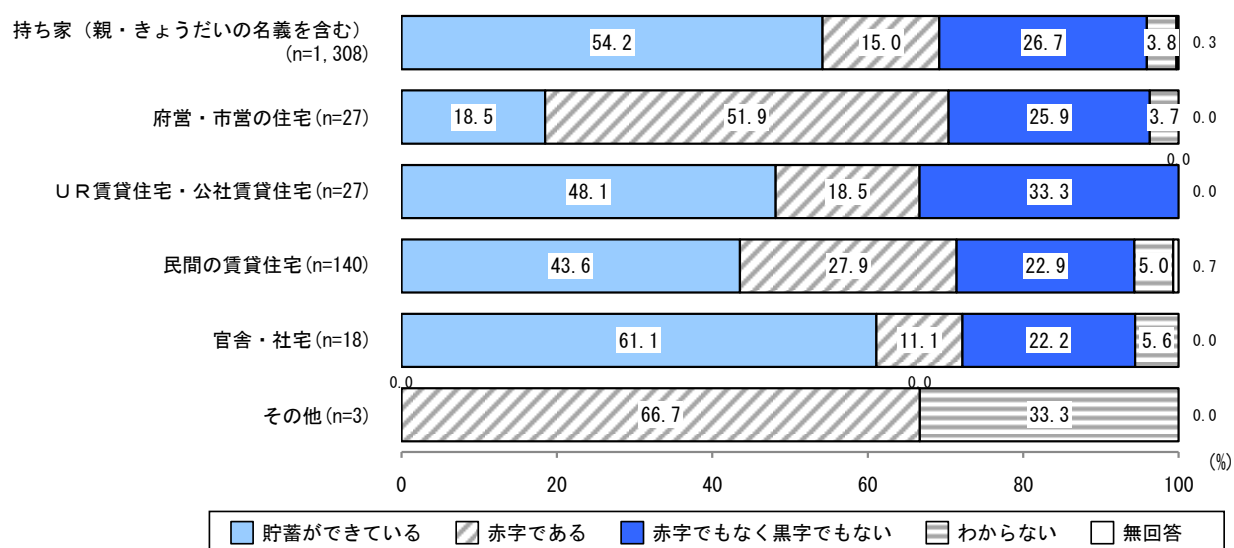
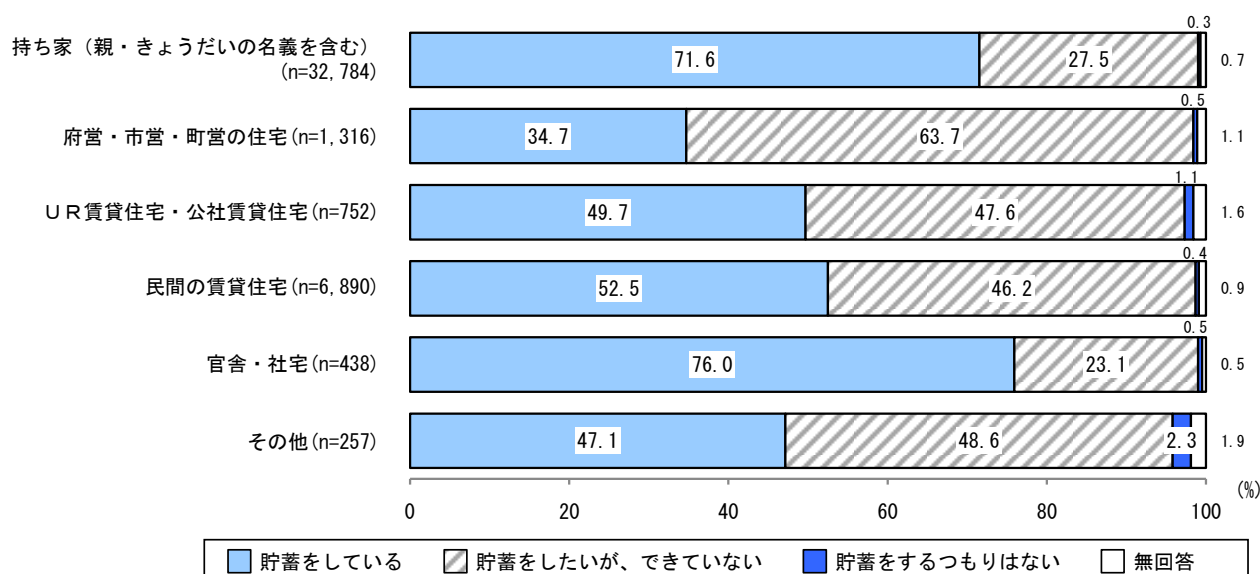


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別到家計状況を見ると、府営・市営の住宅（51.9%）、民間の賃貸住宅（27.9%）に住む人で、「赤字である」と回答した割合が高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は15.0%であった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

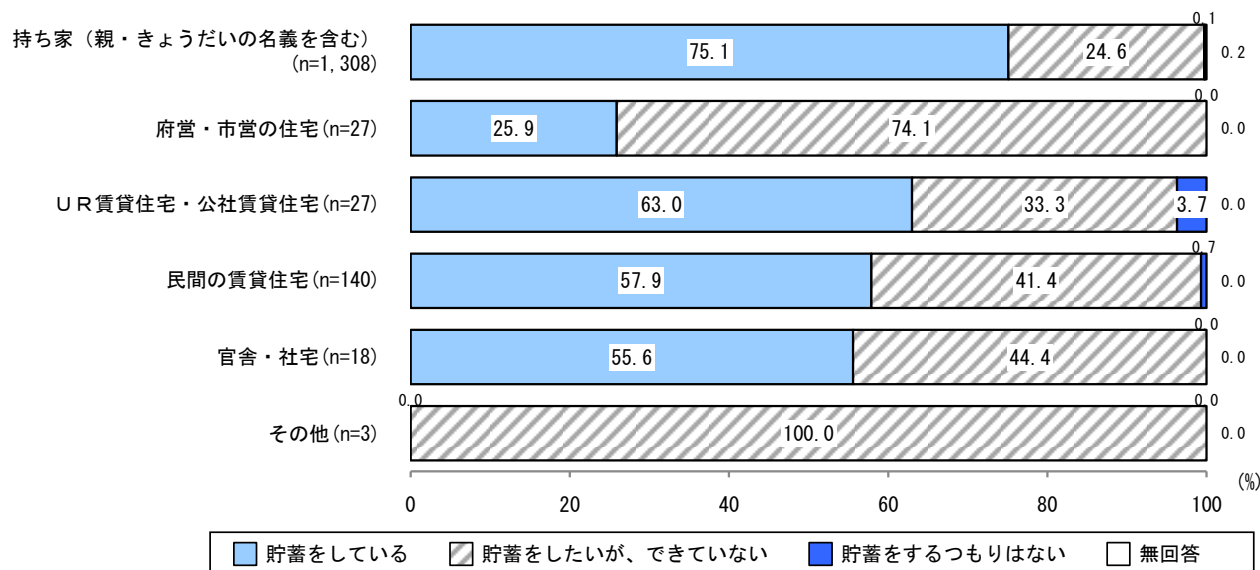
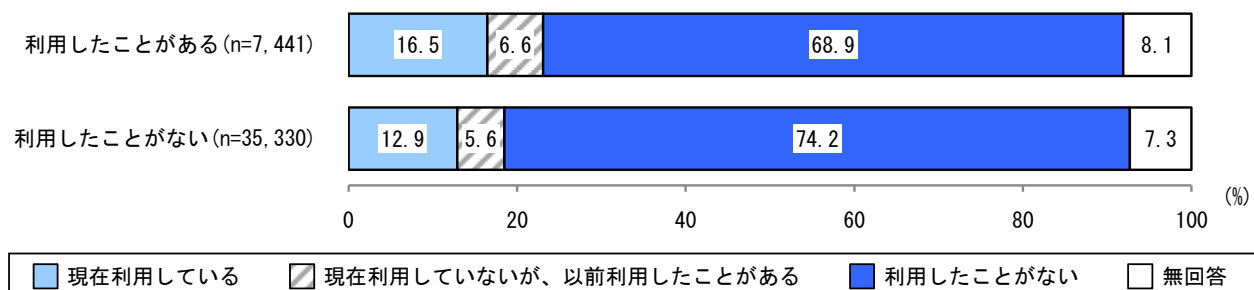


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、府営・市営の住宅（74.1%）、官舎・社宅（44.4%）、民間の賃貸住宅（41.4%）に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<枚方市>

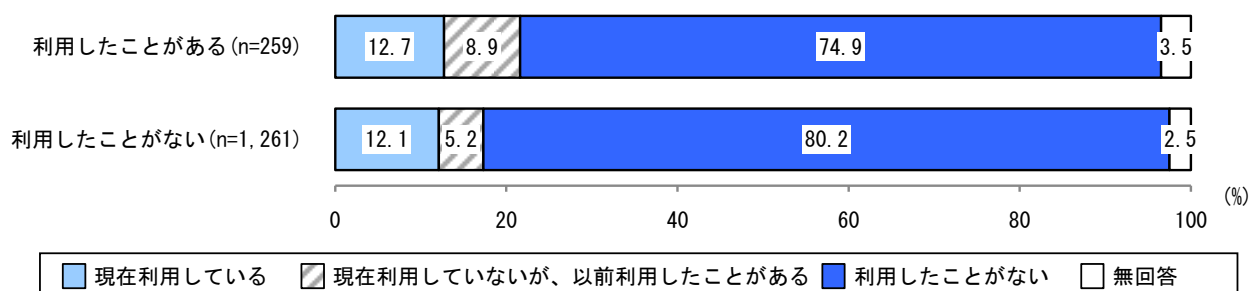
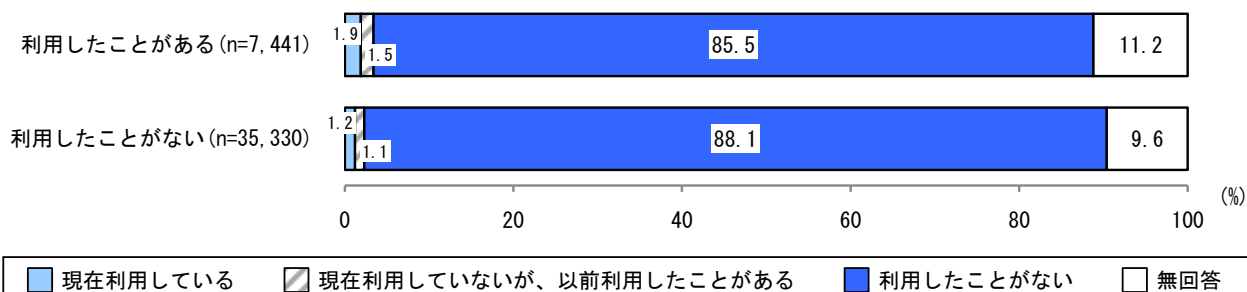


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<枚方市>

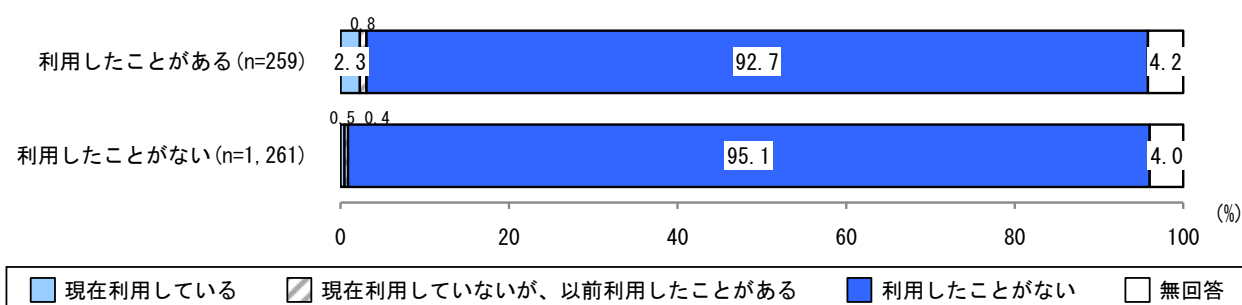
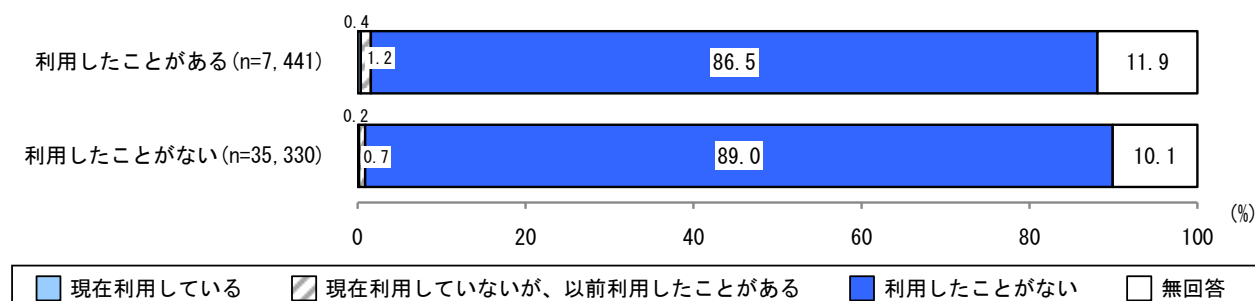


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<枚方市>

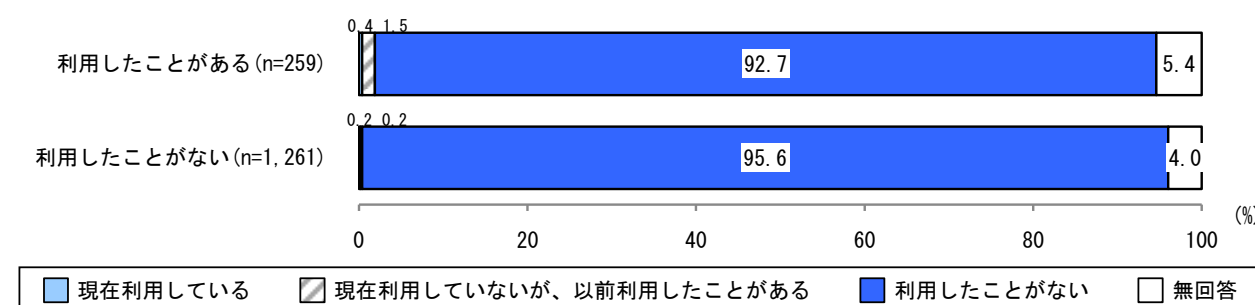
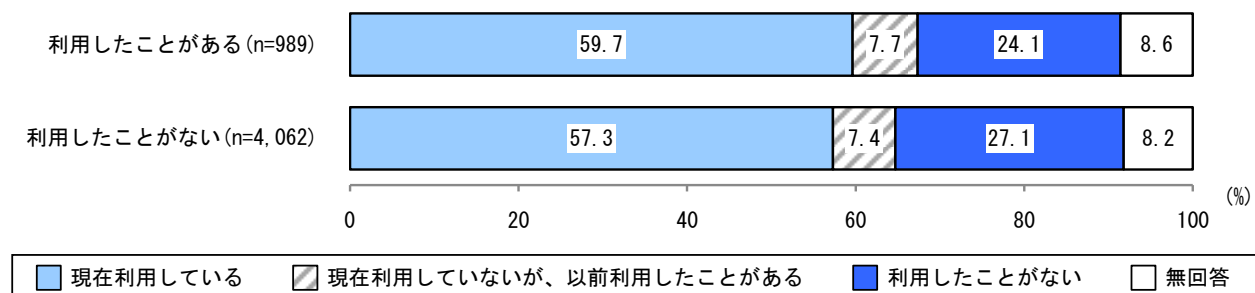


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<枚方市>

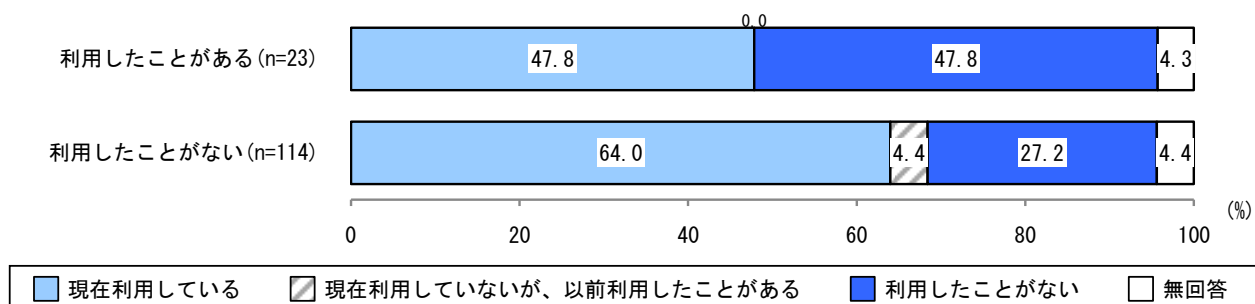
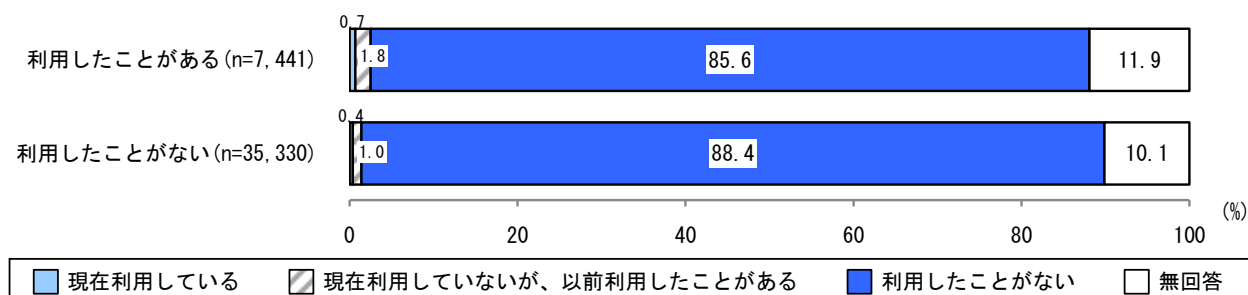


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況をひとり親世帯のみで見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<枚方市>

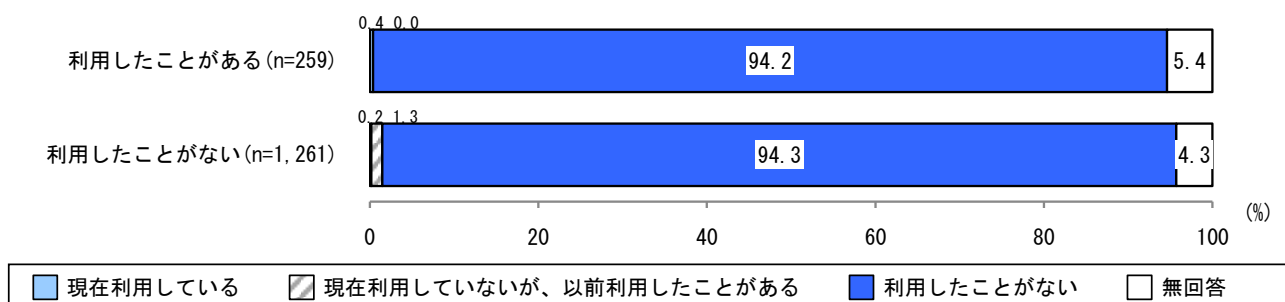
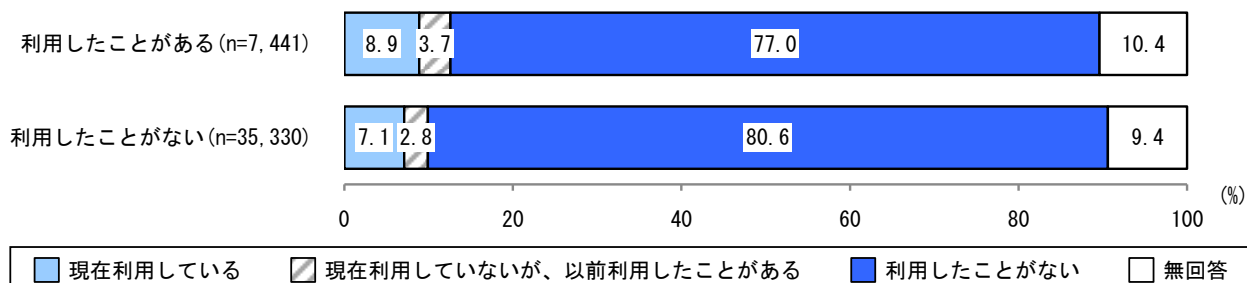


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f)

<大阪府内全体>



<枚方市>

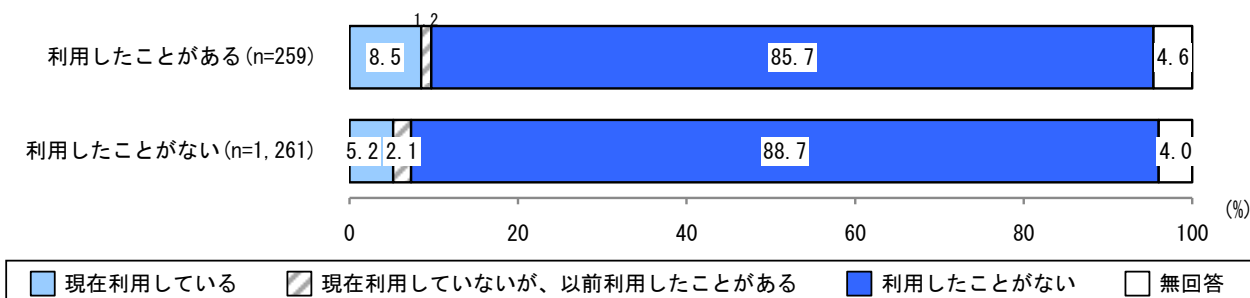
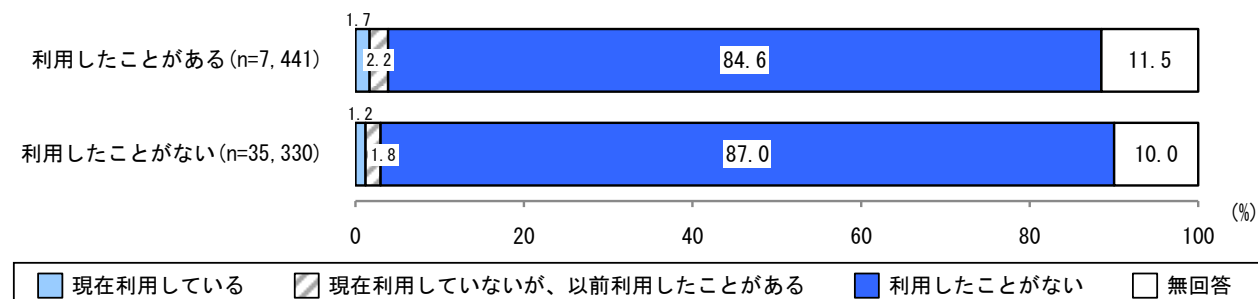


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<枚方市>

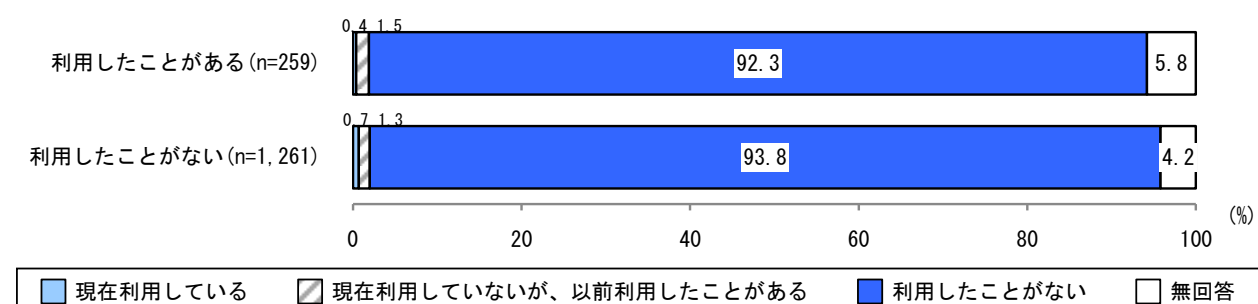
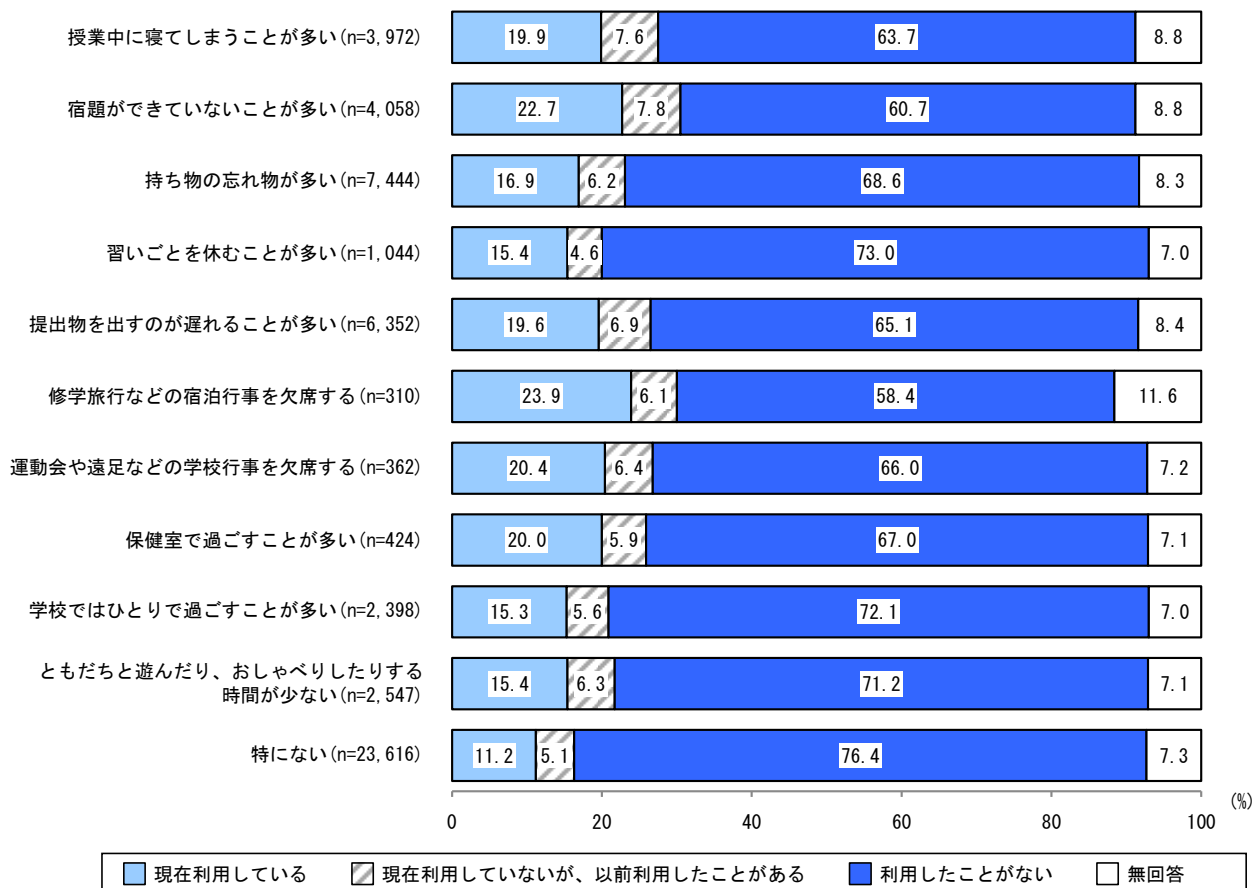


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<枚方市>

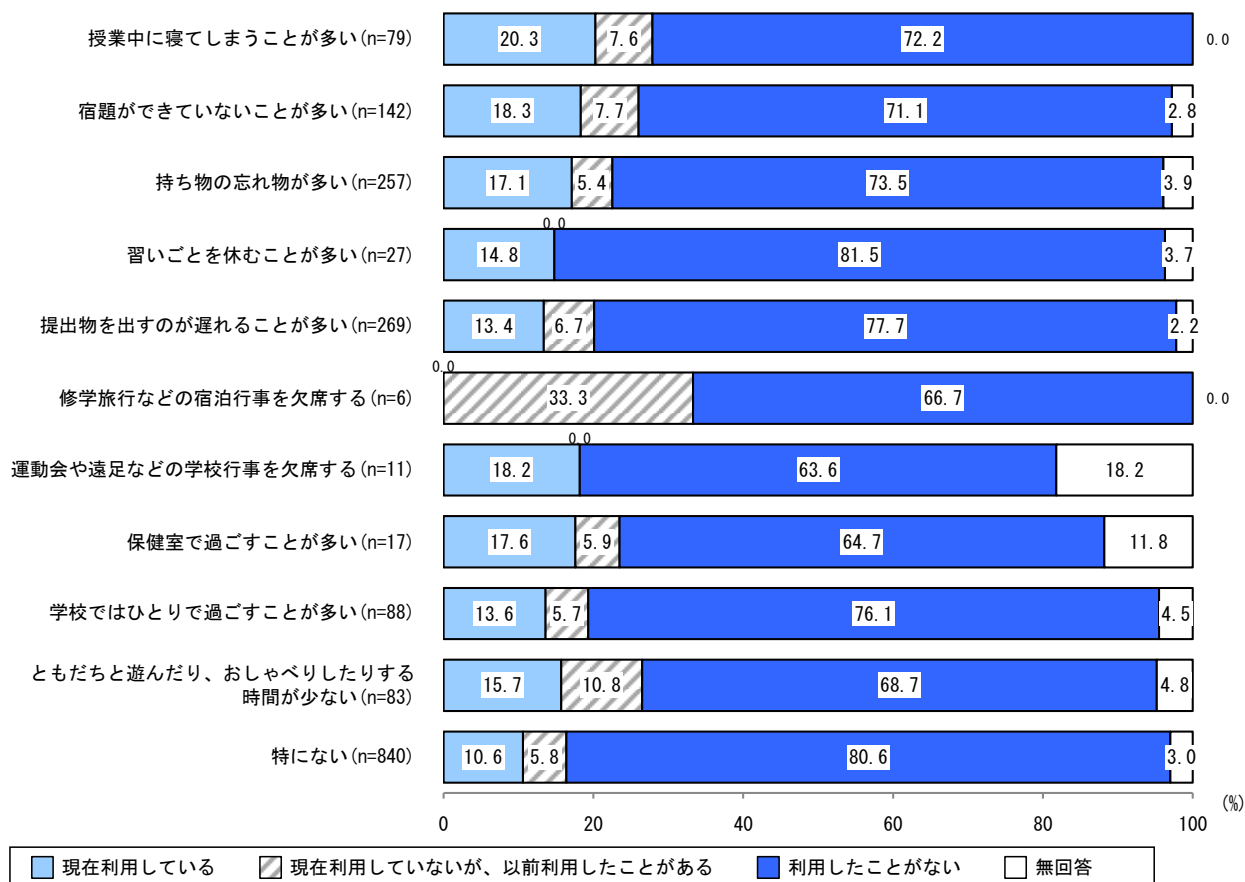
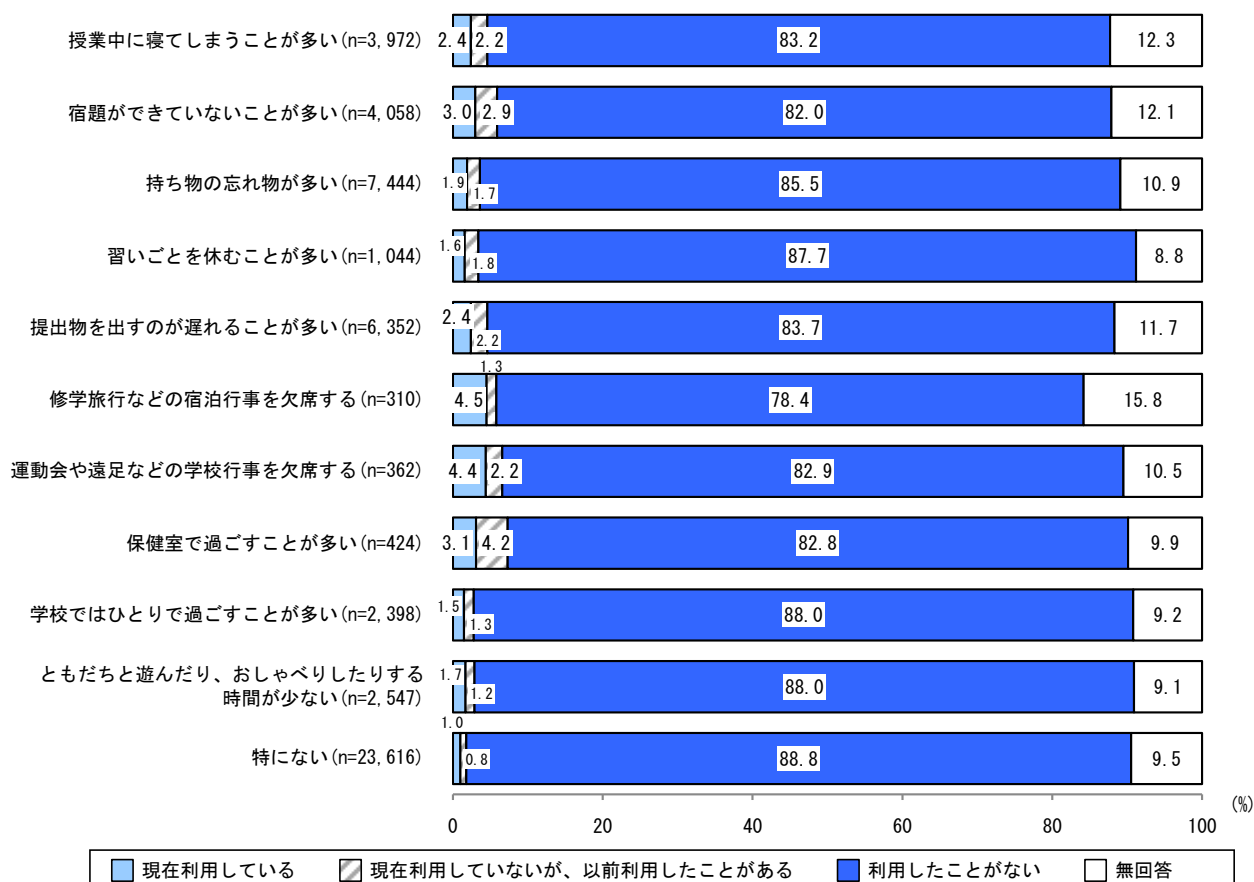


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合が20.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

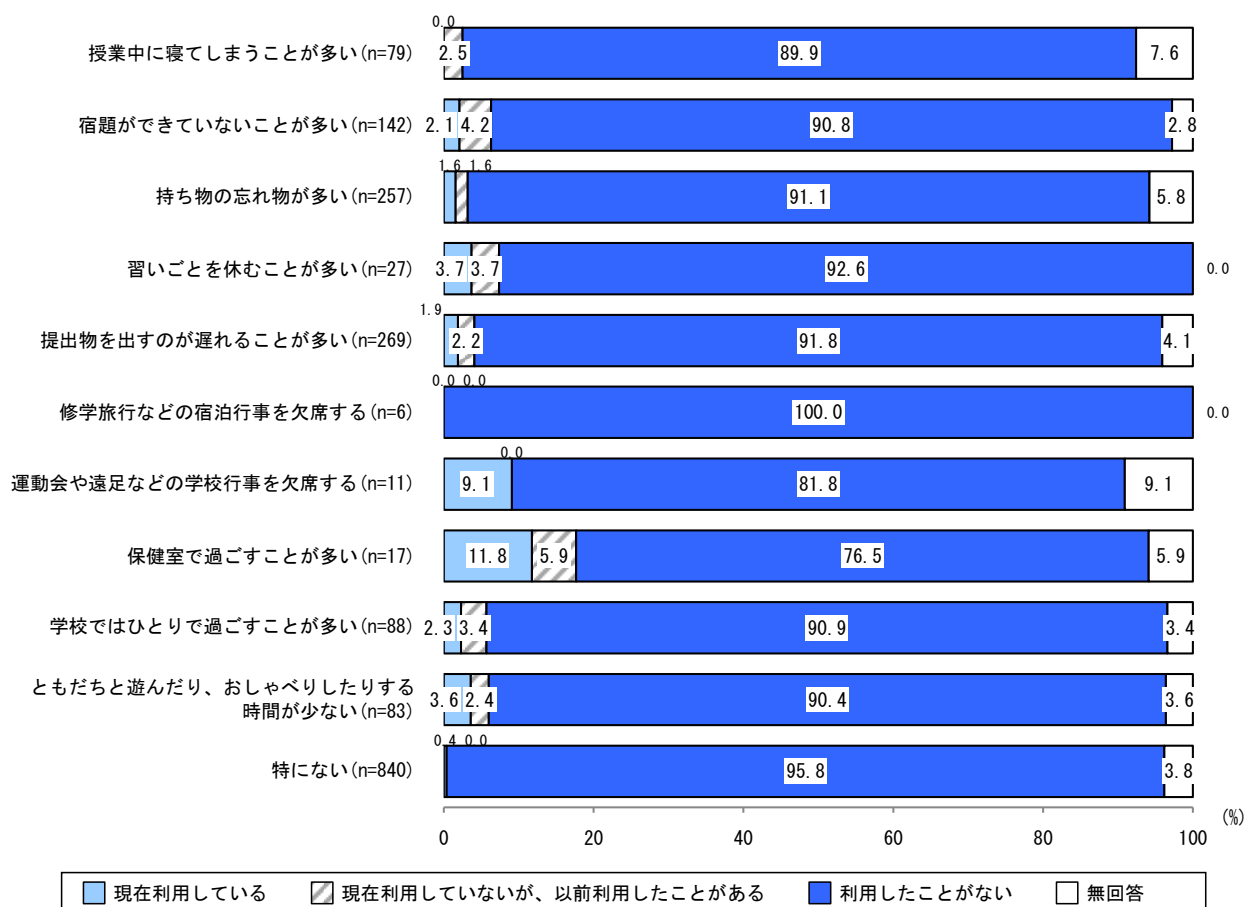
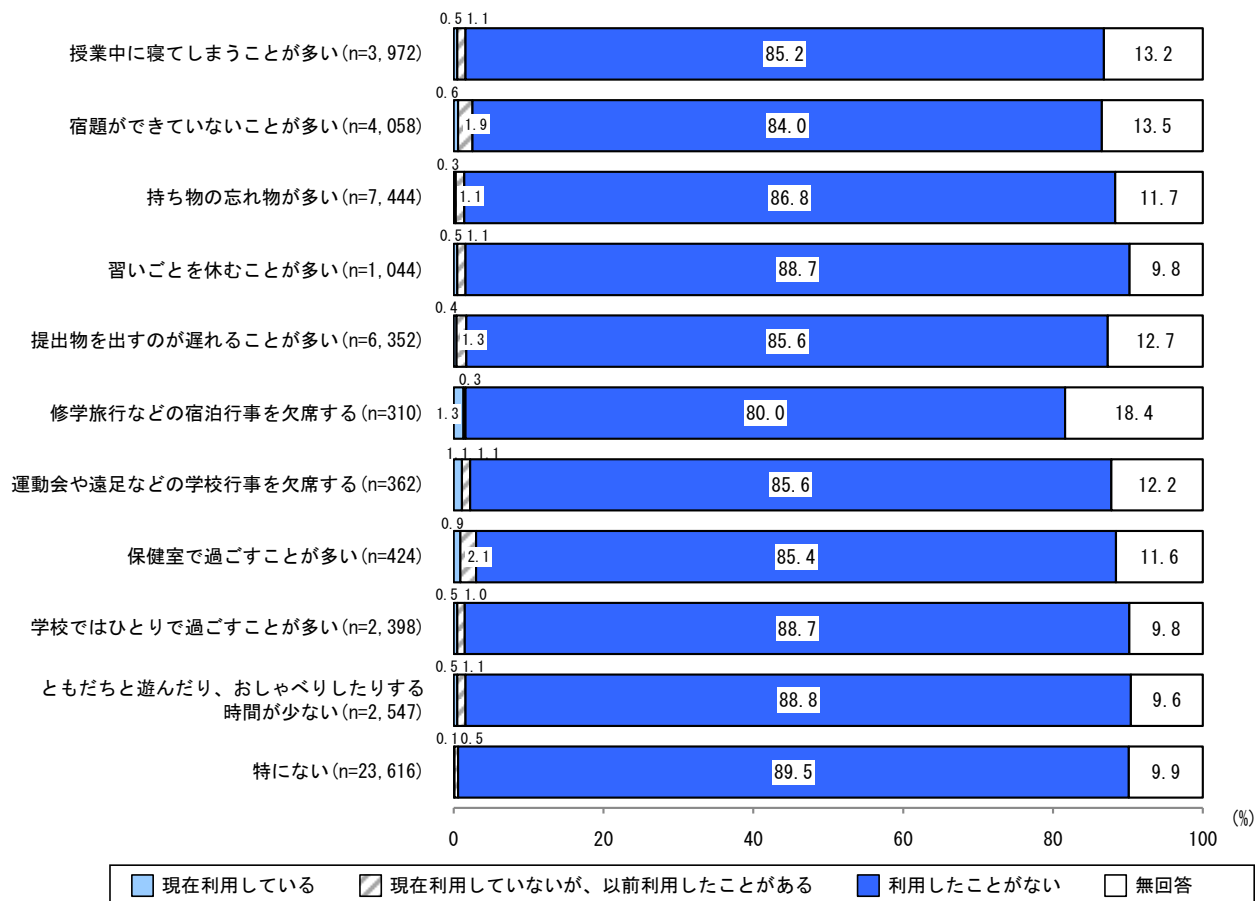


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が11.8%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<枚方市>

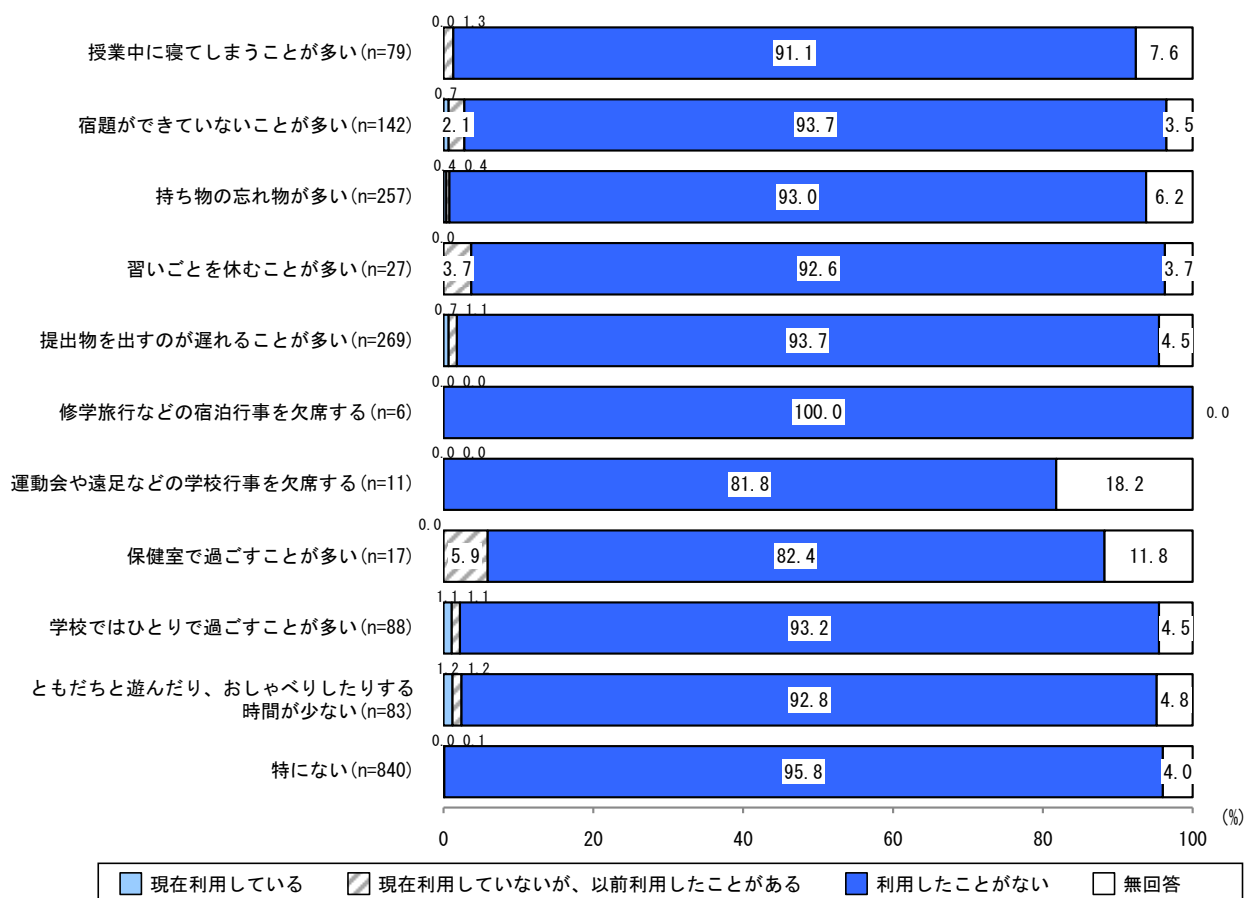
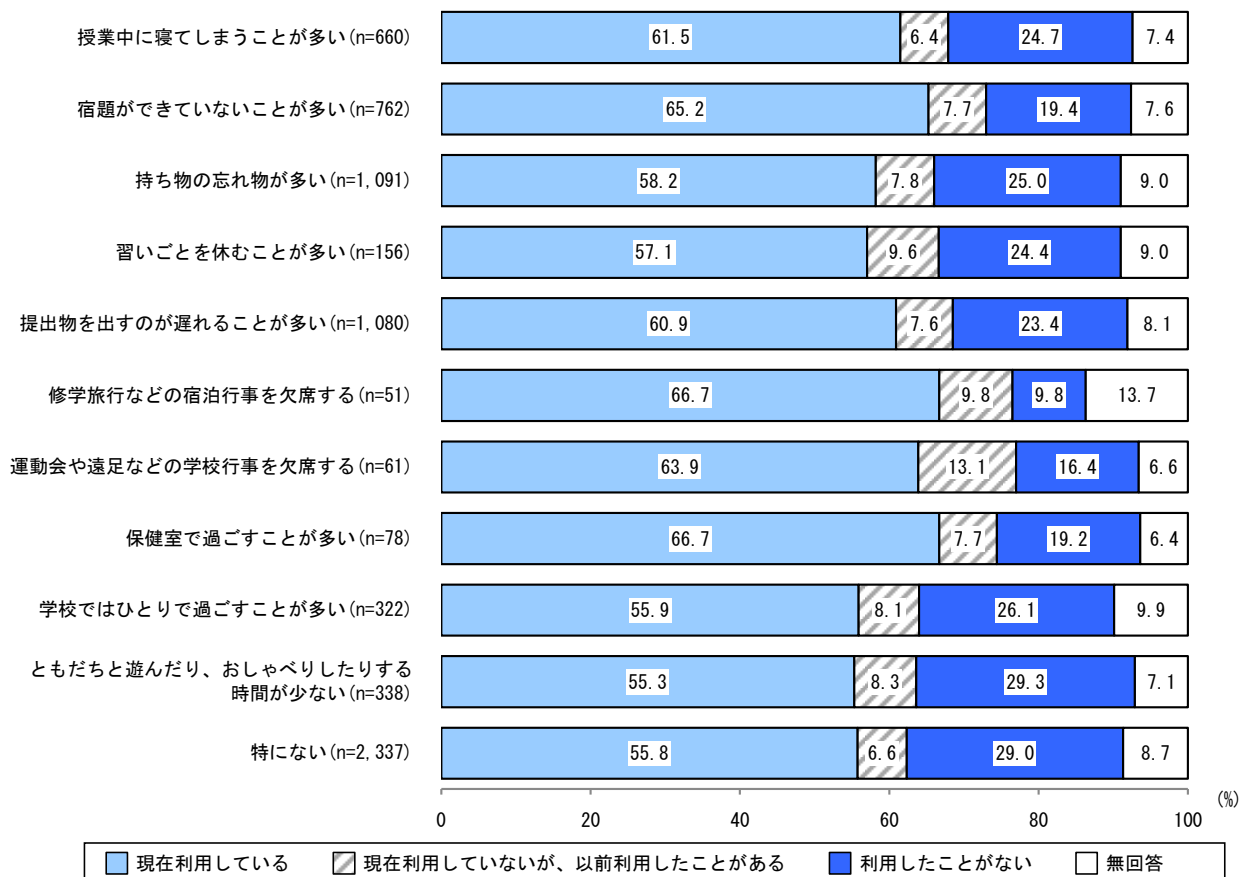


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が5.9%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<枚方市>

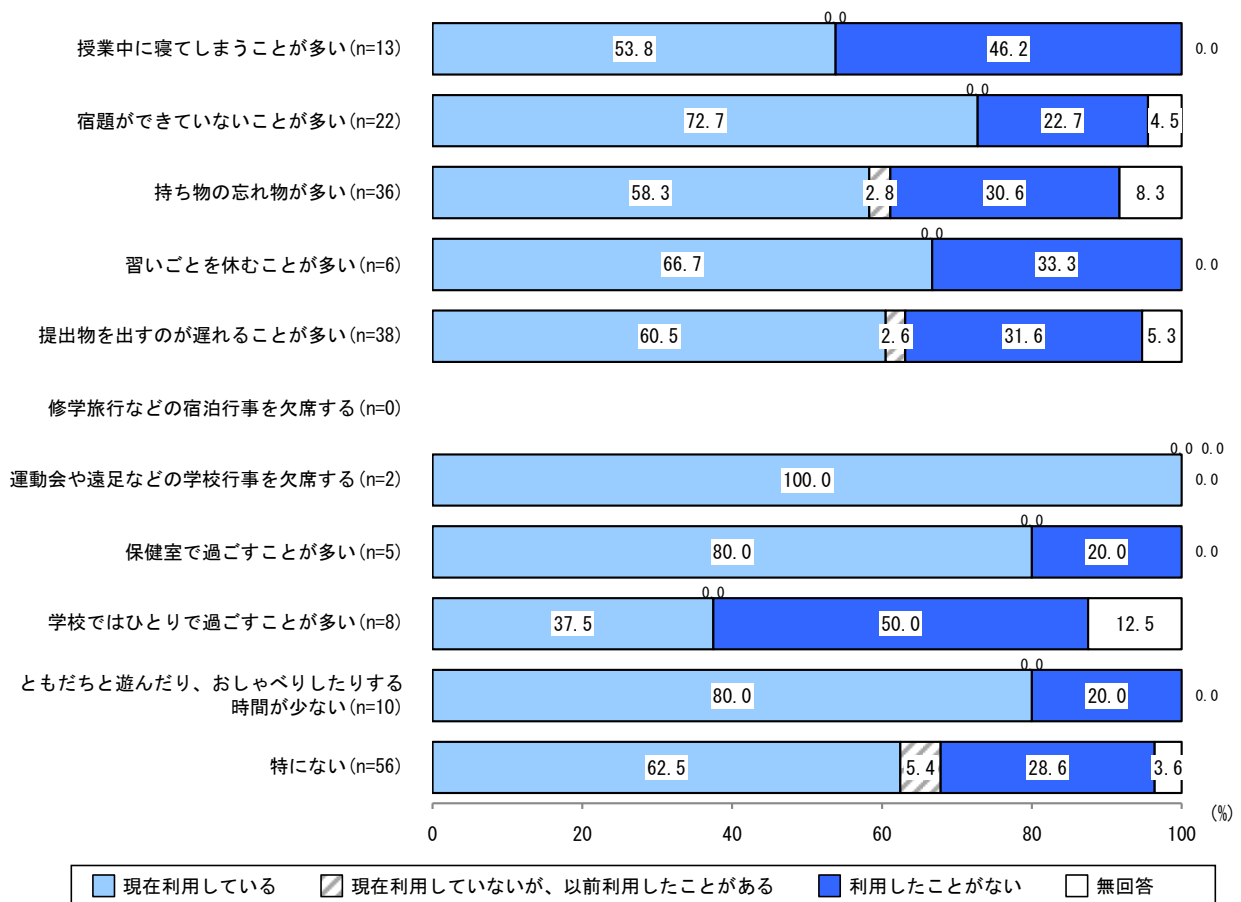
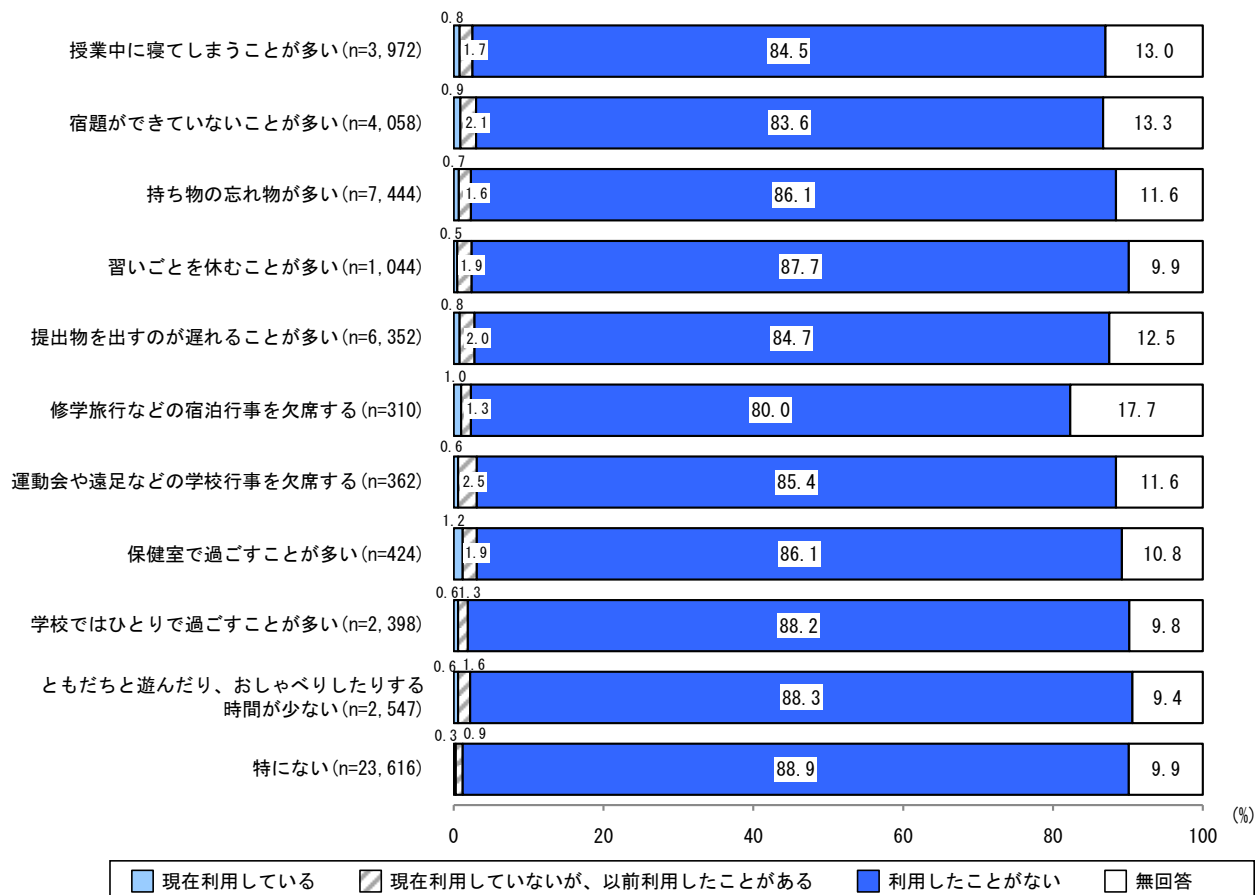


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況をひとり親世帯のみで見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「学校ではひとりで過ごすことが多い」と回答した割合が37.5%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<枚方市>

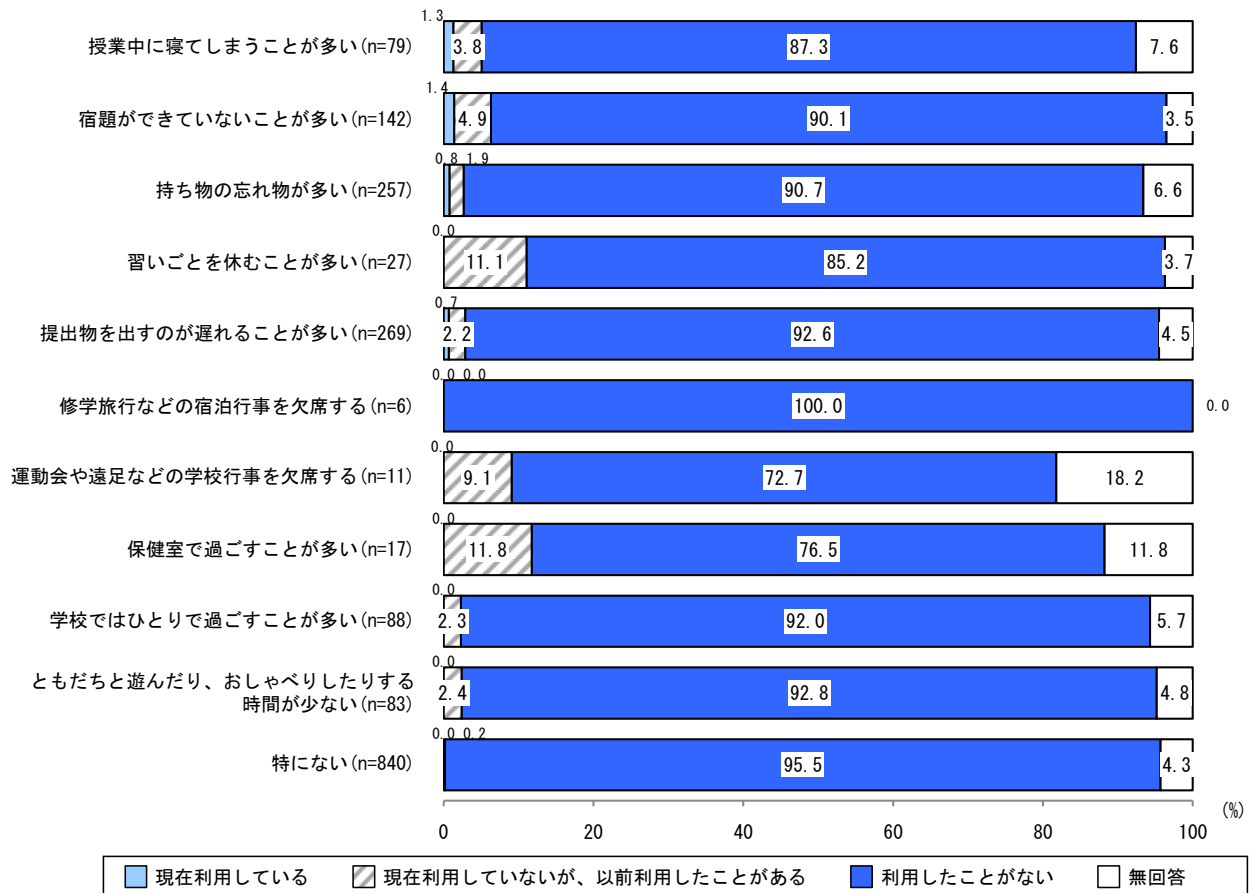
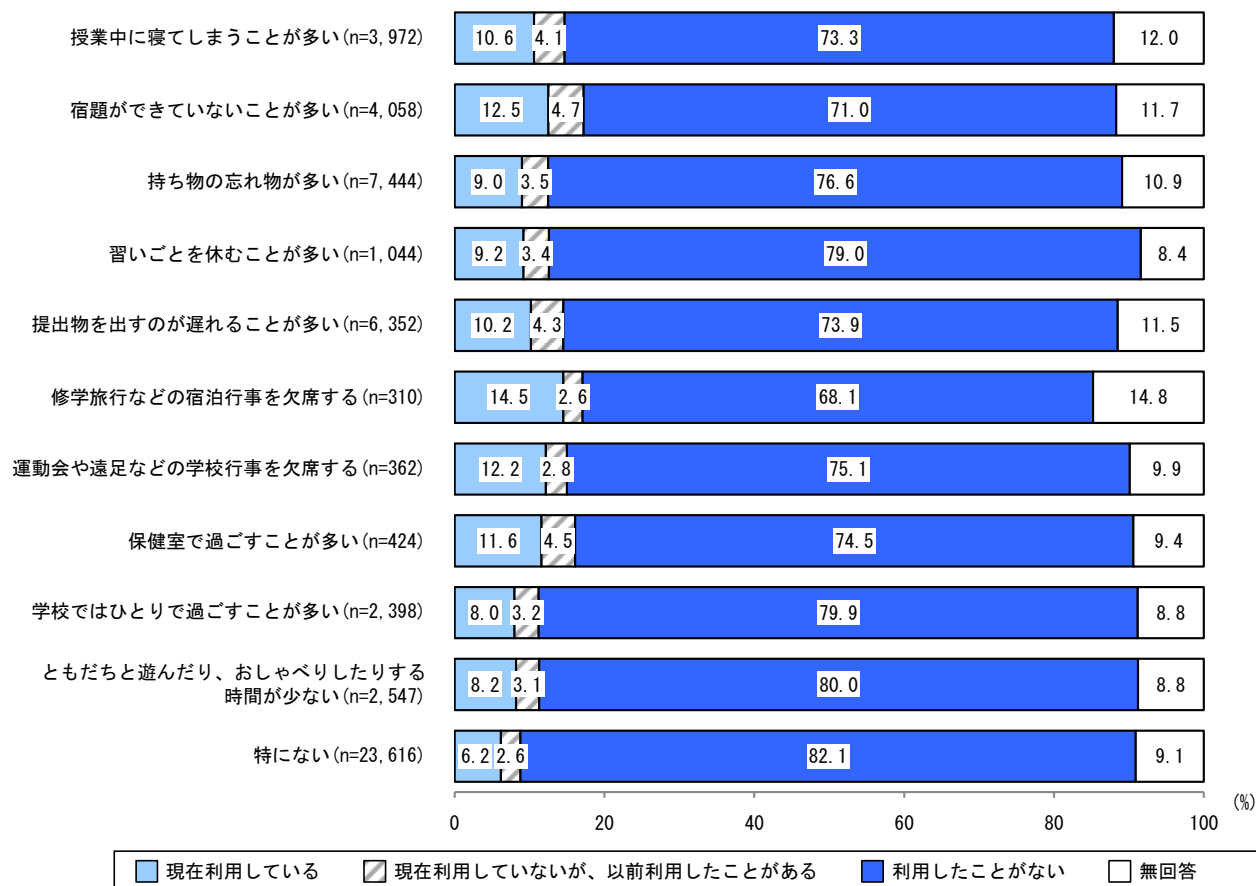


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が1.4%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<枚方市>

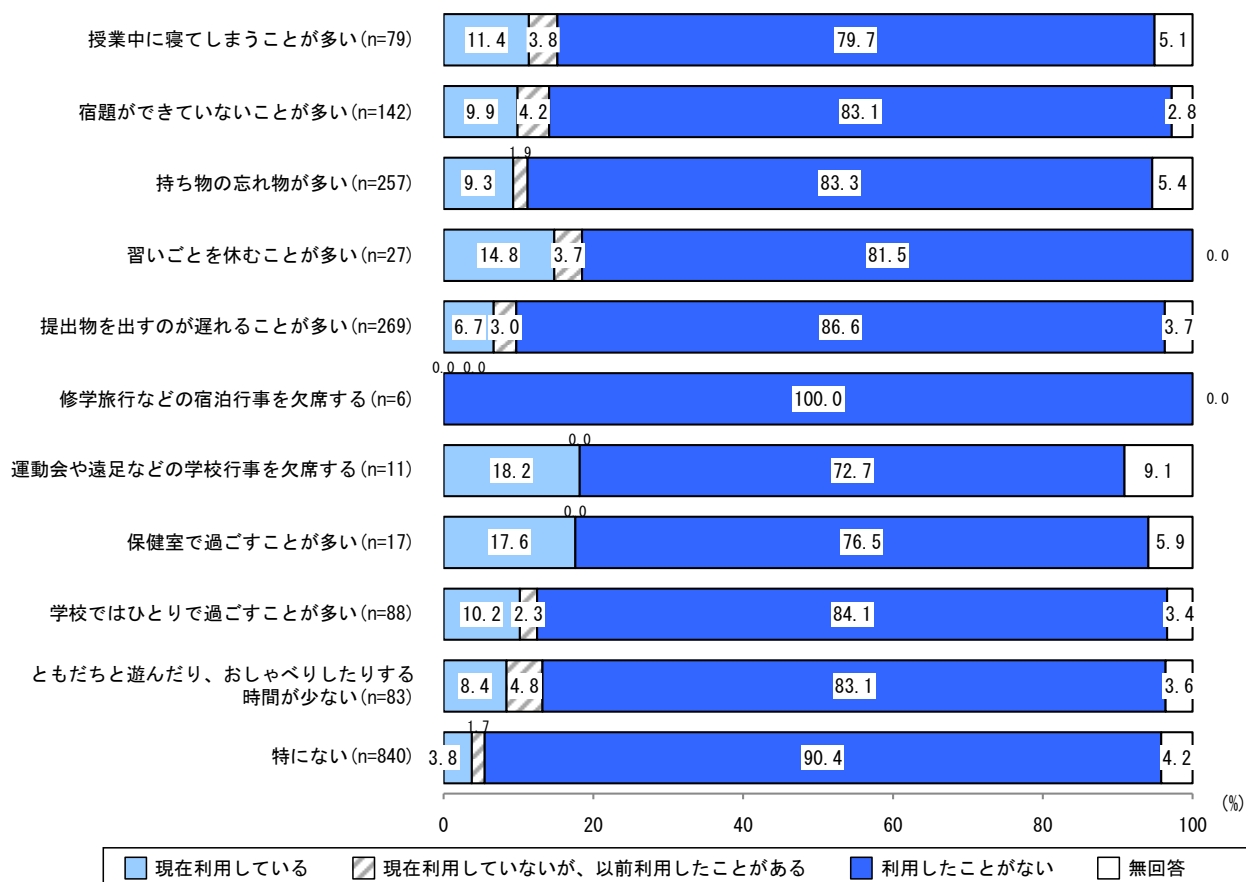
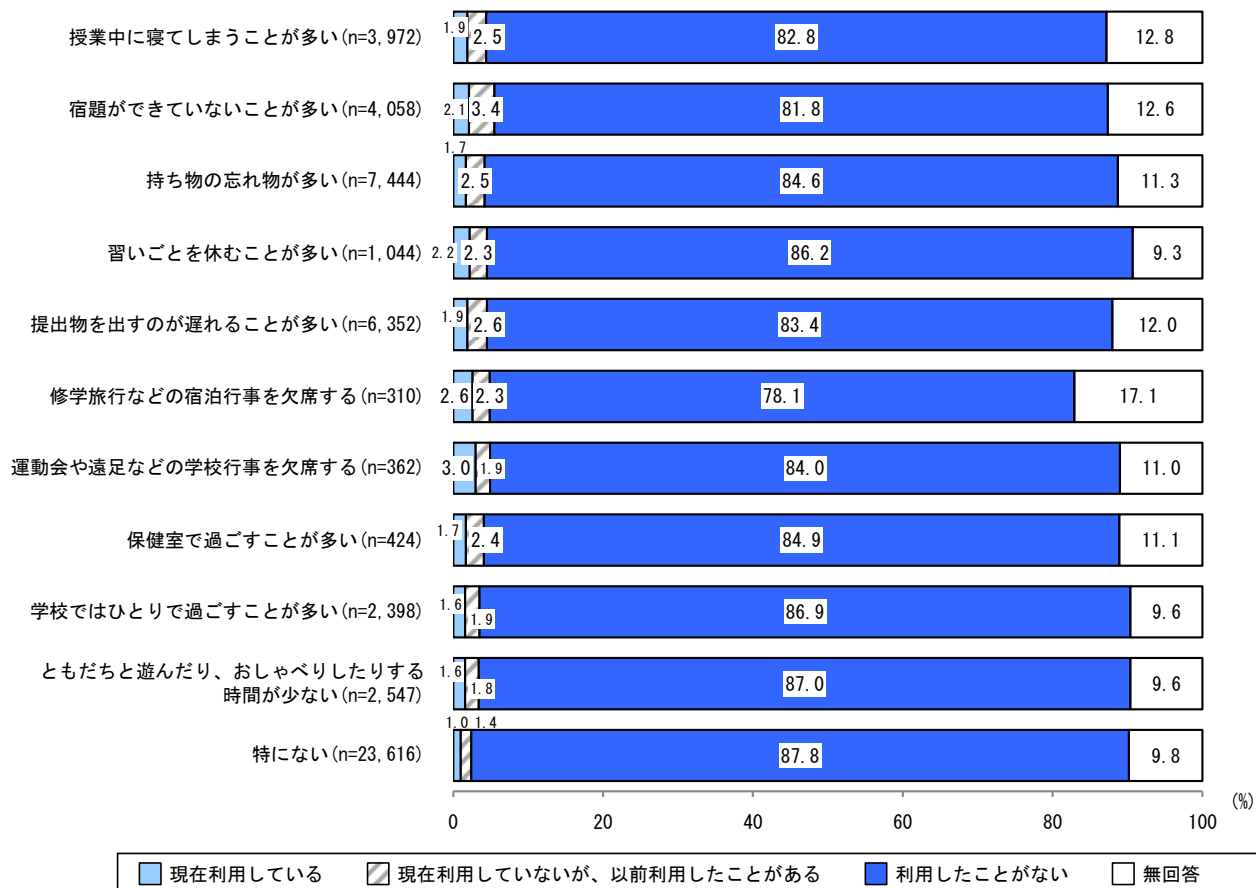


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した割合が18.2%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<枚方市>

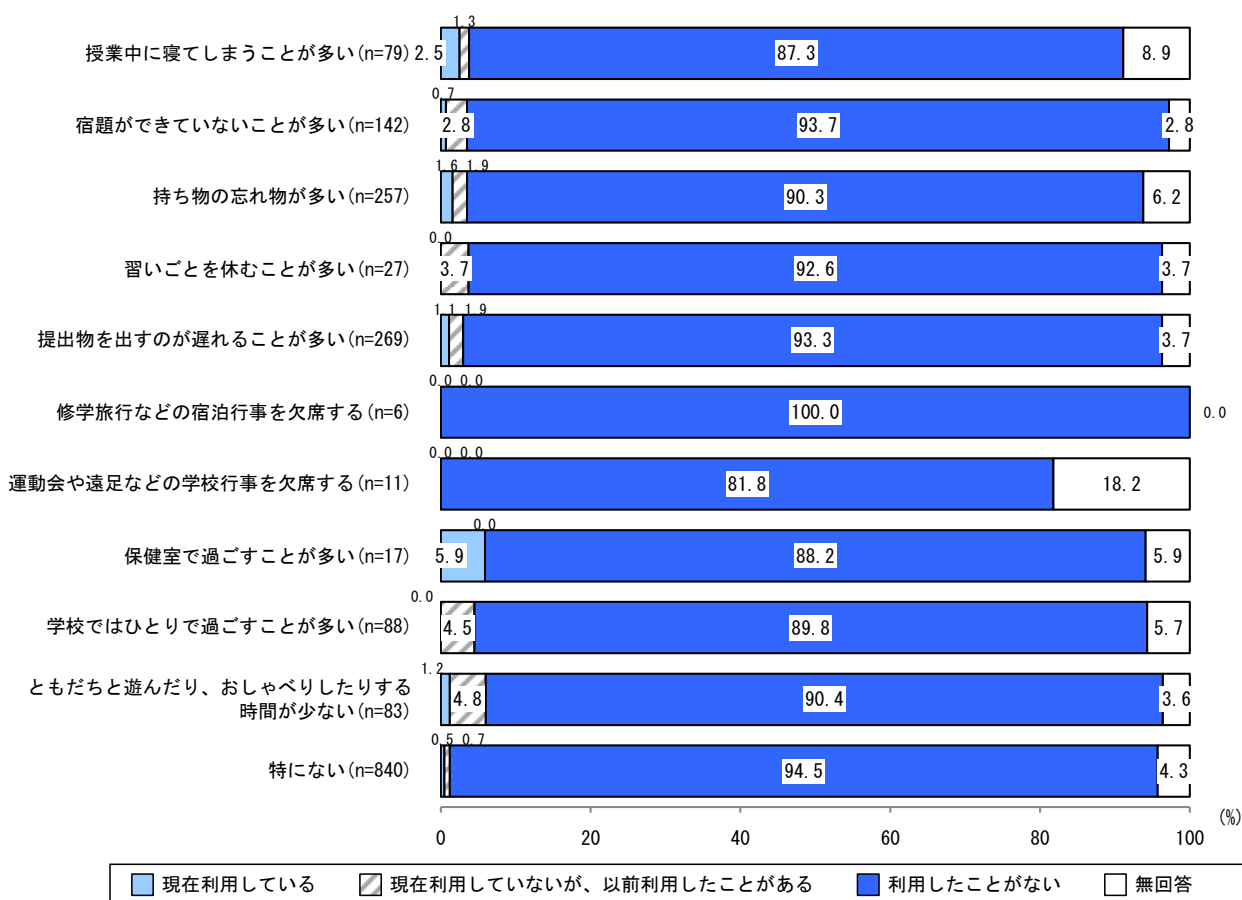
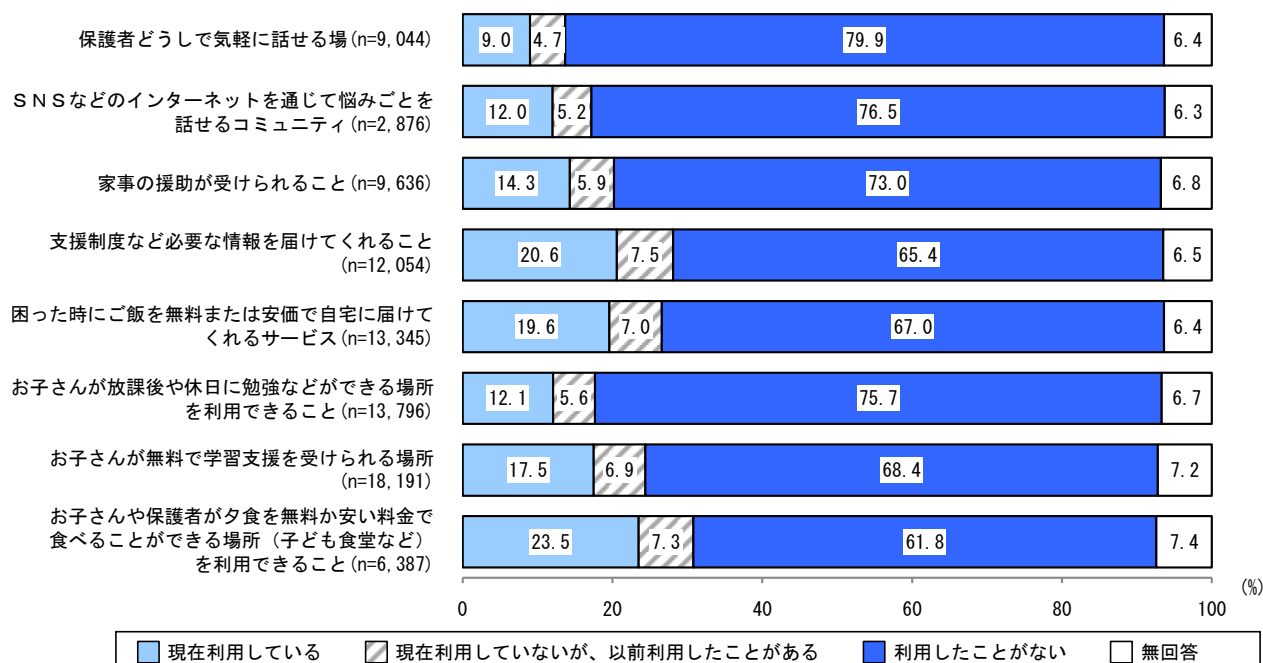


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が5.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<枚方市>

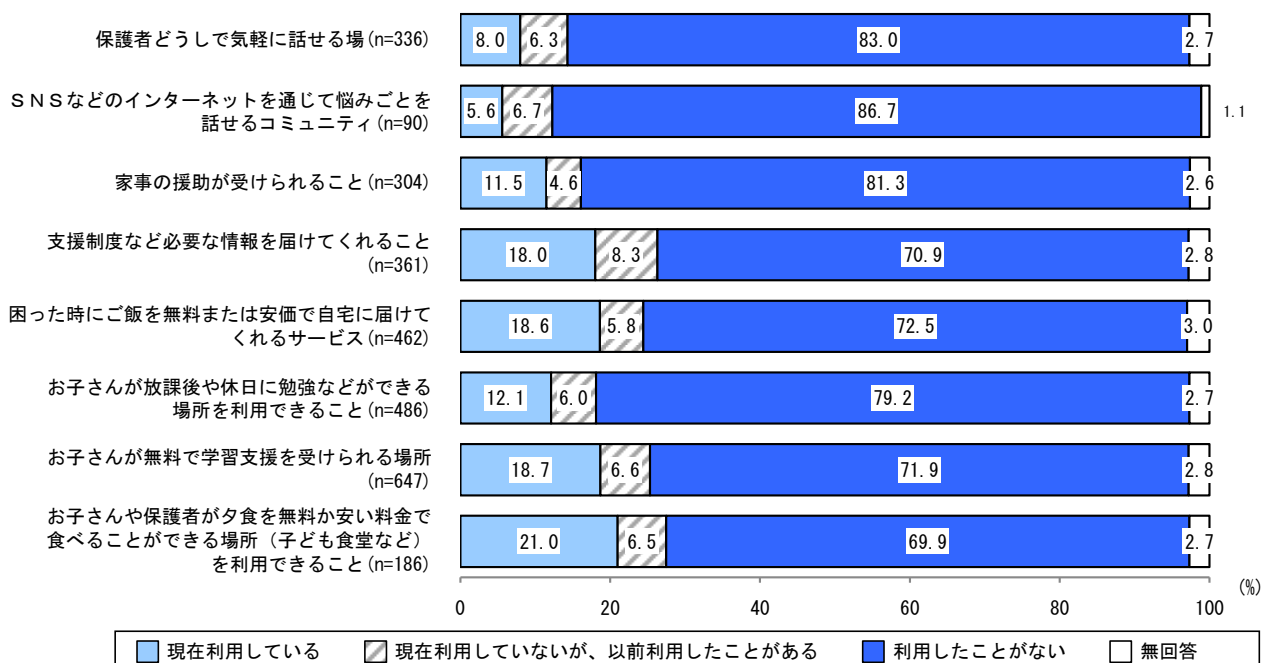
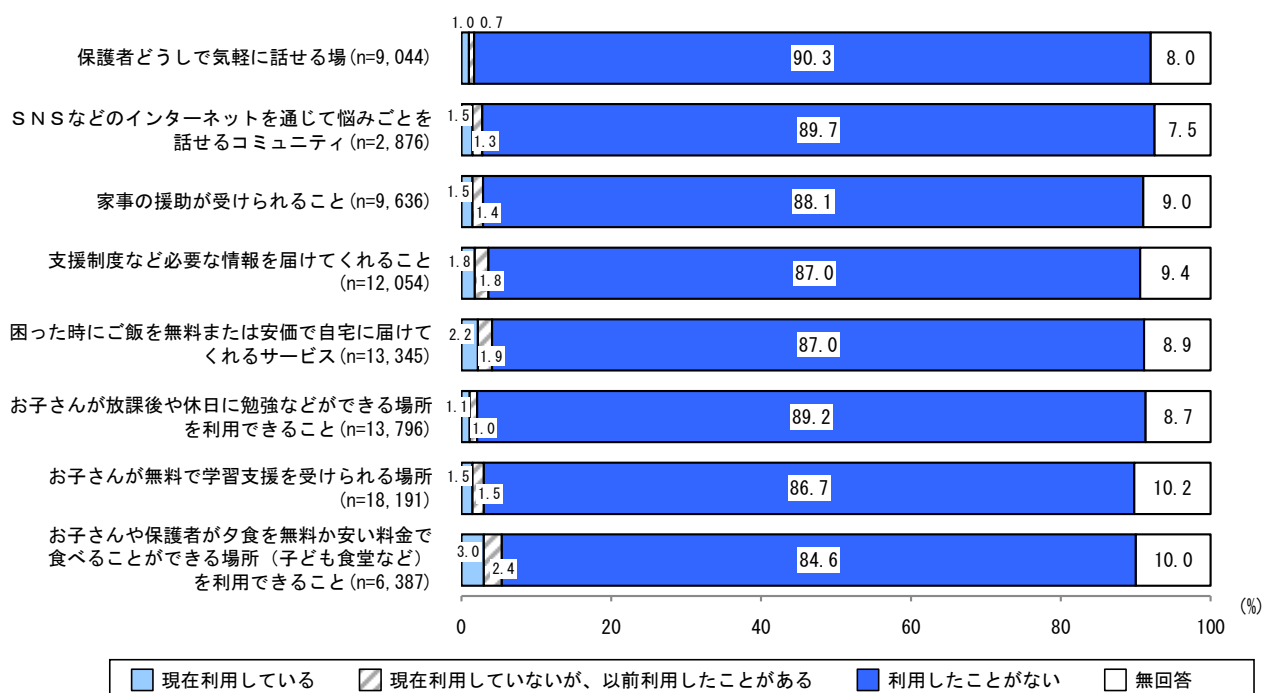


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が21.0%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<枚方市>

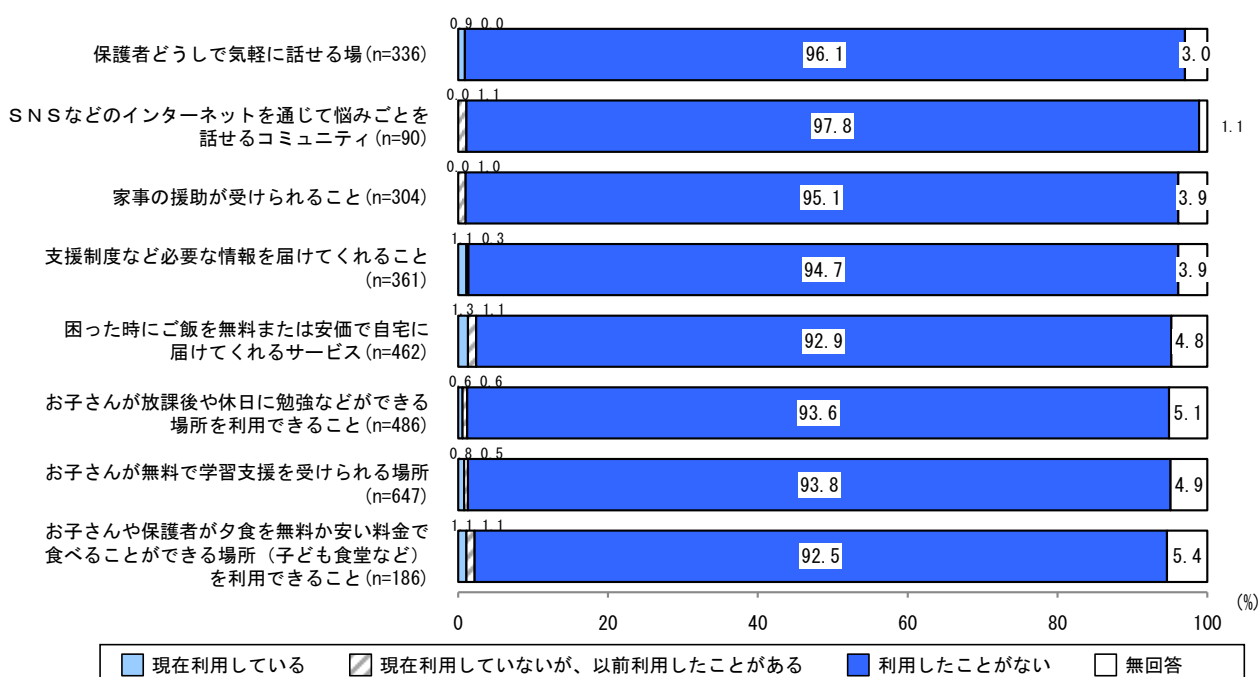
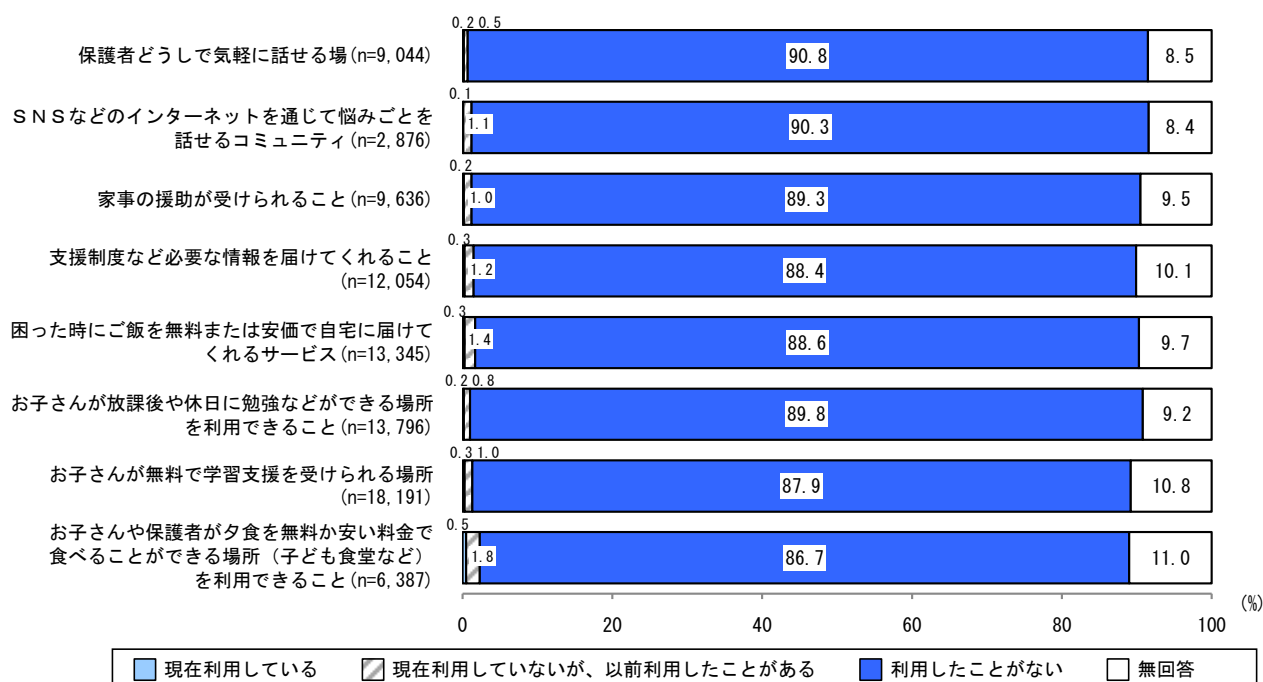


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」と回答した割合が1.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<枚方市>

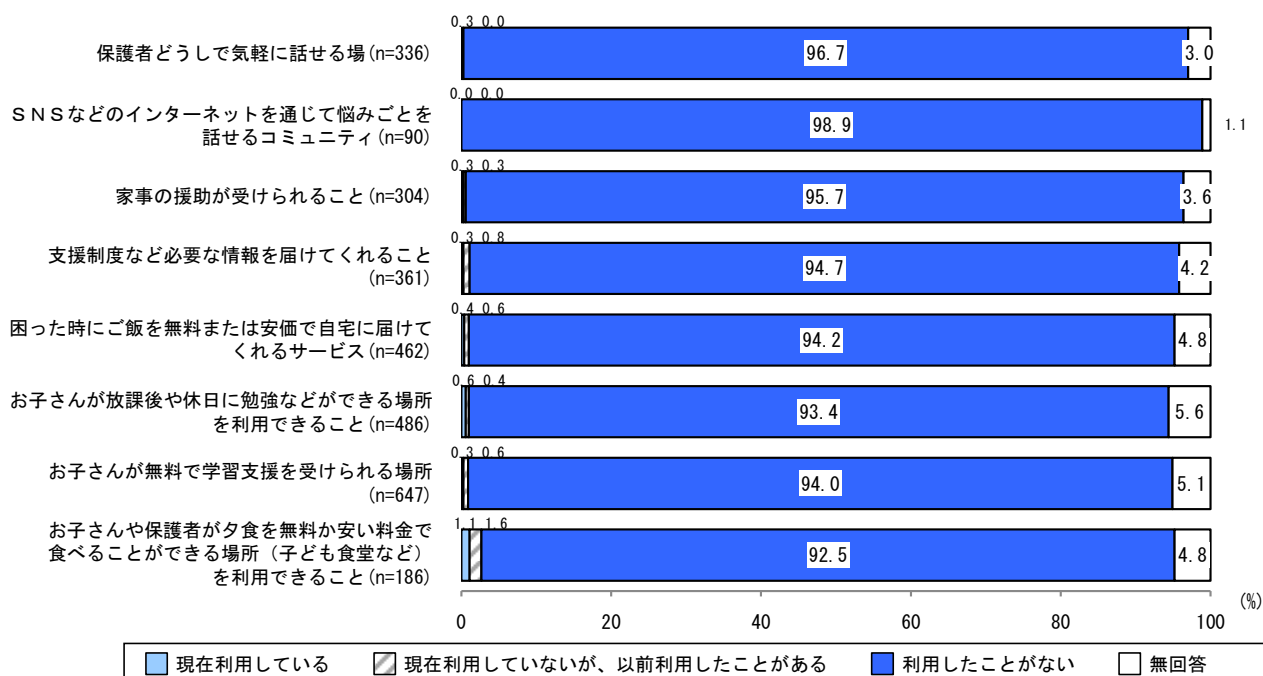
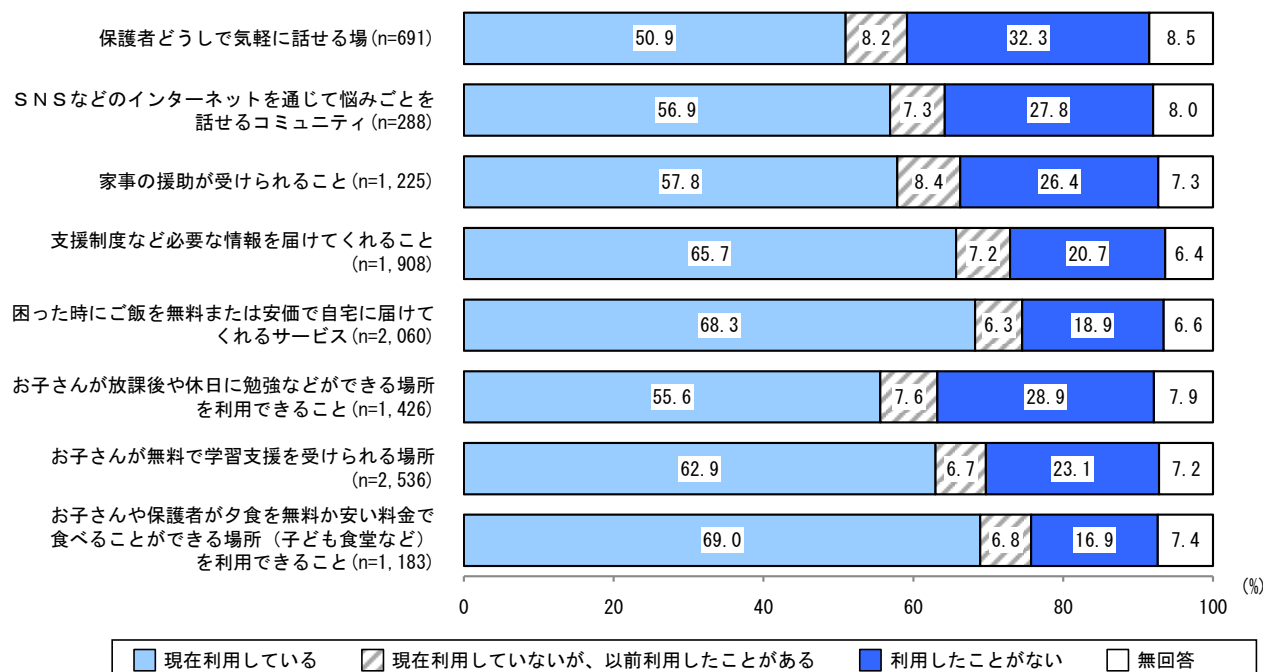


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<枚方市>

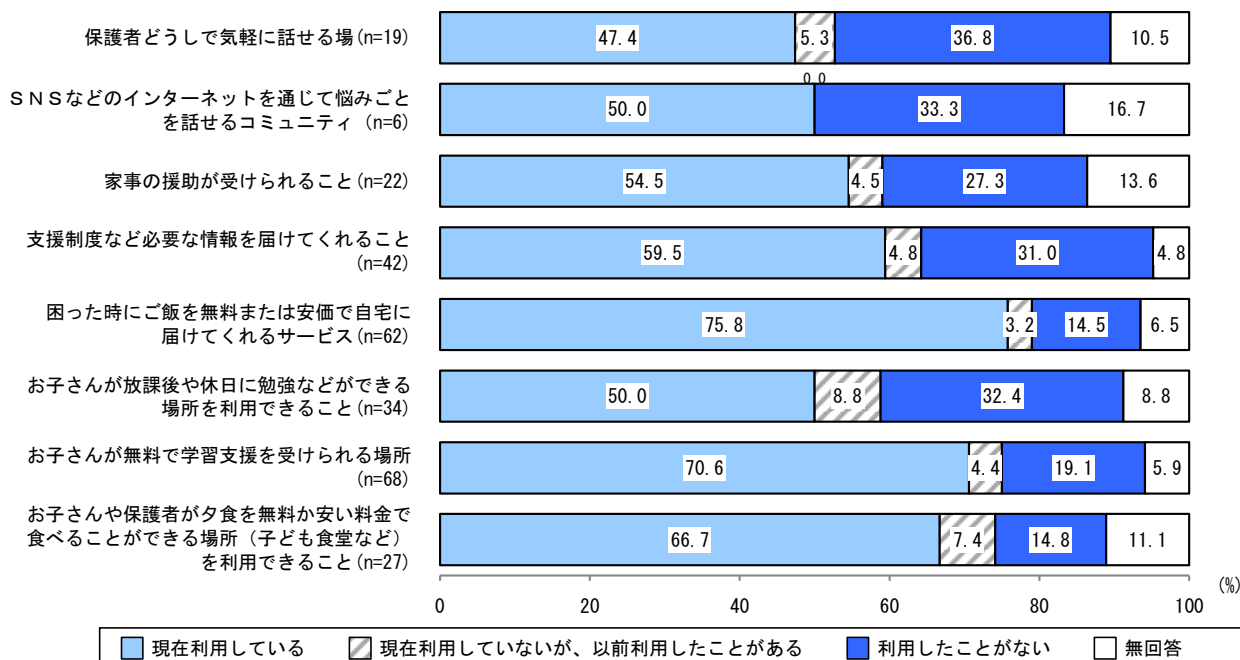
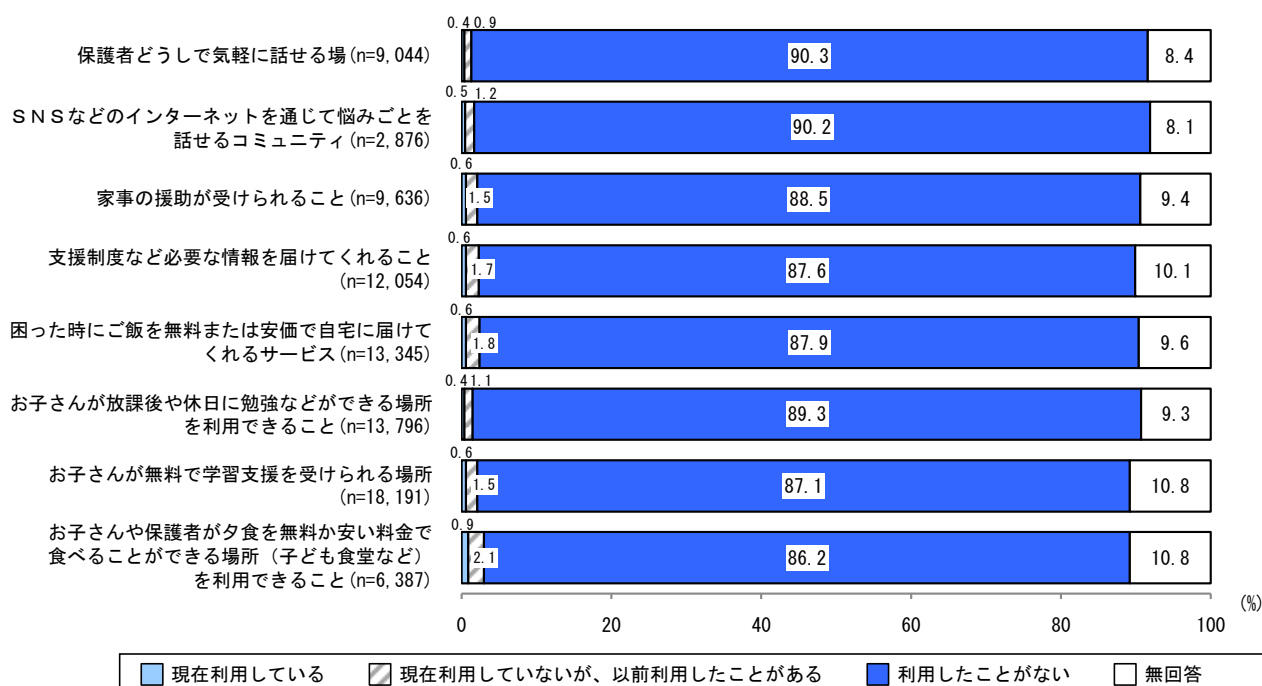


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」と回答した割合が75.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<枚方市>

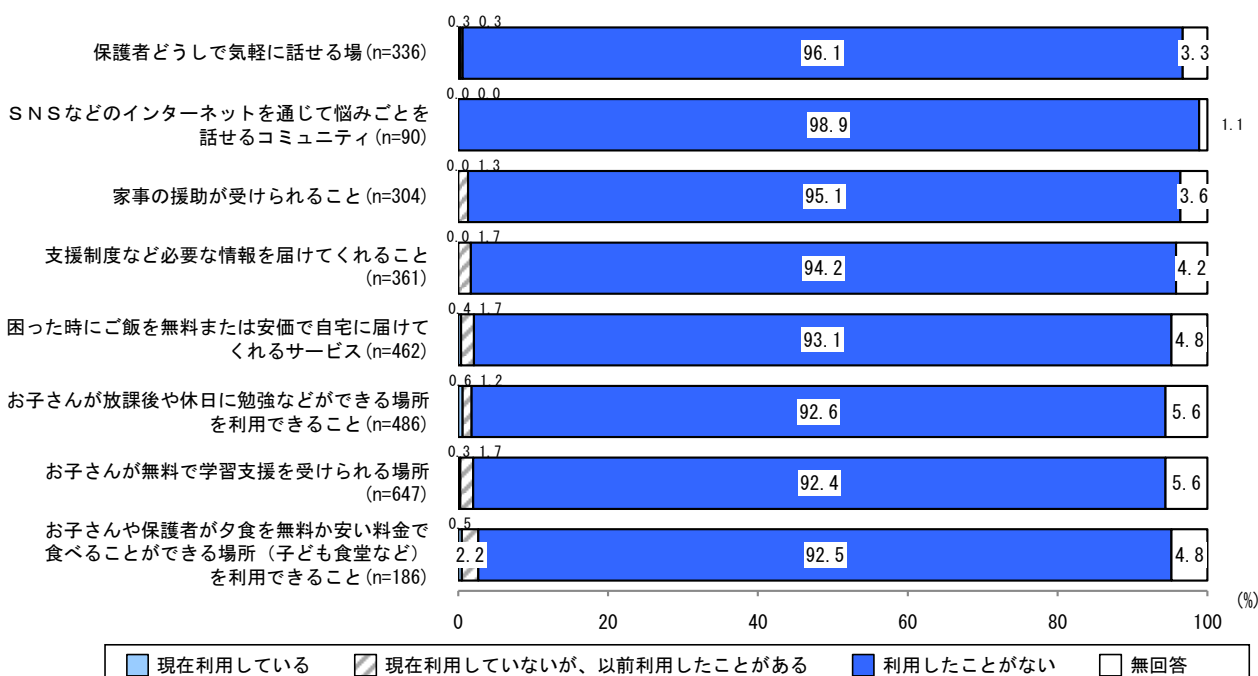
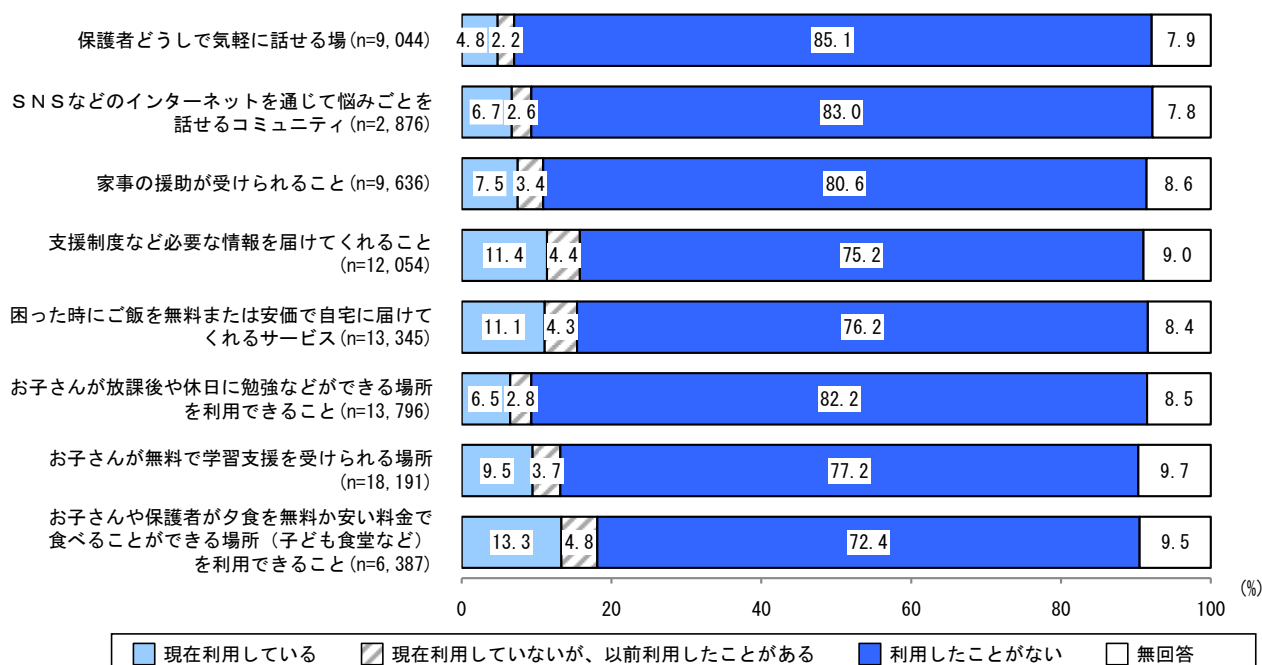


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<枚方市>

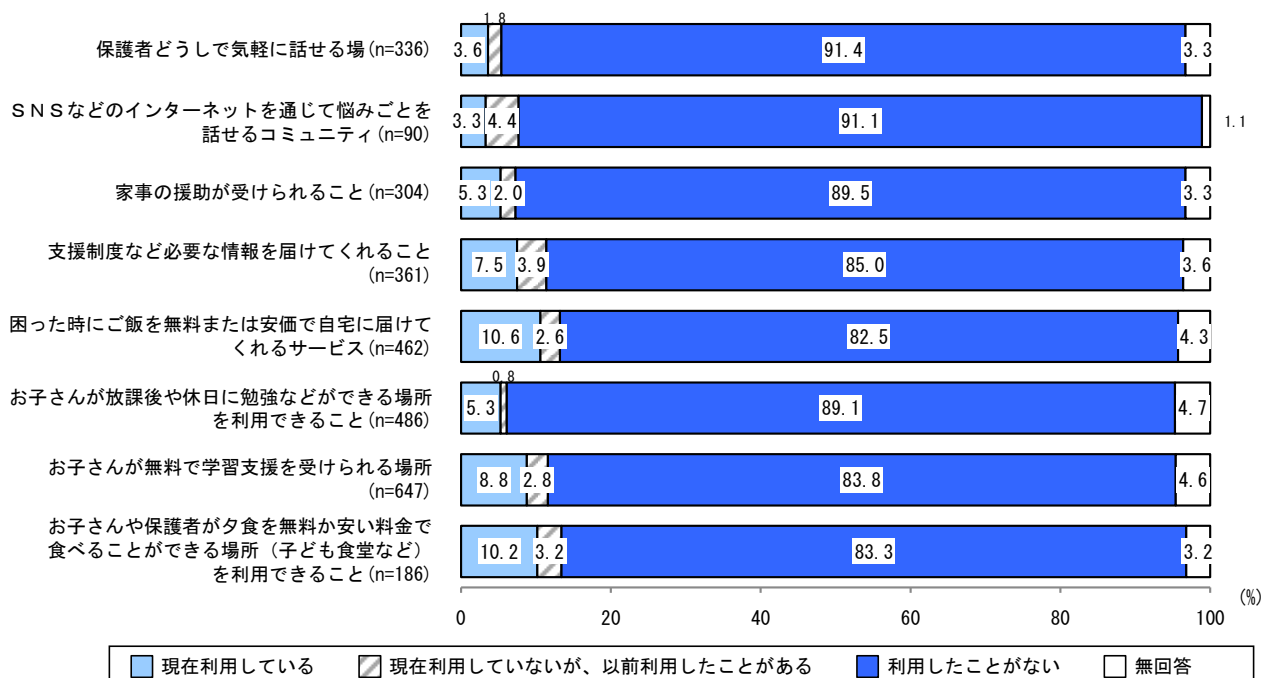
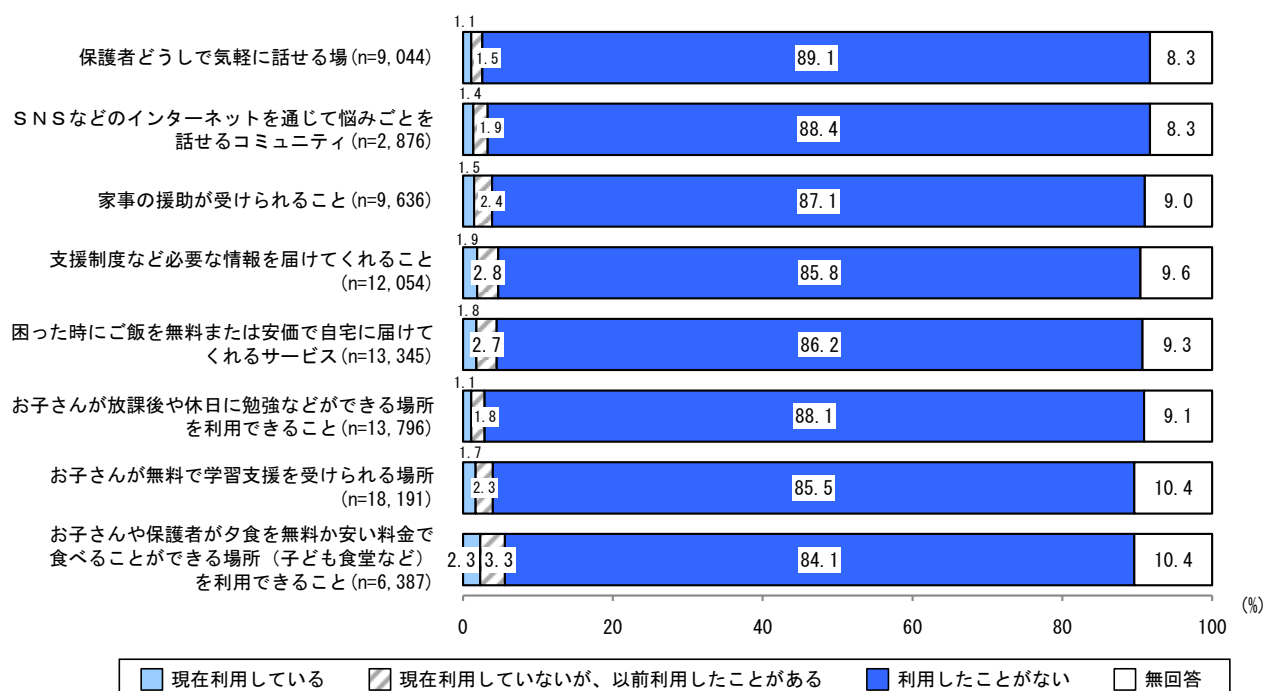


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」と回答した割合が10.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<枚方市>

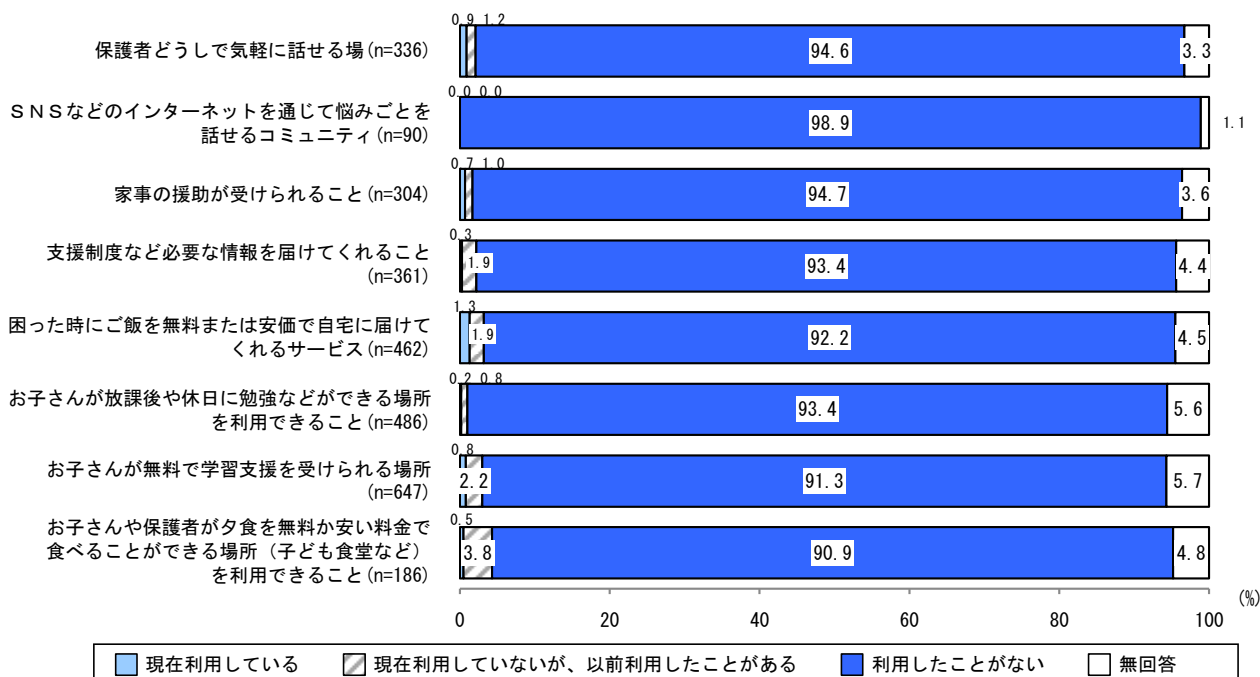


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

<家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が12.2%となっている。困窮度Ⅰ群では、53.3%、困窮度Ⅱ群では36.6%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で61.3%、困窮度Ⅰ群で89.8%、困窮度Ⅱ群で75.0%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.8%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では、5.4%、困窮度Ⅱ群では1.4%となっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で38.6%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で41.7%、困窮度Ⅱ群で63.6%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が23.8%、高等学校中途退学が9.5%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

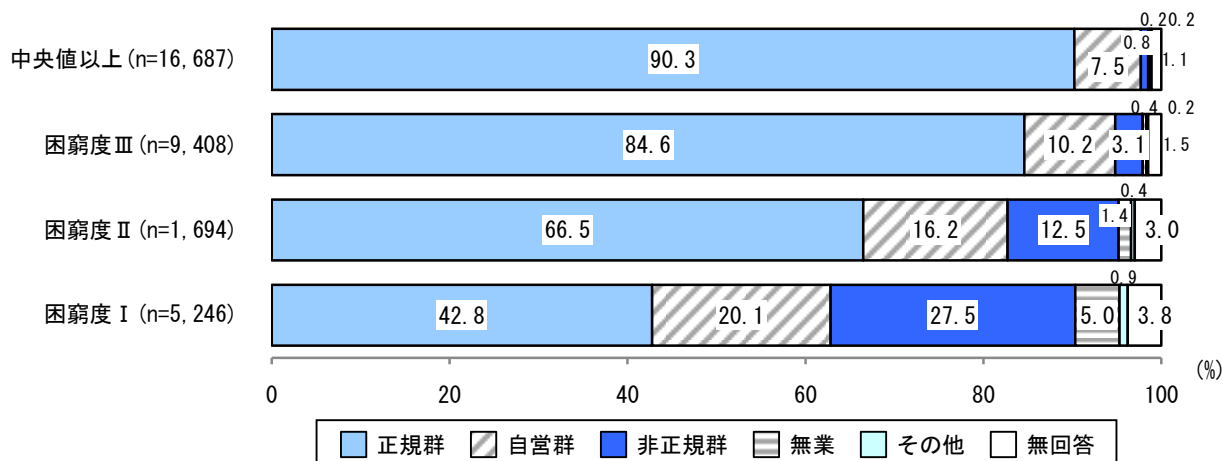
住宅形態別に家計の状況をみると、「府営・市営の住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が51.9.%と半数以上を占める。同様に、「府営・市営の住宅」については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が74.1%と経済的余裕のなさが示されている。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

全般的に、公的な資金援助の受給率は困窮度にしたがって高い水準を示している。また、母子世帯における養育費の受け取り世帯の割合が十分ではなく、若くして母親になった者への教育支援の必要性も示唆される。さらに、公共性の高い住宅に居住する世帯ほど、経済的な余裕を欠いている傾向が示されている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<枚方市>

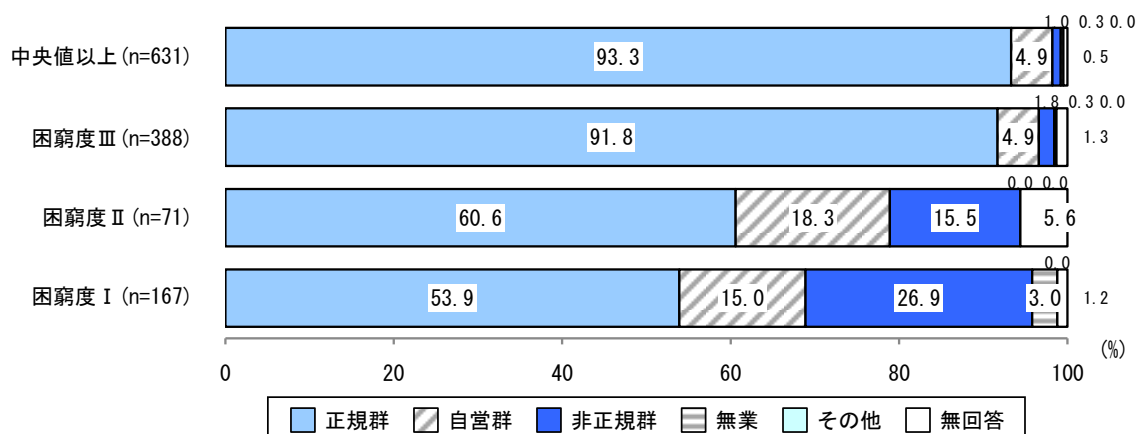


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合がやや高く、それぞれ26.9%、3.0%となっている。

※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、

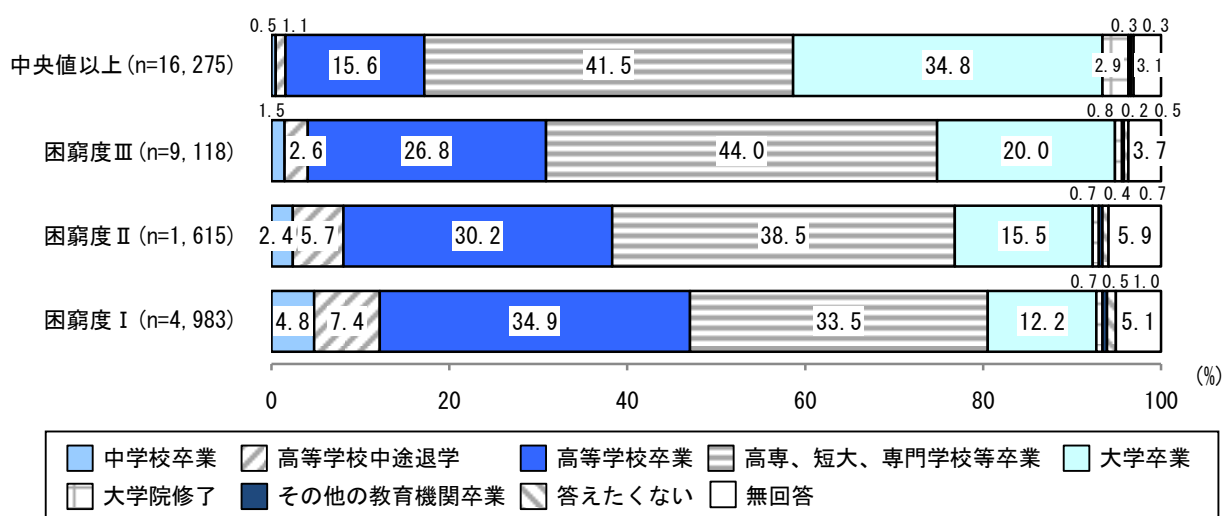
上記以外で、誰も働いていなければ（問9選択肢6、7）無業。

上記以外がその他となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<枚方市>

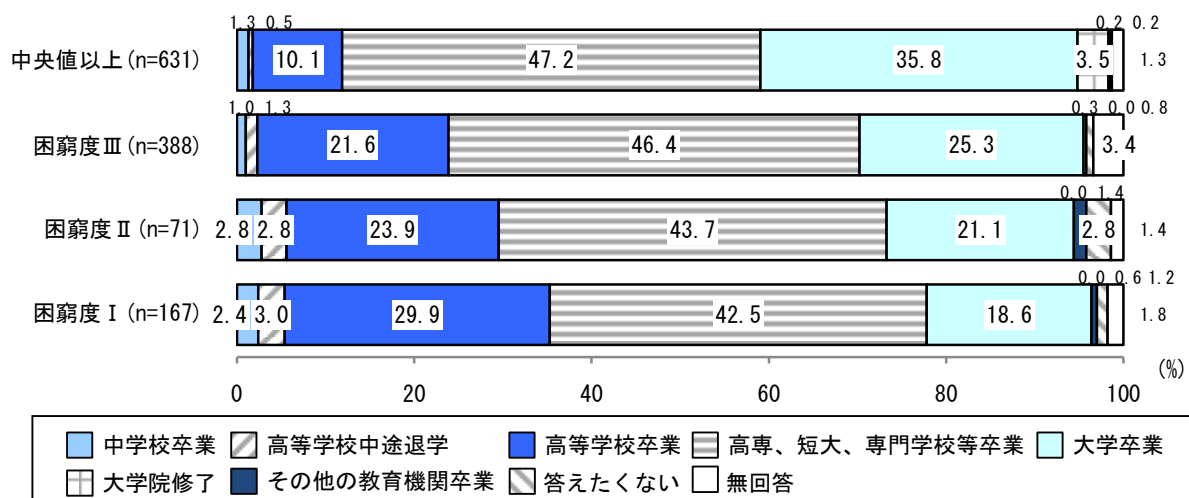
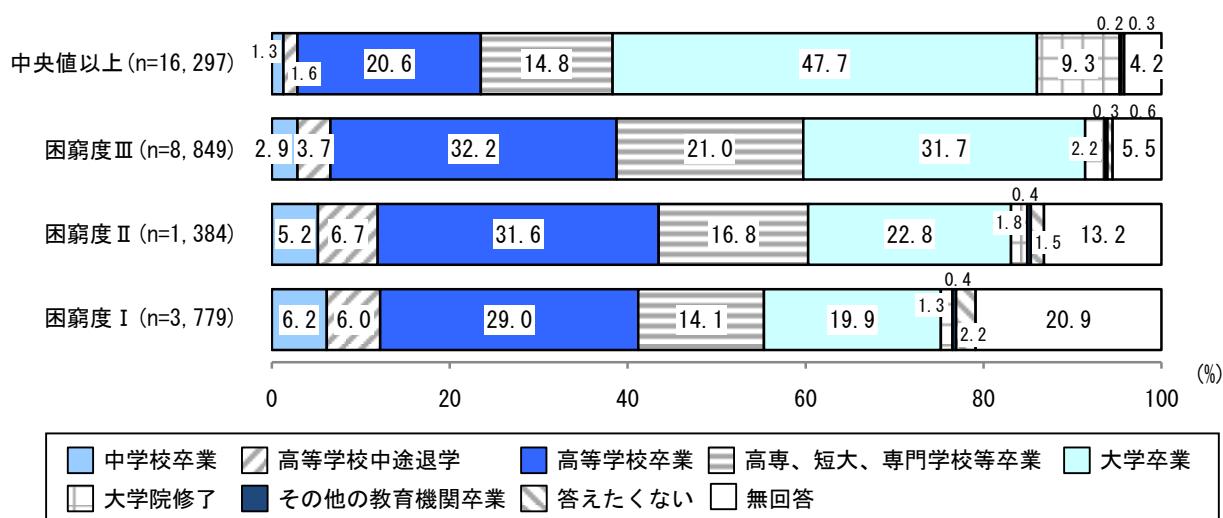


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「高等学校中途退学」と「高等学校卒業」の割合が高くなり、一方で「大学卒業」は、困窮度が高まるにつれ、割合が低くなっている。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<枚方市>

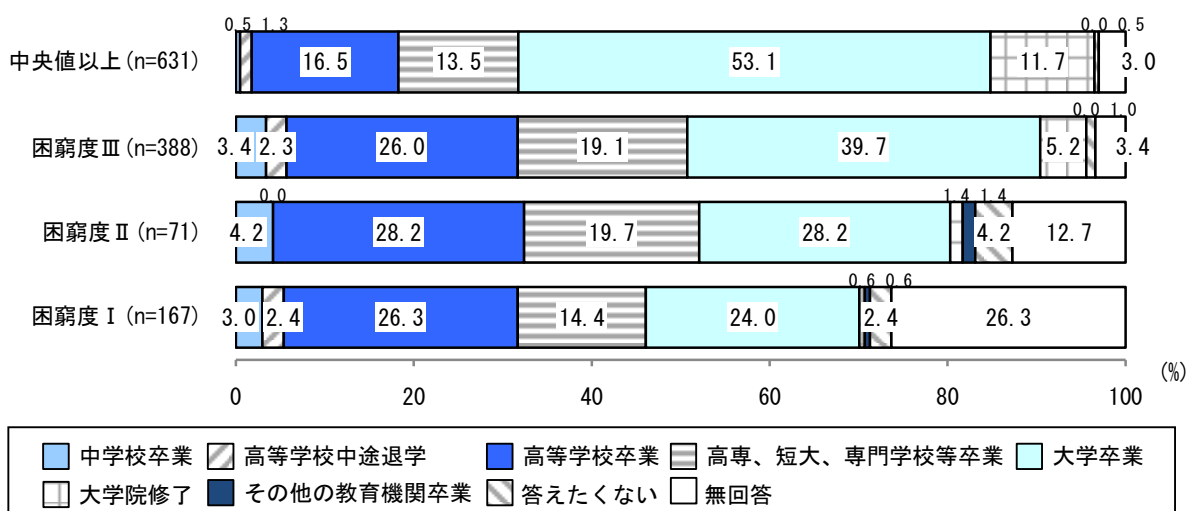
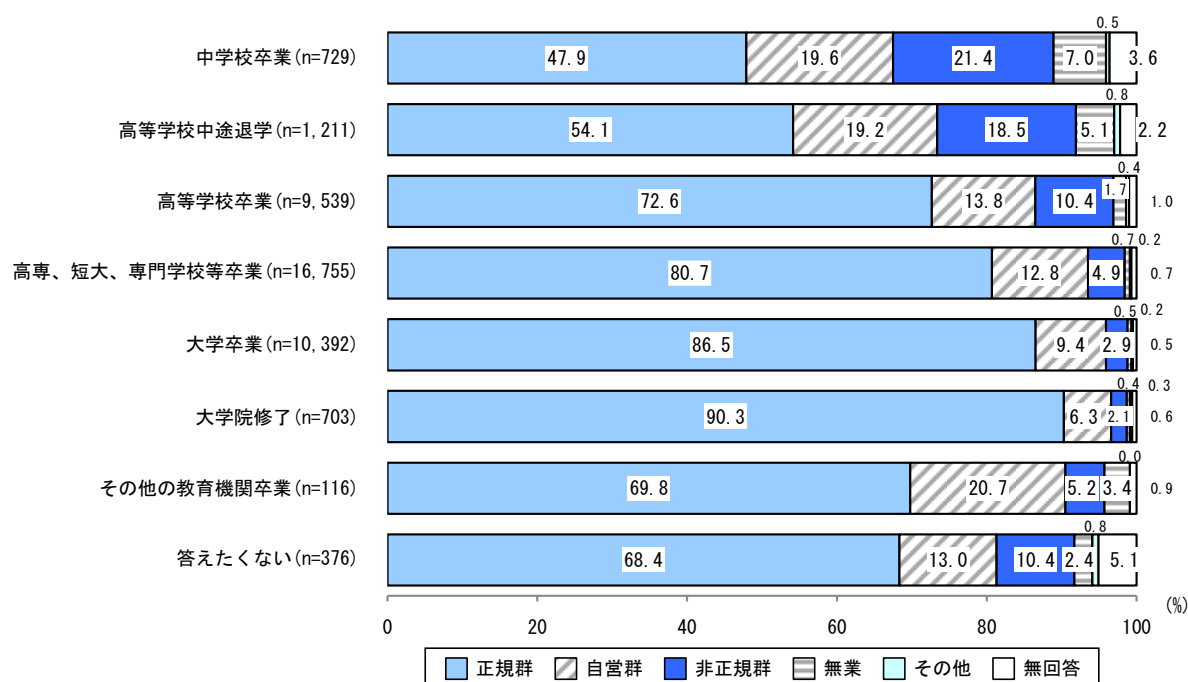


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ3.0%、2.4%である。また、困窮度Ⅰ群では無回答（26.3%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

＜大阪府内全体＞



＜枚方市＞

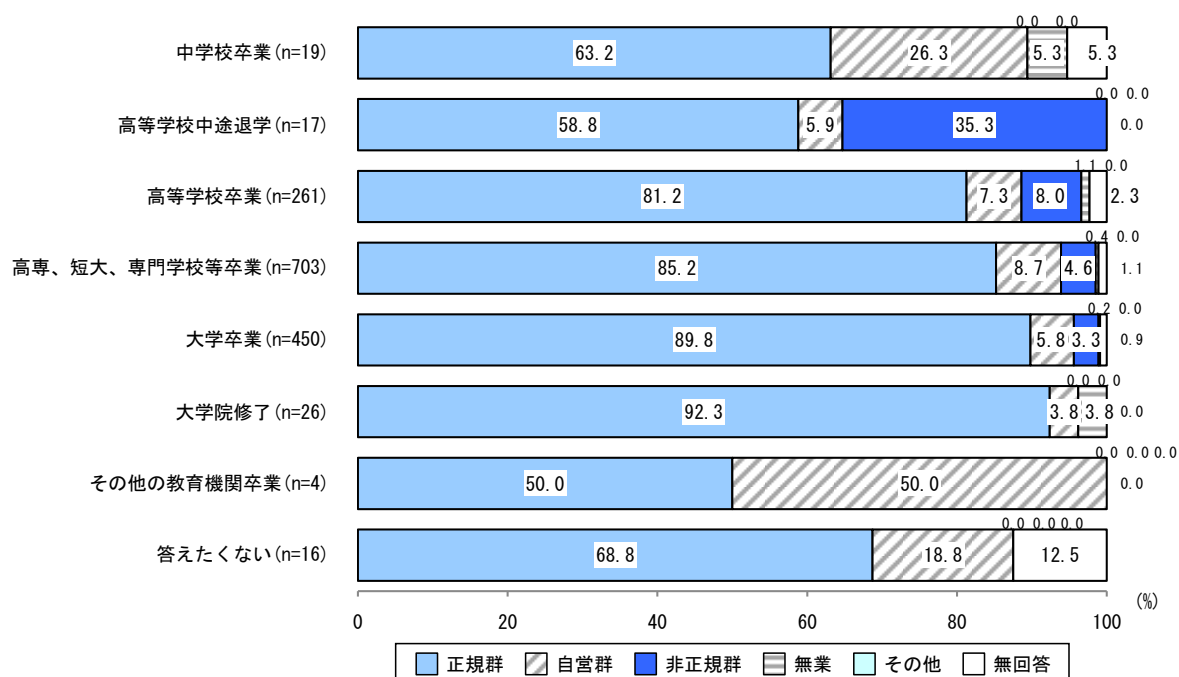
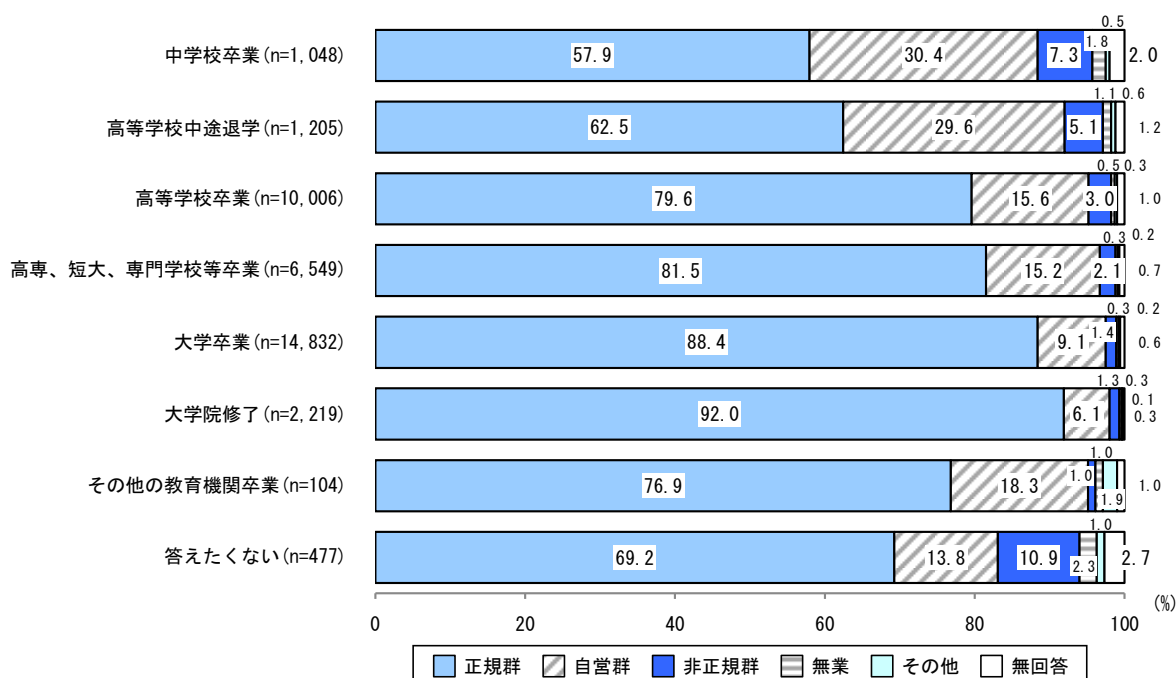


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

＜大阪府内全体＞



＜枚方市＞

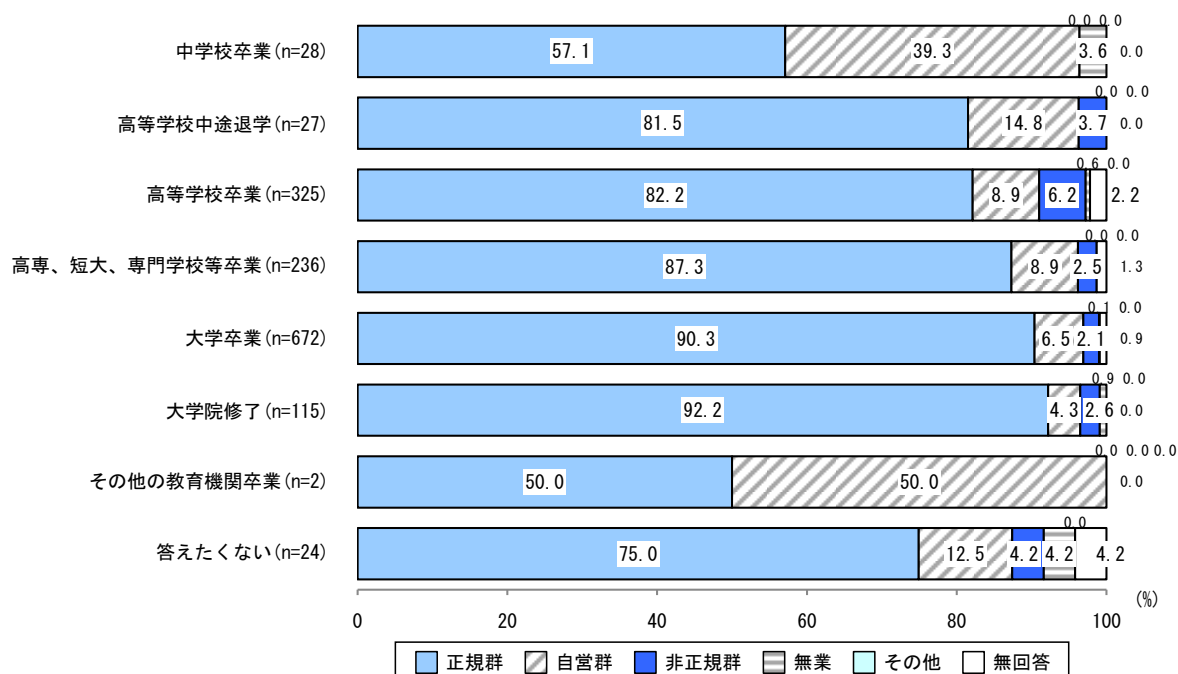
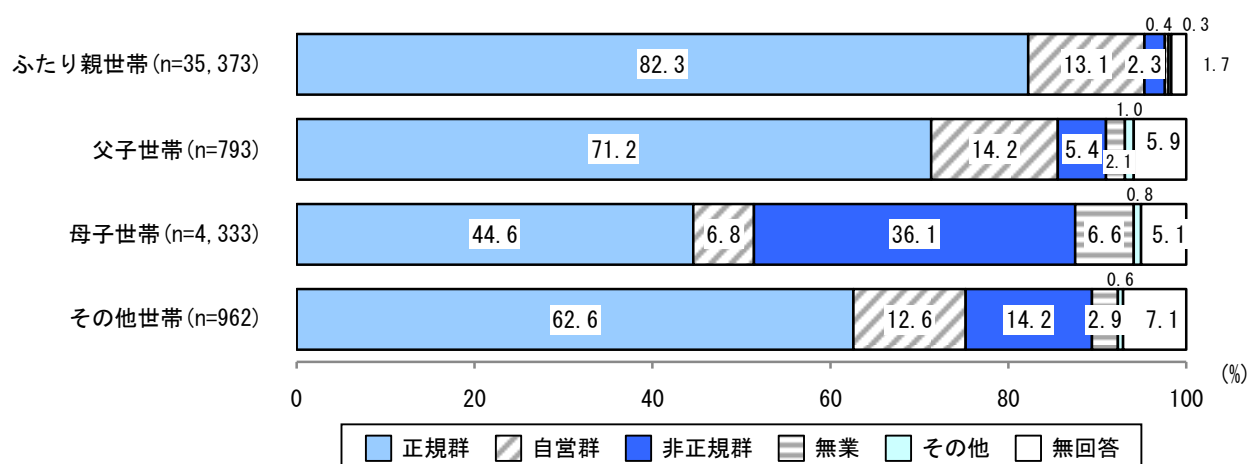


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、父親の最終学歴が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<枚方市>

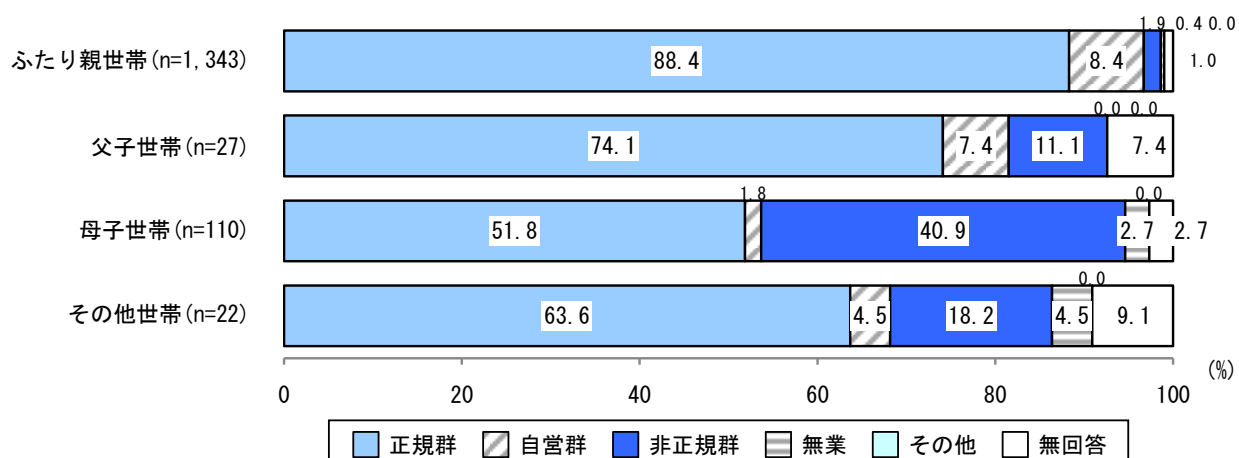
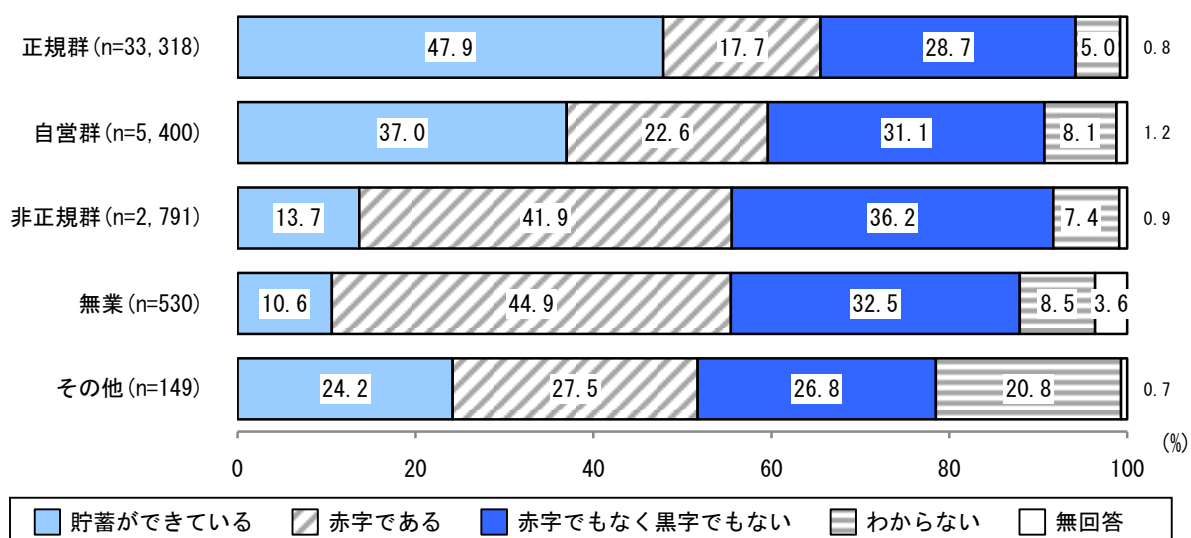


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が88.4%であるが、「父子世帯」では74.1%、「母子世帯」では51.8%と低くなる。「非正規群」は、「父子世帯」では11.1%、「母子世帯」では40.9%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

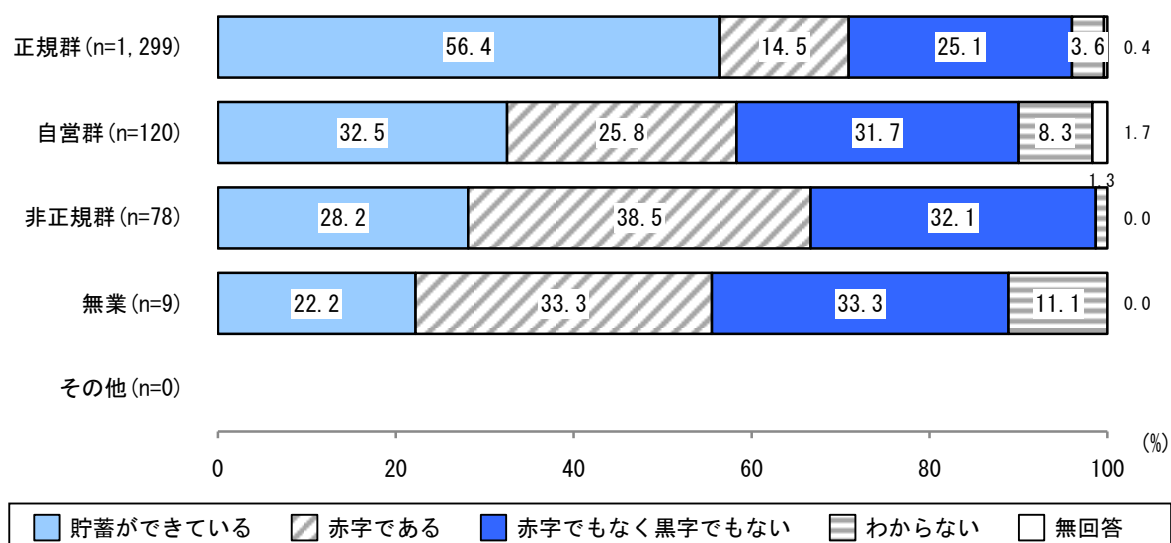


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では「貯蓄ができています」割合がそれぞれ、56.4%、32.5%である。「無業」で「赤字である」と回答した人の割合は、33.3%となっている。

<雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別に保護者の就業状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。親の就業状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（93.3%対53.9%）が約40ポイント高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（26.9%対1.0%）が25ポイント以上高くなっている。また、「自営」群（15.0%対4.9%）でも、困窮度Ⅰ群の方が中央値以上群に比べて10ポイント以上高く、差が見られた。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（35.8%対18.6%）で15ポイント以上高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（29.9%対10.1%）は約20ポイント高くなっている。同様に、父親の最終学歴においても、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（53.1%対24.0%）で約30ポイント高く、「大学院修了」群（11.7%対0.6%）も10ポイント以上高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（26.3%対16.5%）では、約10ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが示された。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。

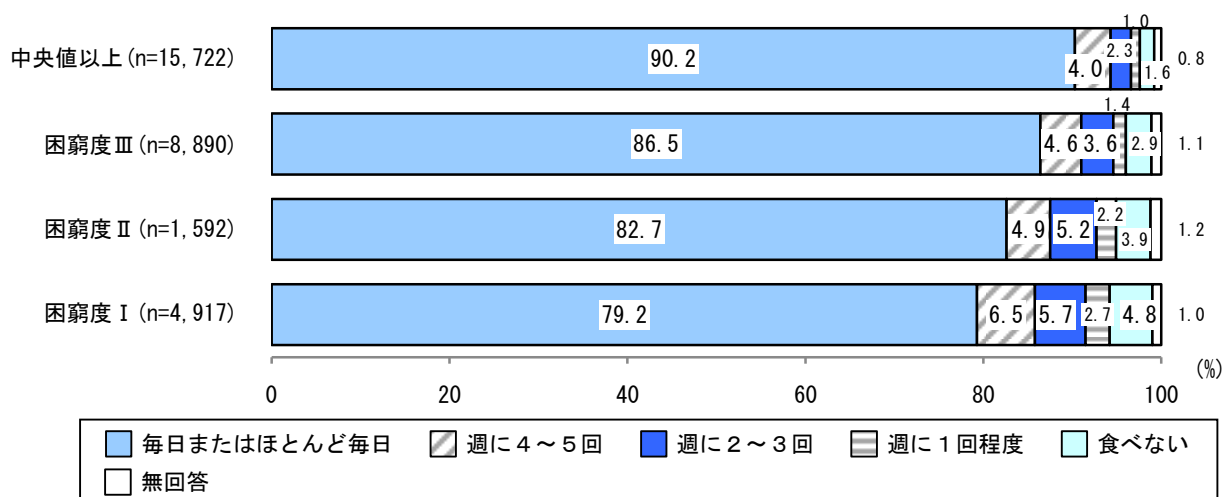
次に、保護者の最終学歴別に就業状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「高等学校中途退学」群（58.8%）と「中学校卒業」群（63.2%）では「正規」群の比率は6割程度であるのに対して、それ以外では8割以上が「正規」群である。さらに、「非正規」群においては、「高等学校中途退学」群（35.3%）の割合が高く、「大学卒業」群（3.3%）と比べて30ポイント以上高い傾向も見られた。また、父親の最終学歴別でも、「中学校卒業」群（57.1%）の「正規」群の比率が5割程度にとどまっているのに対して、その他の群では8割以上が「正規」群であった。これらの結果から、学歴が上がるほど「正規」群における就業比率が上昇する傾向が表れている。

最後に、保護者の就業状況別に家計状況をみると、親の就労状況が「正規」群の場合には、「非正規」群と比べて「貯蓄が出来ている」（56.4%対28.2%）世帯の割合が高い。反対に、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（38.5%対14.5%）が20ポイント以上高いという対照的な状況となっている。この結果から、保護者の就業状況により貯蓄ができるか否かなど生活の安定に大きな影響を及ぼしていることが示唆されている。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

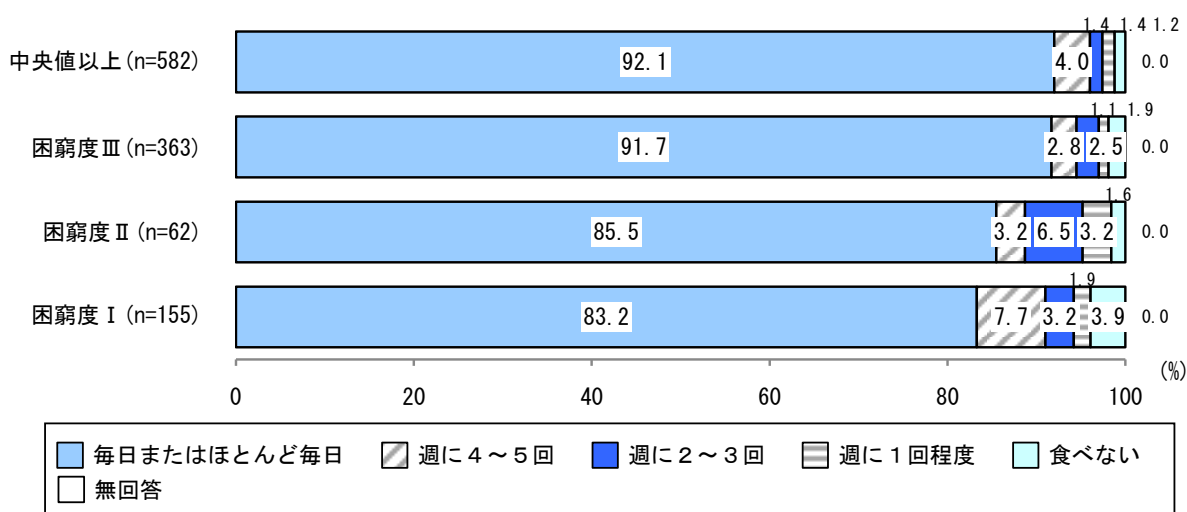
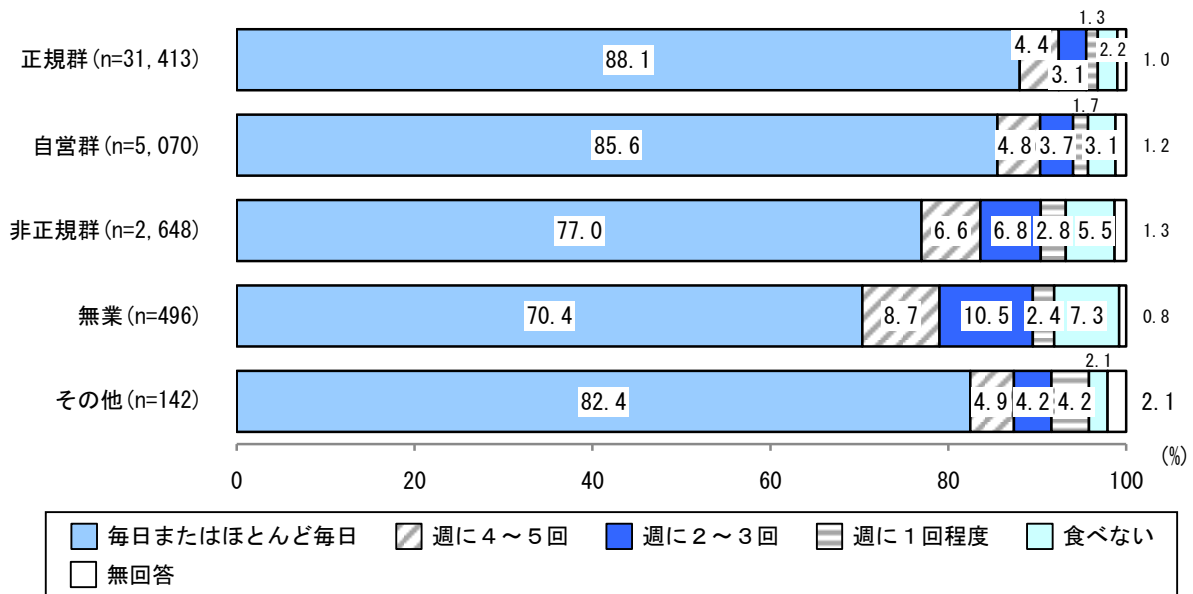


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度Ⅰ群では、16.7%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

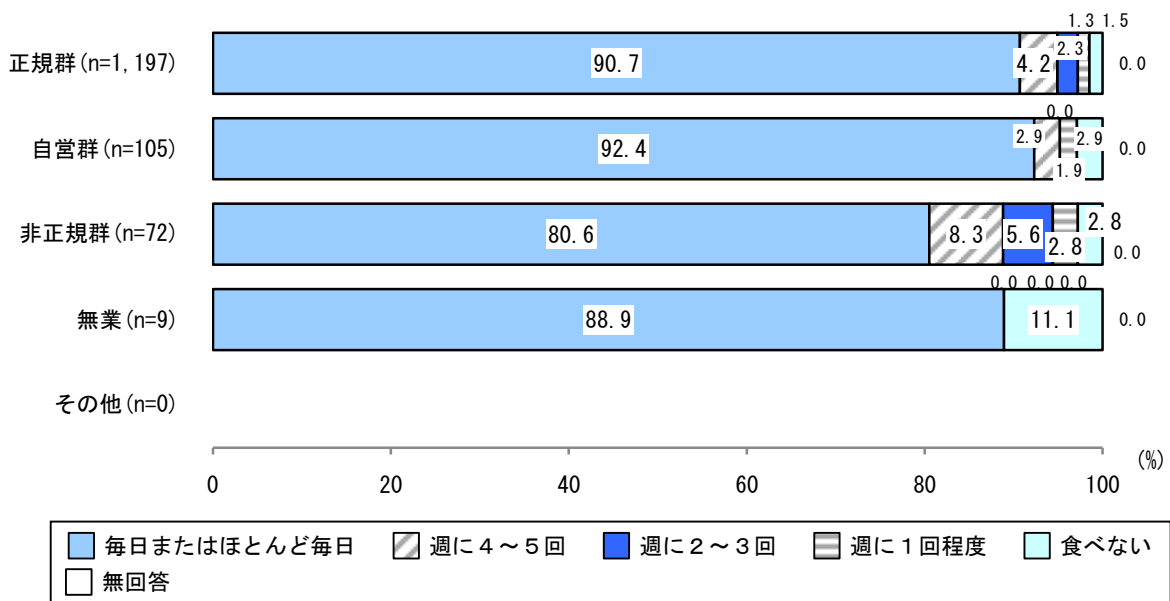
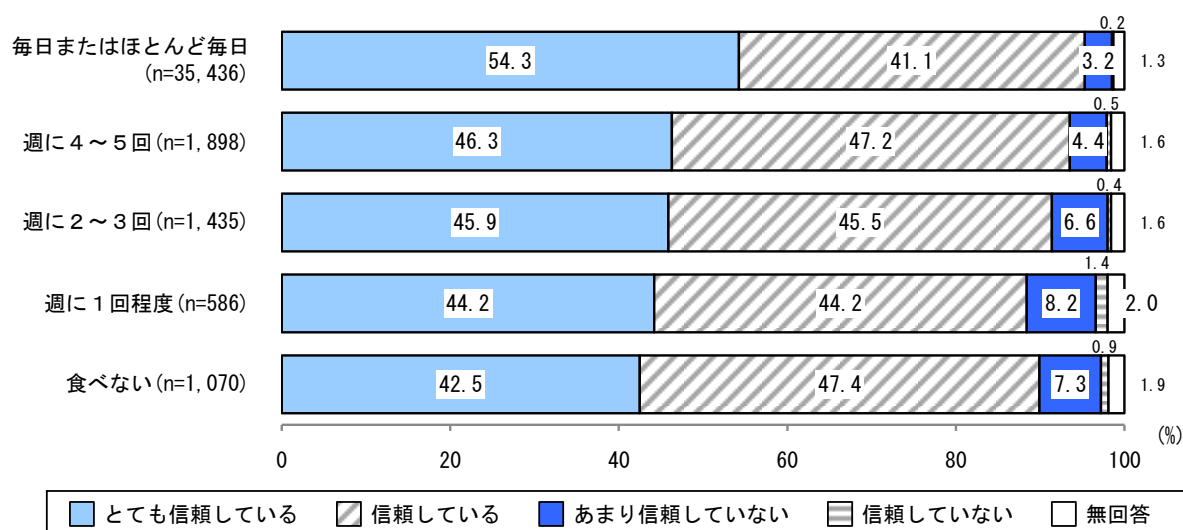


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「自営群」(92.4%) が最も高く、次いで、「正規群」(90.7%)、「無業」(88.9%)、「非正規群」(80.6%) の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

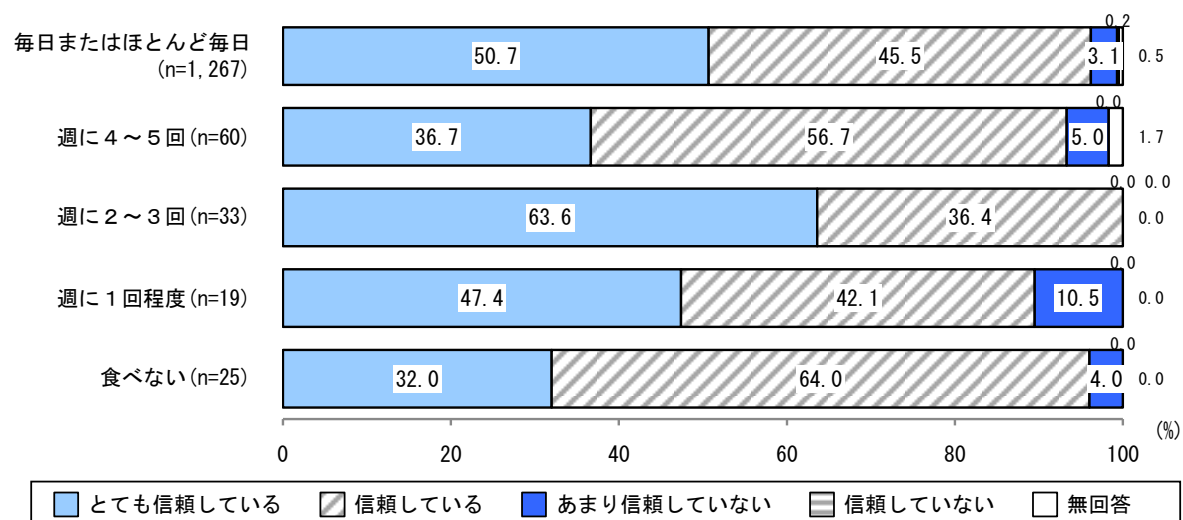
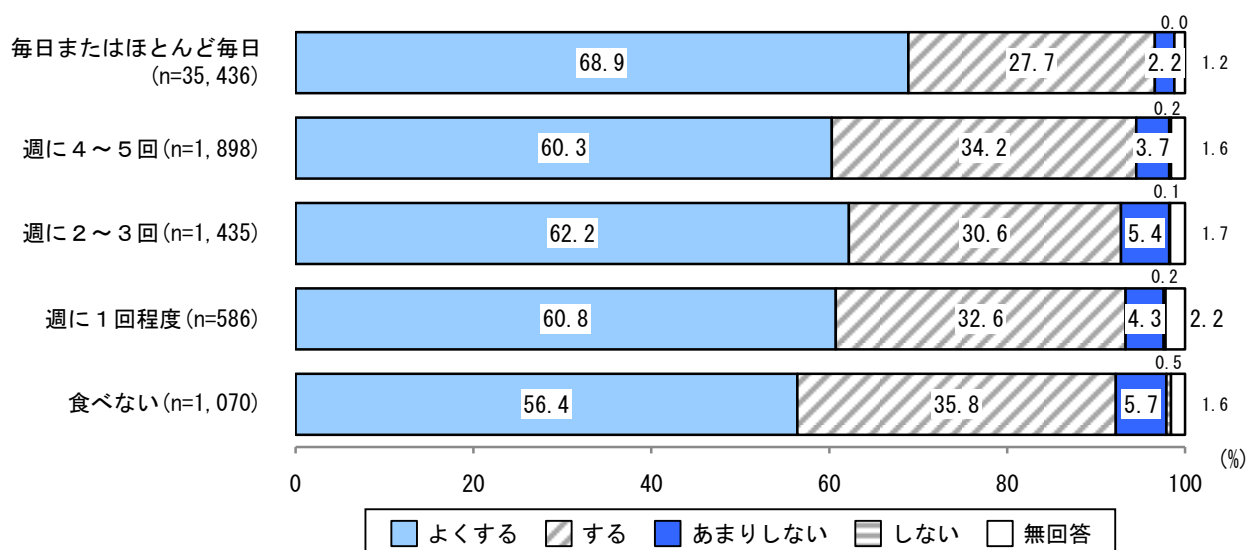


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が50.7%であるのに対し、「食べない」では、「とても信頼している」と回答した人は32.0%と最も低い。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

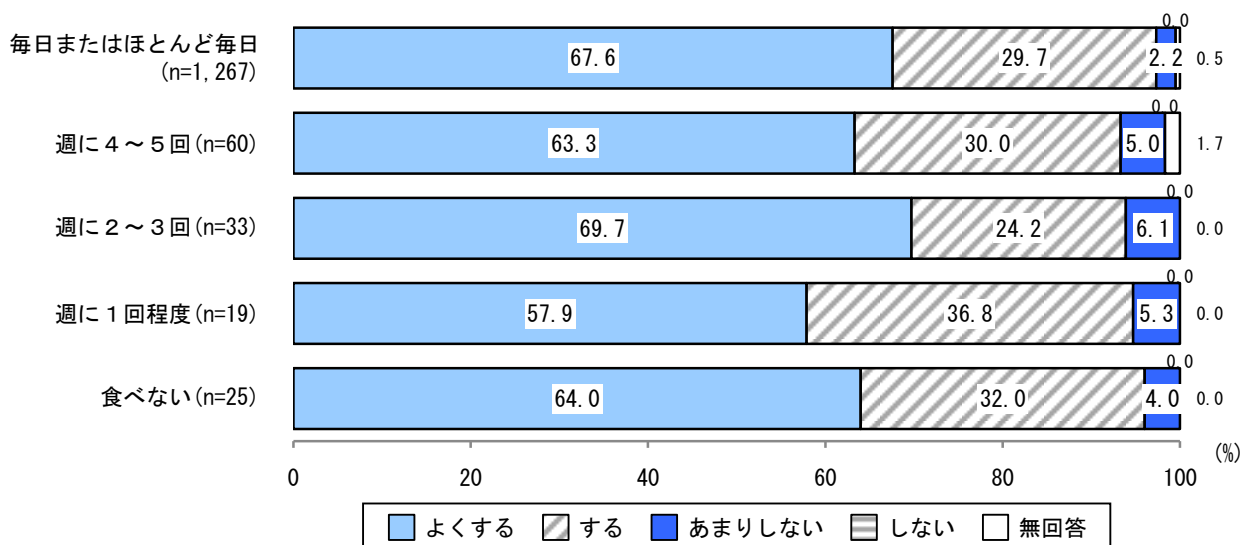
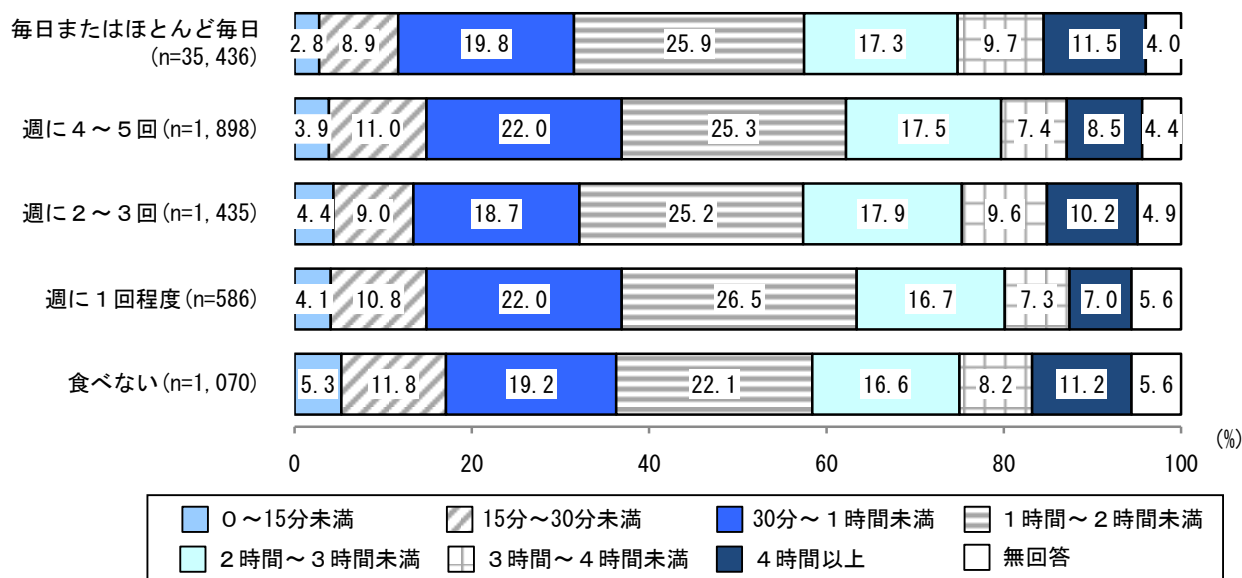


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、会話を「よくする」との回答が67.6%であるのに対し、「週に 1 回程度」では、「よくする」と回答した人は57.9%と低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

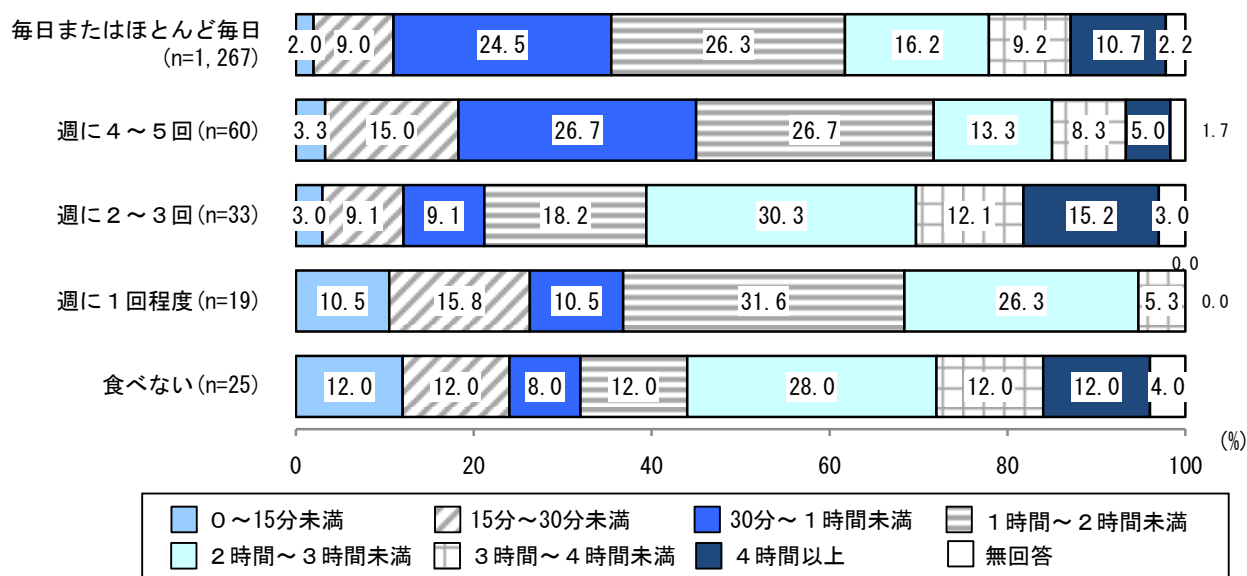
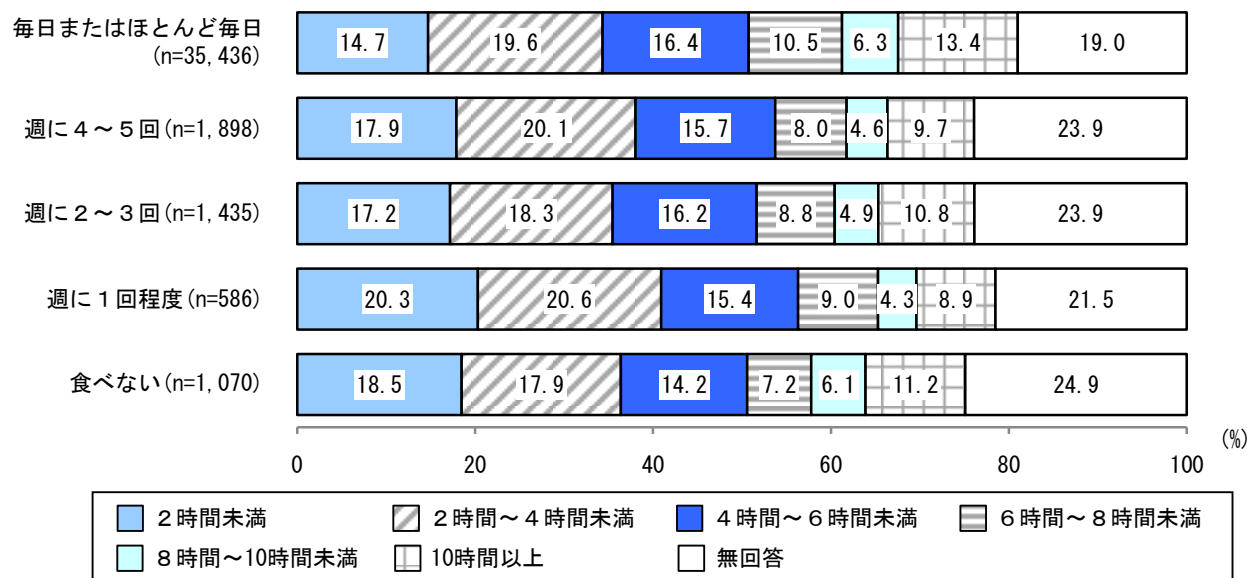


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、朝食の頻度が週に1回程度の人には、「4時間以上」の回答がみられない。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

＜大阪府内全体＞



＜枚方市＞

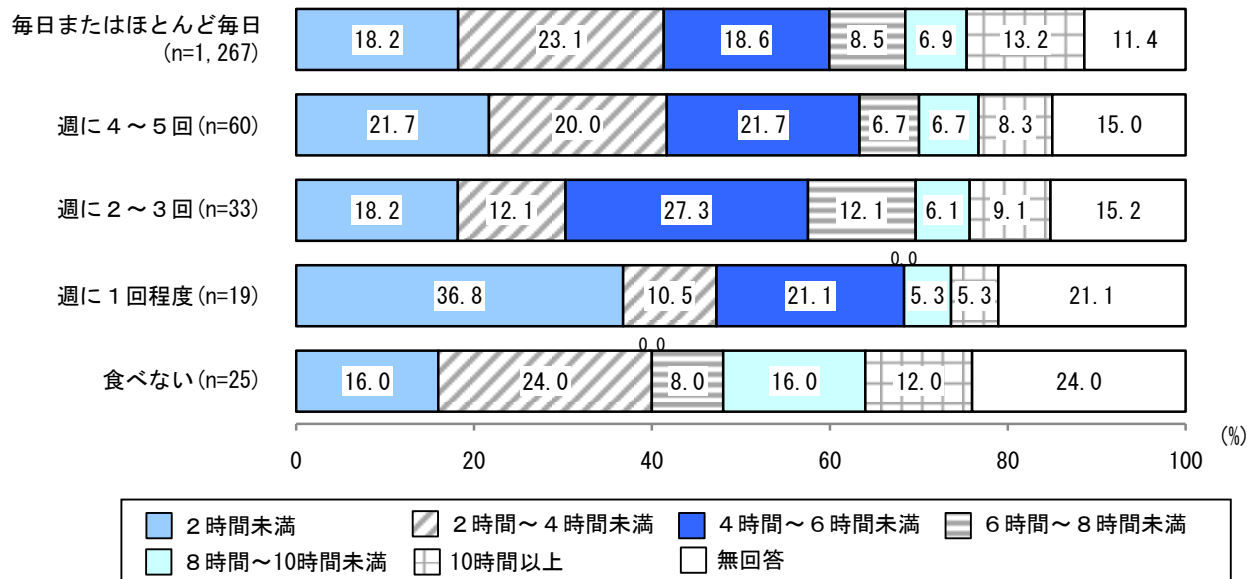
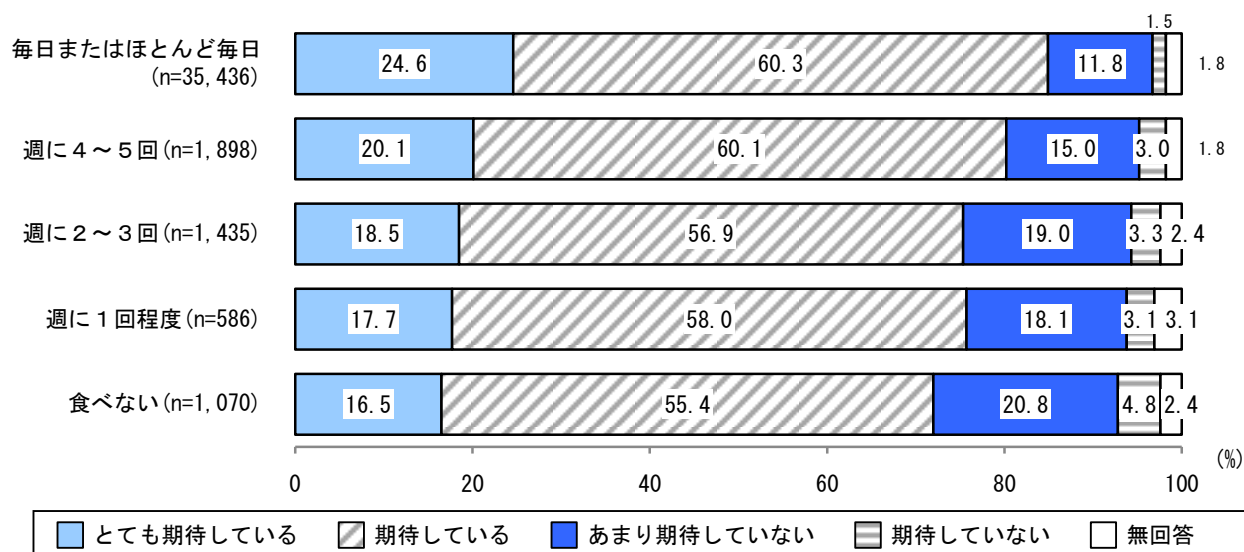


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、休日での子どもとの関わり時間が「2時間未満」と回答した人の割合は、朝食を週に1回程度食べる人が最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

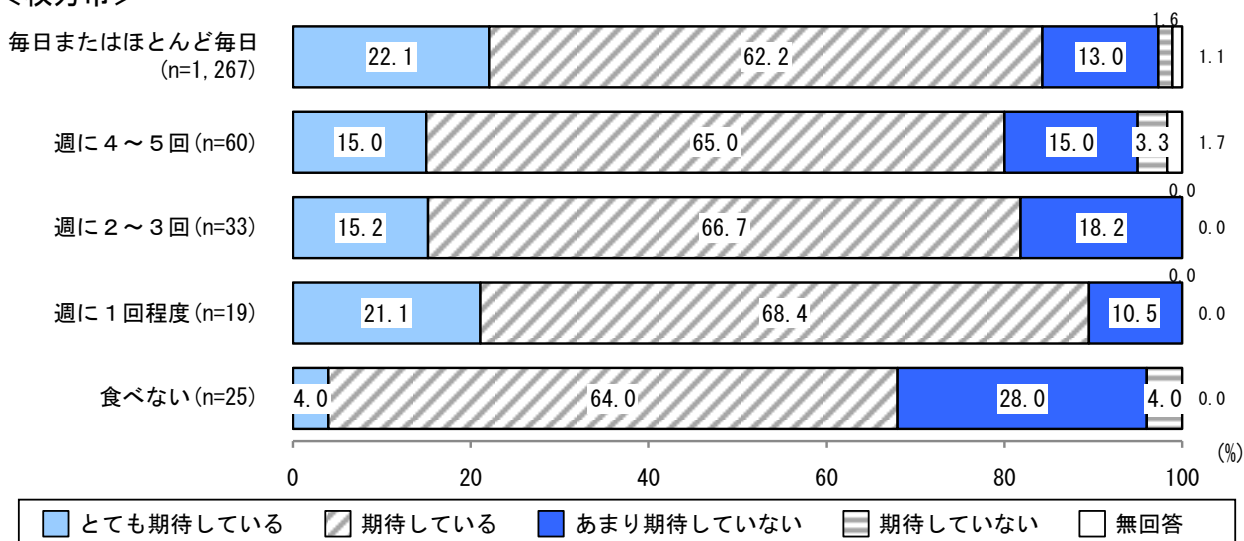


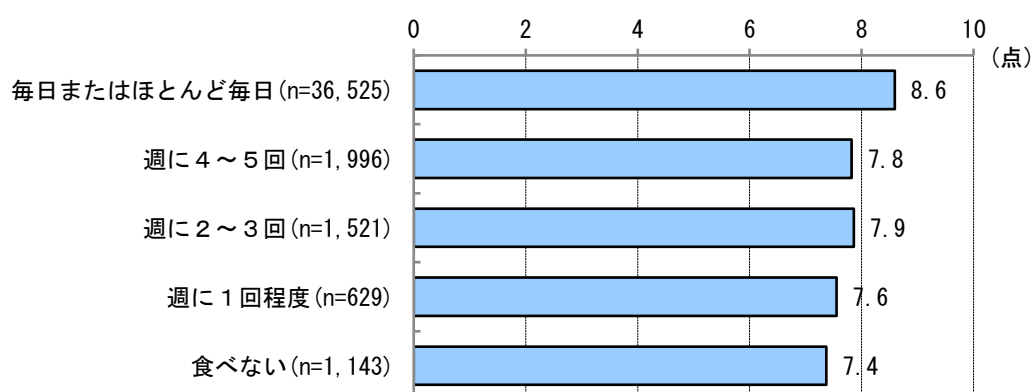
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、84.3%であるのに対して、「食べない」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて68.0%と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが子どもの将来に対する期待が高い結果となった。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4（1）×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<枚方市>

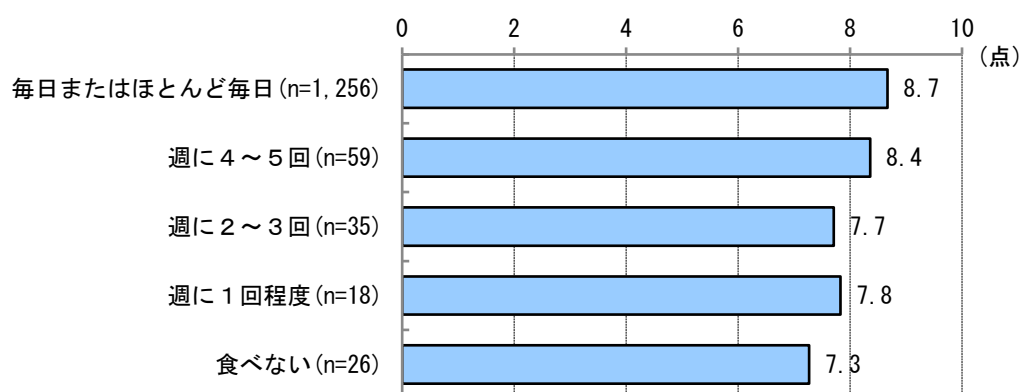
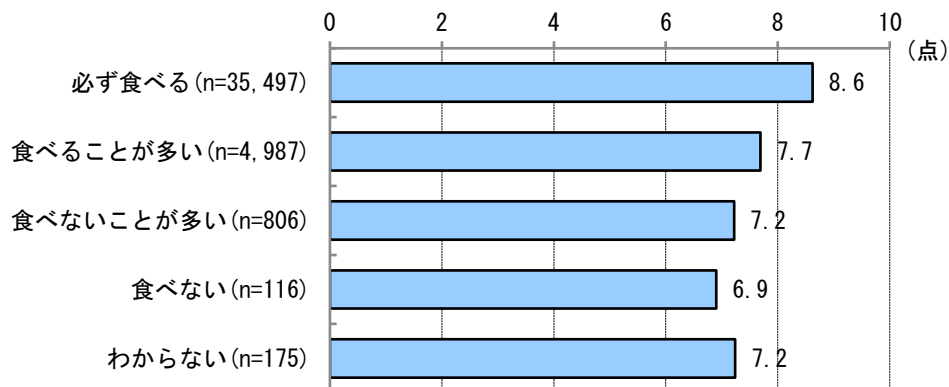


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.7点であるのに対して、「食べない」では、7.3点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問6(1)×子ども票問23)

<大阪府内全体>



<枚方市>

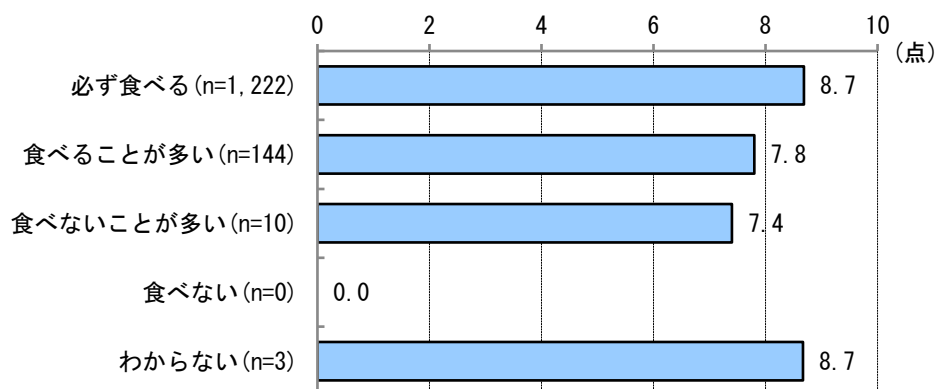
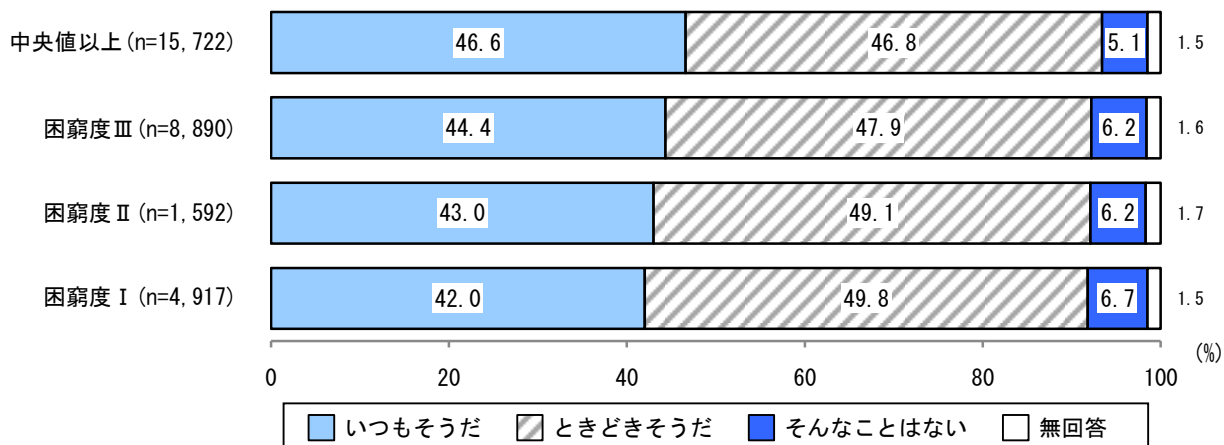


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.7点であるのに対して、「食べないことが多い」と回答した人は7.4点と昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

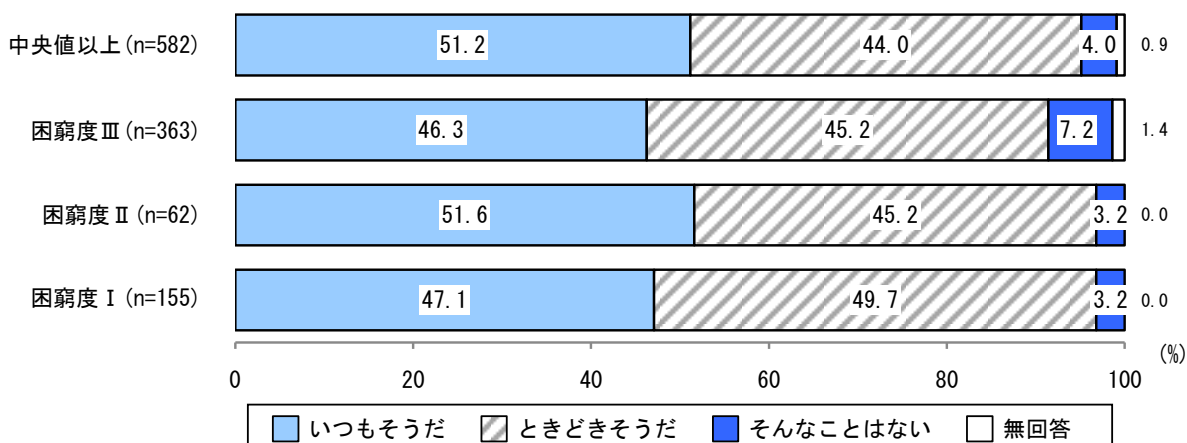
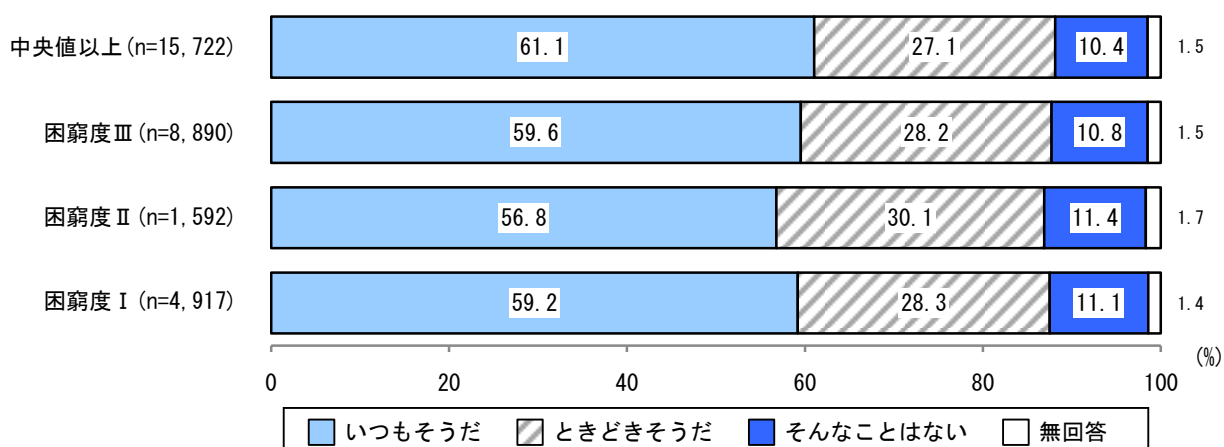


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、困窮度Ⅱ群のみ、「いつもそうだ」と回答した割合が半数以上を占めている。「そんなことはない」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群（7.2%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

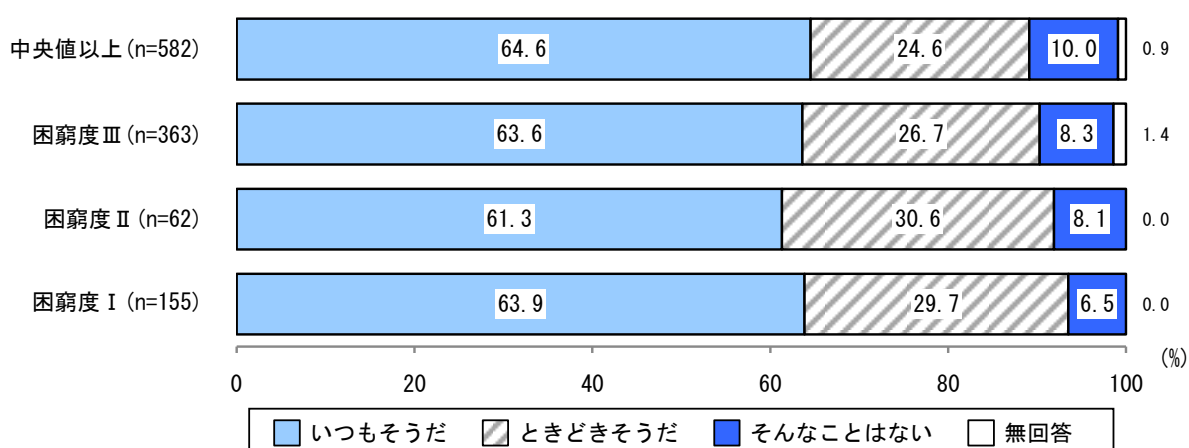
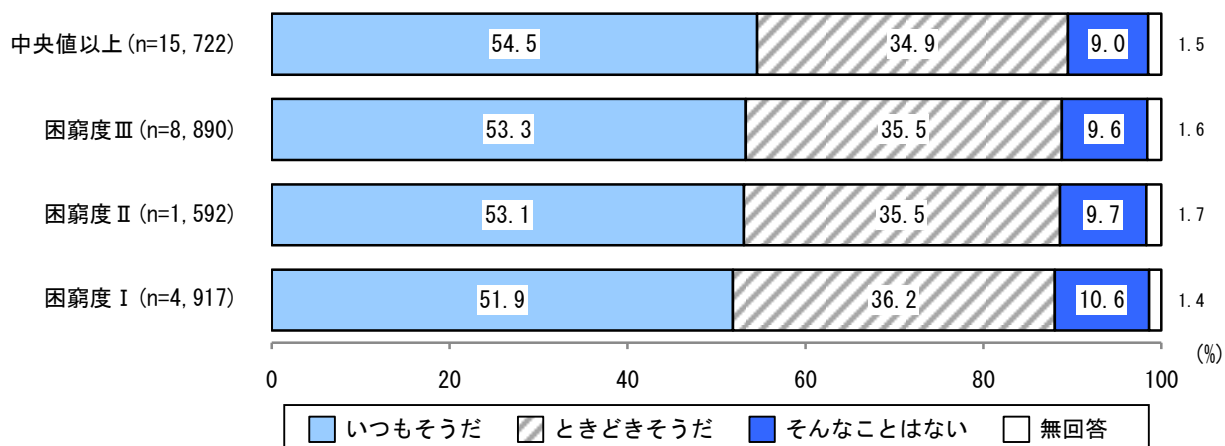


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（61.3%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ（子ども票問 19③）

<大阪府内全体>



<枚方市>

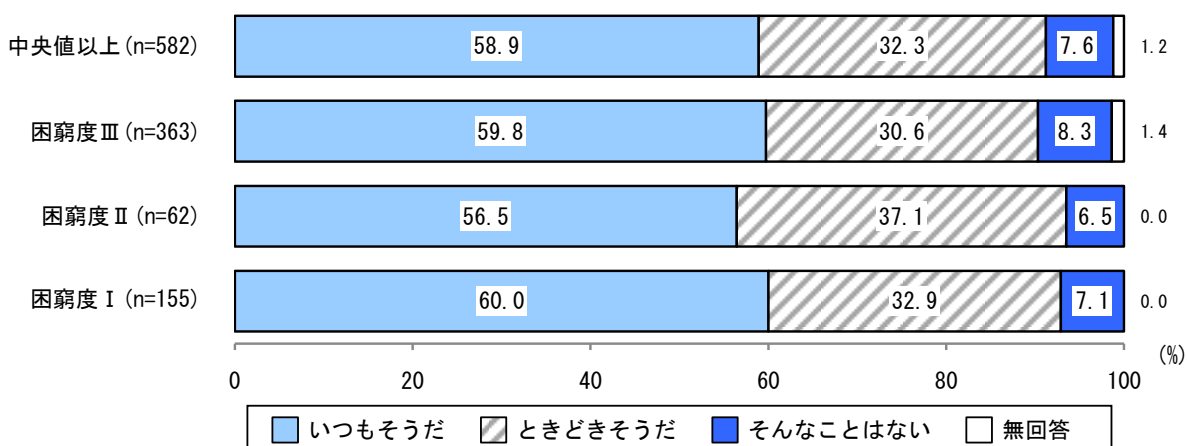
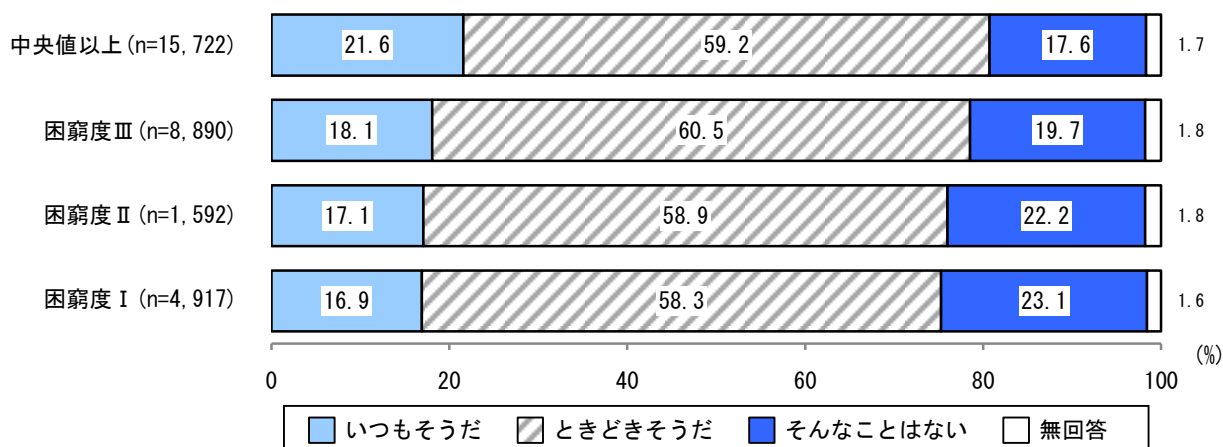


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（56.5%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<枚方市>

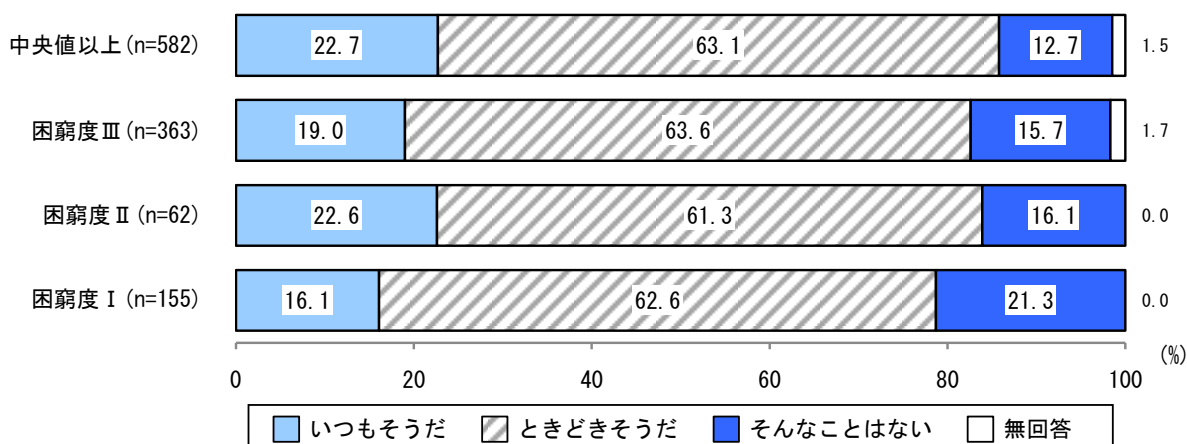
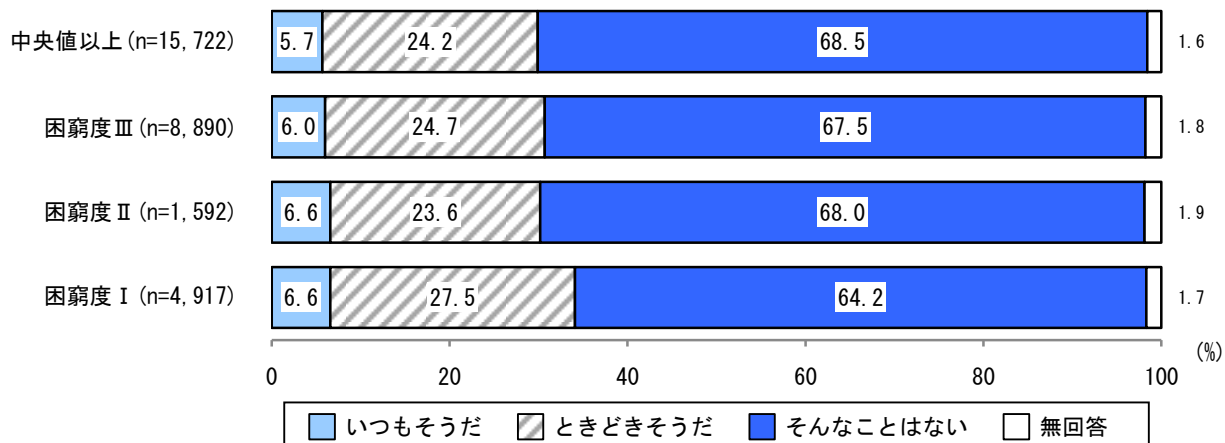


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（16.1%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<枚方市>

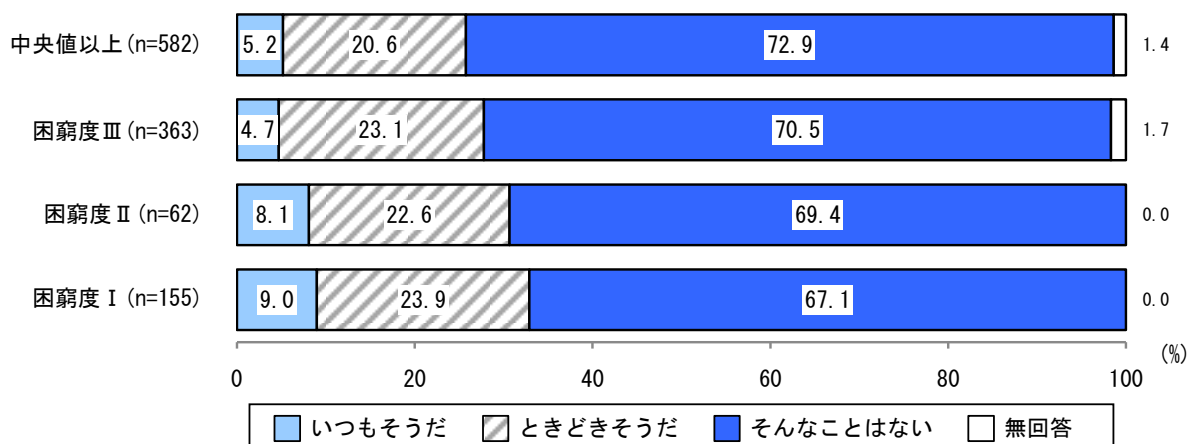
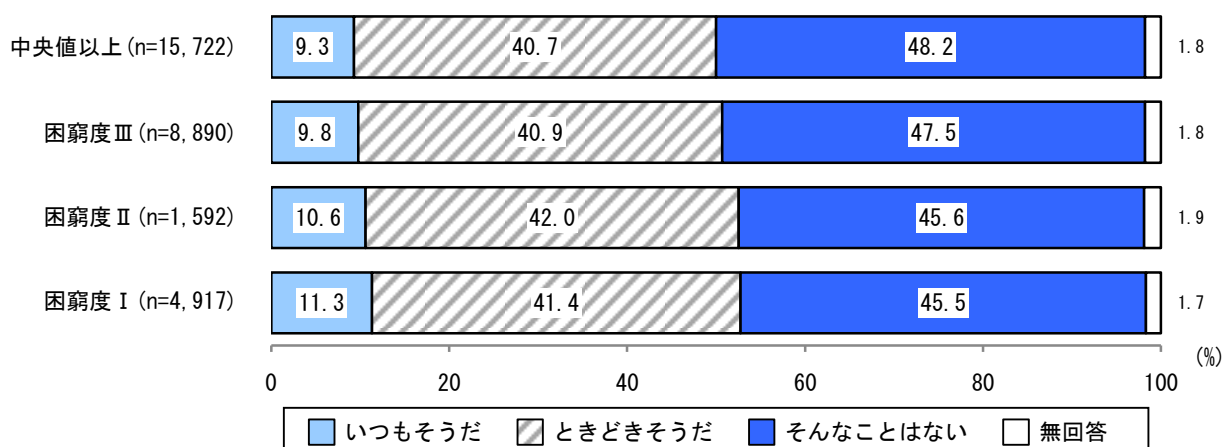


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（9.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<枚方市>

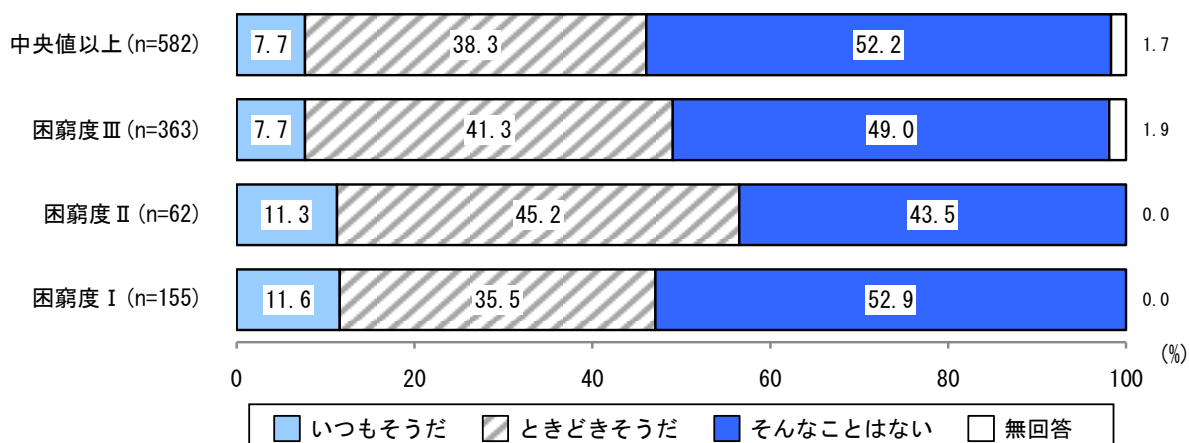
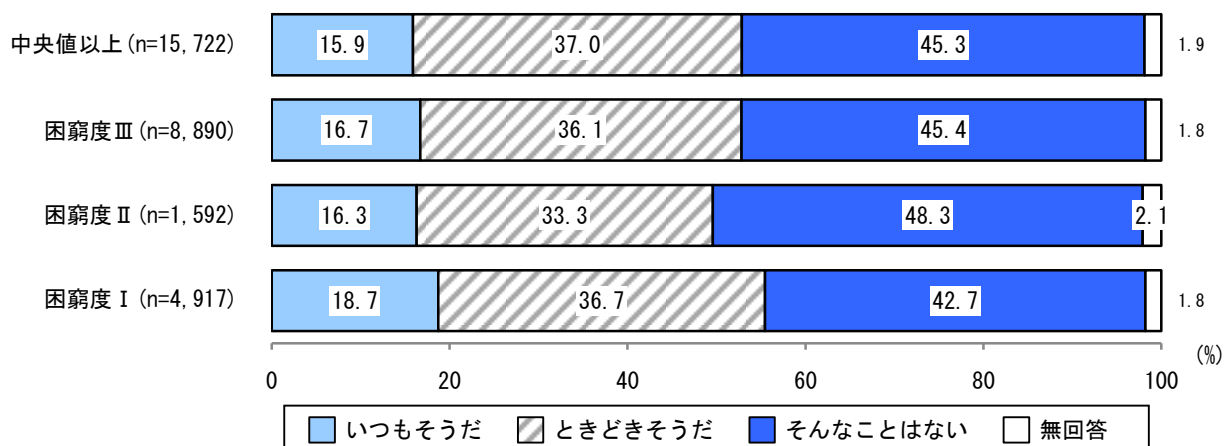


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（11.6%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<枚方市>

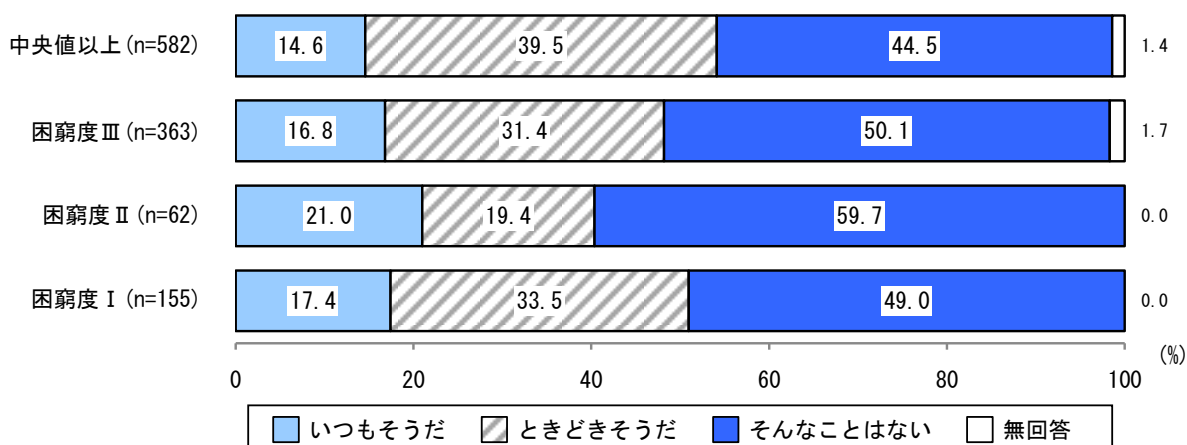
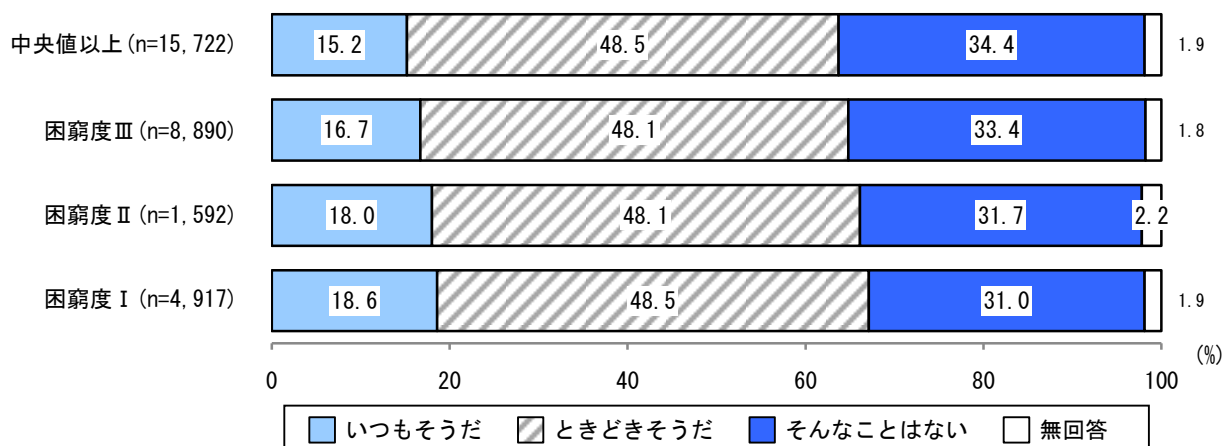


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（21.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<枚方市>

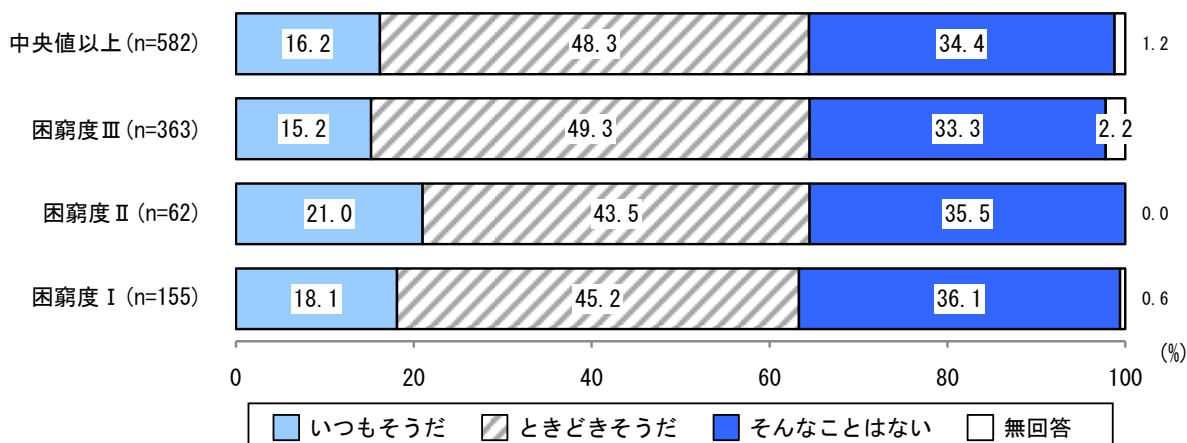
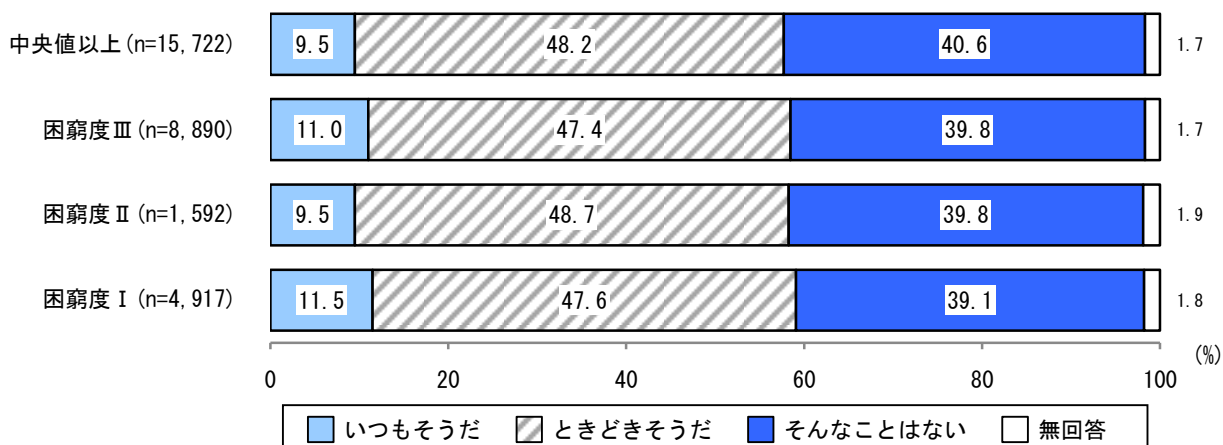


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（21.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<枚方市>

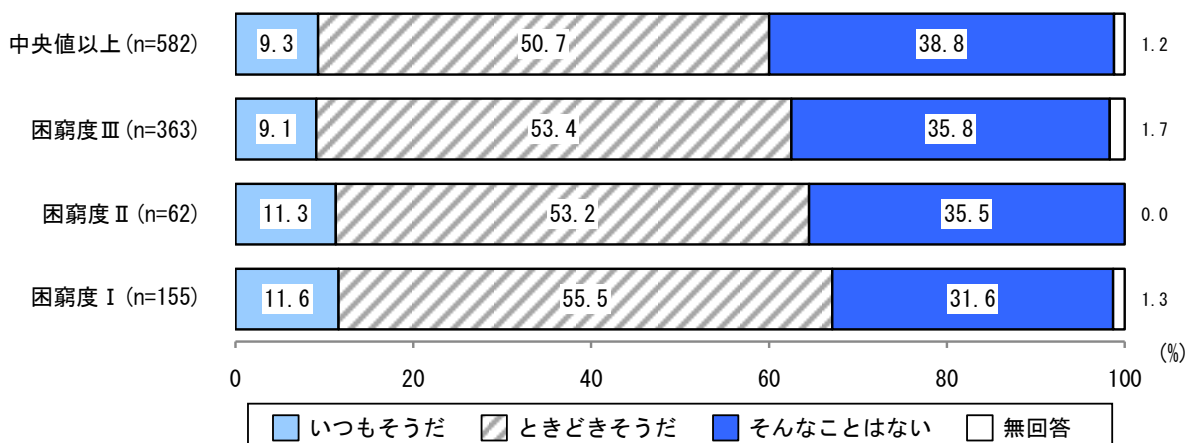
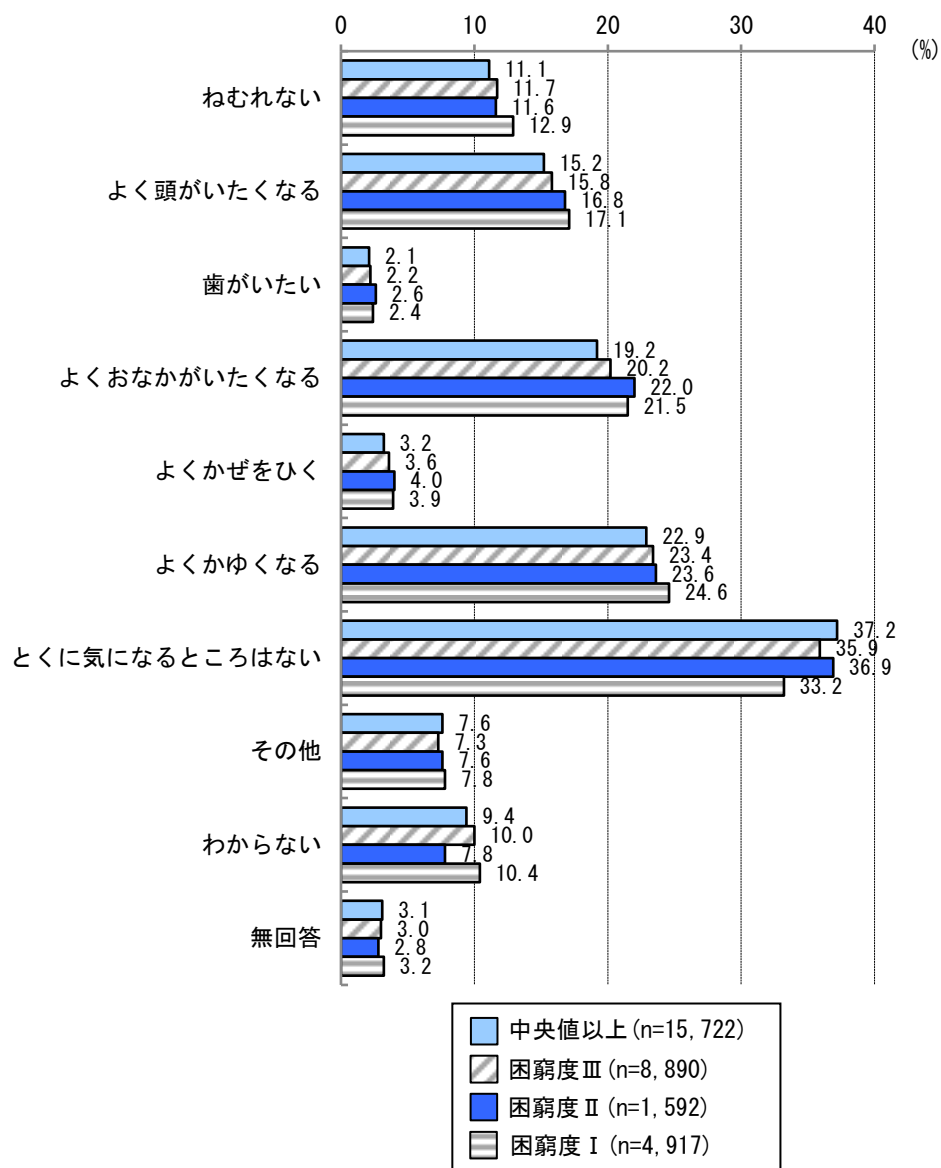


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（11.6%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<枚方市>

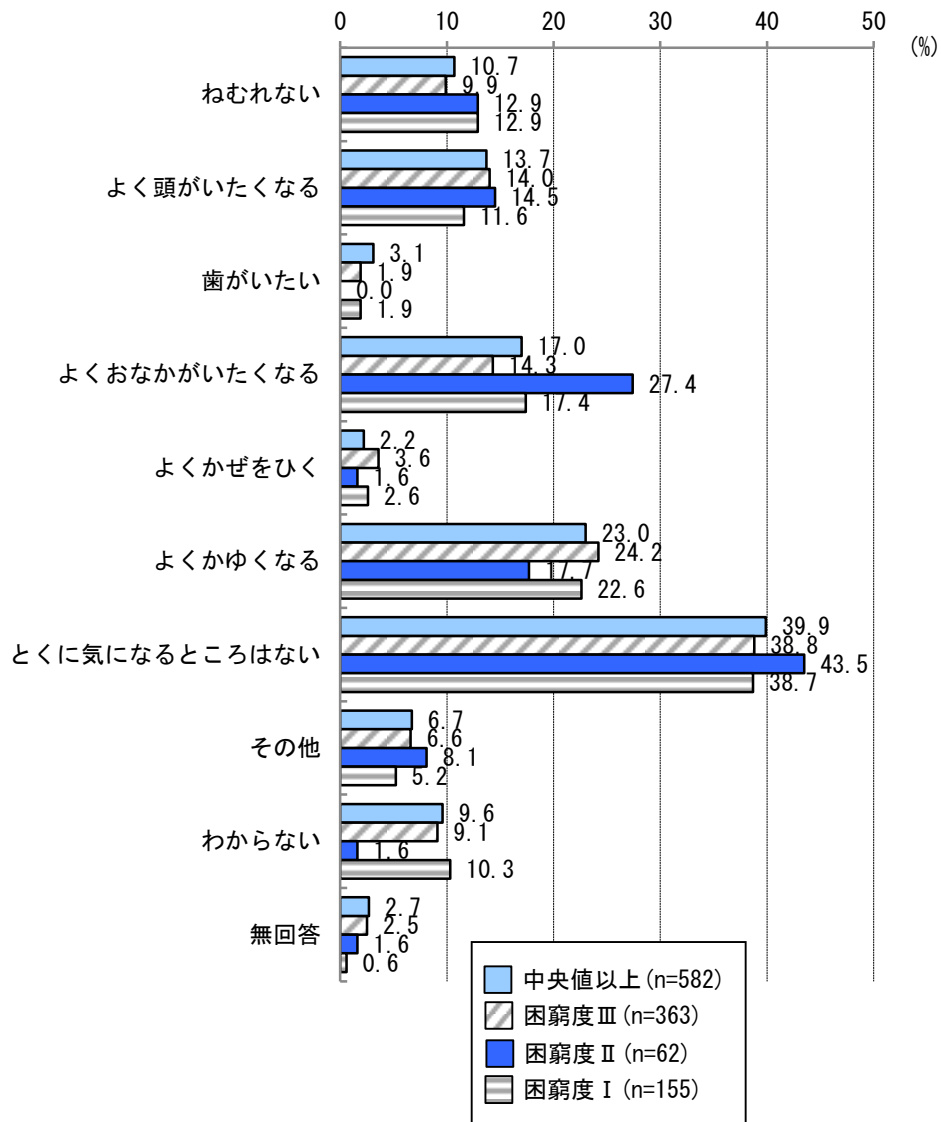
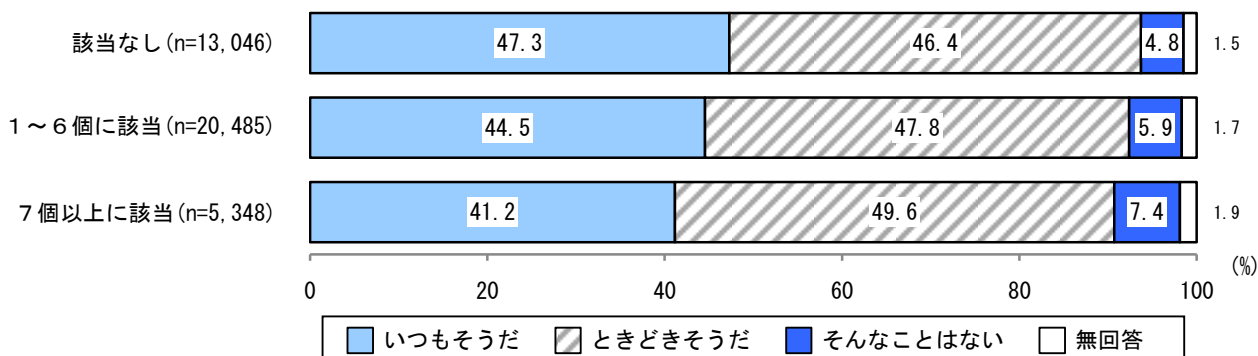


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」12.9%（中央値以上群に対して1.2倍）、「よくかぜをひく」2.6%（同じく1.2倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

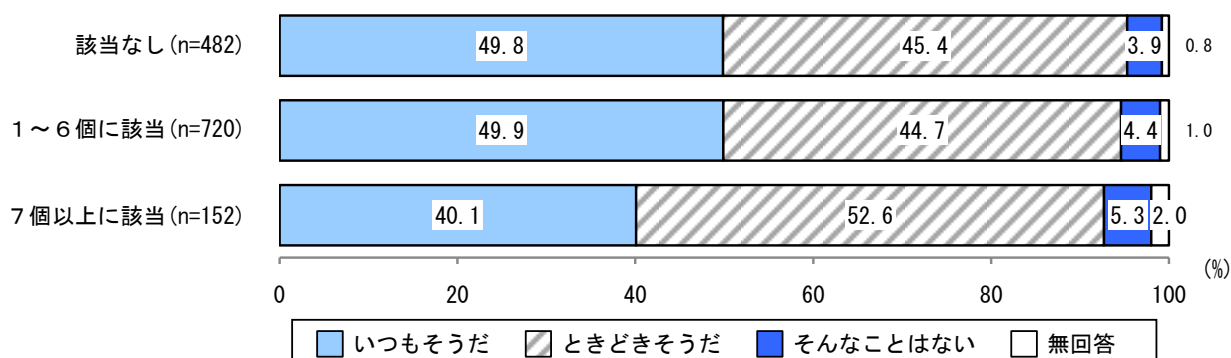
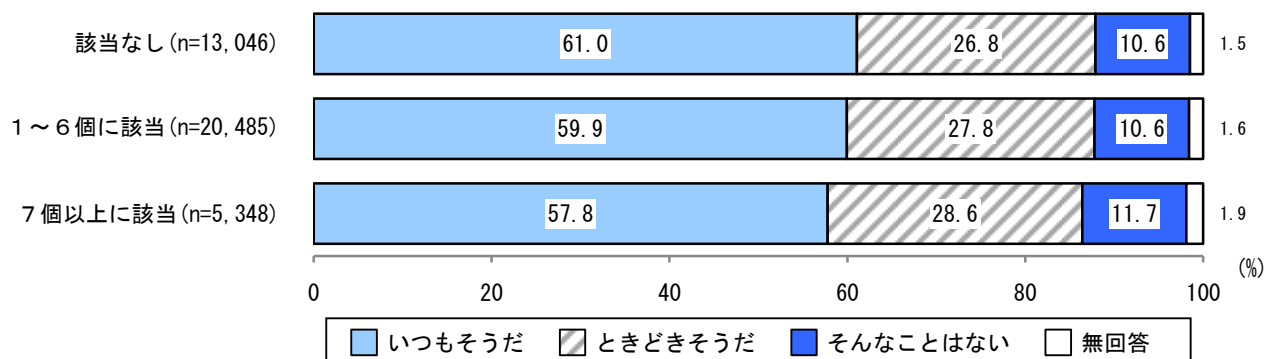


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、7個以上に該当の人が5.3%で、最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

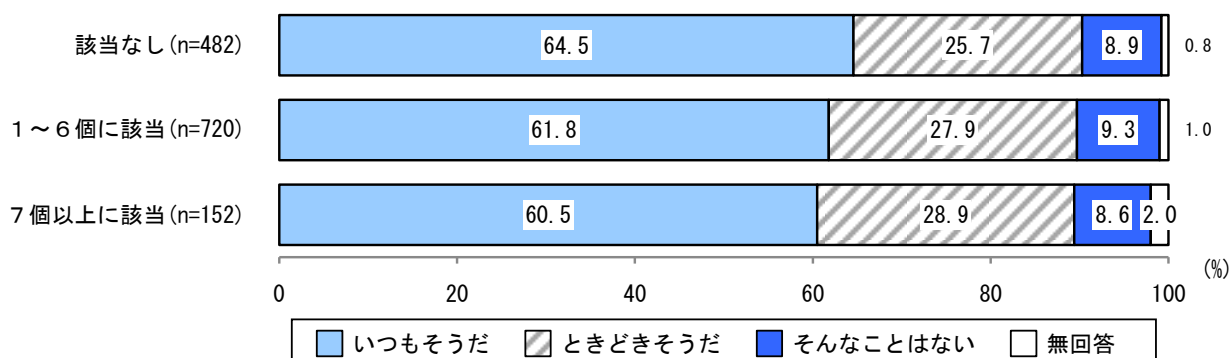
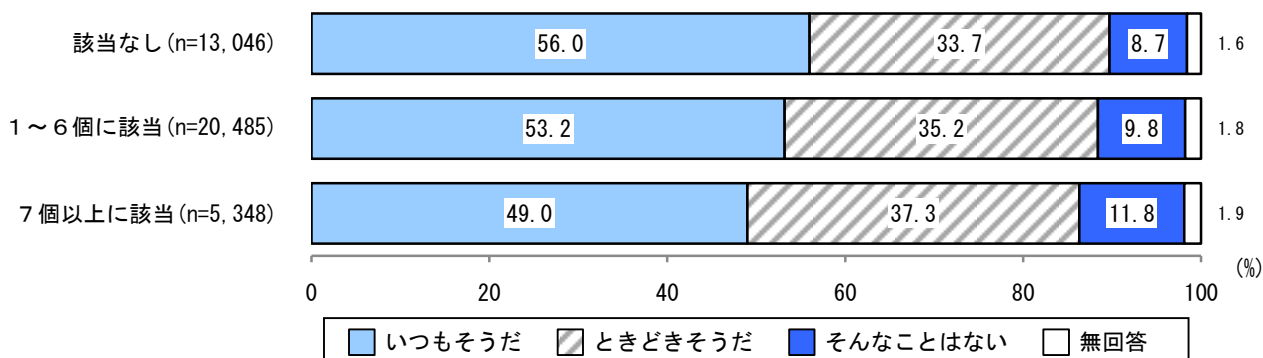


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は、該当数が多い人ほど割合が低く、7個以上に該当の人（60.5%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

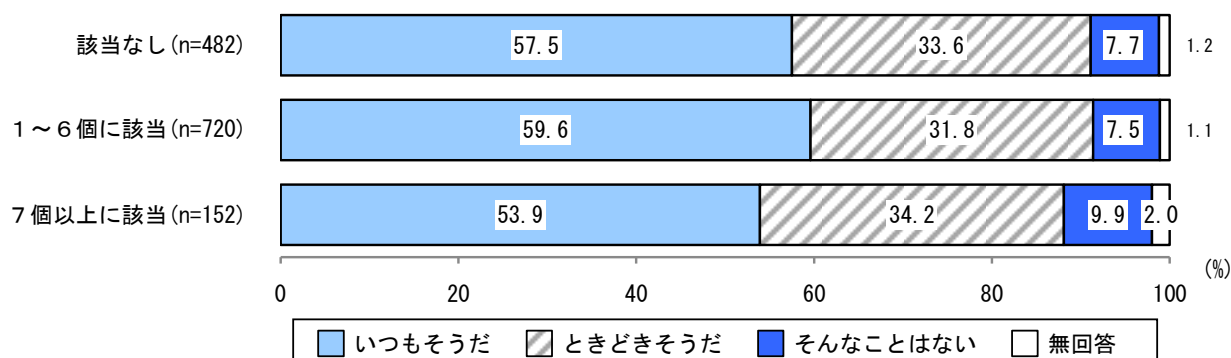
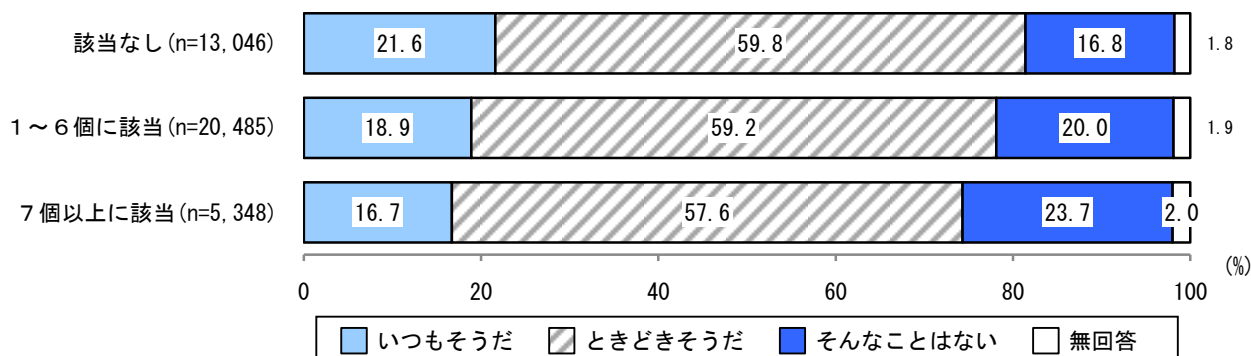


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は、7個以上に該当の人（53.9%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<枚方市>

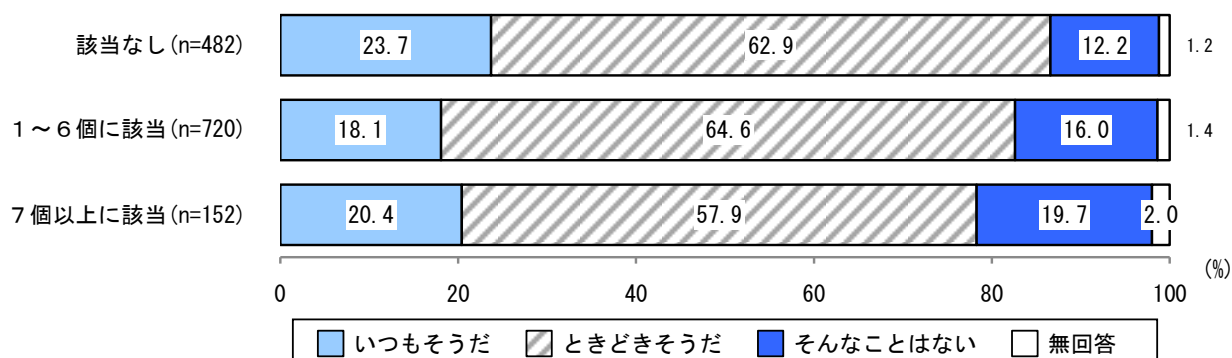
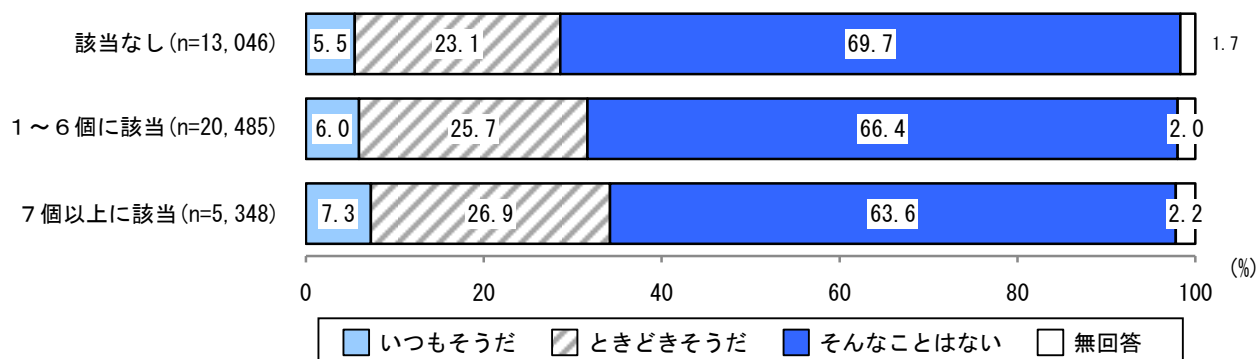


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、1～6個に該当の人（18.1%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

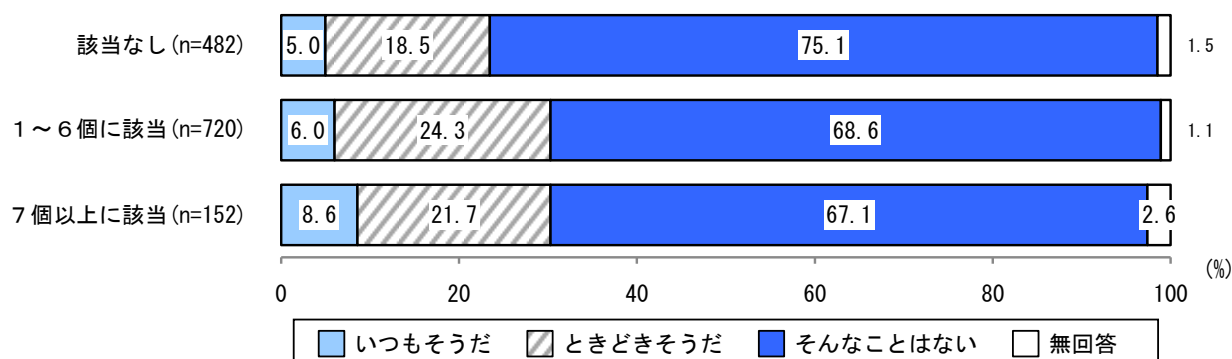


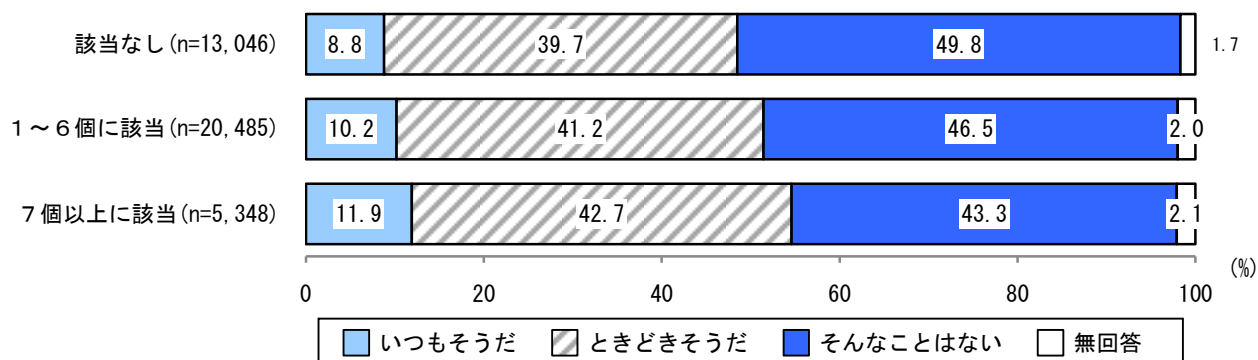
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、7個以上に該当の人（8.6%）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<枚方市>

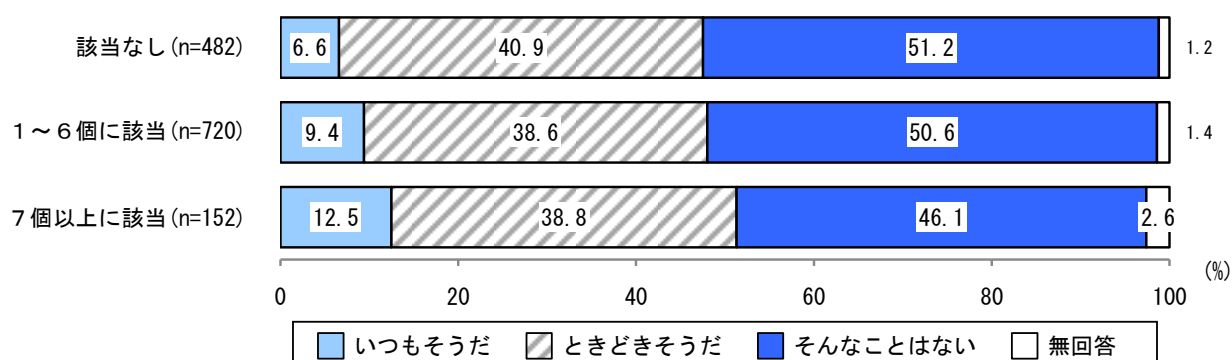
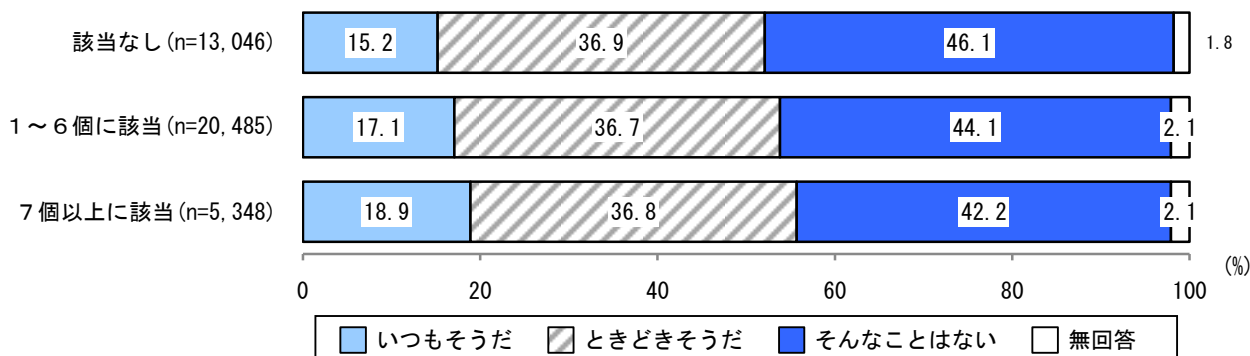


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、7個以上に該当の人（12.5%）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<枚方市>

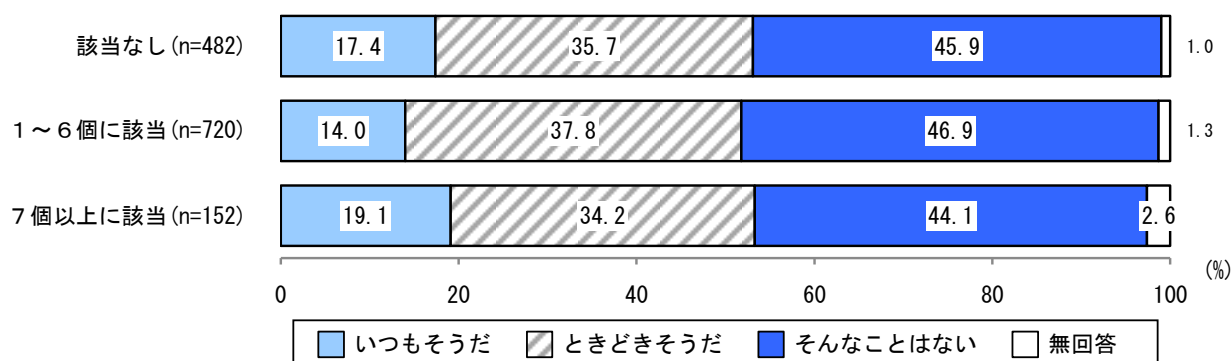
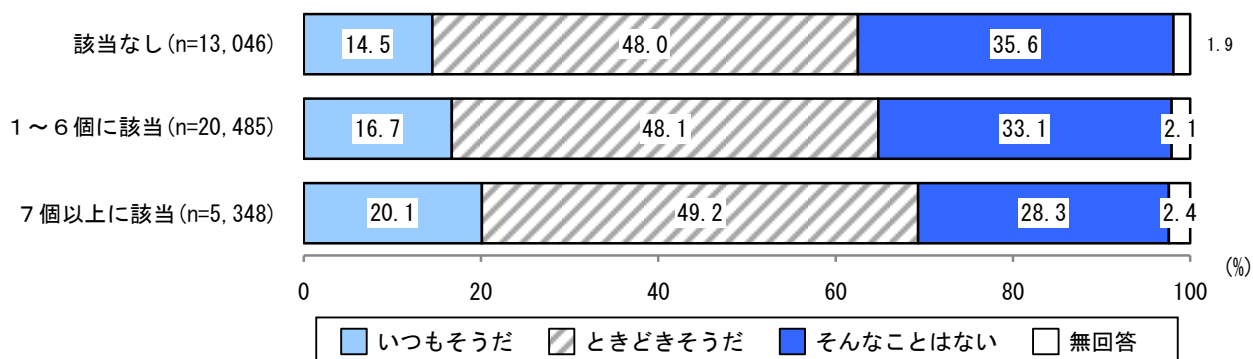


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、7個以上に該当の人（19.1%）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<枚方市>

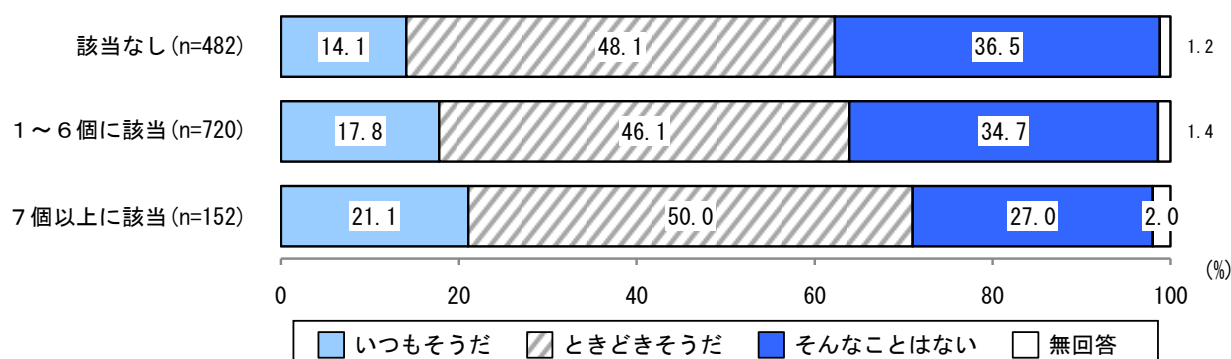
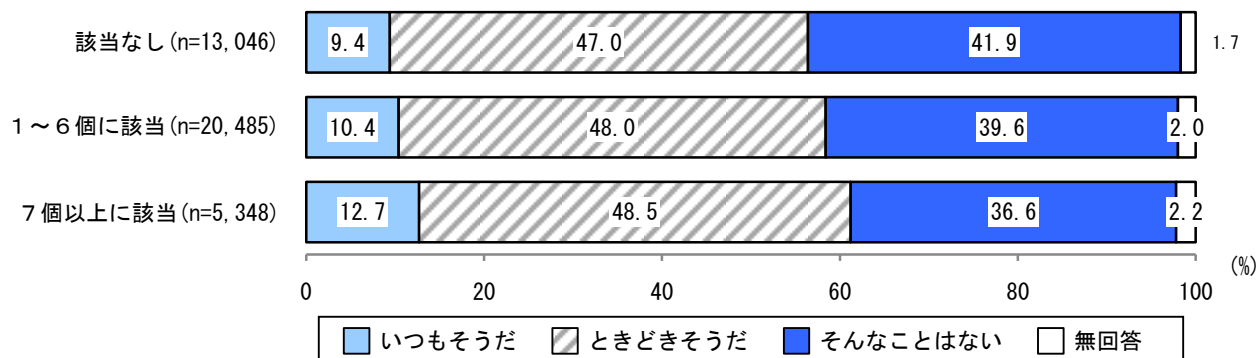


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、7個以上に該当の人(21.1%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<枚方市>

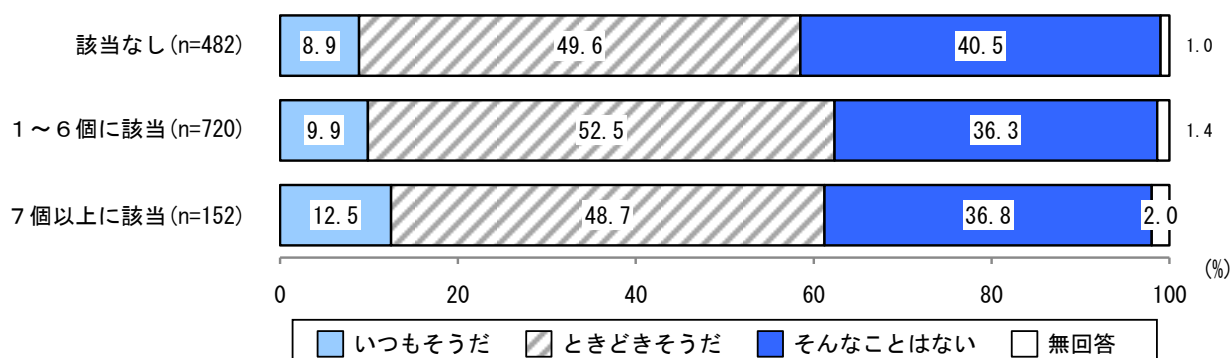
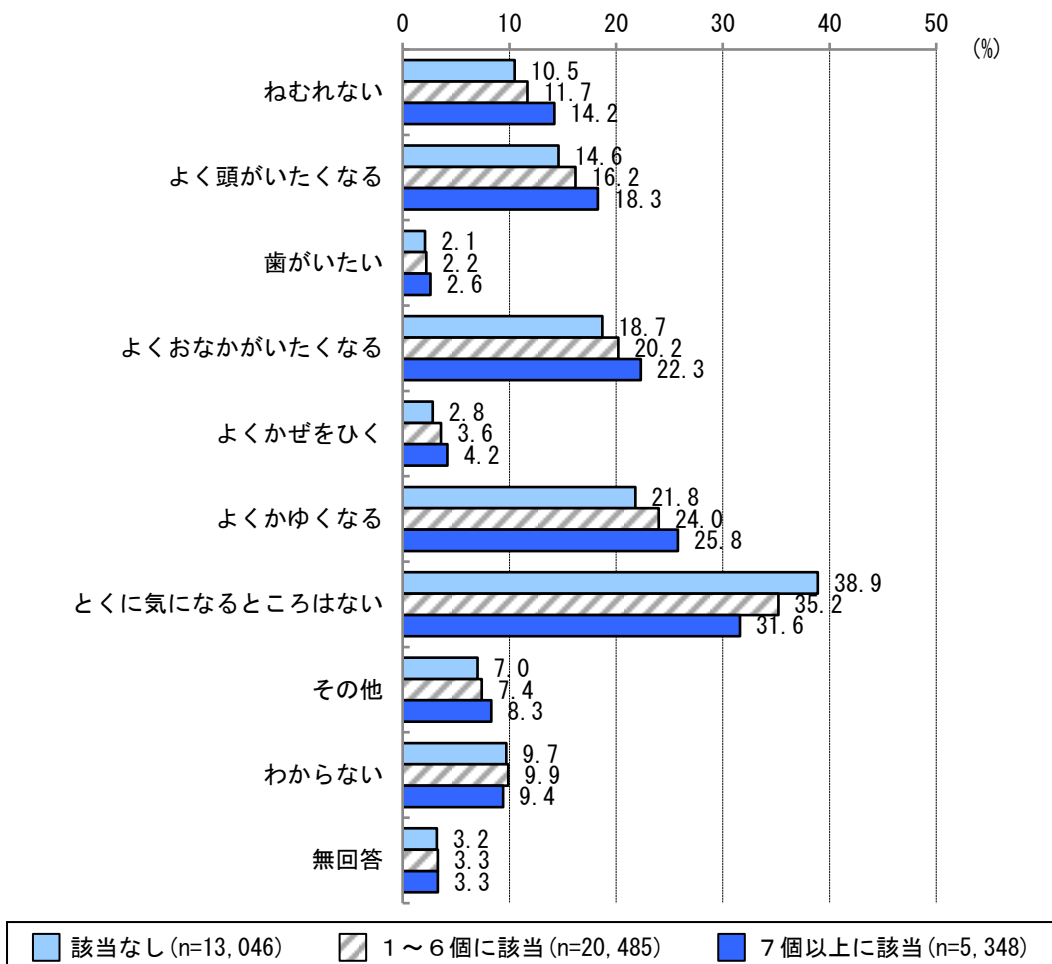


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいろいろするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、7個以上に該当の人（12.5%）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<枚方市>

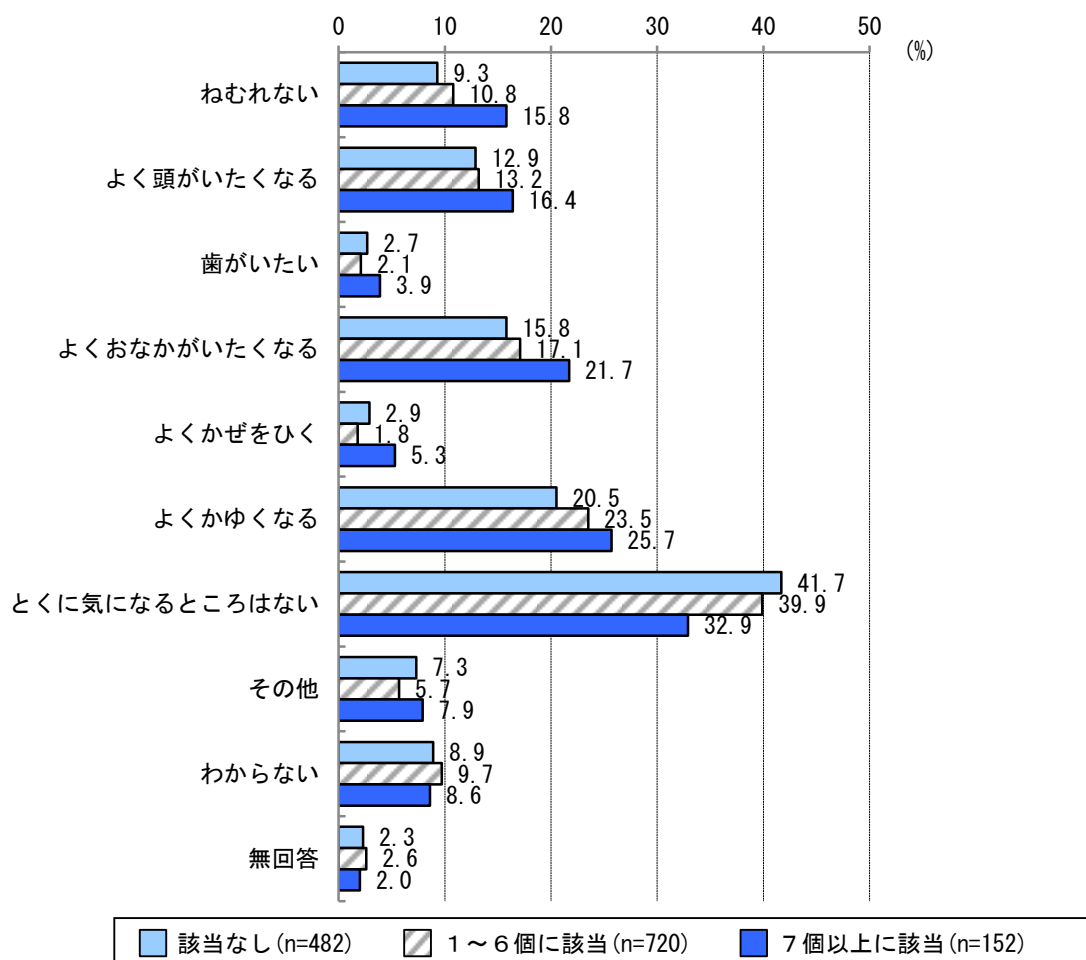
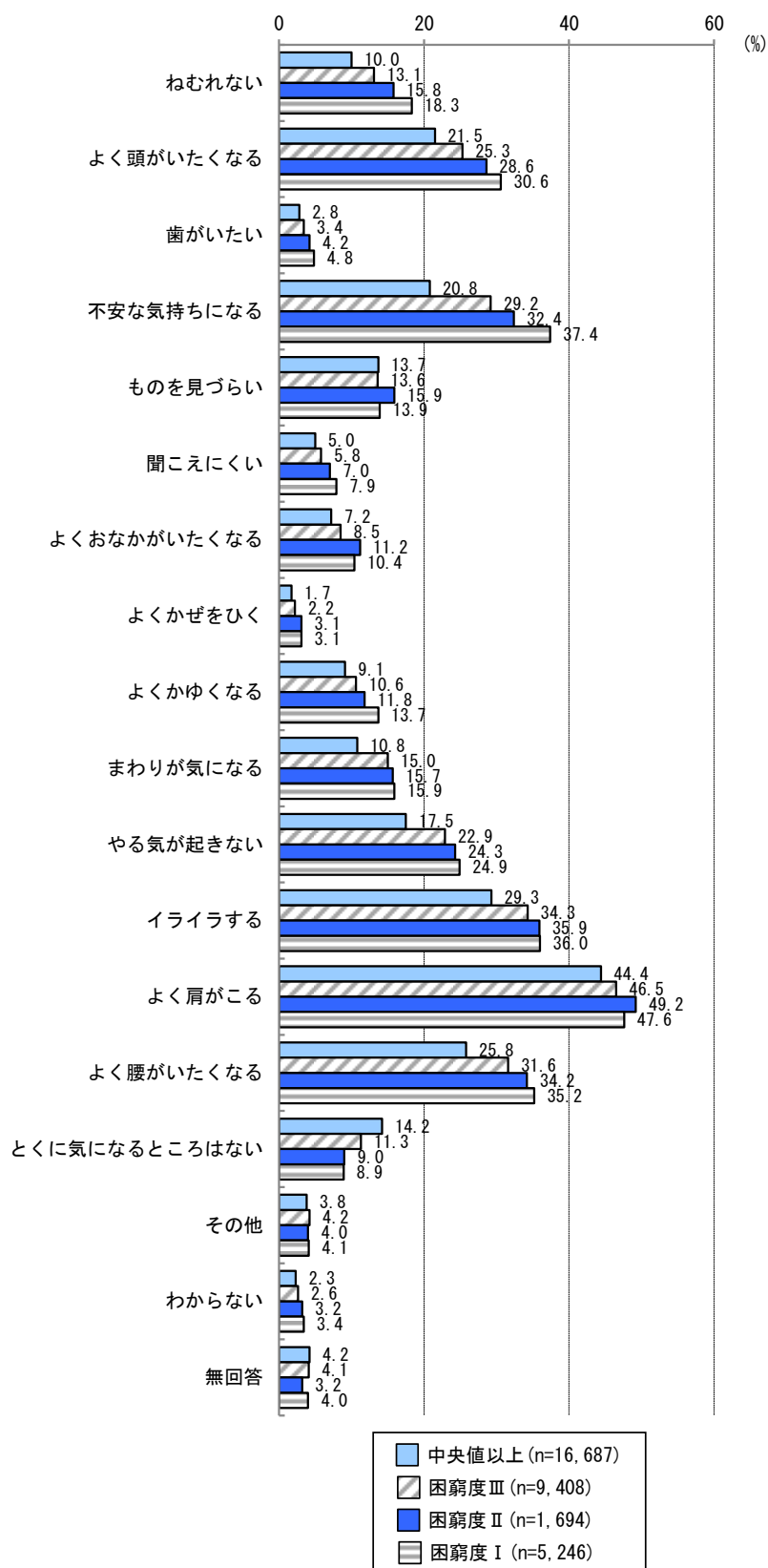


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、7個以上に該当した人と該当なしと回答した人で差が大きい項目に着目しながら、7個以上に該当群を見ると、「よくかぜをひく」5.3%（「該当なし」群に対して1.8倍）、「ねむれない」15.8%（同じく1.7倍）、「歯がいたい」3.9%（同じく1.4倍）、「よくおなかがいたくなる」21.7%（同じく1.4倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<枚方市>

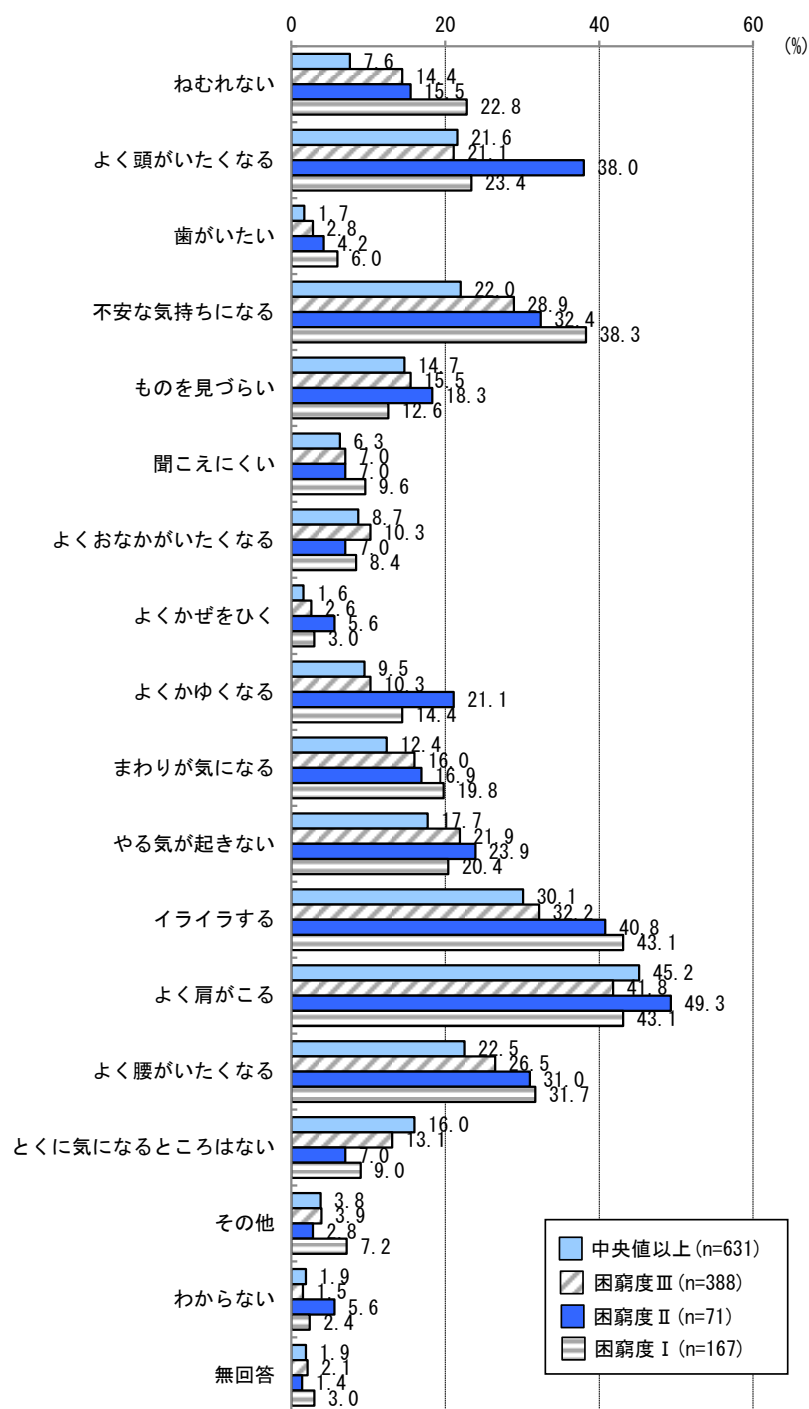
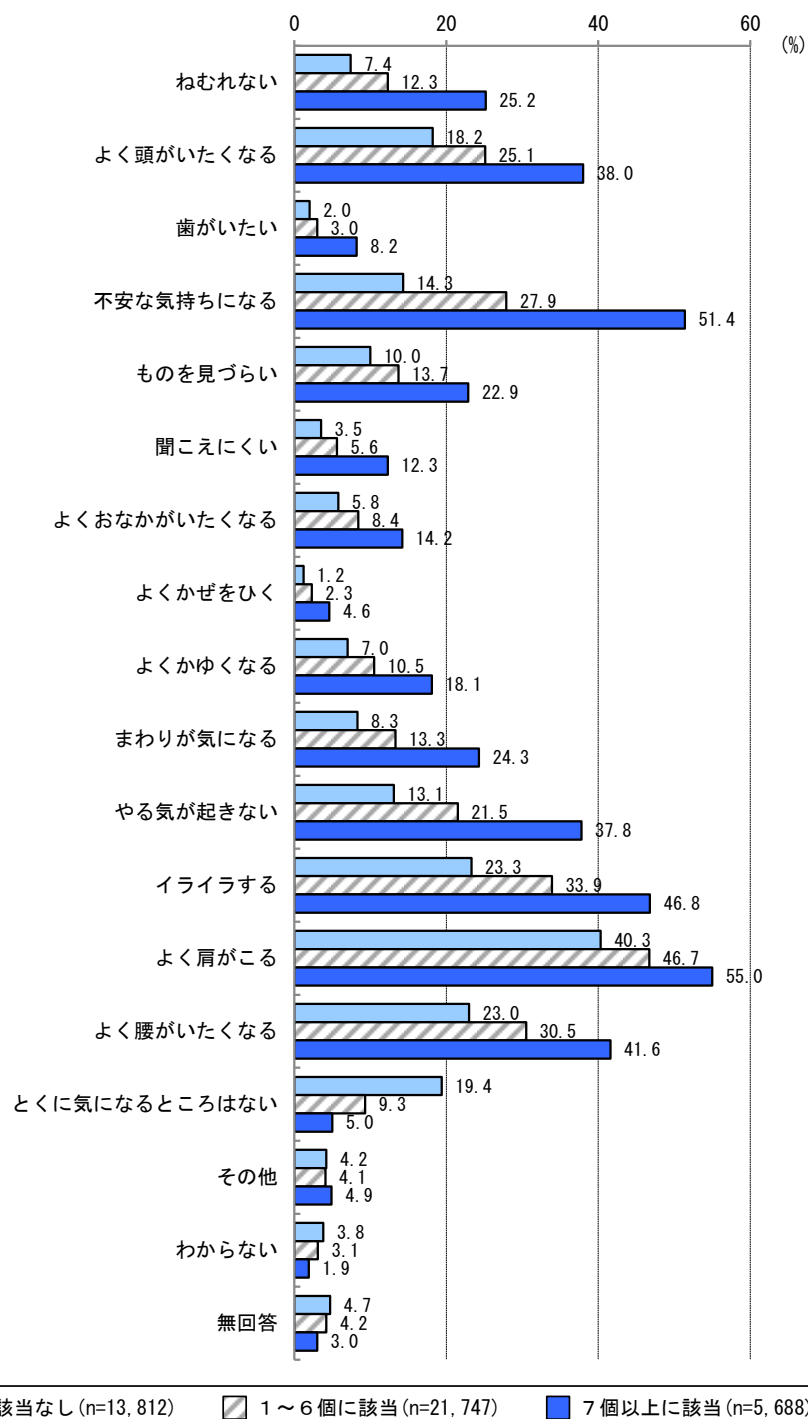


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「歯がいたい」6.0%（中央値以上群に対し3.5倍）、「ねむれない」22.8%（同じく3.0倍）、「よくかぜをひく」3.0%（同じく1.9倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問 7 × 保護者票問 22)

<大阪府内全体>



<枚方市>

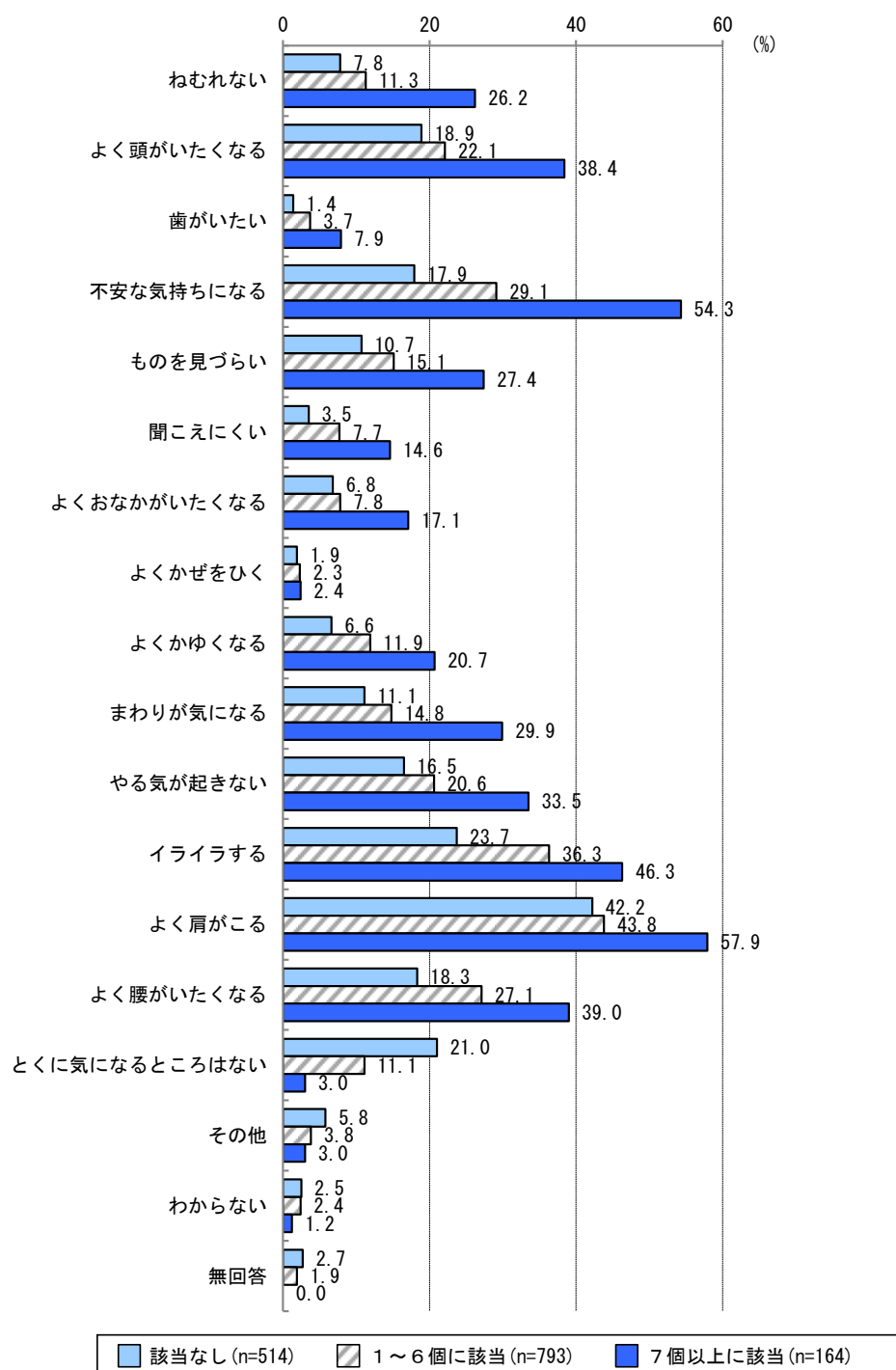
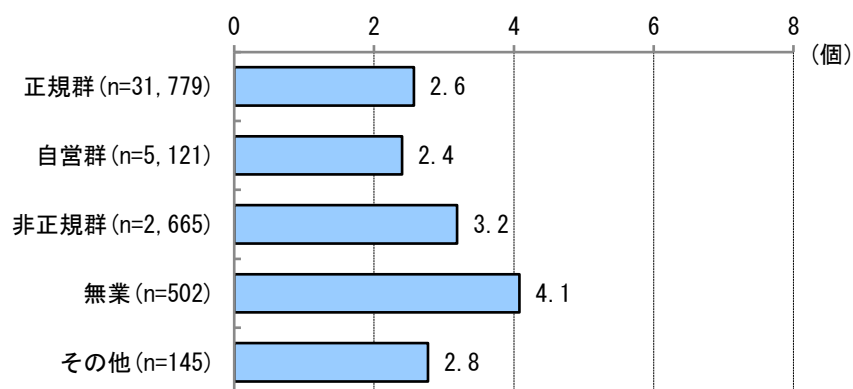


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、7個以上に該当した人と該当なしと回答した人で差が大きい項目に着目しながら、7個以上に該当群を見ると、「歯がいたい」7.9%（「該当なし」に対して5.6倍）、「聞こえにくい」14.6%（同じく4.2倍）、「ねむれない」26.2%（同じく3.4倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<枚方市>

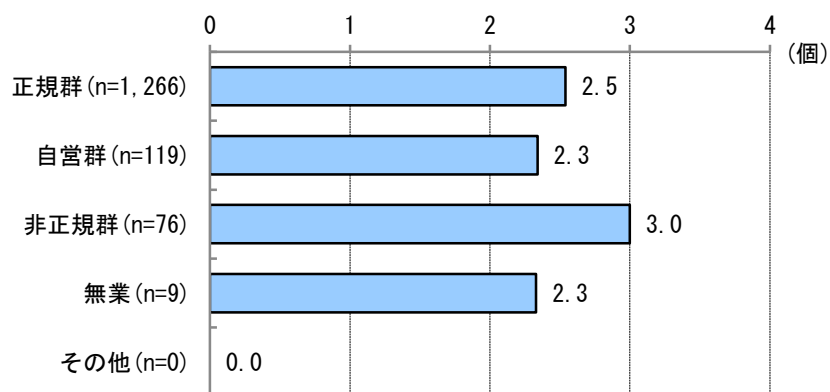


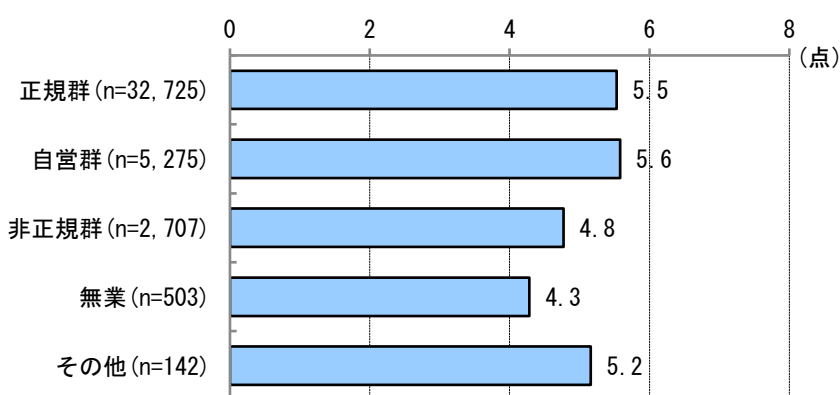
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「非正規群」において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が3.0個と最も多くなっている。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<枚方市>

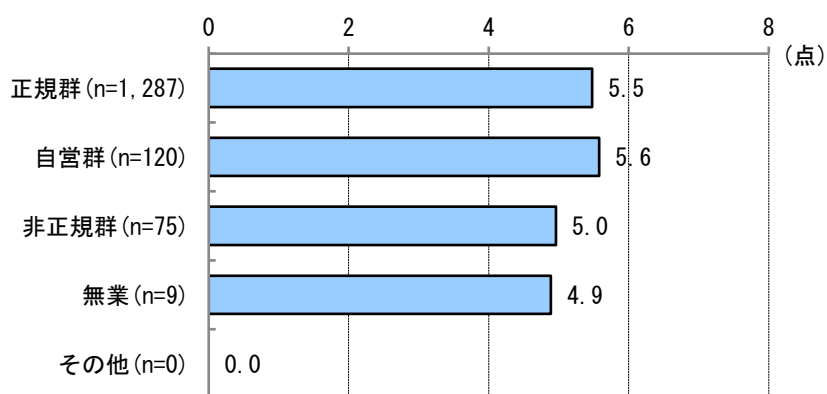
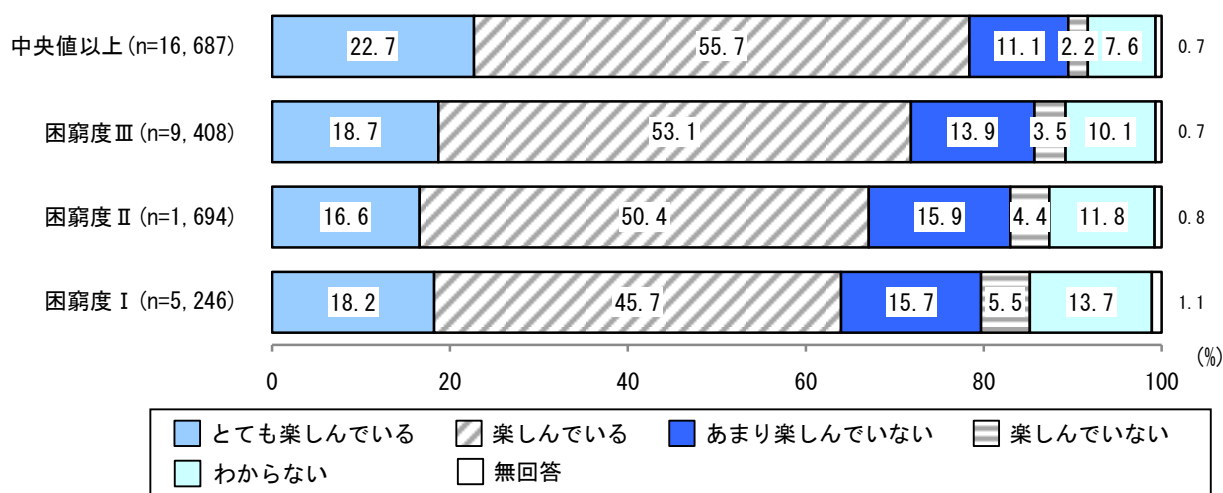


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」(5.5点)、「自営群」(5.6点)が高く、「非正規群」で5.0点と低下し、「無業」で4.9点と最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

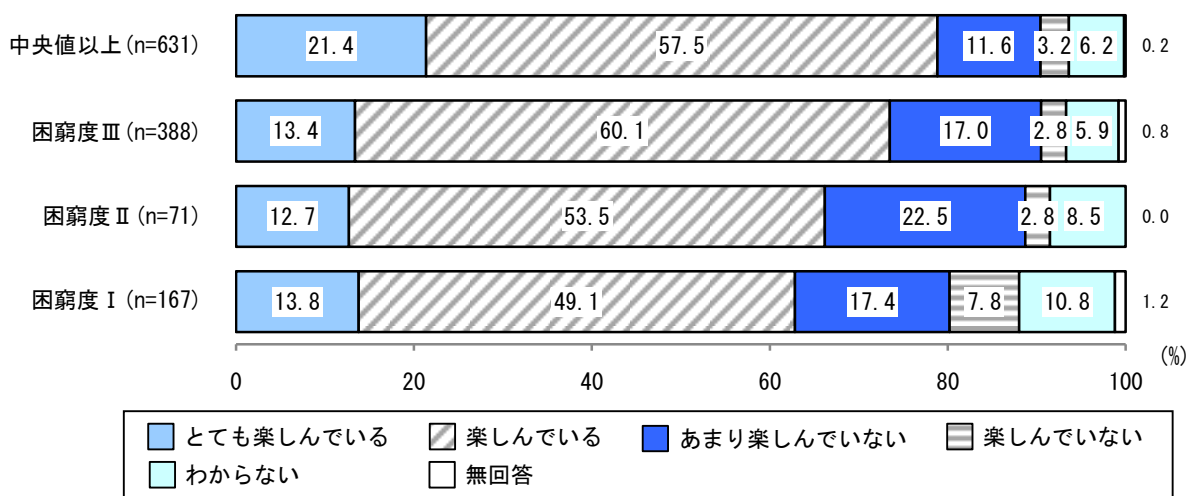
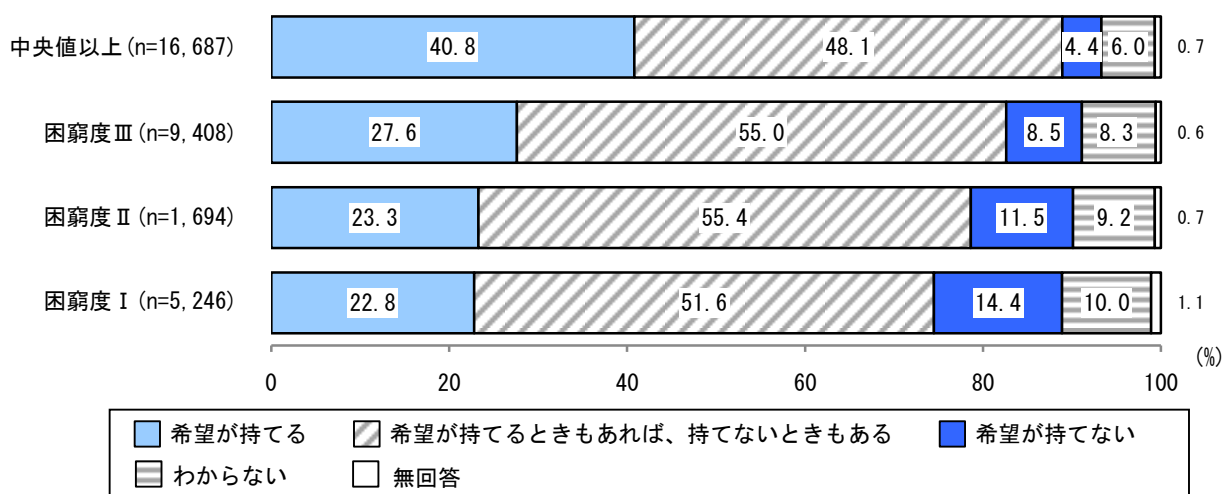


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、中央値以上群の生活を楽しんでいると回答した割合は、78.9%（「とても楽しんでいる」21.4%、「楽しんでいる」57.5%）で最も高い一方で、困窮度Ⅰ群の生活を楽しんでいると回答した割合は、62.9%（「とても楽しんでいる」13.8%、「楽しんでいる」49.1%）で、最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21 (2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

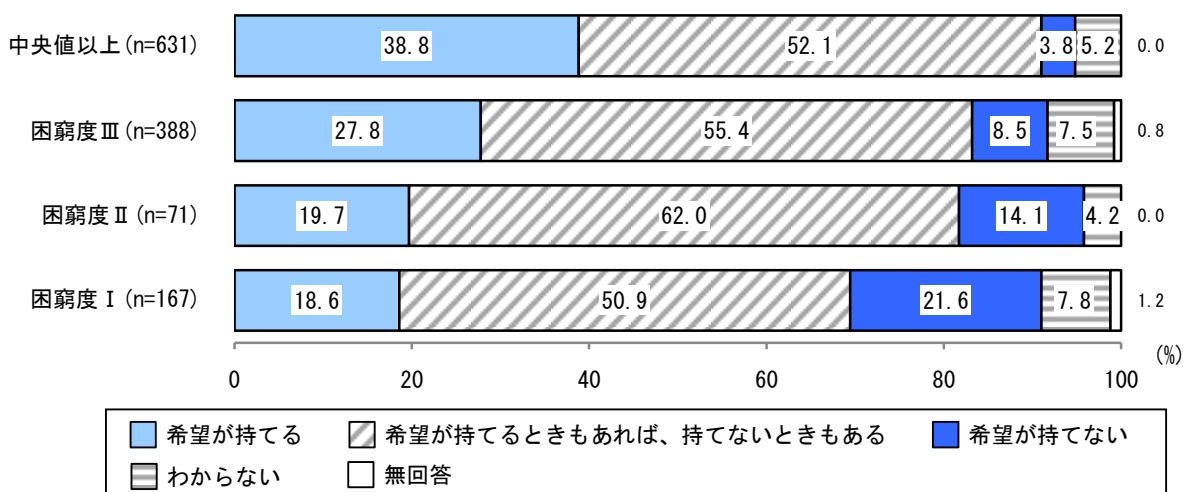
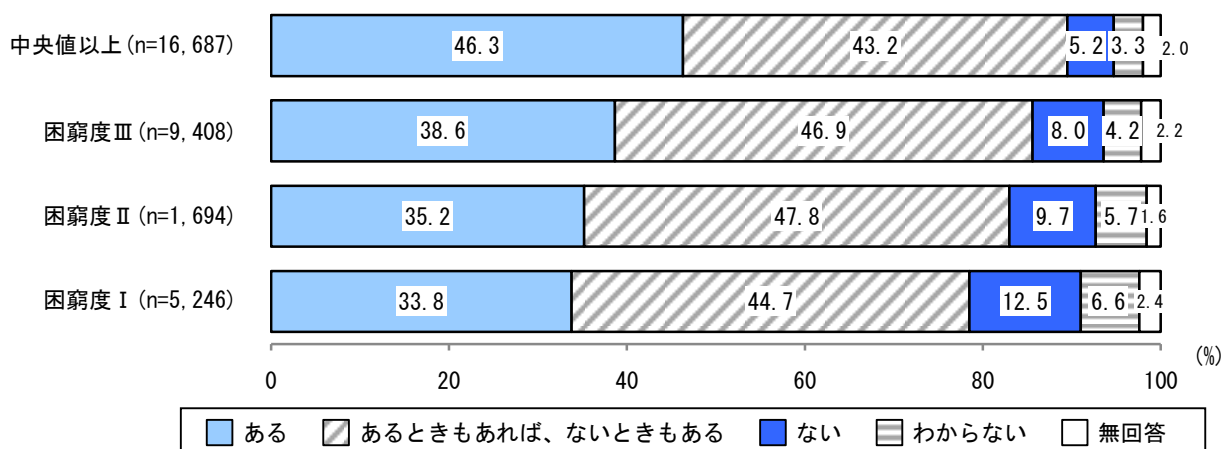


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群が38.8%で最も高く、困窮度Ⅰ群が18.6%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

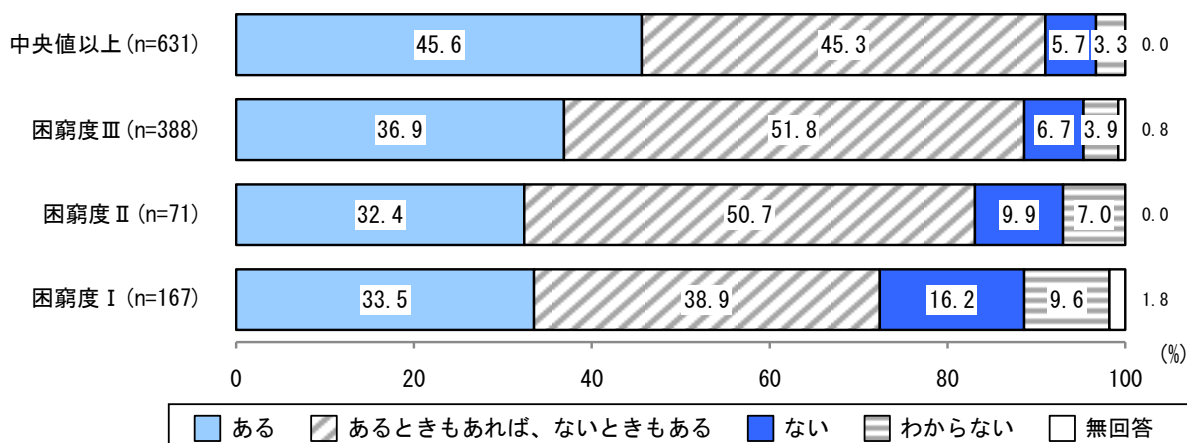
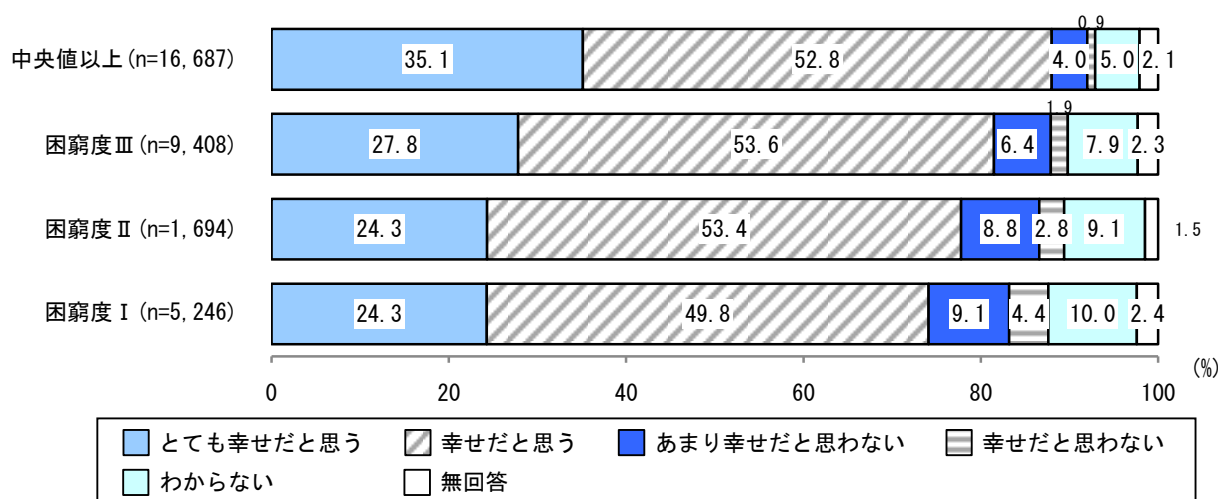


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が16.2%で最も高く、中央値以上群が5.7%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

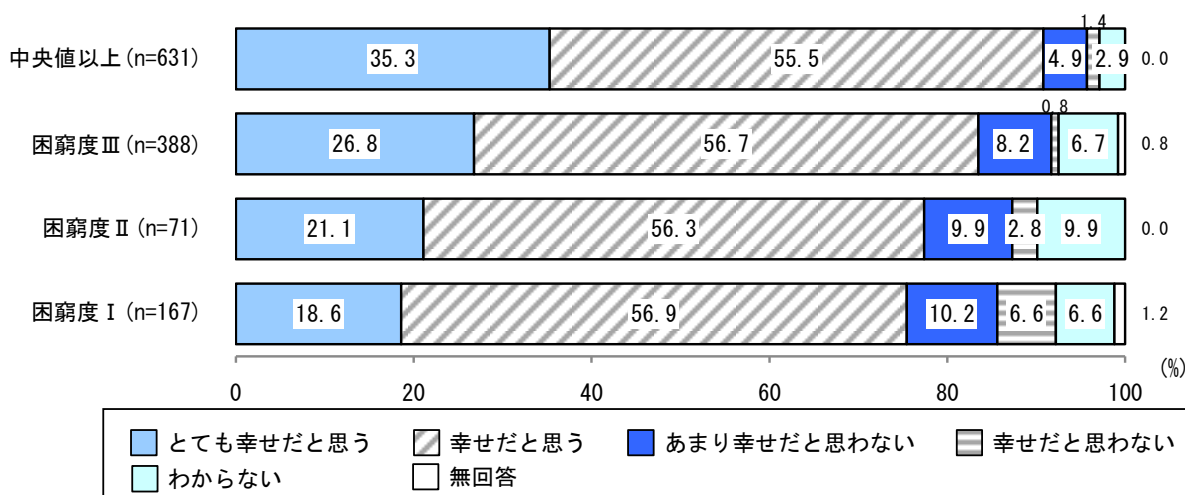


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、中央値以上群の自分が幸せだと思うと回答した割合は90.8%（「とても幸せだと思う」35.3%、「幸せだと思う」55.5%）で、最も高い一方で、困窮度Ⅰ群の自分が幸せだと思うと回答した割合は75.5%（「とても幸せだと思う」18.6%、「幸せだと思う」56.9%）で、最も低くなっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(92.1%対83.2%)が約10ポイント高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、大きく異なる項目はないが、保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくかゆくなる」(14.4%対9.5%)、「まわりが気になる」(19.8%対12.4%)、「よく腰がいたくなる」(31.7%対22.5%)がいずれも5ポイント以上、「ねむれない」(22.8%対7.6%)、「不安な気持ちになる」(38.3%対22.0%)、「イライラする」(43.1%対30.1%)では10ポイント以上高くなっている。また、子どもの心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「やろうとおもったことがうまくできる」で「そんなことはない」(21.3%対12.7%)が5ポイント以上高くなっている。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「一人ぼっちのような気がする」で「そんなことはない」(72.9%対67.1%)が5ポイント以上高くなっている。次に、保護者の心の状態を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、生活を「とても楽しんでいる」(21.4%対13.8%)が5ポイント以上、将来に対して「希望が持てる」(38.8%対18.6%)が20ポイント以上高くなっており、ストレスを発散できるものが「ある」(45.6%対33.5%)が10ポイント以上高くなっているほか、自分が「とても幸せだと思う」(35.3%対18.6%)が15ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による保護者の経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、子どもは「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」で「いつもそうだ」の割合が高くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「眠れない」「よく頭がいたくなる」「よくおなかがいたくなる」「よくかゆくなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「歯がいたい」「不安な気持ちになる」「ものを見づらい」「聞こえにくい」「よくおなかがいたくなる」「よくかぜをひく」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に肩こりや腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれも不眠を感じており、将来不安による健康影響が懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができている。

続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を述べる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「正規群」「自営群」の2群において、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が高く(90.7%、92.4%)、「非正規群」「無業」では(80.6%、88.9%)となっている。また、「支えてくれる人得点」の満点(7点)の割合は「正規群」「非正規群」「自営群」「無業」の順に(42.5%、42.5%、34.6%、22.2%)となっている。この結果から、親が正規および自営の世帯では、朝の時間に余裕があることがうかがえる。また親が「非正規」「無業」の世帯ではソーシャルサポートの不足が示唆される。

食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、子どもとの関係について「とても信頼している」(50.7%対32.0%)、子どもの将来に「とても期待している」(22.1%対4.0%)がそれぞれ15ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、休日に子どもと関わる時間が「2時間未満」(36.8%対18.2%)が10ポイント以上高くなっている。「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ子どもの自己効力感では、朝食を

「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、1点以上高くなっている。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食を摂ることは、保護者と子どもの関係をより良くするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

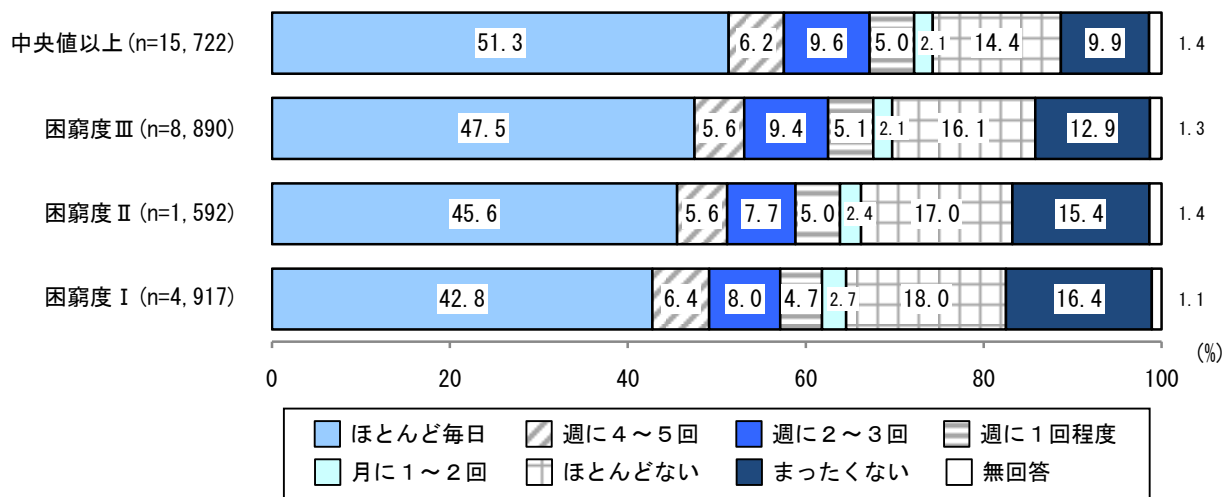
最後に、保護者自身が、将来に対して希望を持っているかについて、親の婚姻状況別に述べる。「希望がもてる」と回答した割合は、「結婚している」群（31.3%）、「離婚」群（27.6%）、「死別」群（8.3%）「未婚」群（11.1%）となっている。また、「とても幸せだと思う」と回答した割合は「結婚している」群（29.4%）、「離婚」群（20.4%）、「死別」群（16.7%）「未婚」群（11.1%）となっている。このことから、親の婚姻状況によって、希望感や幸福感に格差が存在することが示唆される。

※参照データについては一部資料編に掲載

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

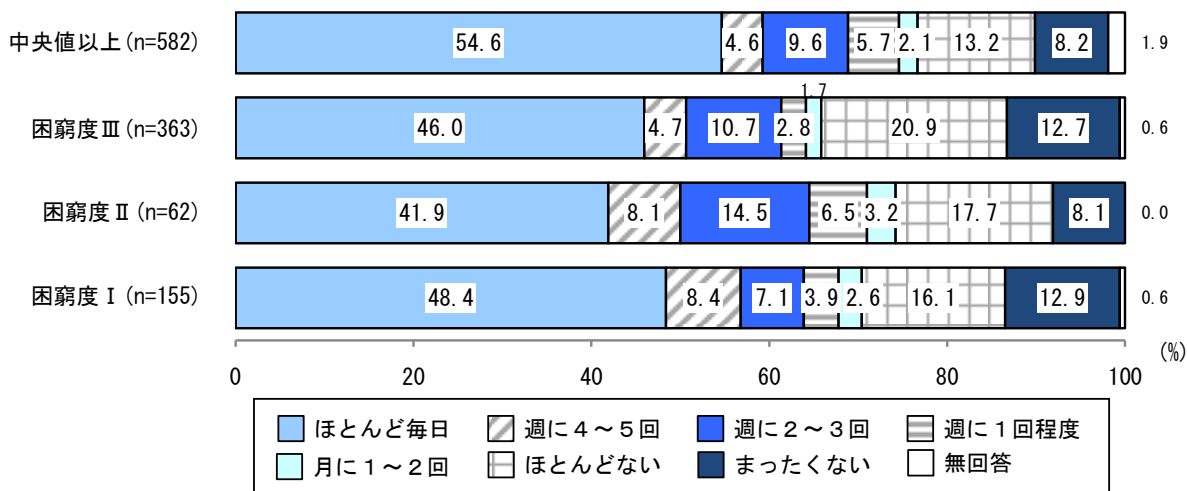
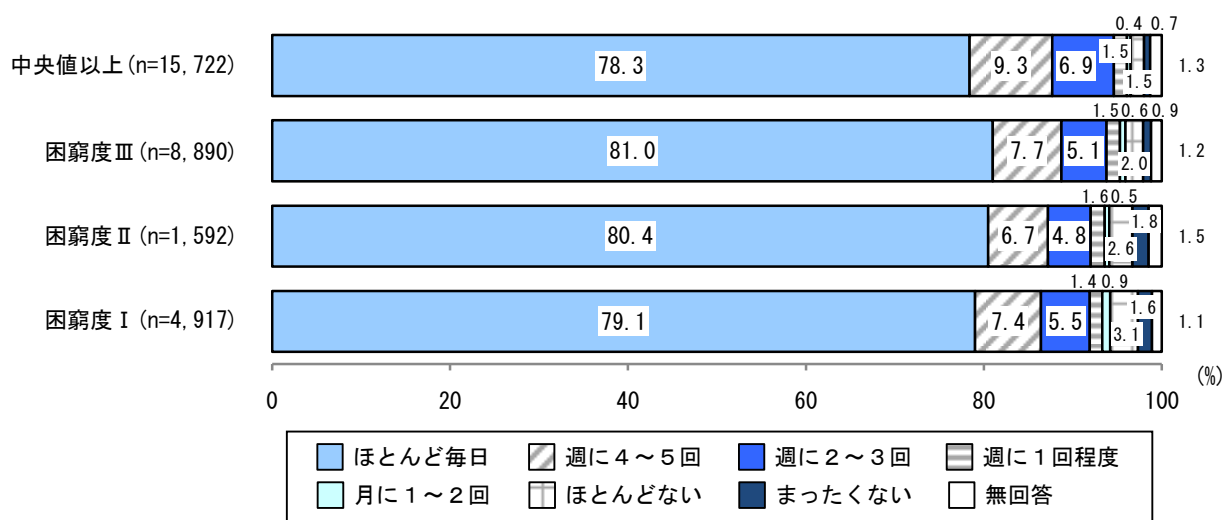


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、中央値以上群が54.6%で、最も高くなっている。一方、「まったくない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が12.9%で、最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

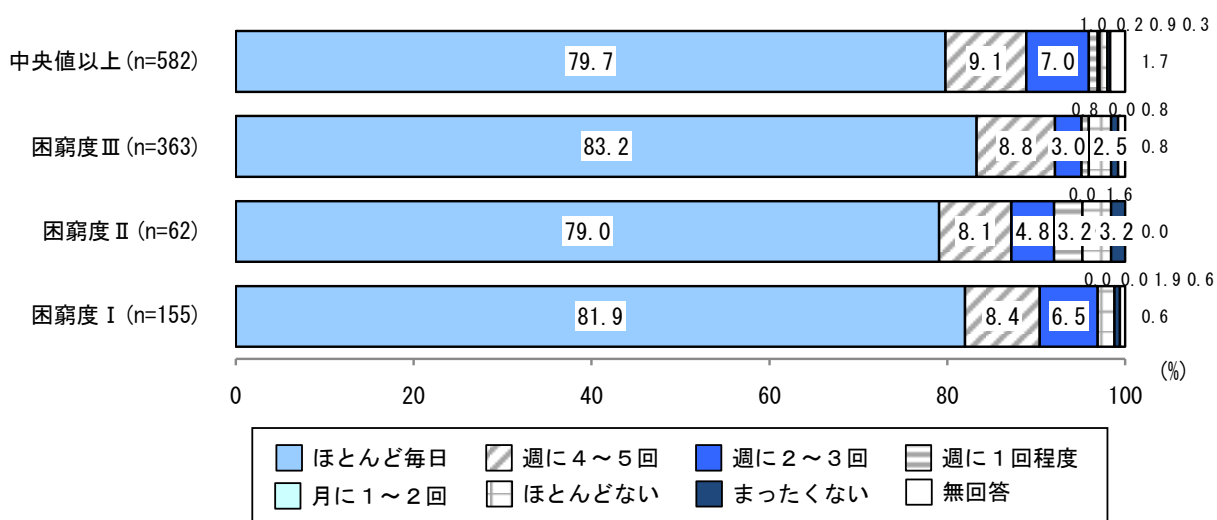
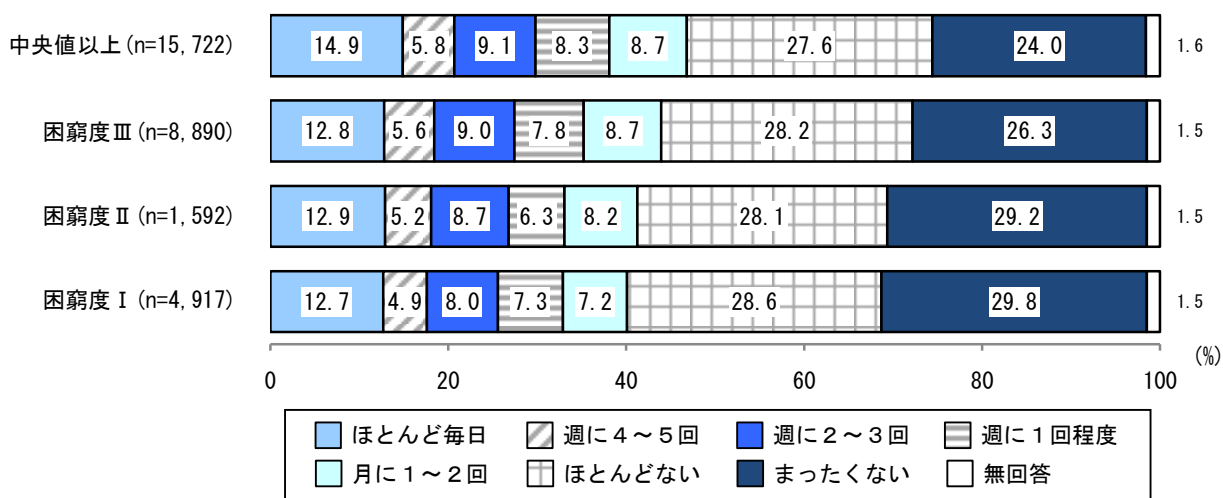


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群が83.2%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

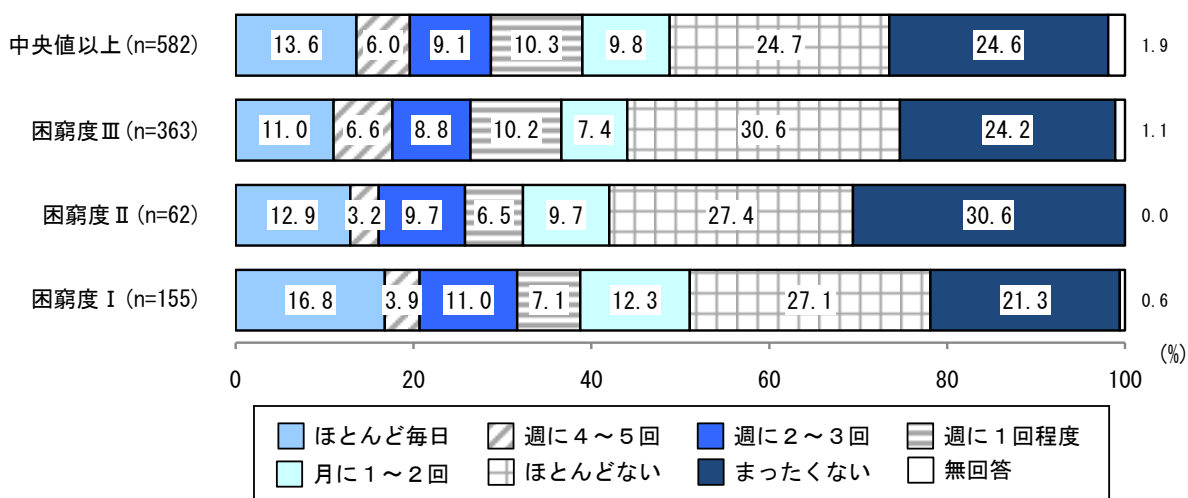
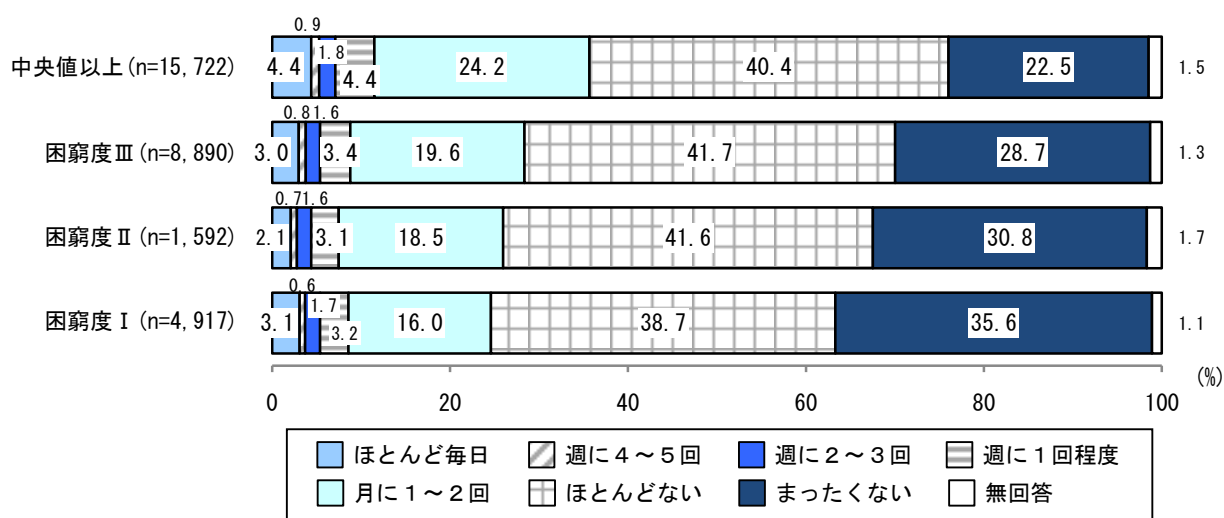


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「まったくない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が30.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<枚方市>

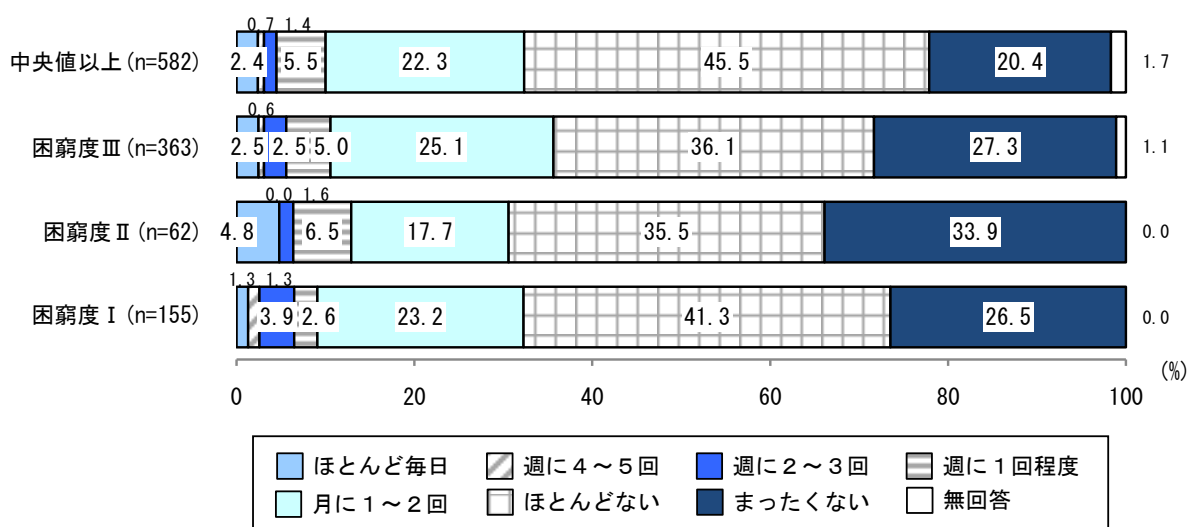
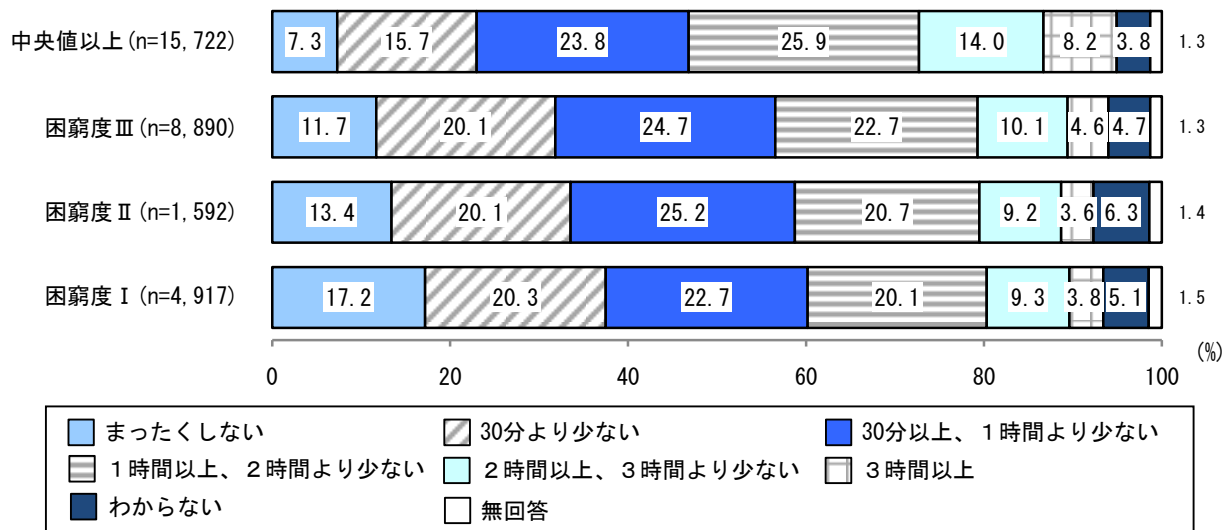


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が33.9%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

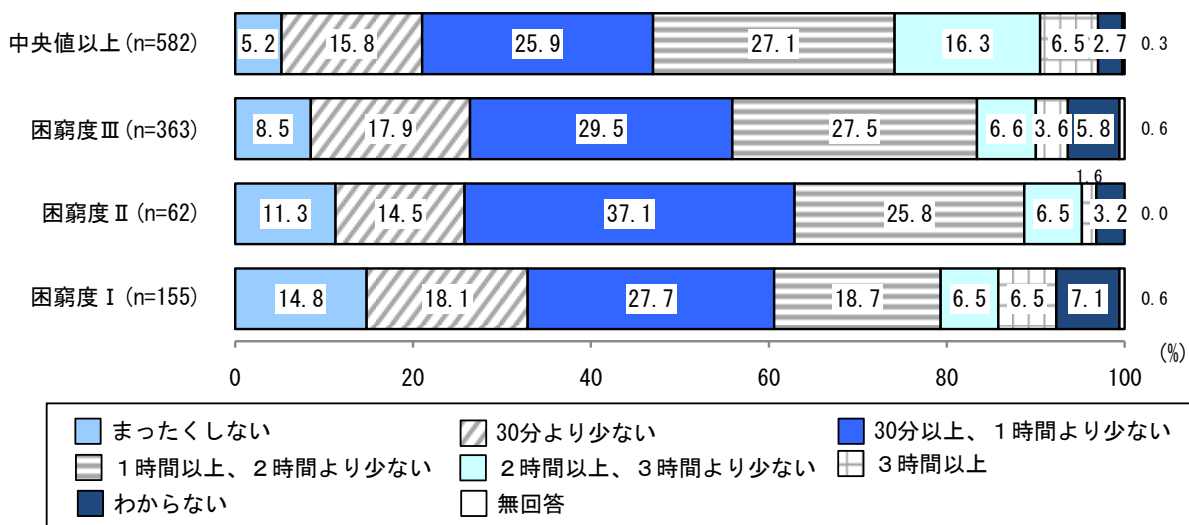
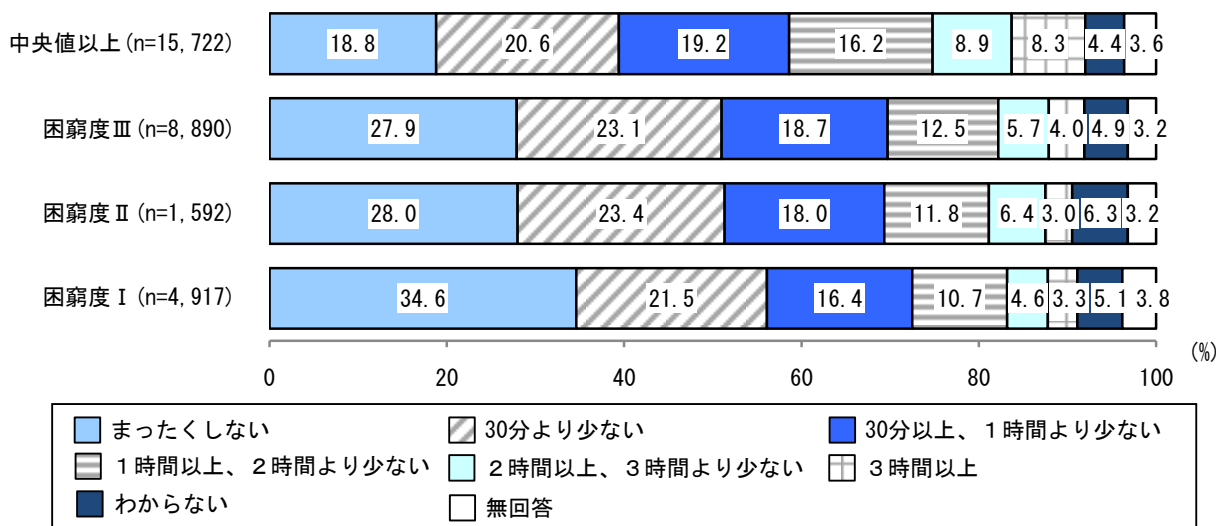


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は14.8%、「30分より少ない」と回答した人は18.1%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問 13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

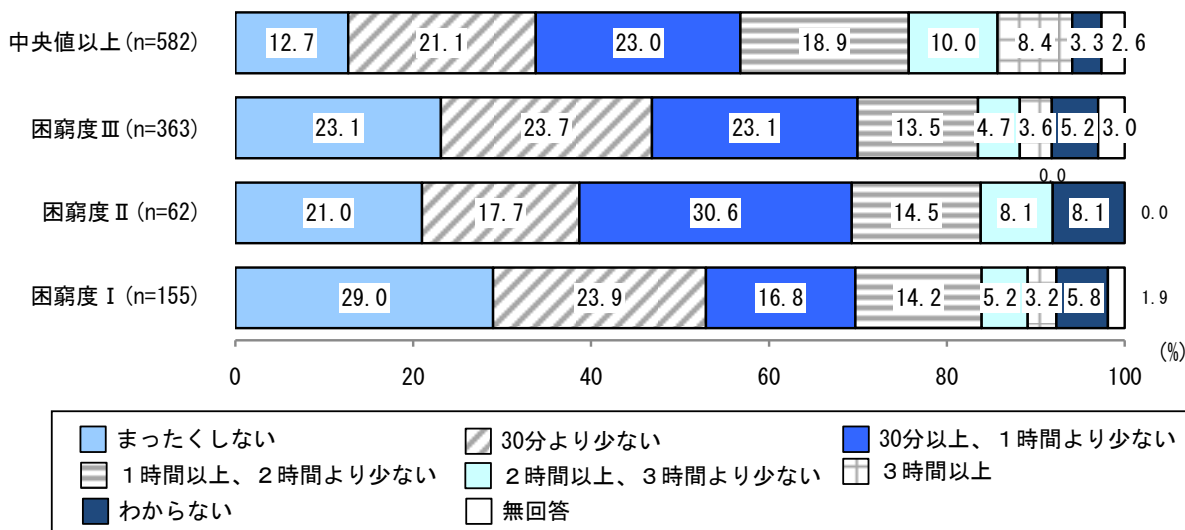
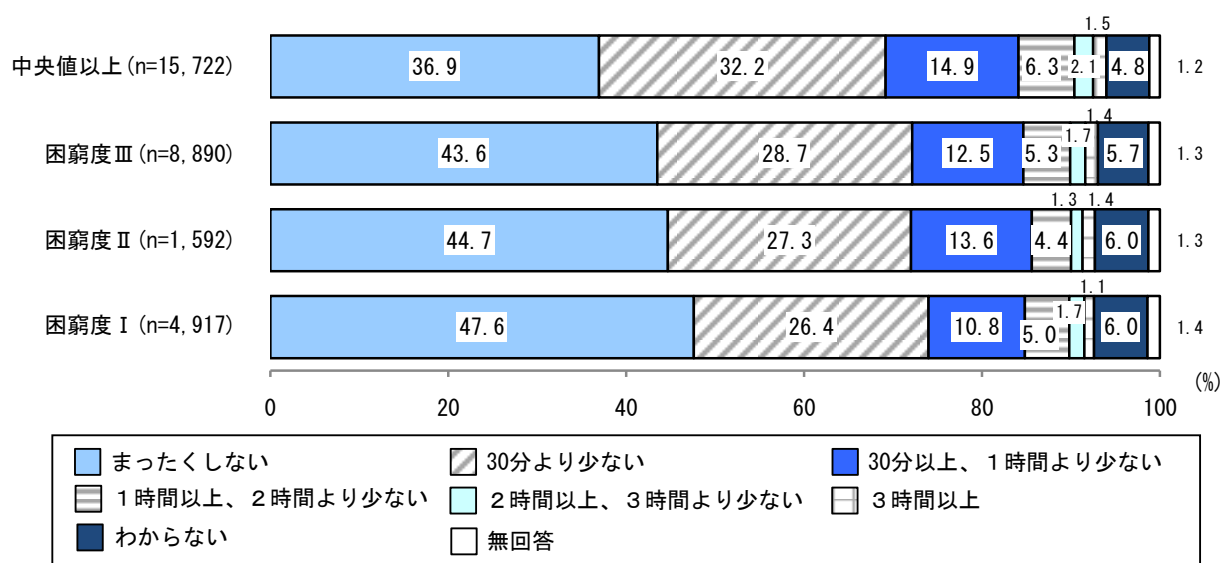


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、「まったくしない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が29.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<枚方市>

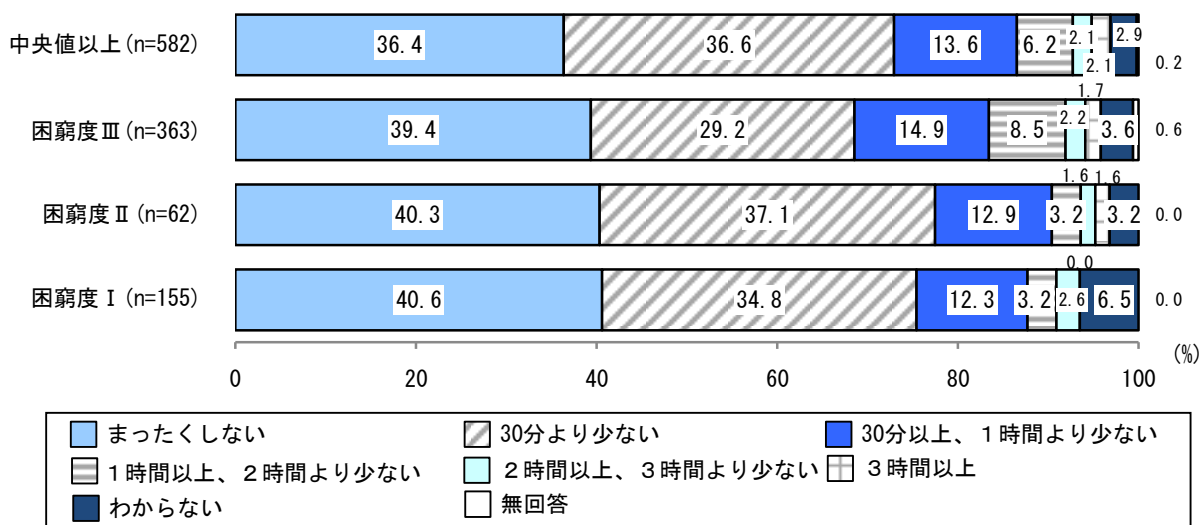
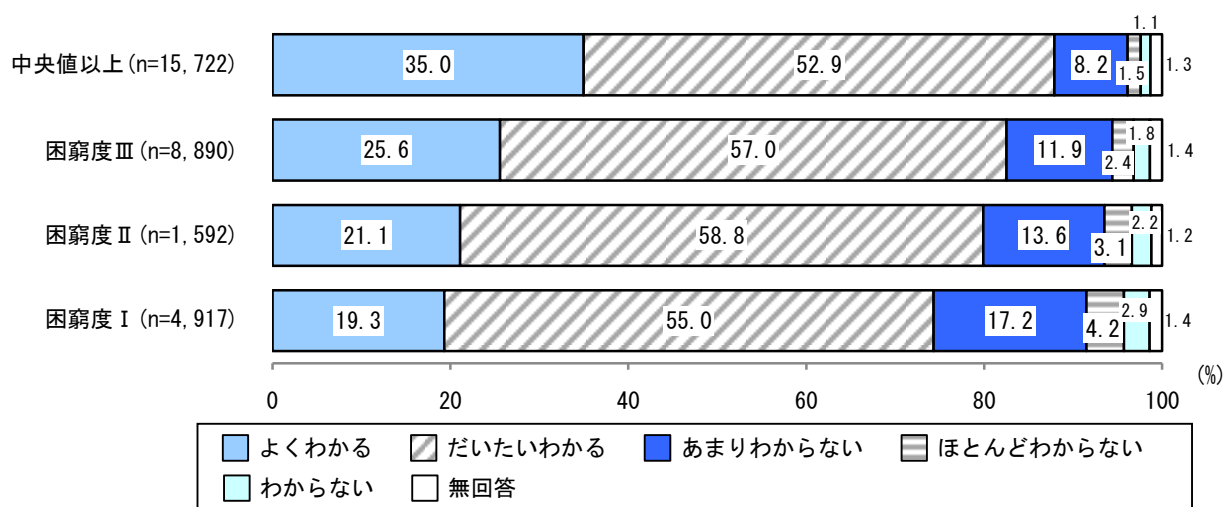


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高く、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は40.6%、困窮度Ⅱ群では40.3%となっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

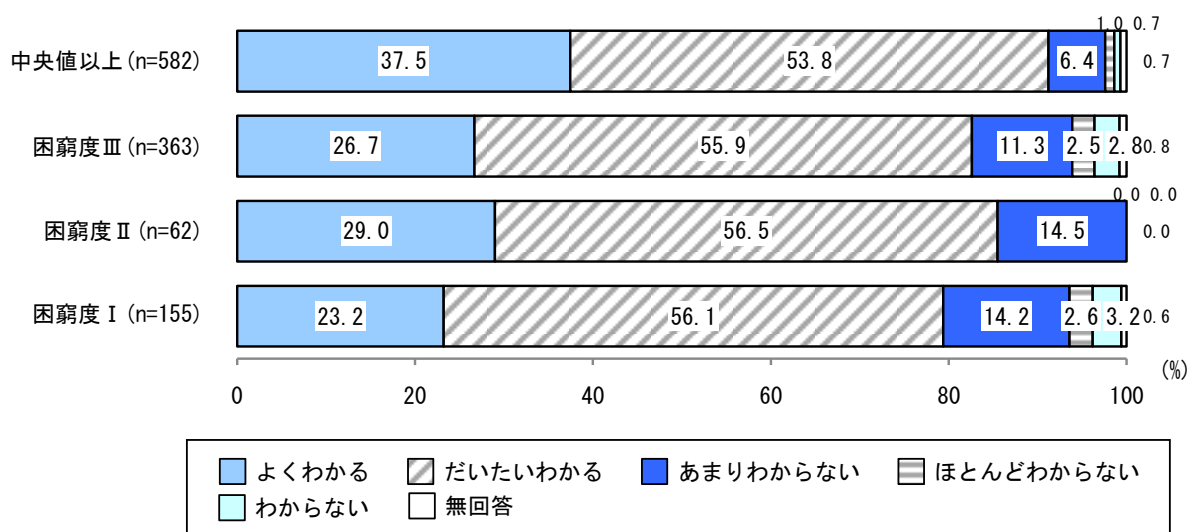


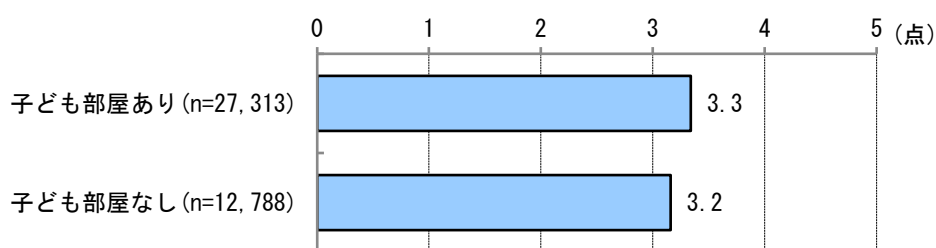
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と回答した割合は、中央値以上群が37.5%で最も高く、困窮度Ⅰ群が23.2%で最も低くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問 21×子ども票問 13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

＜大阪府内全体＞



＜枚方市＞

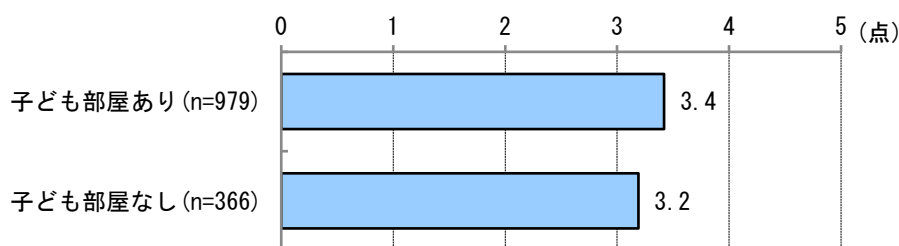
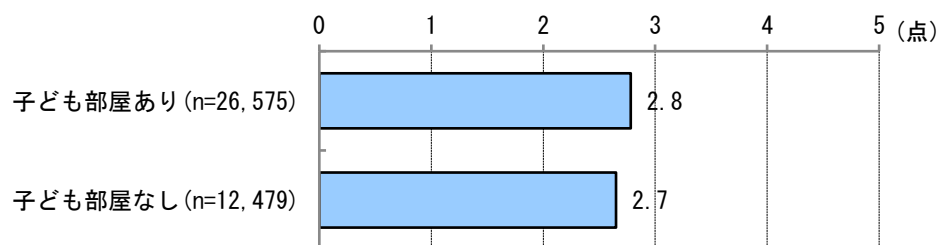


図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

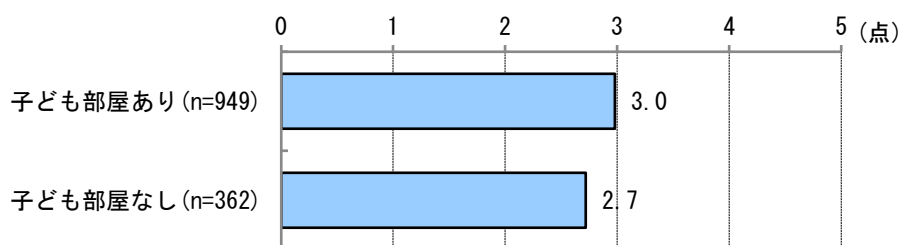
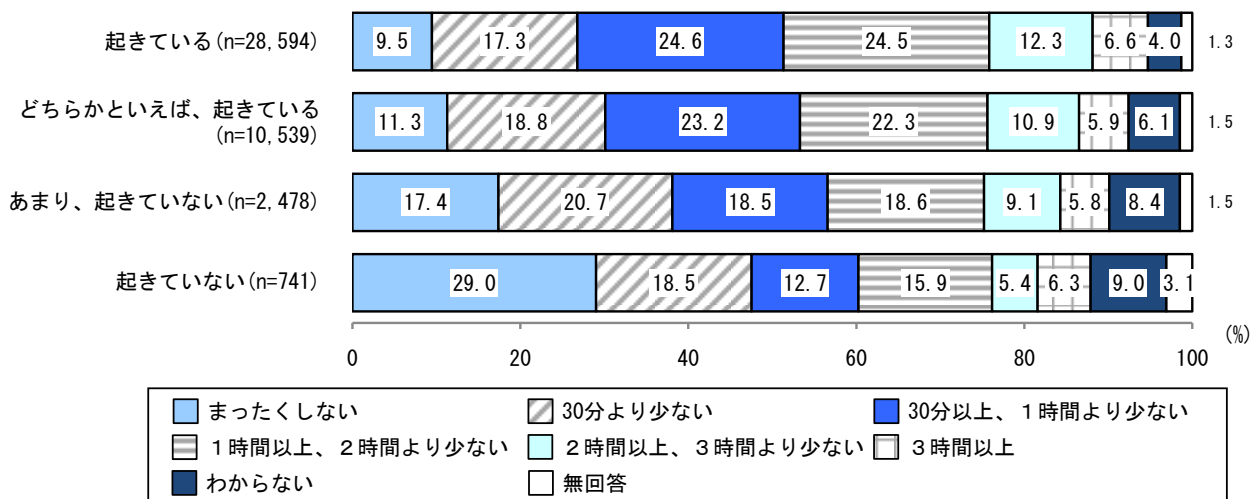


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

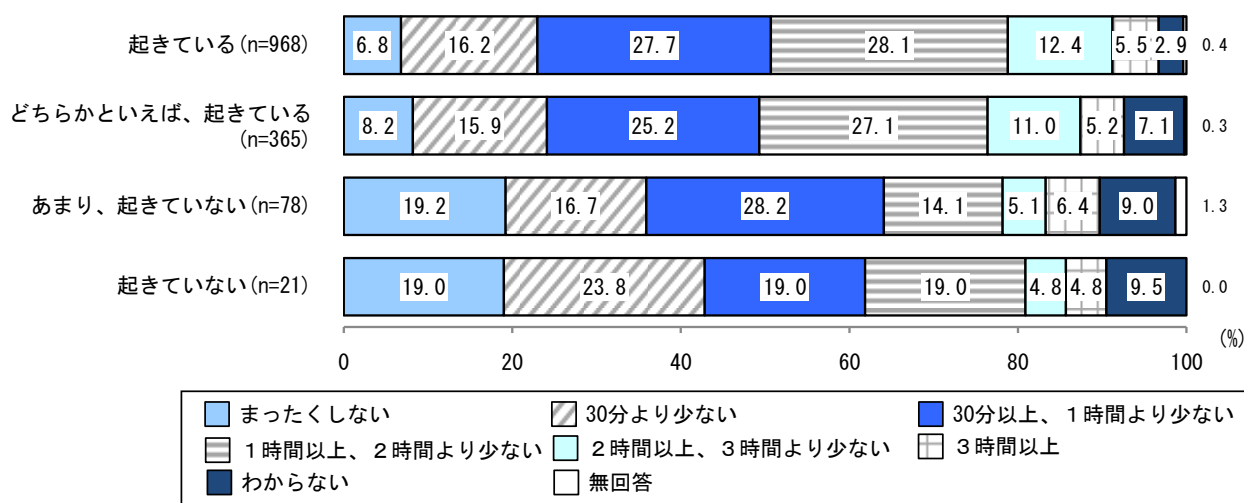
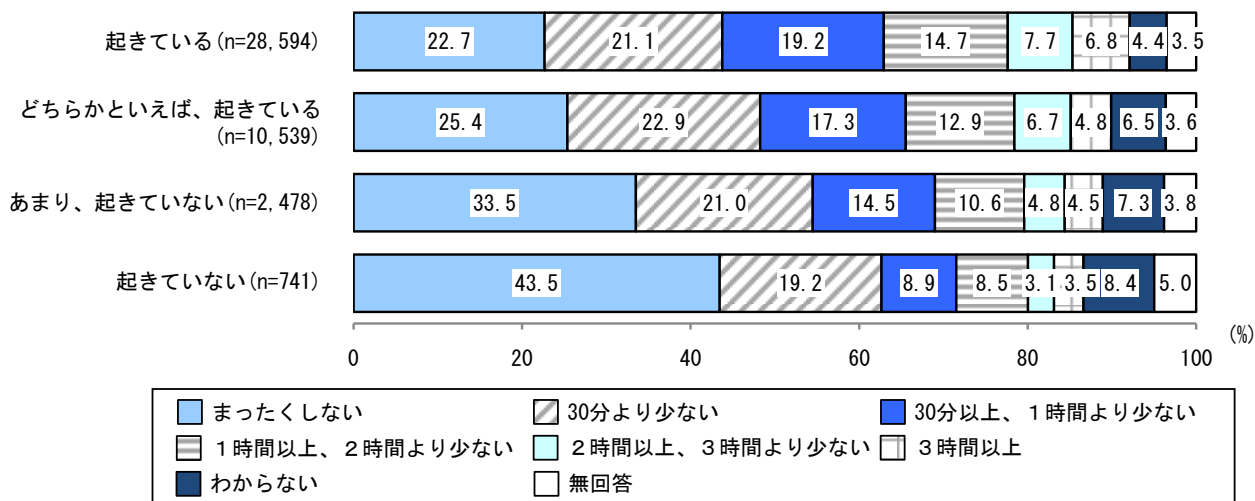


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、概ねふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。「まったくしない」と回答した割合は、起きている人で最も低くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

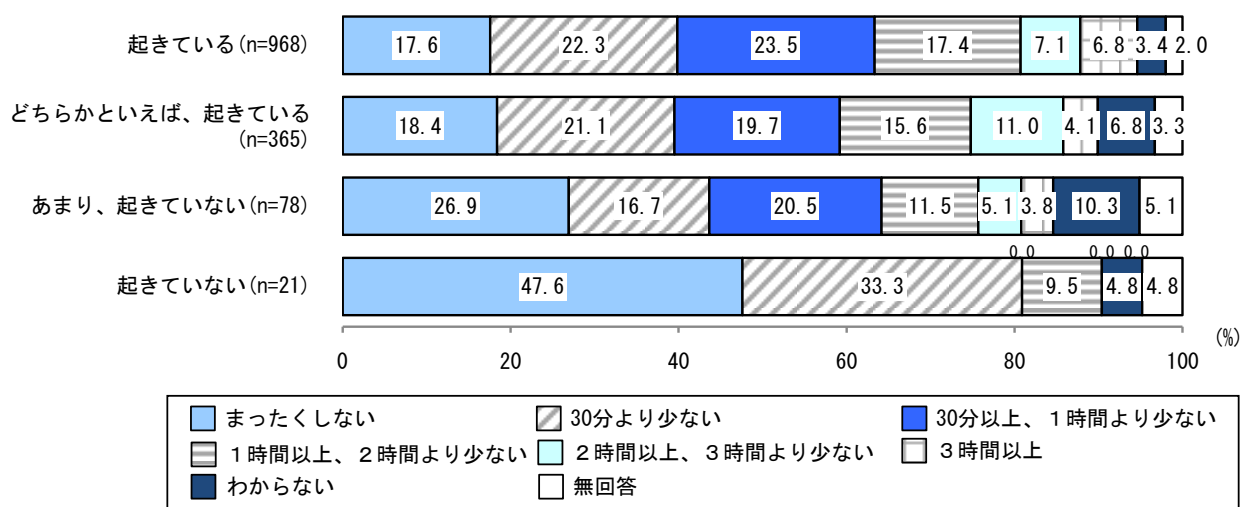
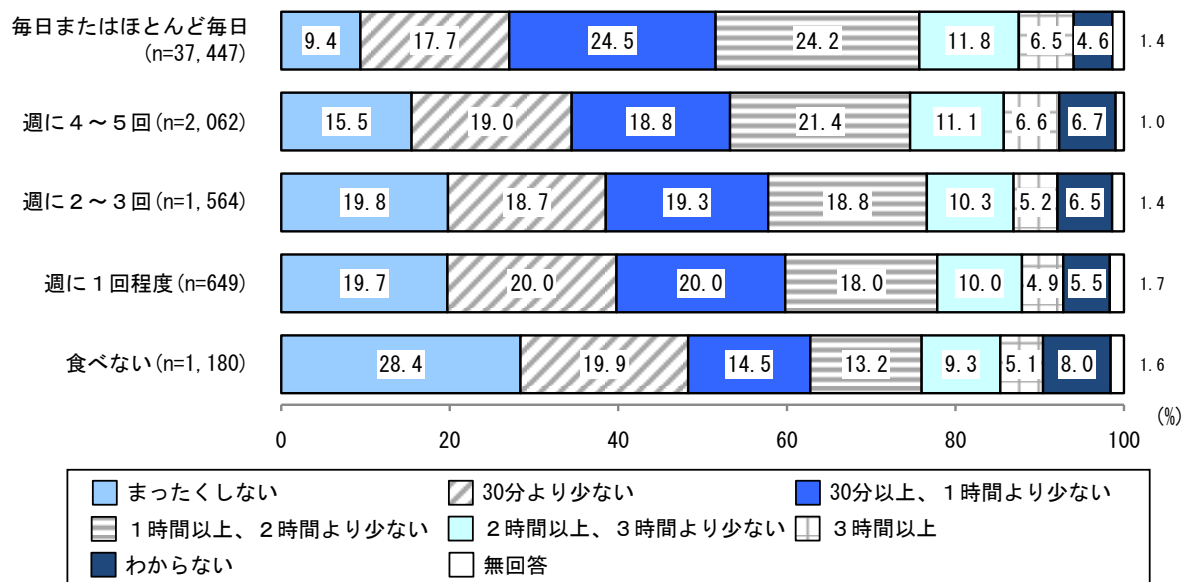


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「まったくしない」と回答した割合は、起きていない人が47.6%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

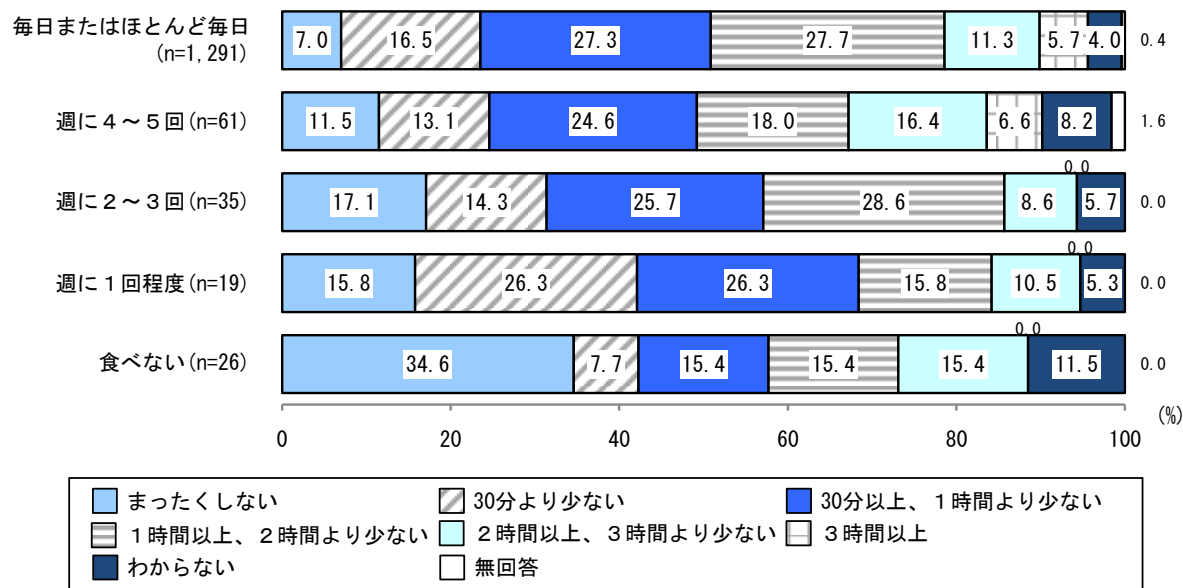
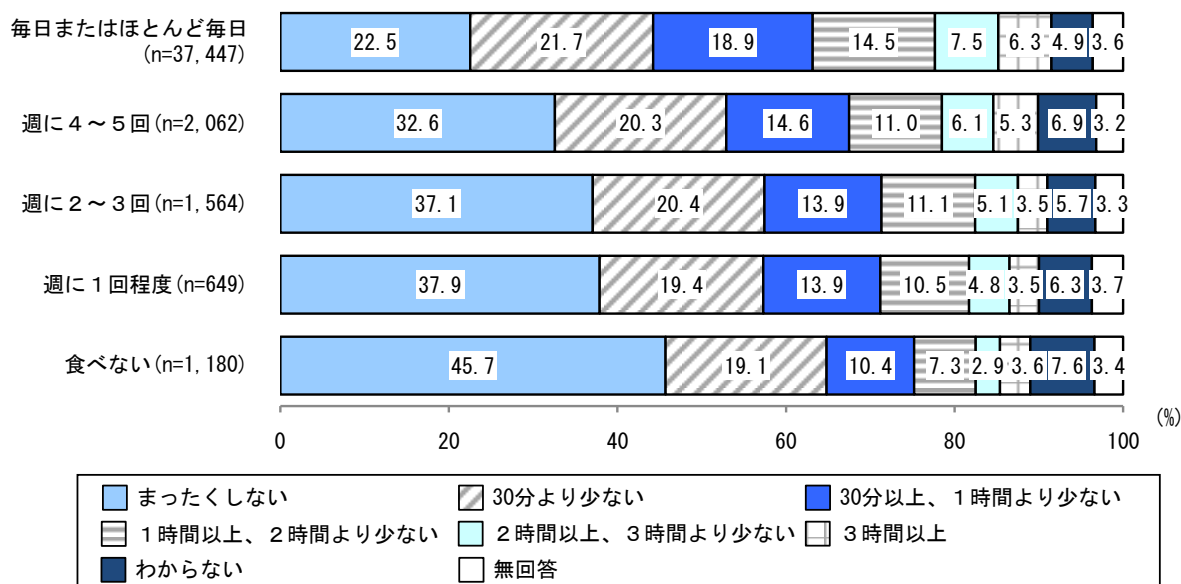


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、概ね、朝食の頻度が少ない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高く、食べない人が34.6%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

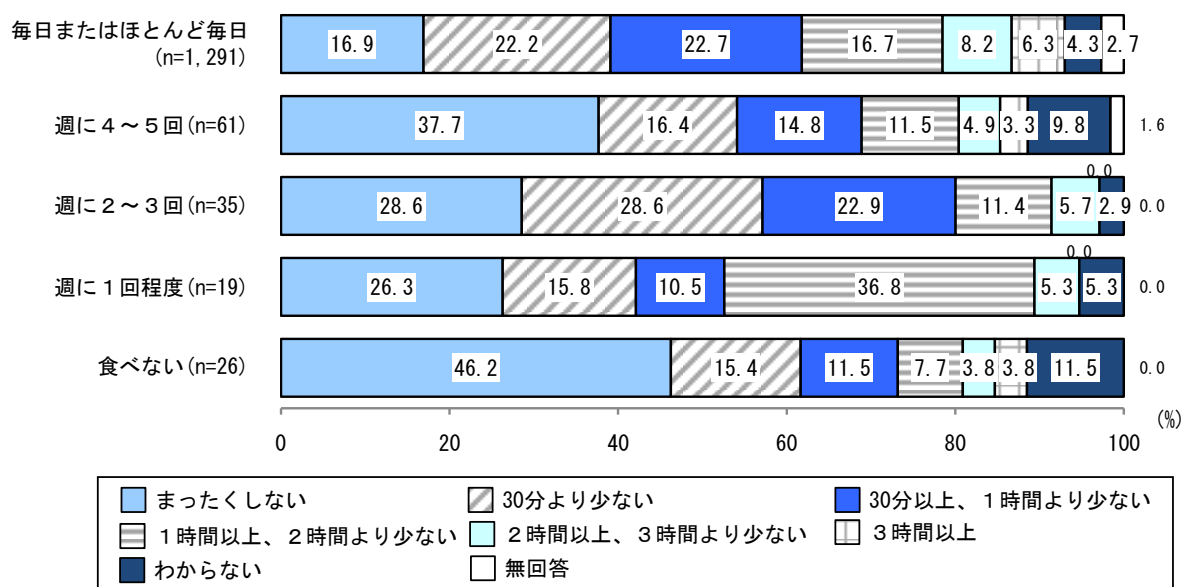
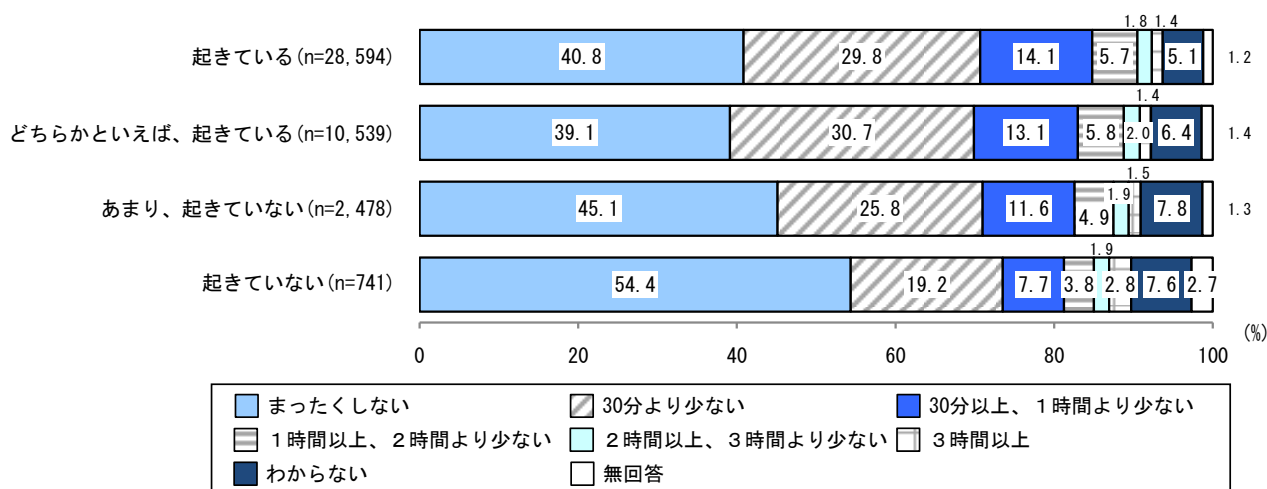


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、食べない人が46.2%で最も高く、毎日またはほとんど毎日が16.9%で最も低くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<枚方市>

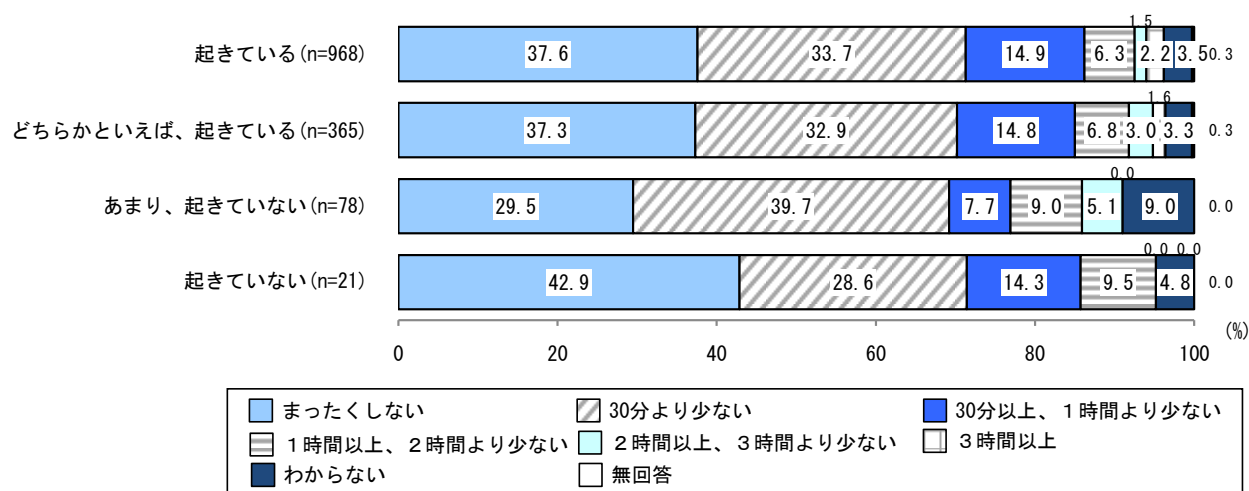
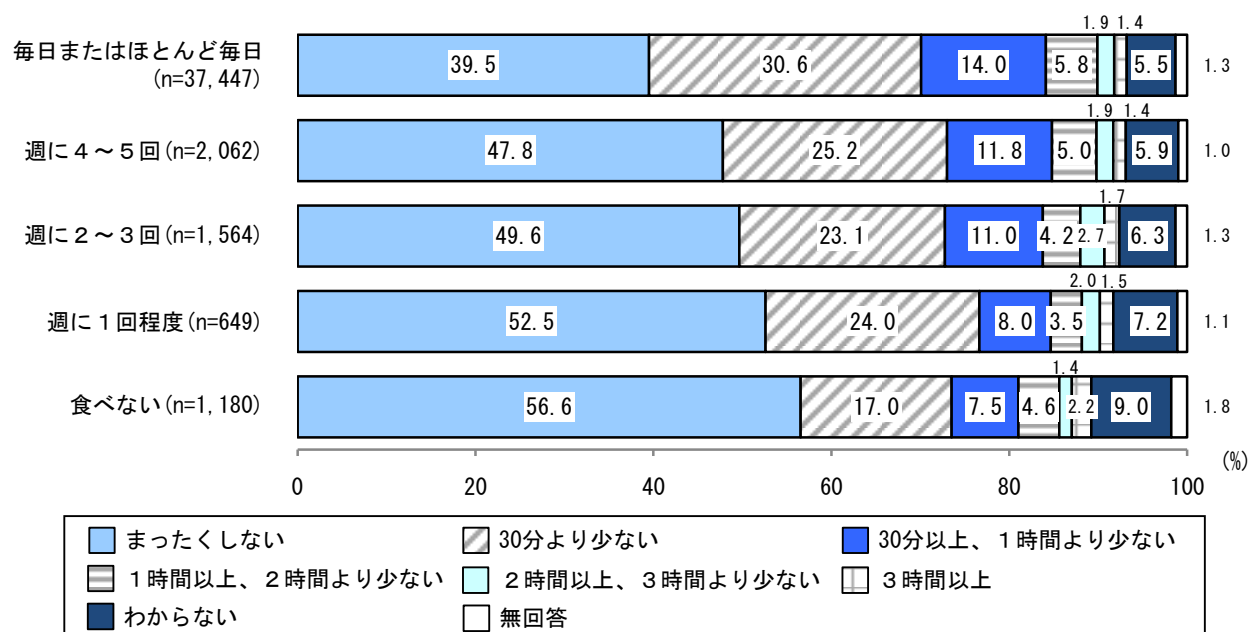


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、起きていない人では、「まったくしない」と回答した割合は、起きていない人で42.9%と最も高く、あまり起きていない人で29.5%と最も低くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 4 (1) × 子ども票問 15)

<大阪府内全体>



<枚方市>

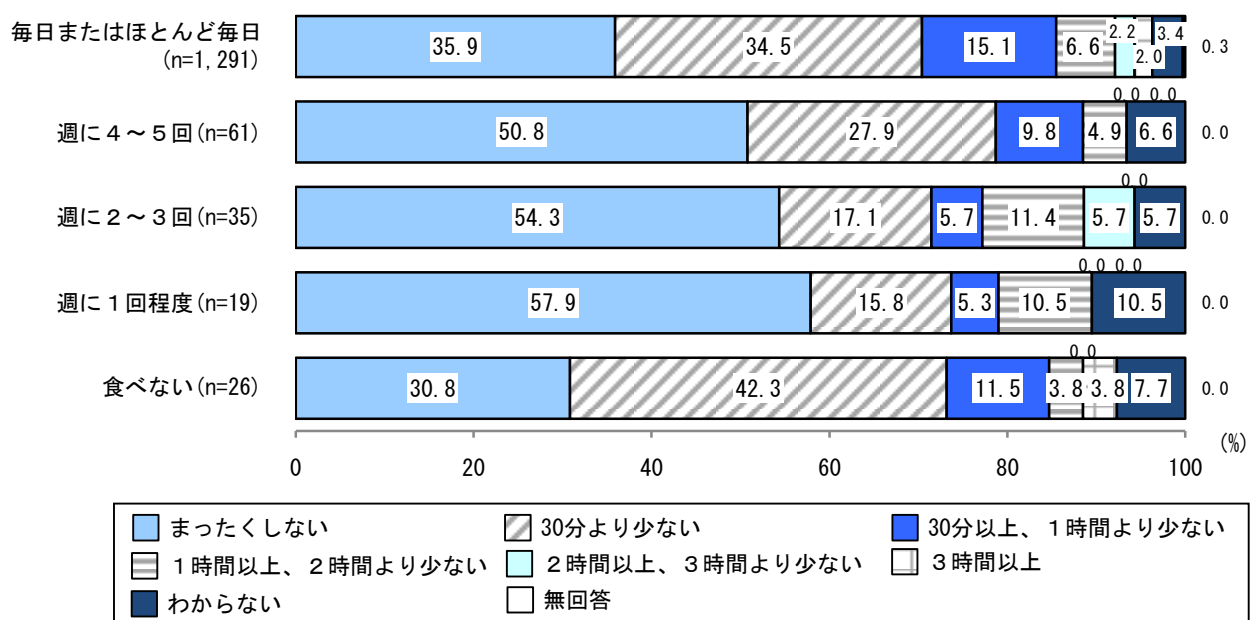
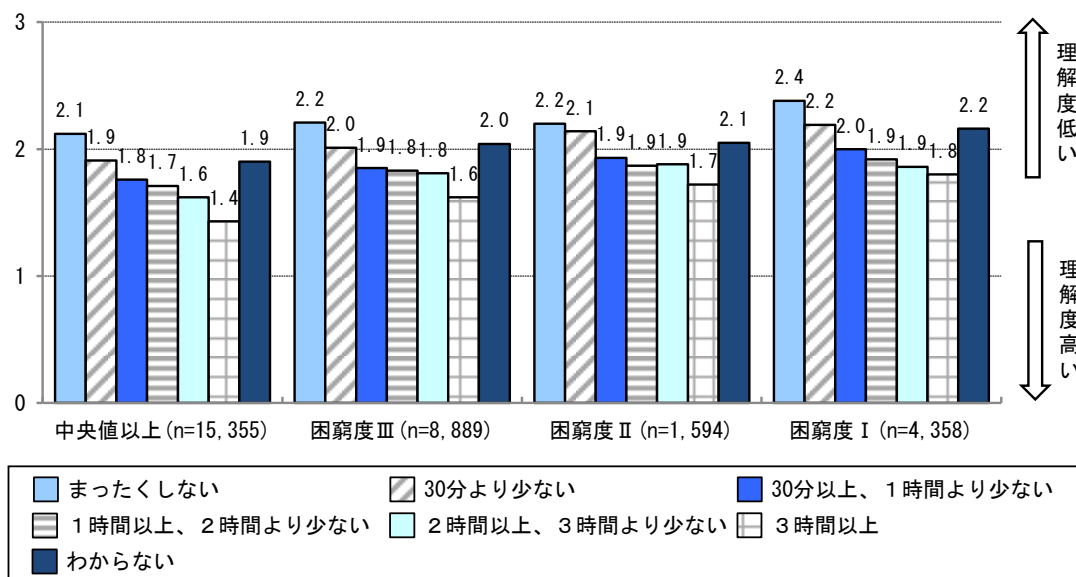


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、週に 1 回程度で 57.9% と最も高く、次いで週 2 ～ 3 回の人 が 54.3% となっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

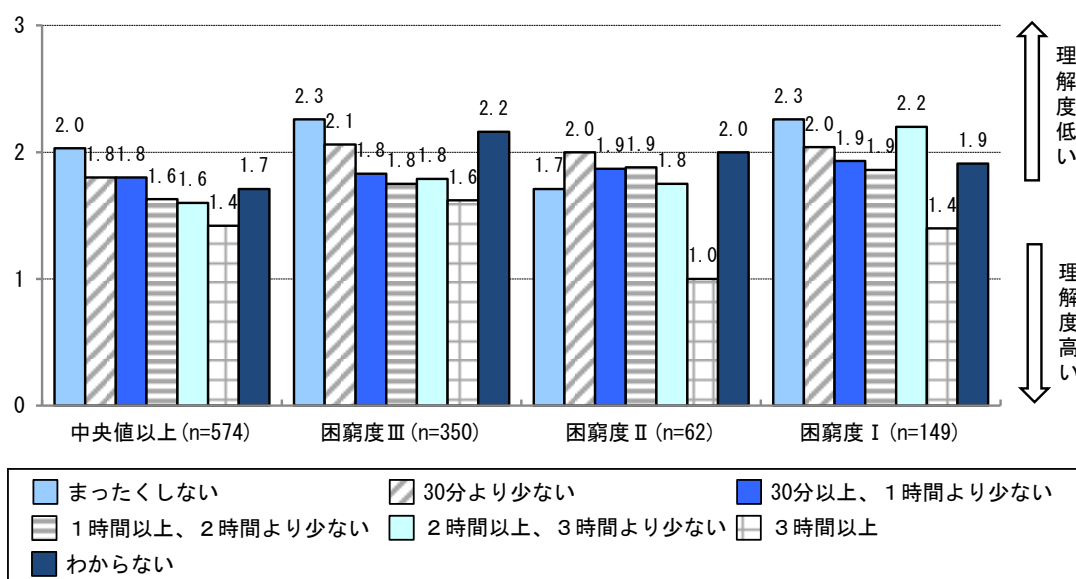
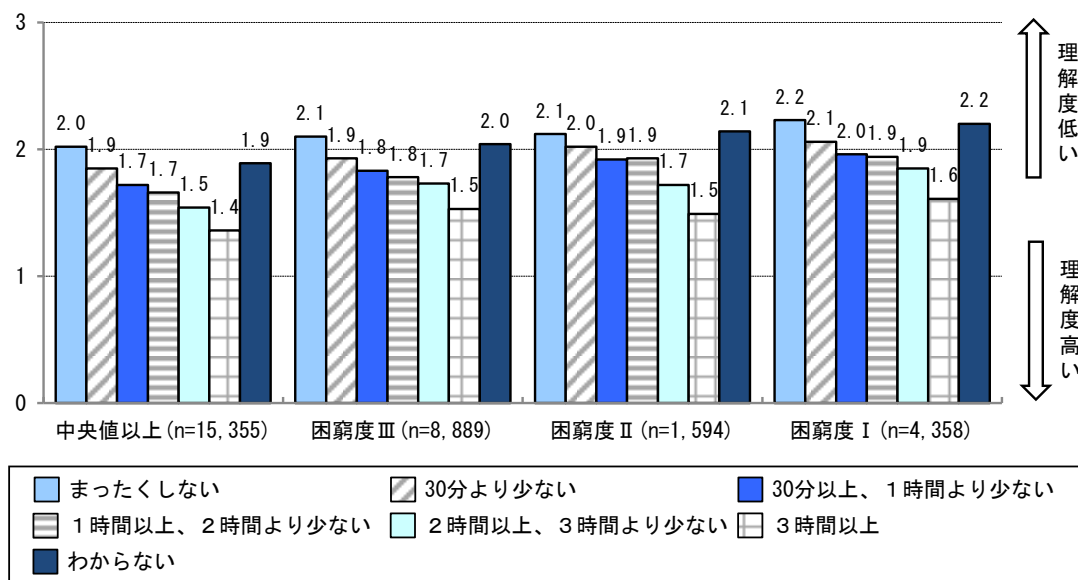


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群、困窮度Ⅲ群の子どもは、概ね勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは、学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

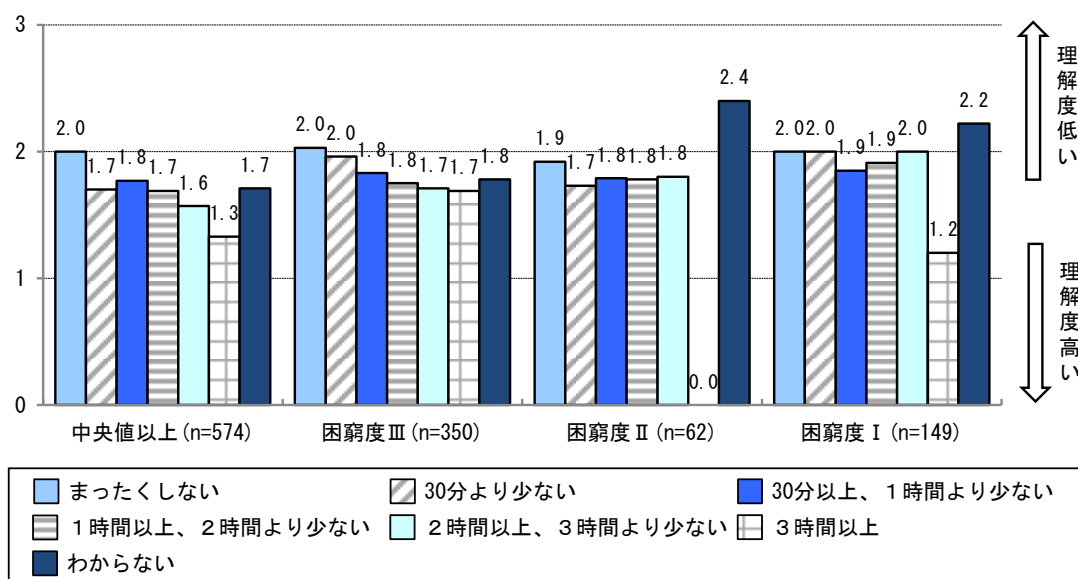
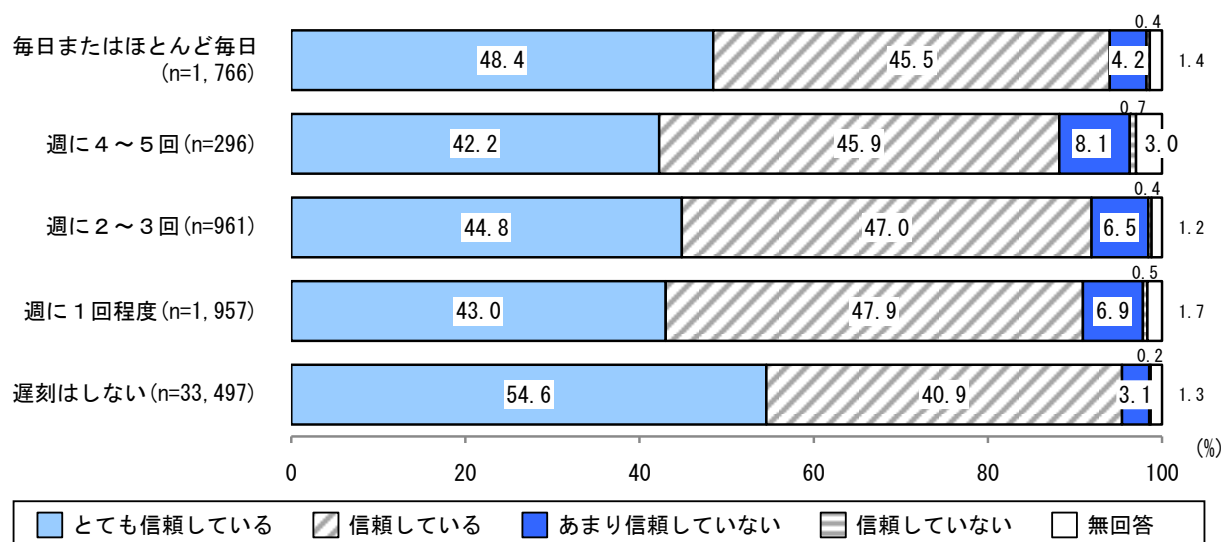


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、困窮度Ⅲ群の子どもは、概ね勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは、学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

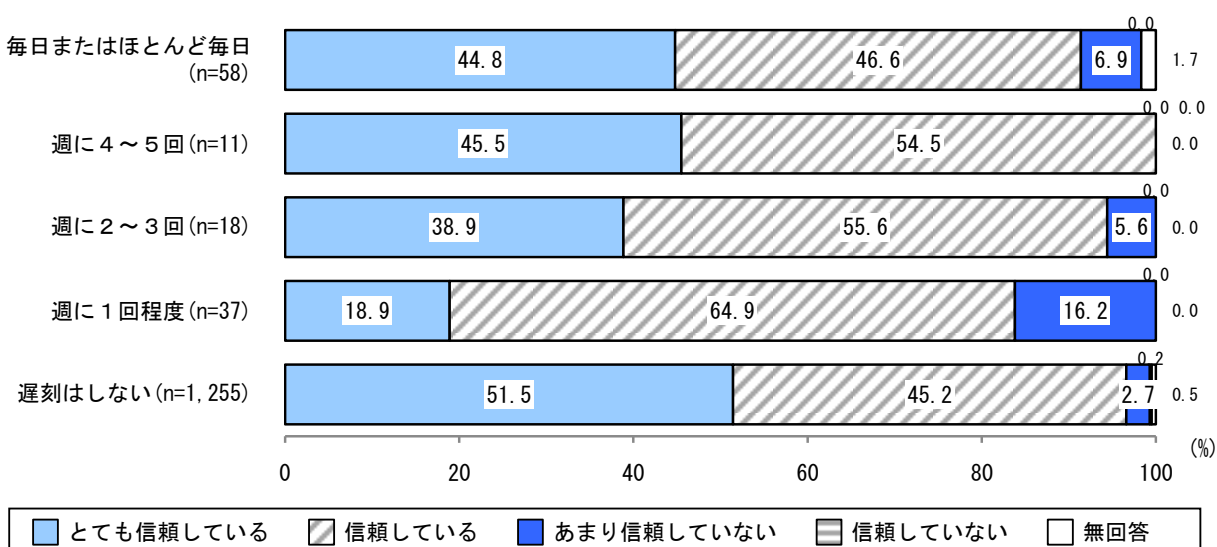
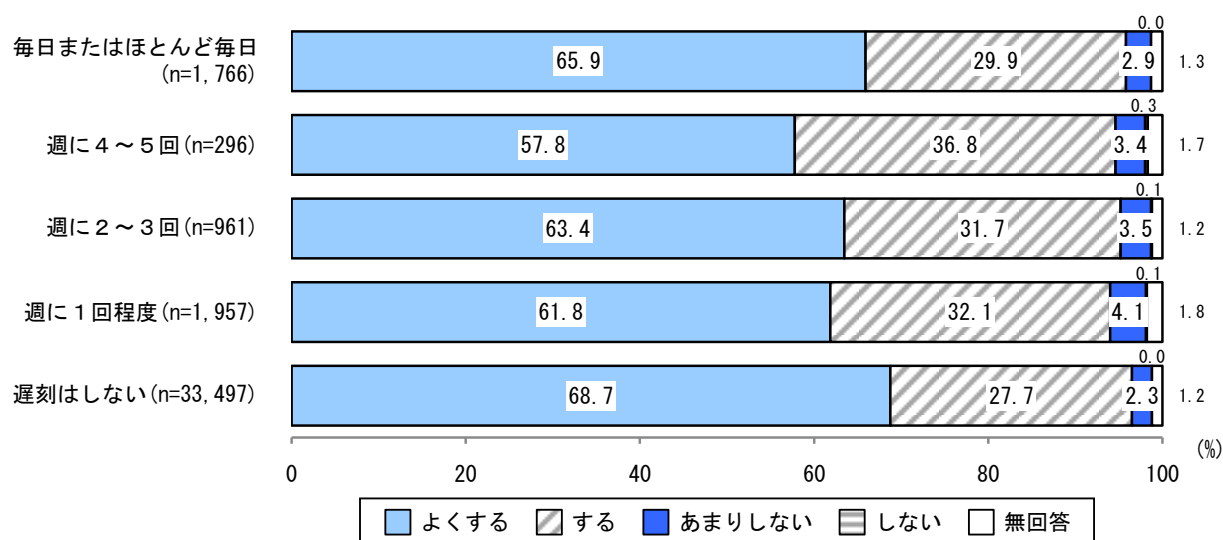


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、週1回程度遅刻をしている子どもの保護者は、「あまり信頼していない」と回答した割合が16.2%で、他の遅刻状況の子どもの保護者よりも高く、信頼している割合は83.8%（「とても信頼している」18.9%、「信頼している」64.9%）で最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

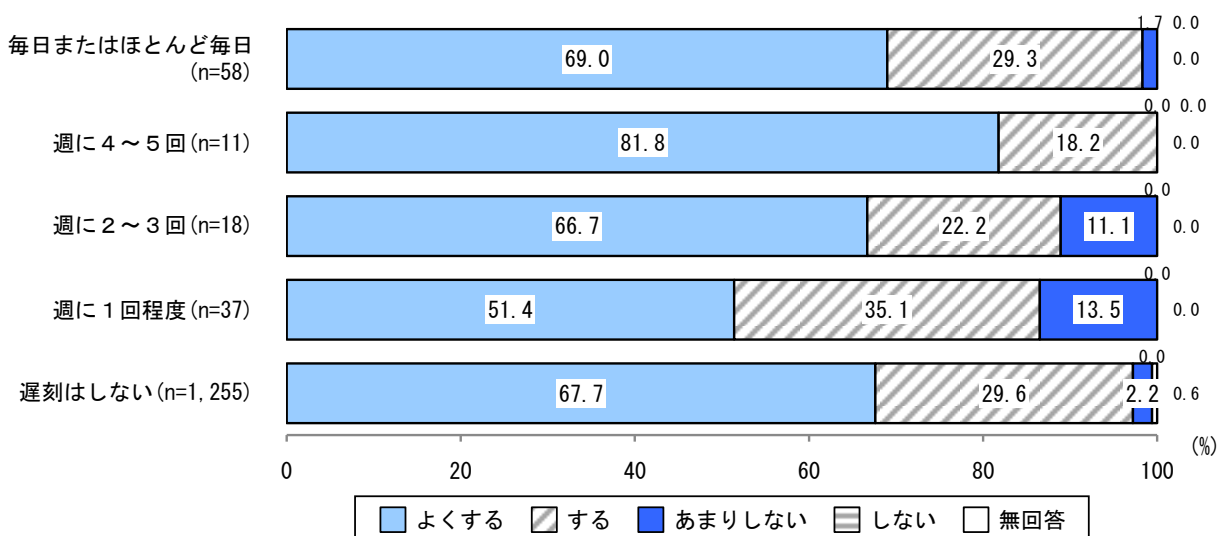
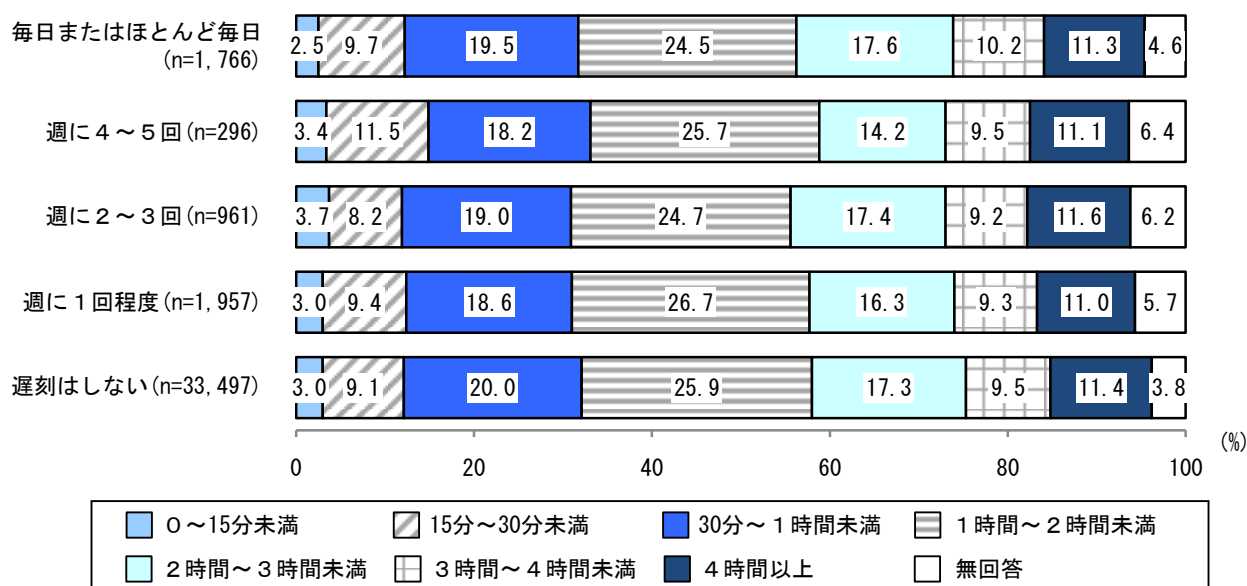


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「週に 4～5 回」の子どもにおいては、会話を「よくする」と回答した割合が最も高く、81.8%である。次いで「毎日またはほとんど毎日」の子どもが69.0%となっている。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

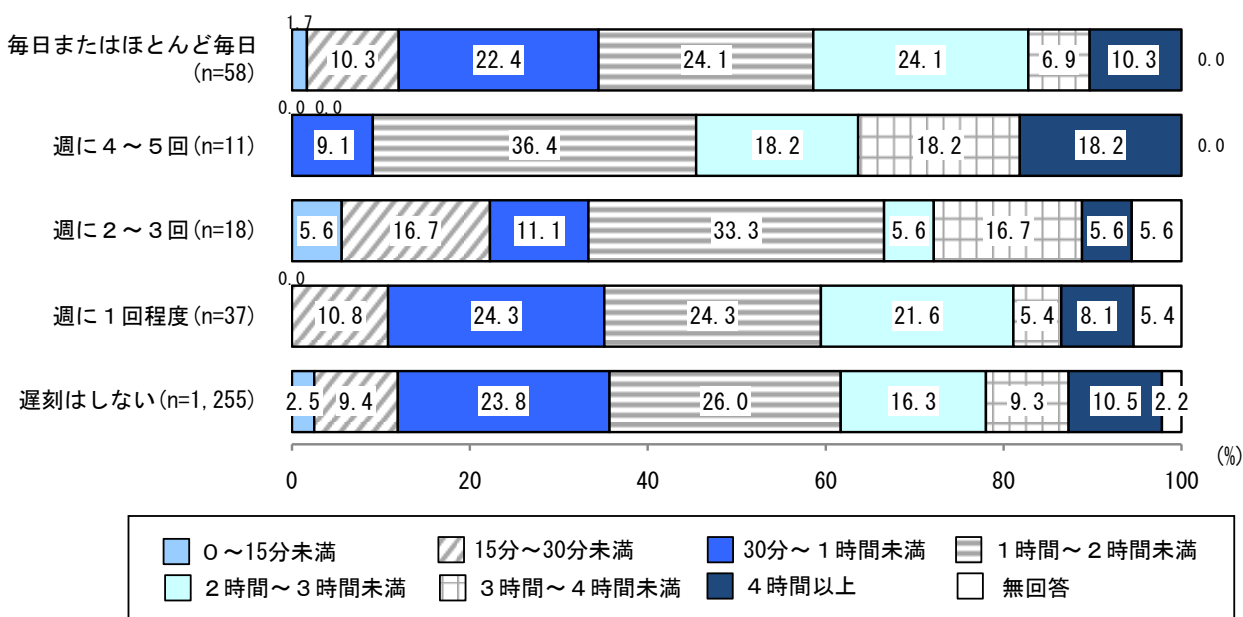
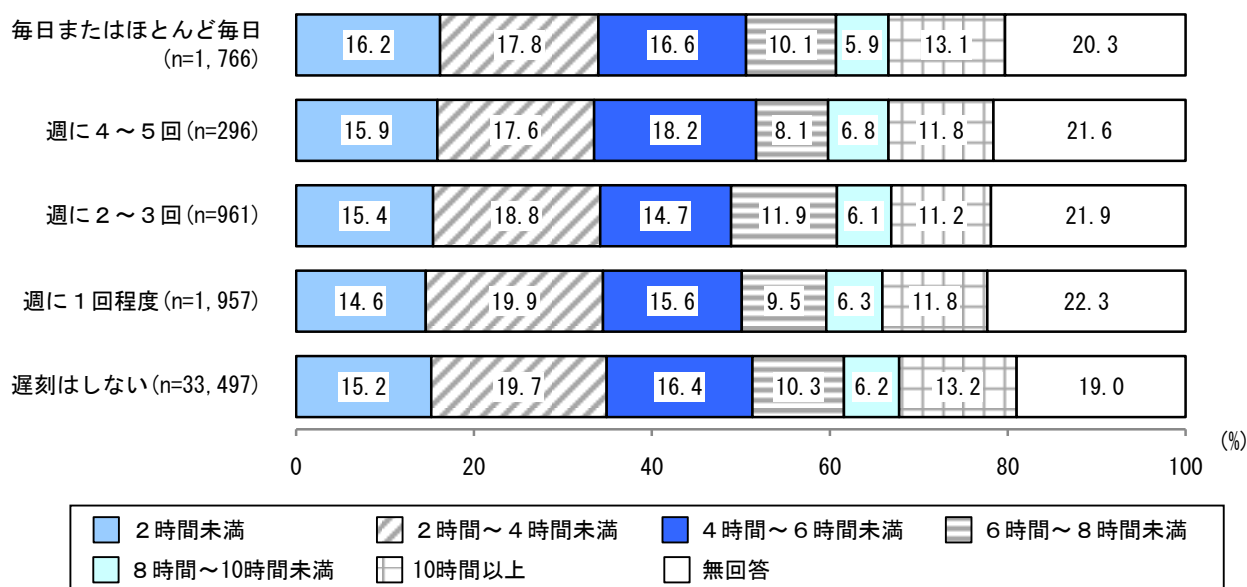


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、週に1回程度では、「0～15分未満」の回答は見られなかった。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

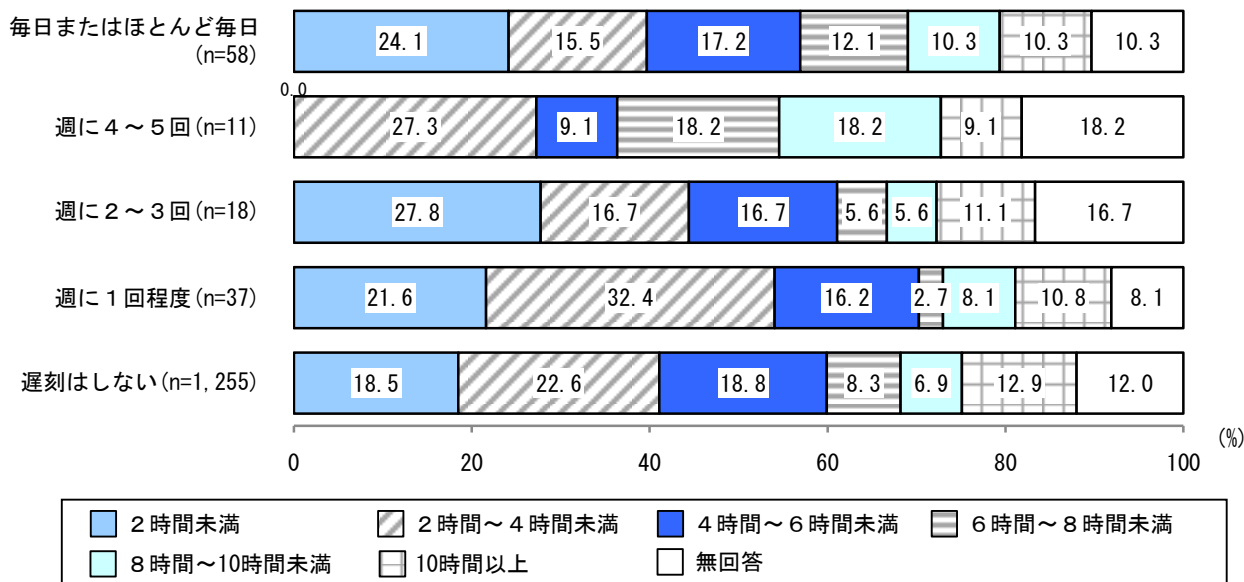
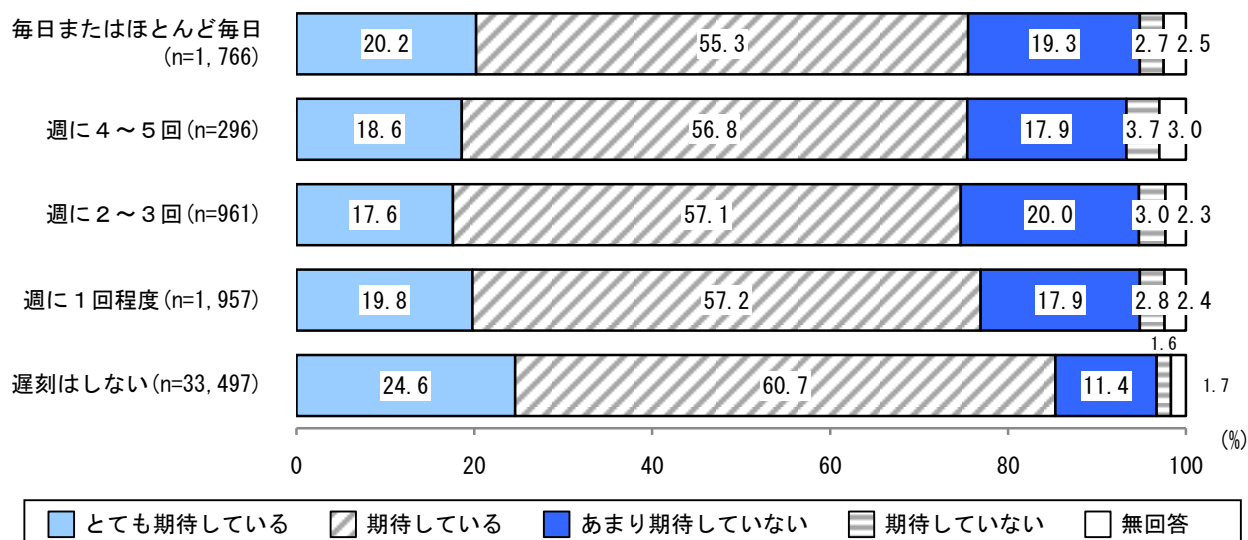


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「10時間以上」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが12.9%で、最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

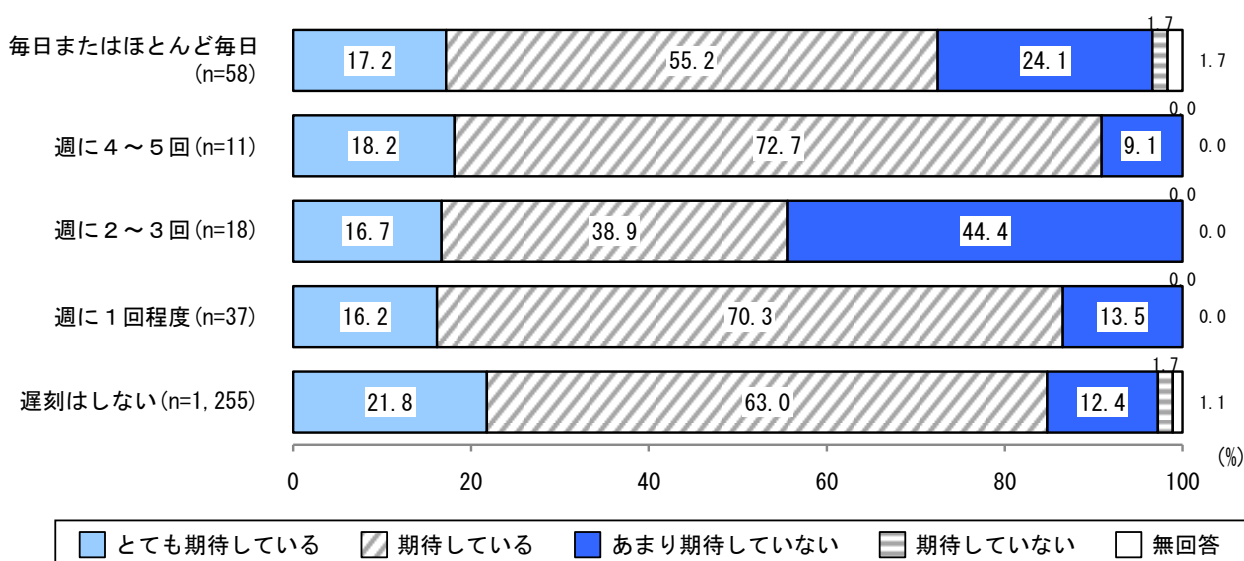
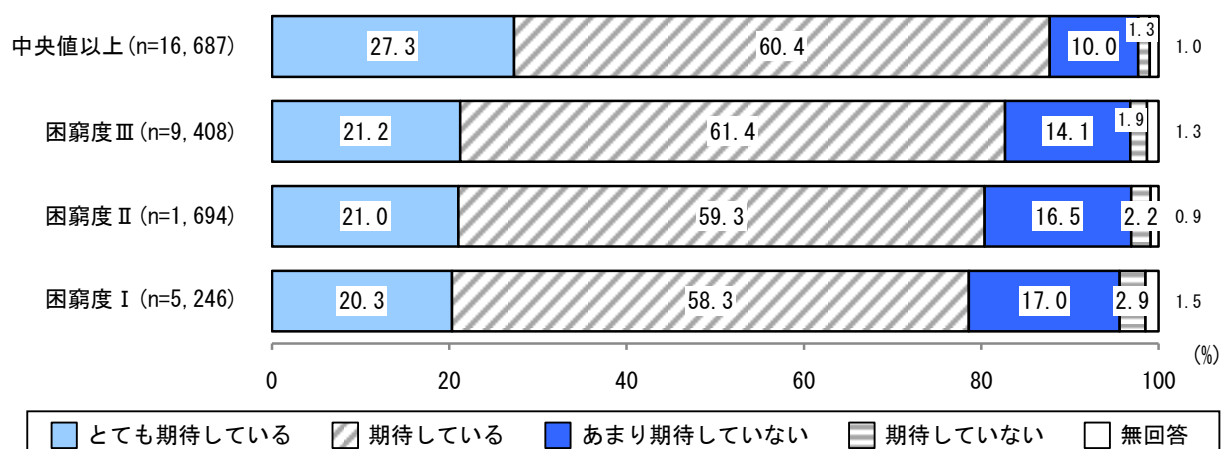


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「遅刻はしない」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が21.8%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

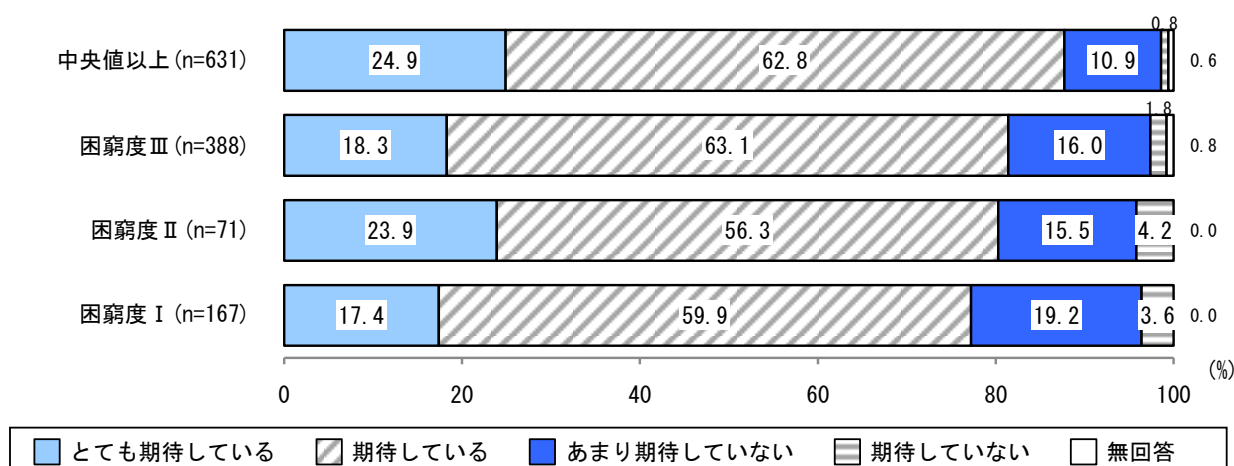
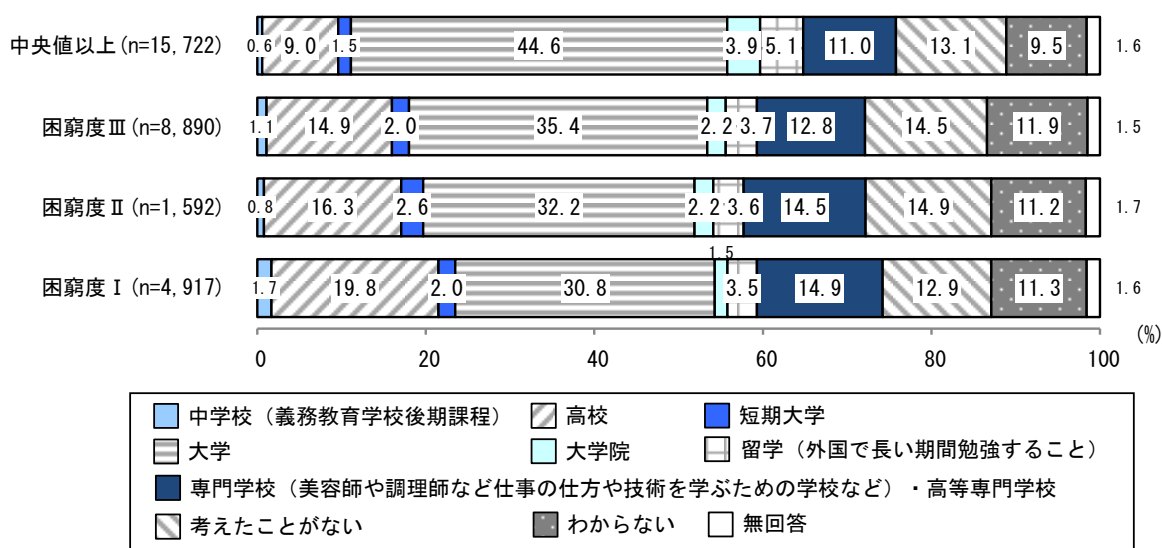


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」の割合は、中央値以上群が24.9%で最も高く、困窮度Ⅰ群が17.4%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<枚方市>

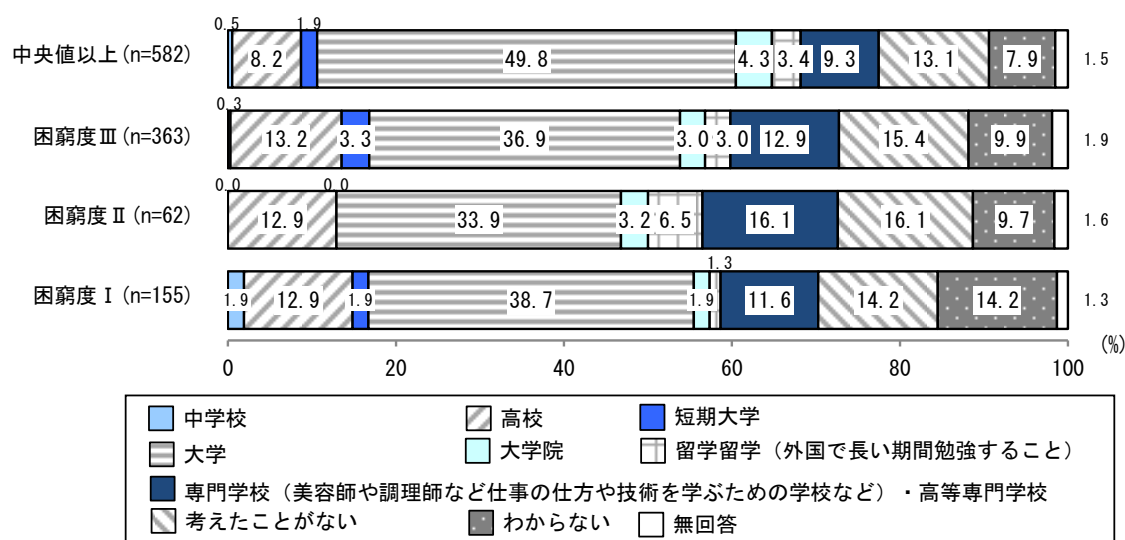
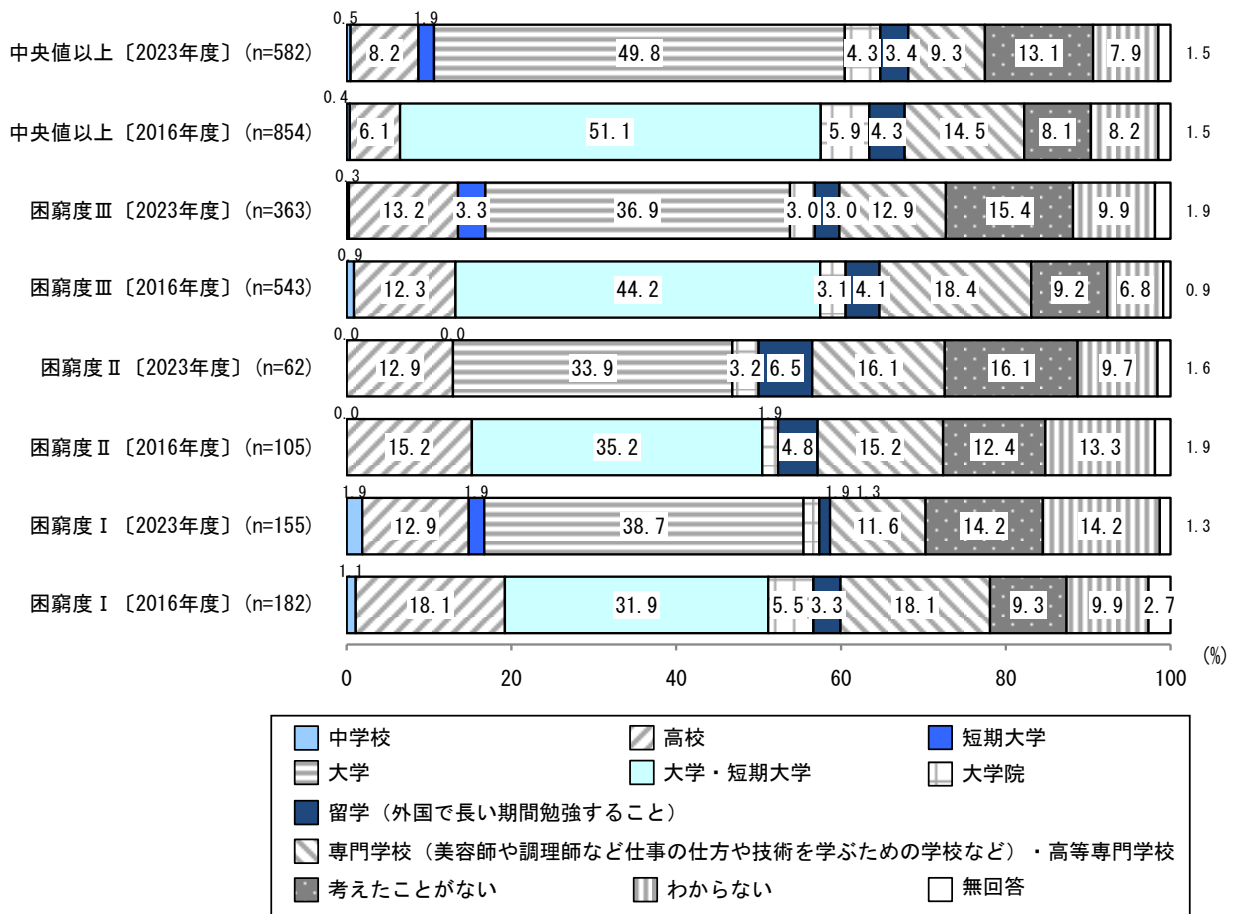


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、中学校卒業までと回答した割合が、困窮度Ⅰ群が1.9%で、最も高くなっている。

<2016 年度調査との比較／枚方市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

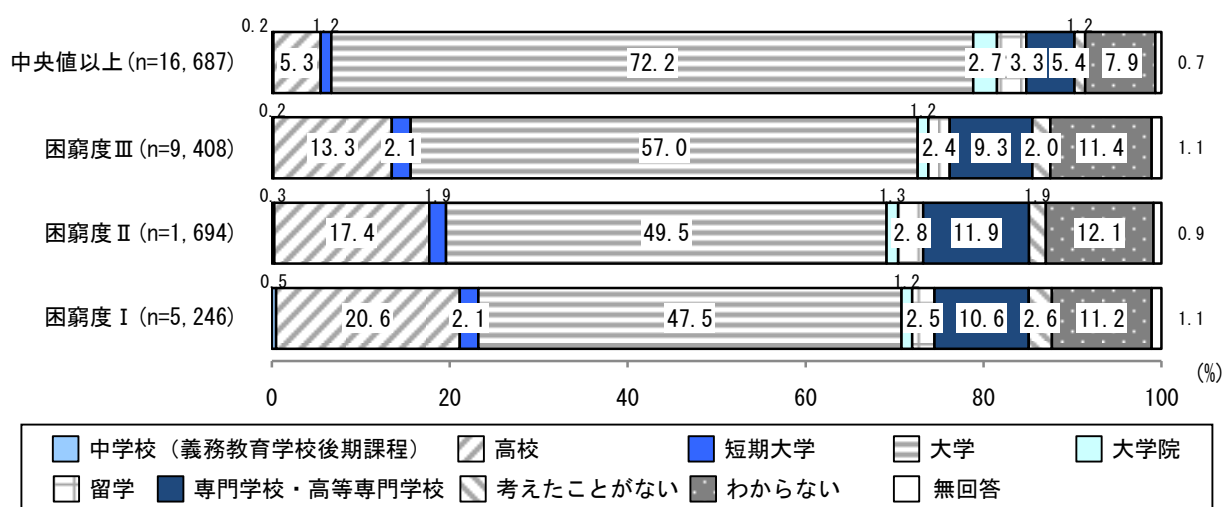
※2 「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「高校」と回答した割合は、中央値以上群、困窮度Ⅲ群では、2016 年度調査と比べて高くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<枚方市>

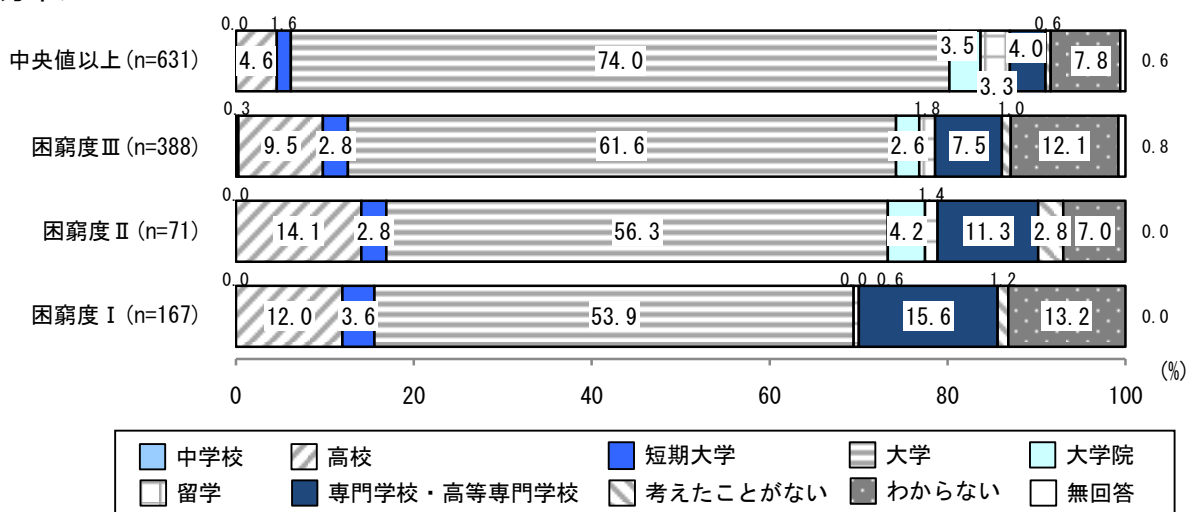
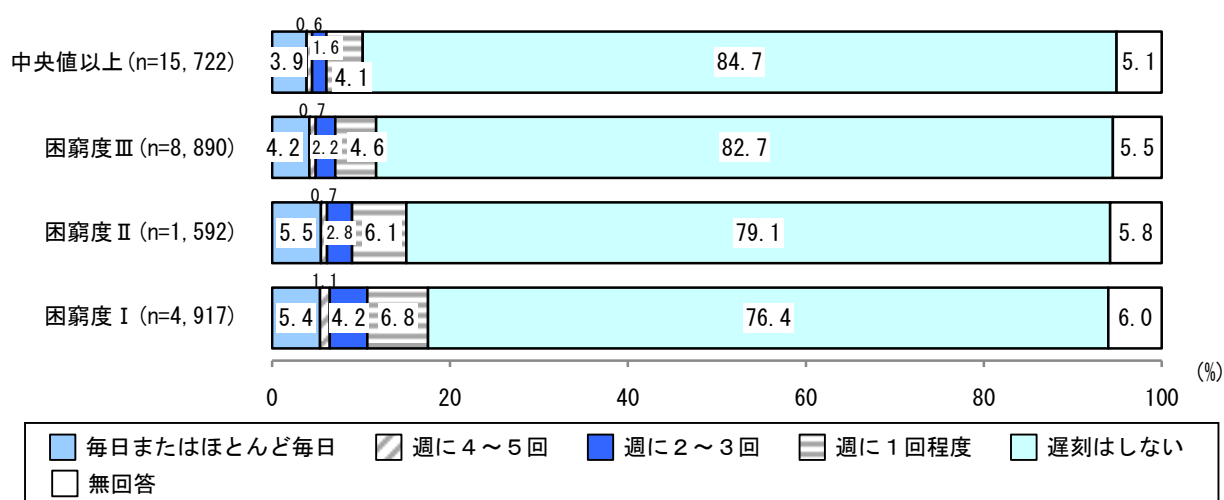


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、「大学」と回答した割合は、中央値以上群が74.0%で最も高く、困窮度Ⅰ群が53.9%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<枚方市>

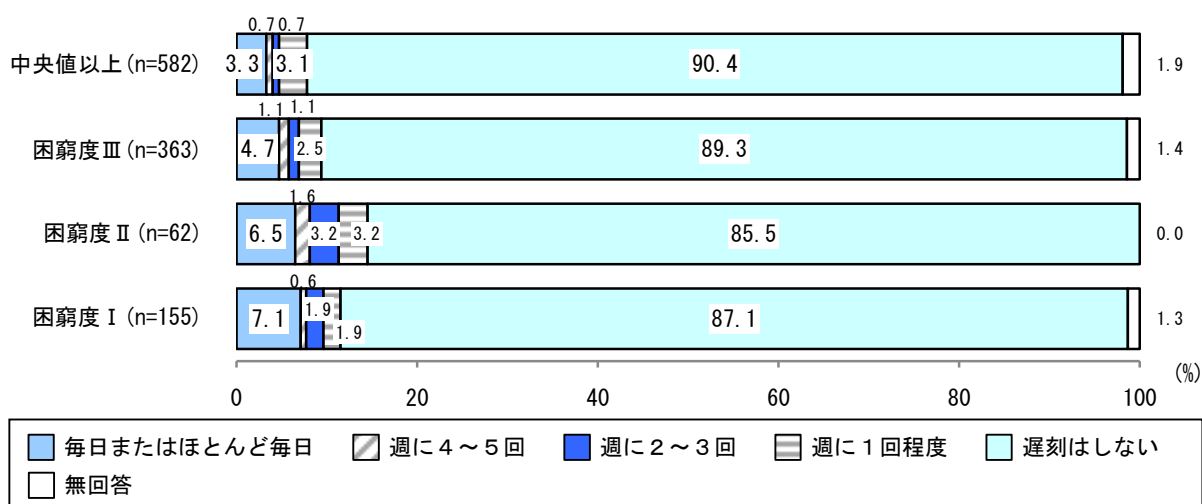
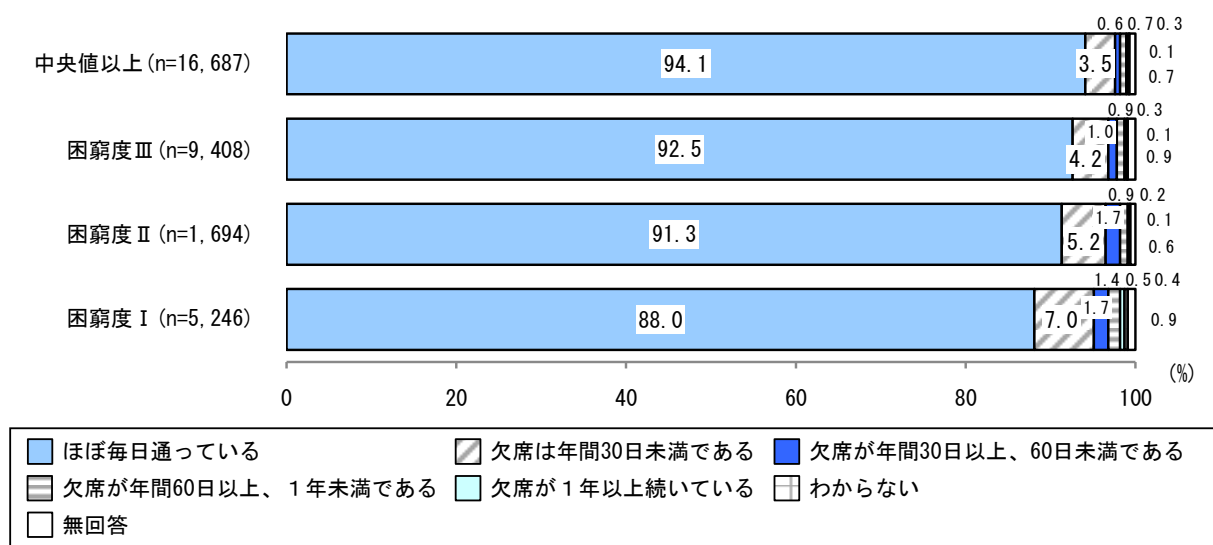


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅰ群が7.1%と最も高くなっている。「週に2～3回」、「週に1回程度」は困窮度Ⅱ群が最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<枚方市>

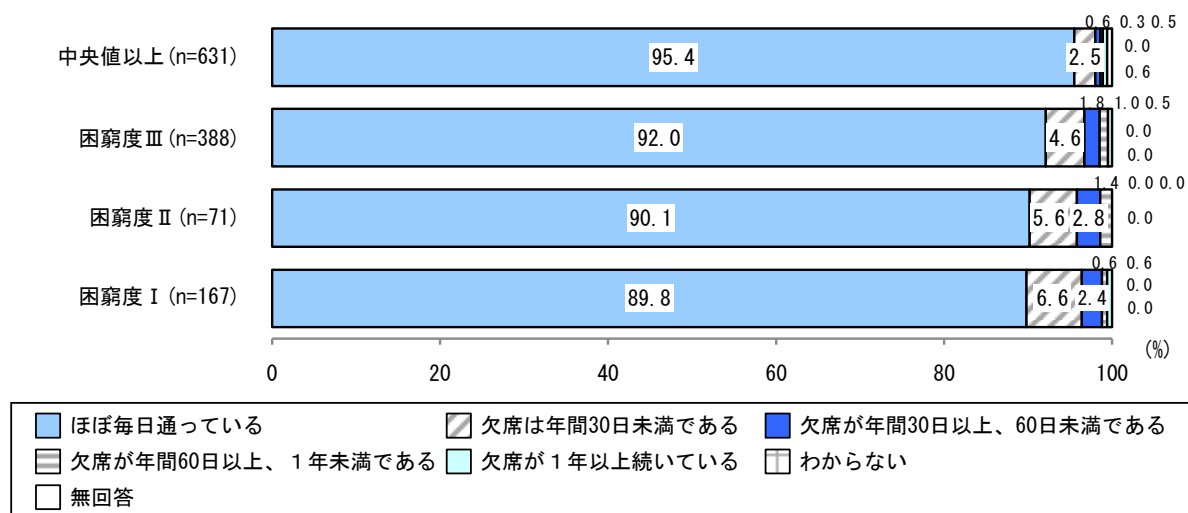
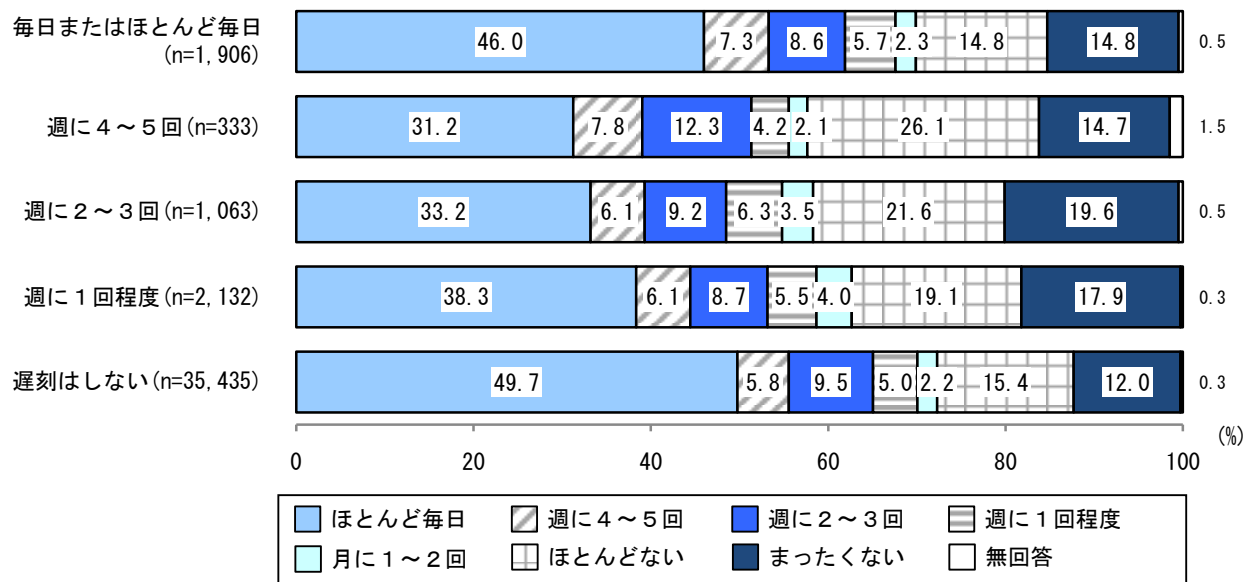


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合が低くなり、困窮度Ⅰ群が89.8%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

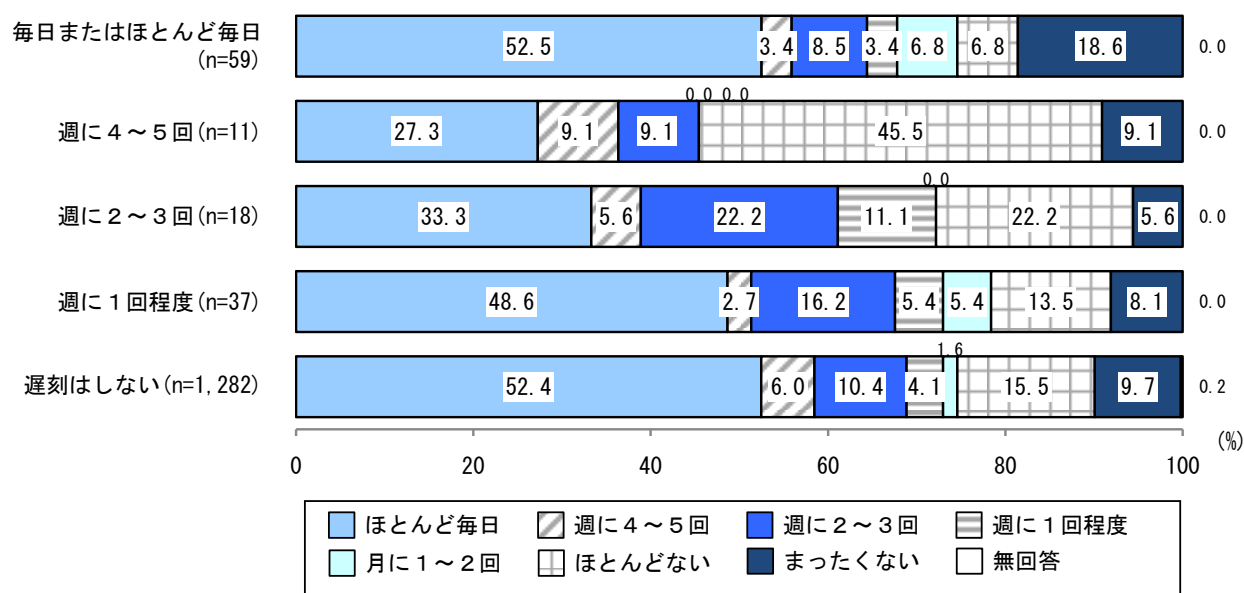
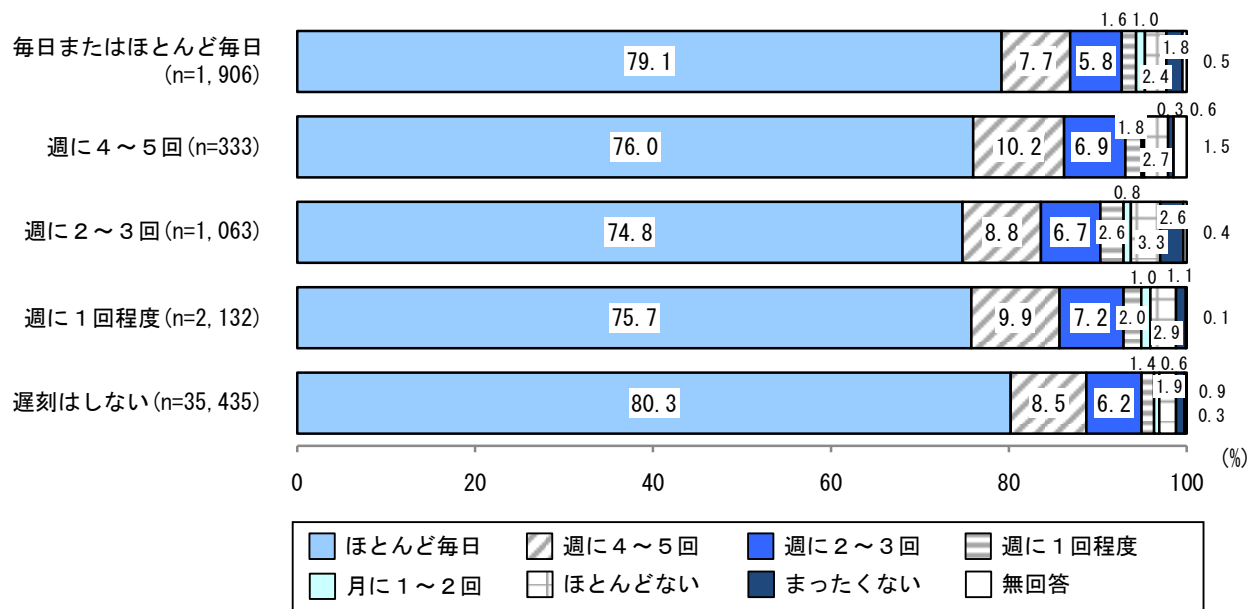


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「まったくない」と回答する割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが18.6%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

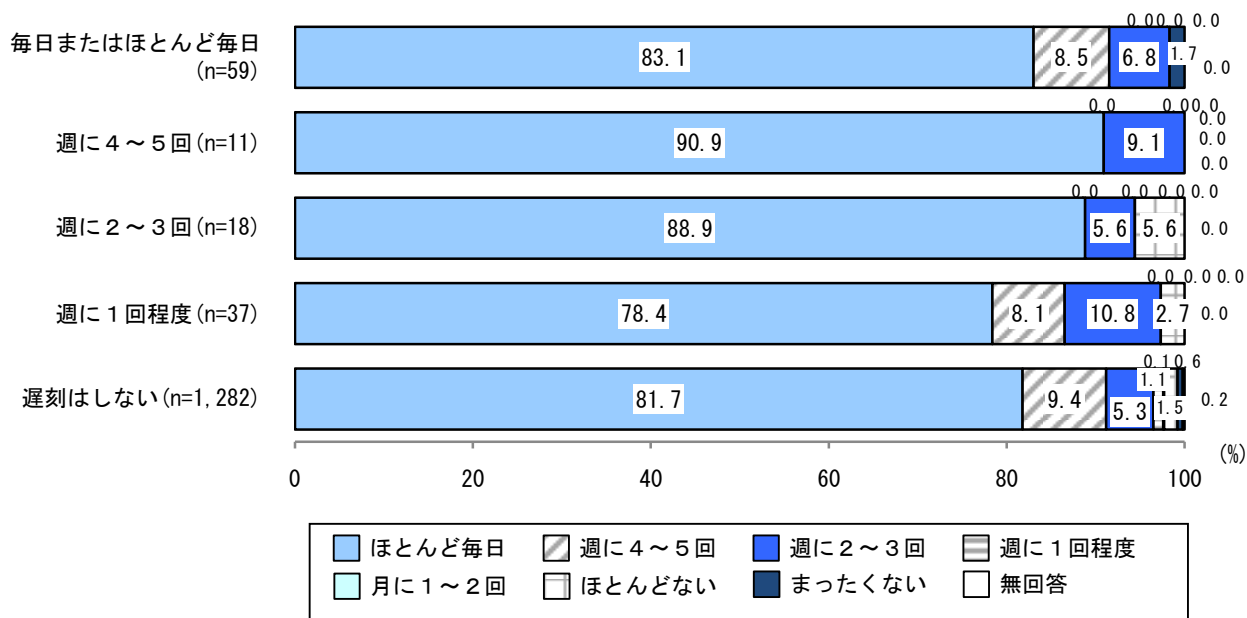
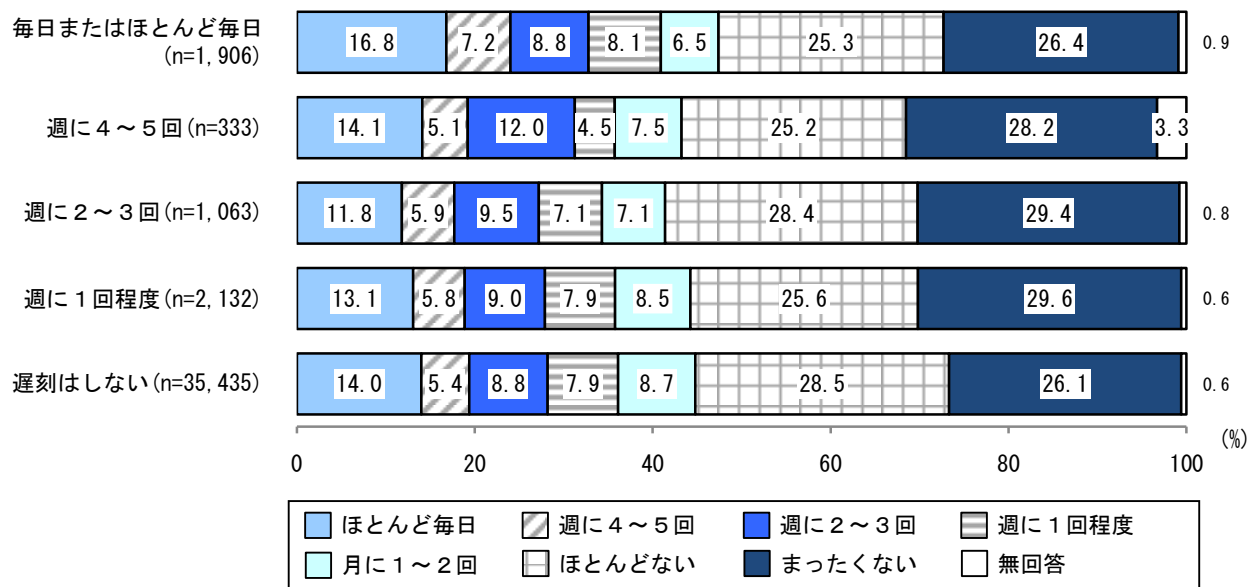


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「まったくない」と回答する割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが1.7%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

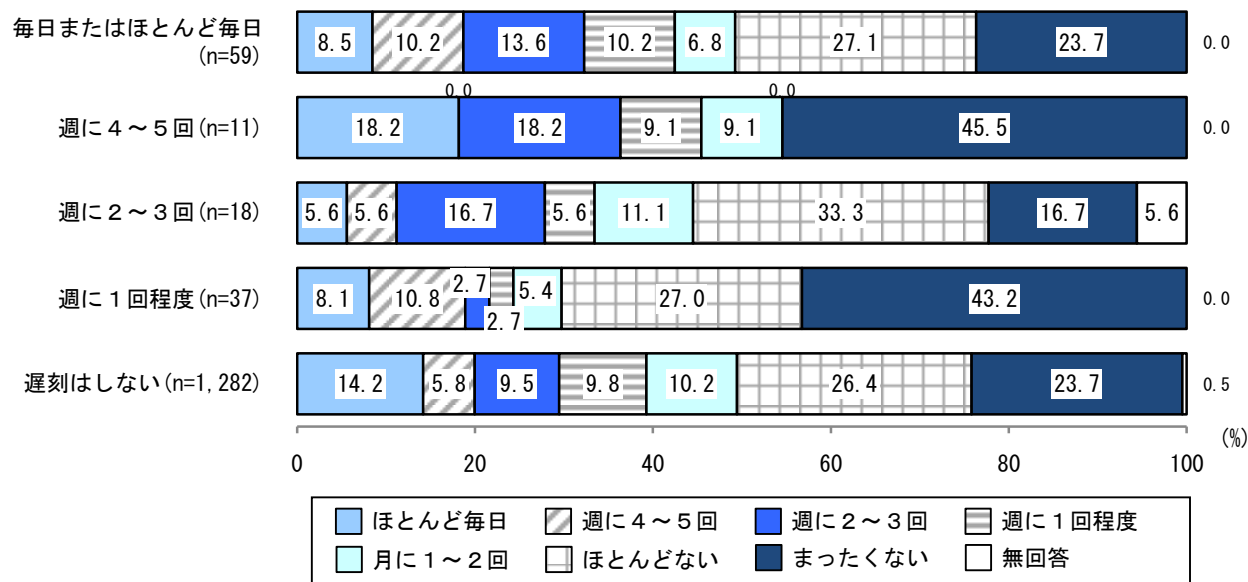
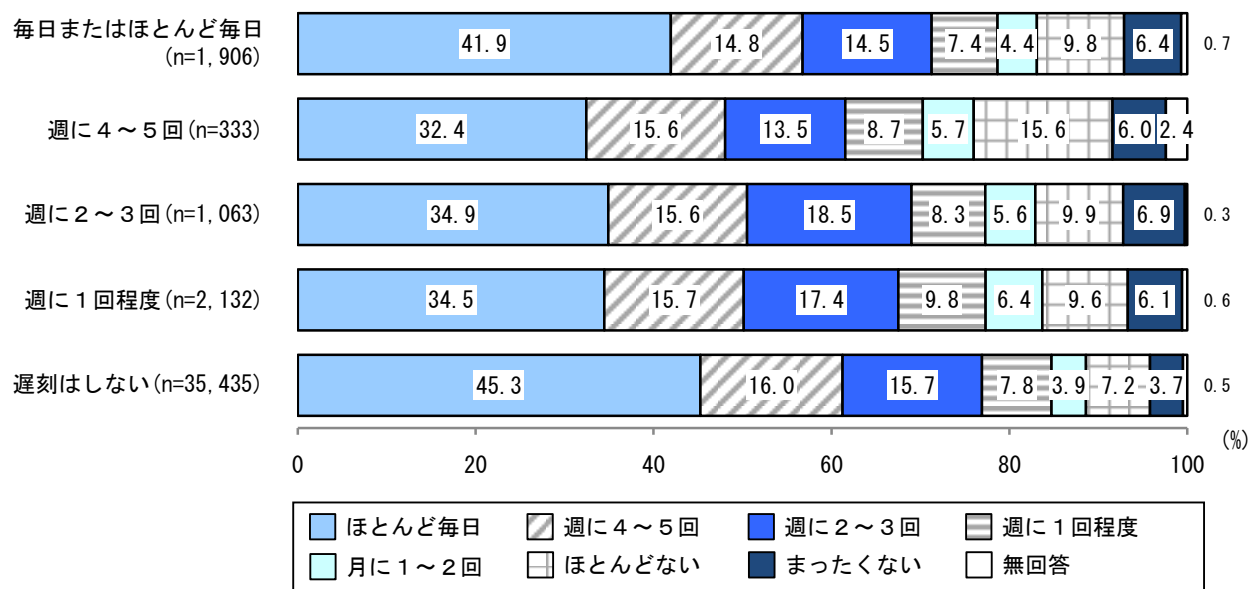


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、週に4～5回遅刻をしている子どもが45.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<枚方市>

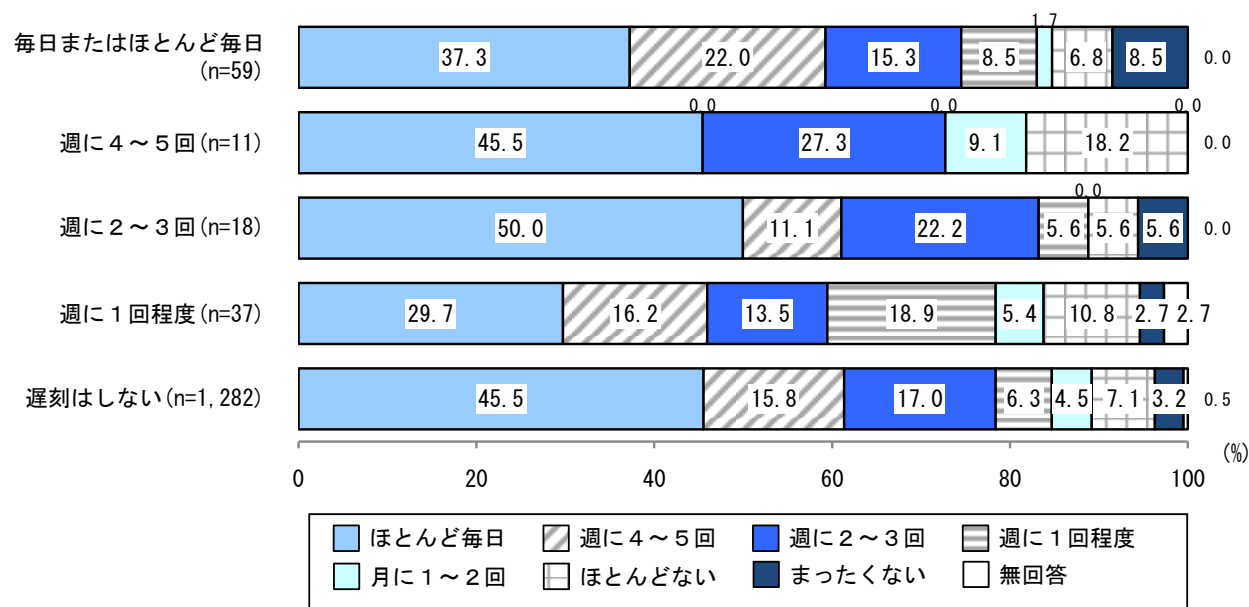
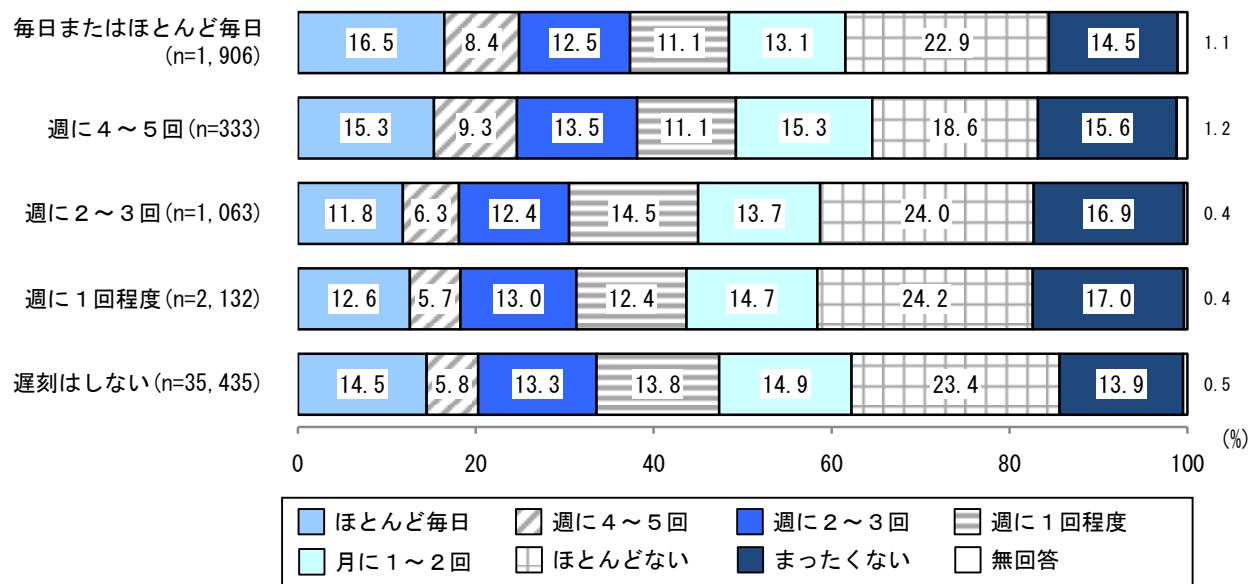


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが8.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<枚方市>

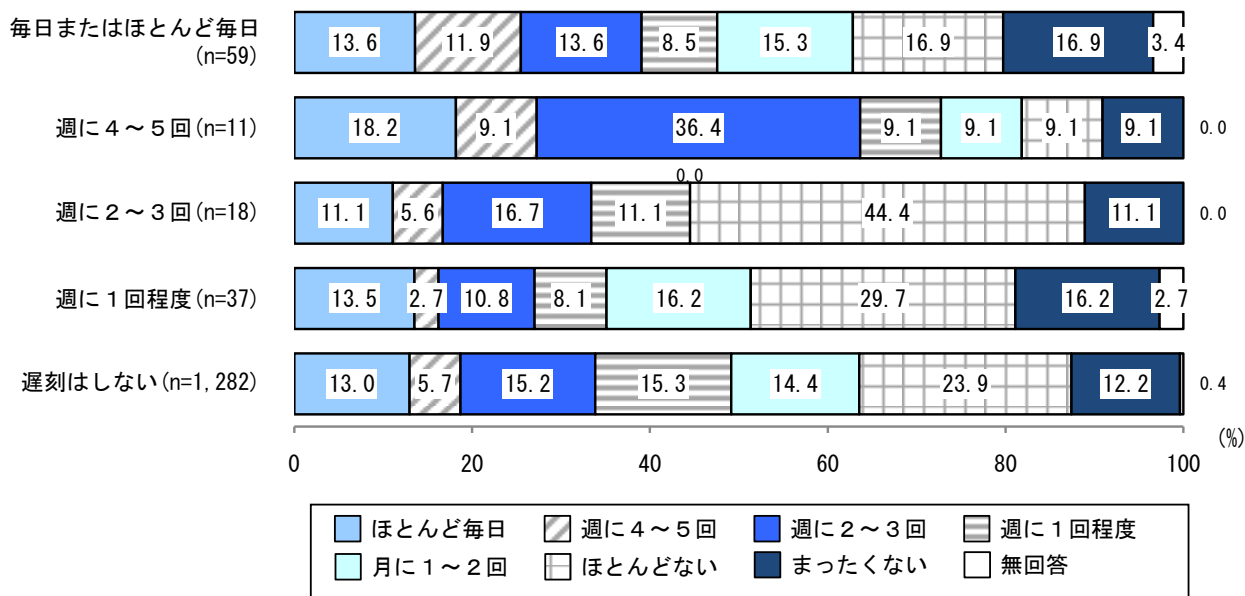
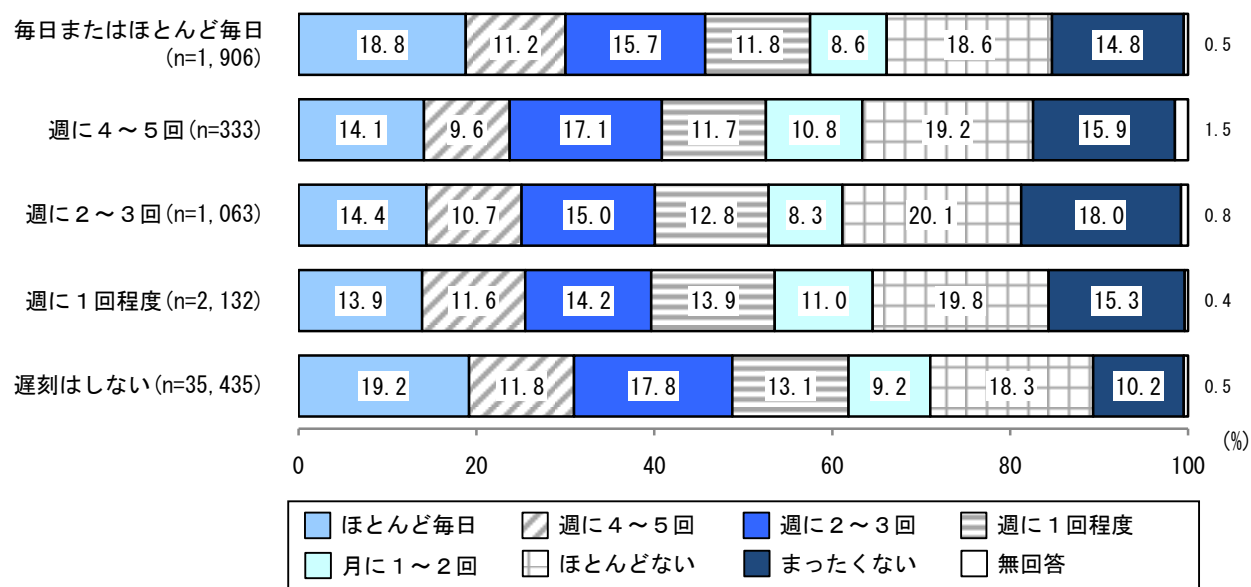


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、週に4～5回遅刻をしている子どもが18.2%で最も高く、一方で、「まったくない」の割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が16.9%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<枚方市>

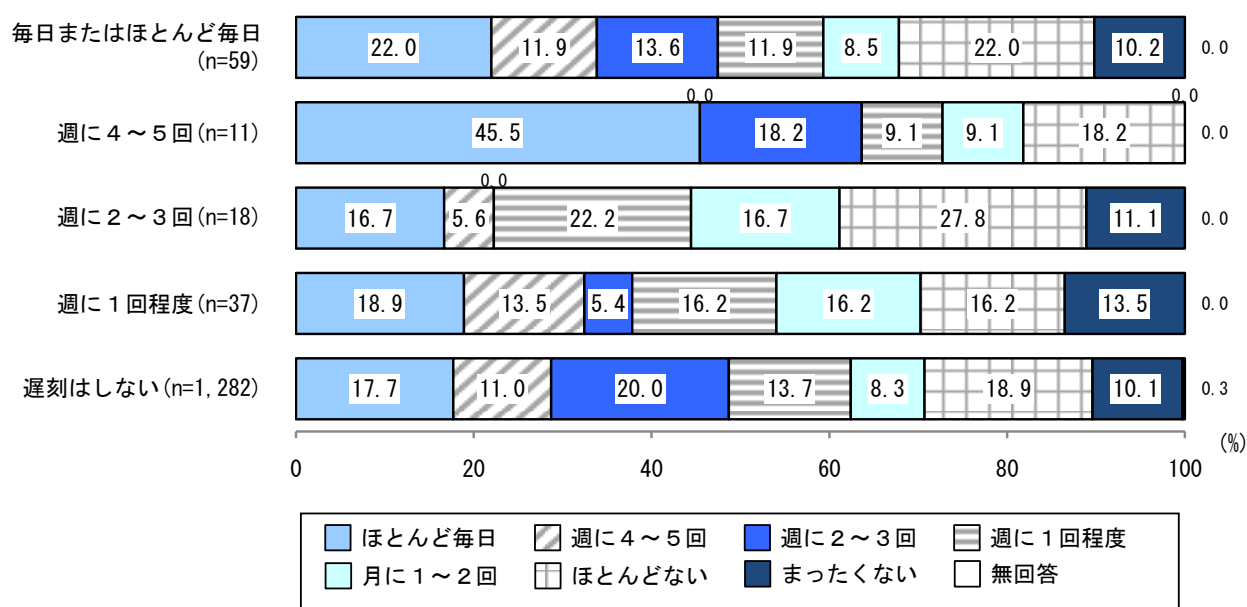
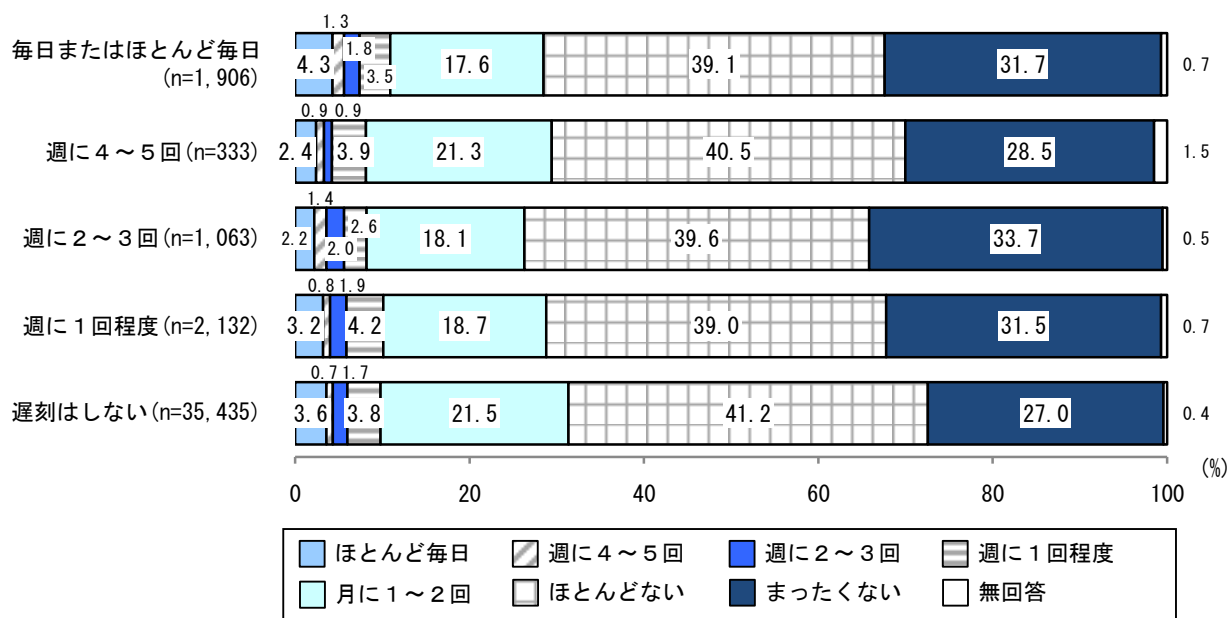


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、週に4～5回遅刻をする子どもが45.5%で最も高く、一方で、「まったくない」の割合は、週に1回程度遅刻をしている子どもが13.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<枚方市>

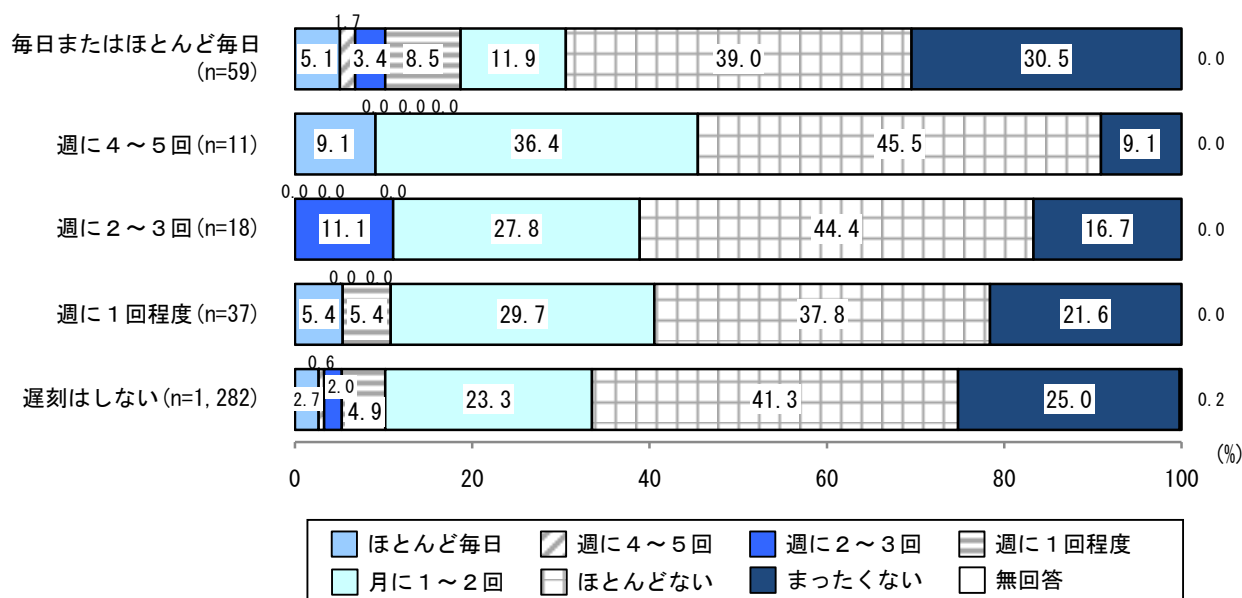
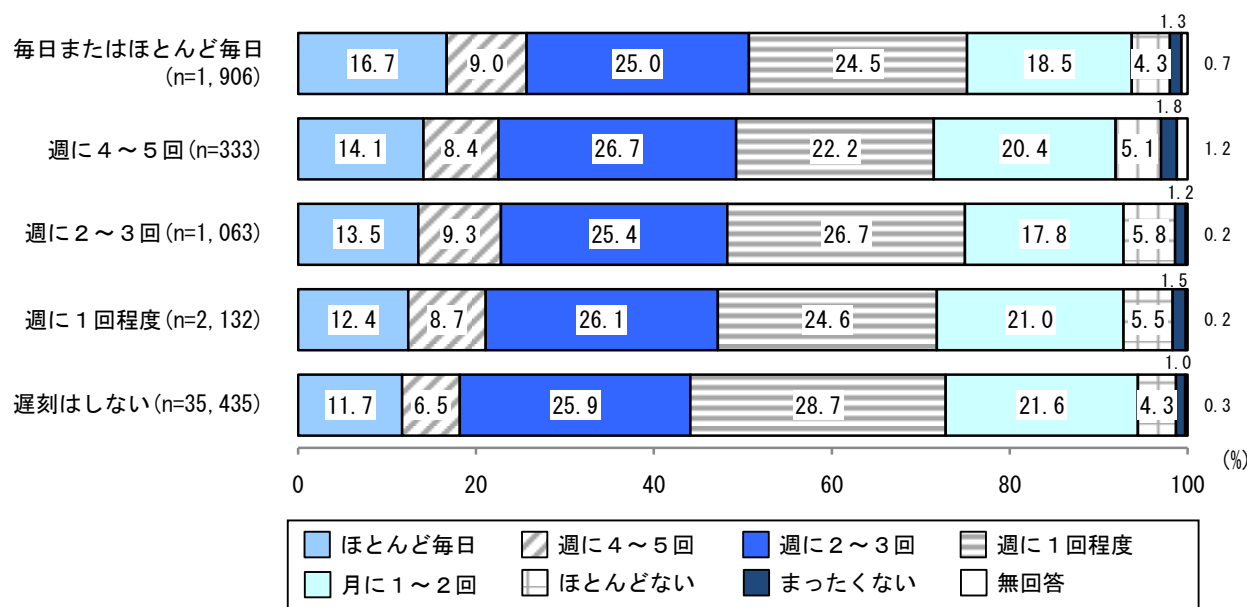


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが30.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<枚方市>

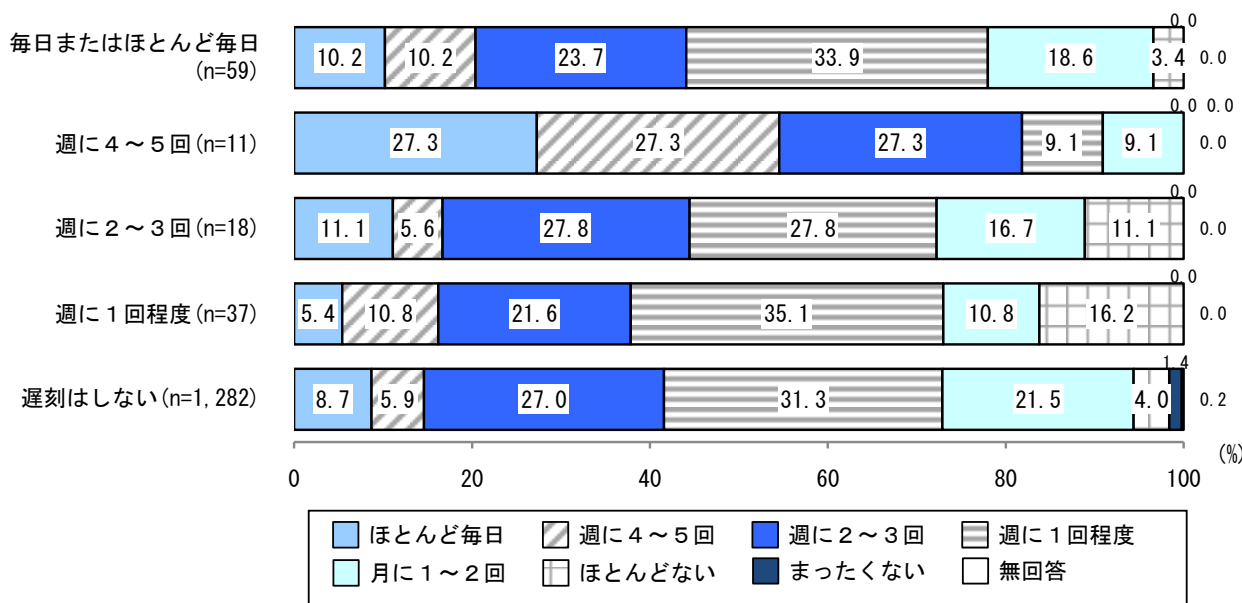
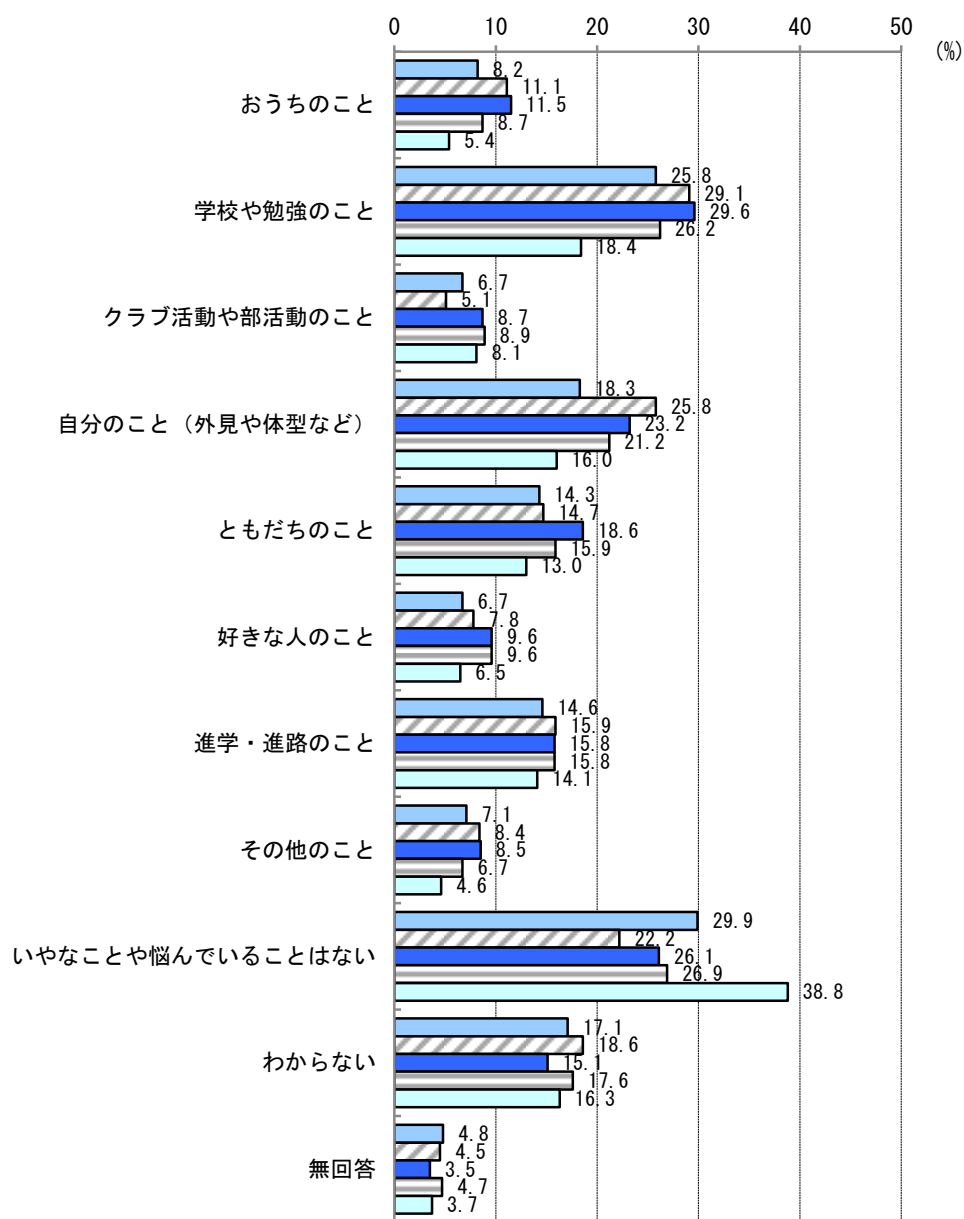


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが27.3%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が16.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<枚方市>

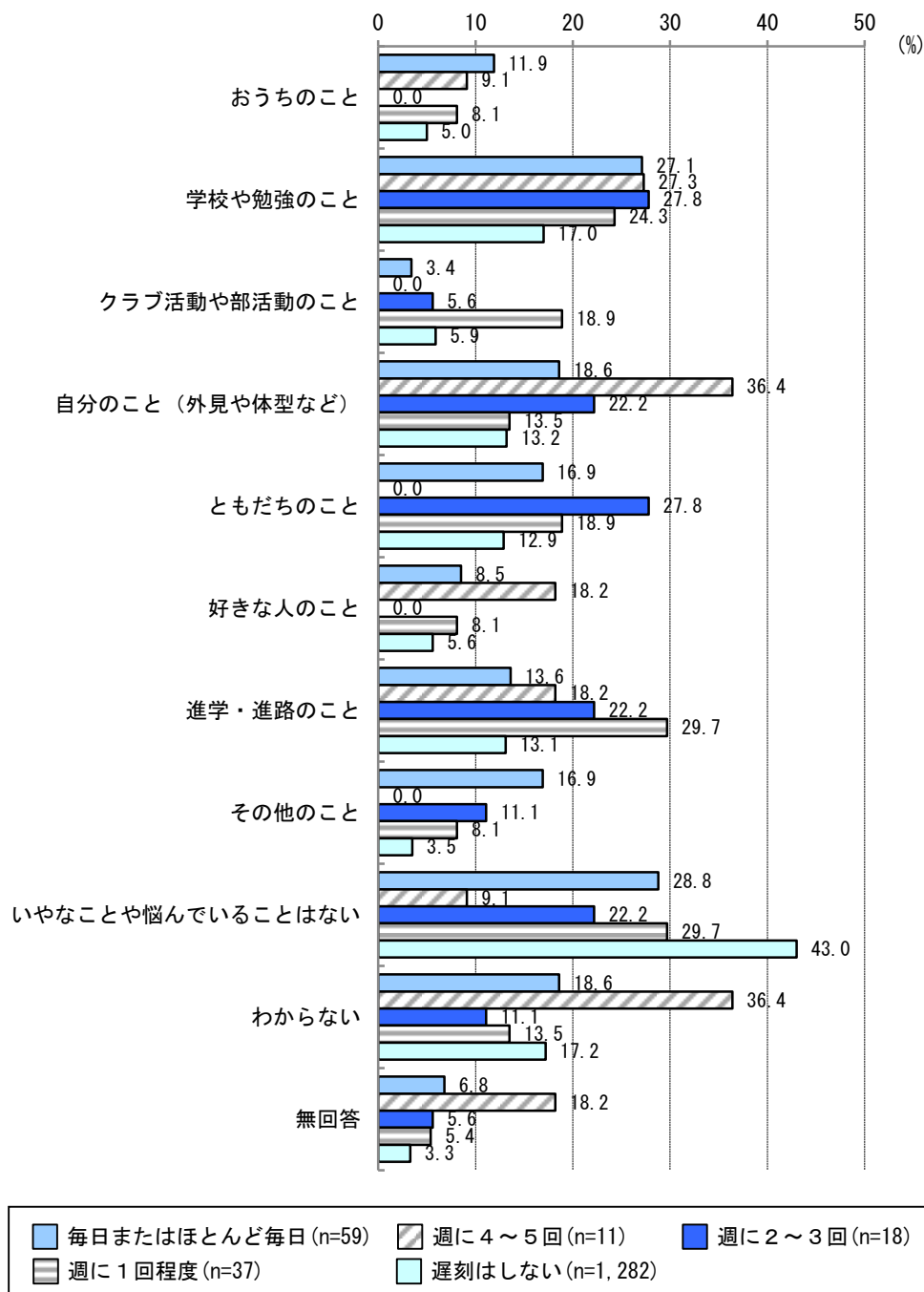
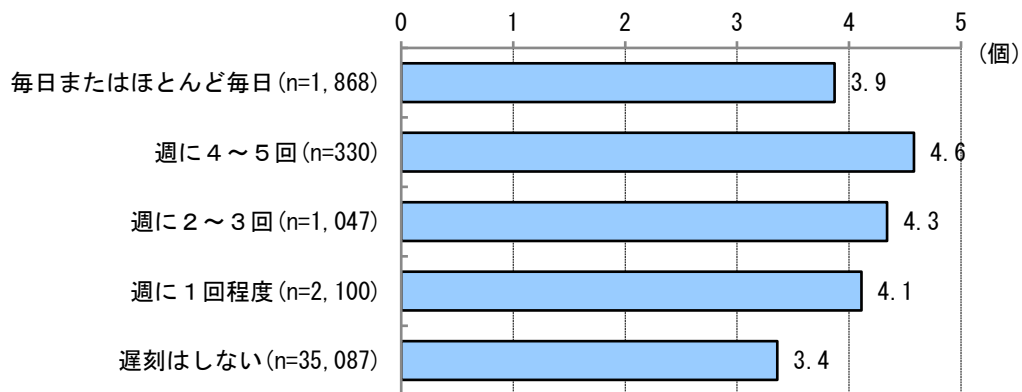


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「おうちのこと」の割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが11.9%で割合が最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」は、遅刻はしない子どもの割合が43.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<枚方市>

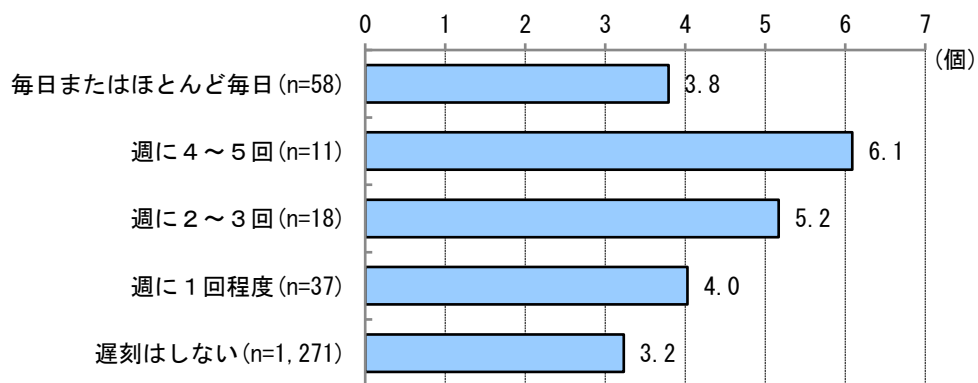
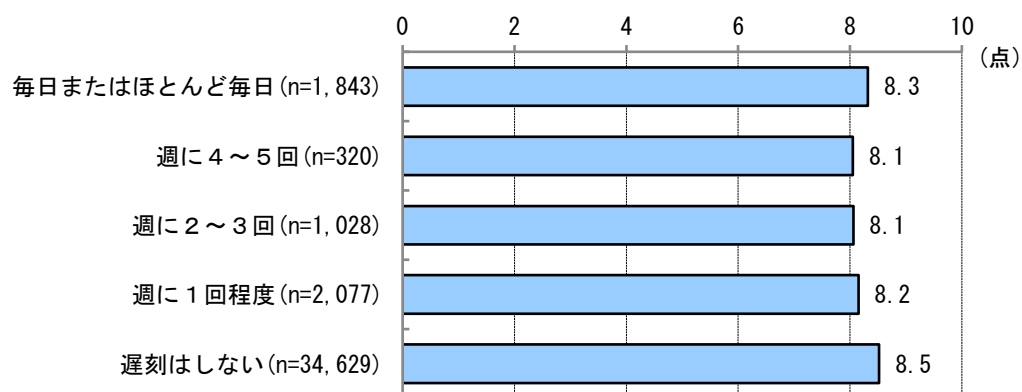


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に4～5回」遅刻をしている子どもが6.1個で最も多く、次いで「週に2～3回」の子どもが5.2個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

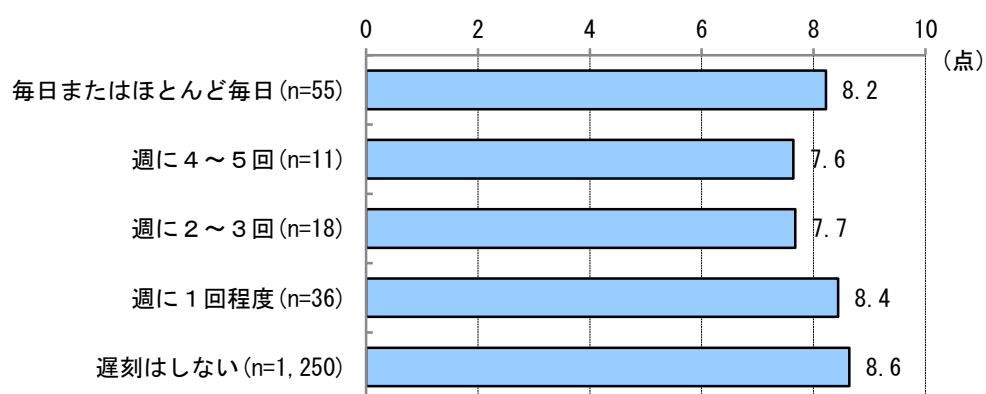
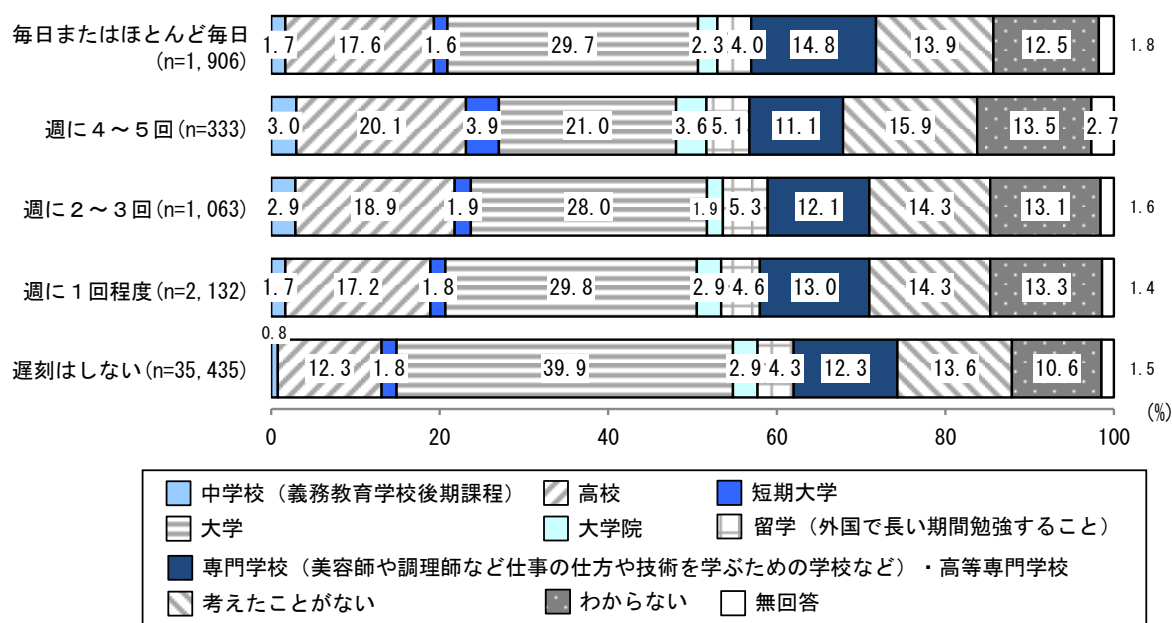


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<枚方市>

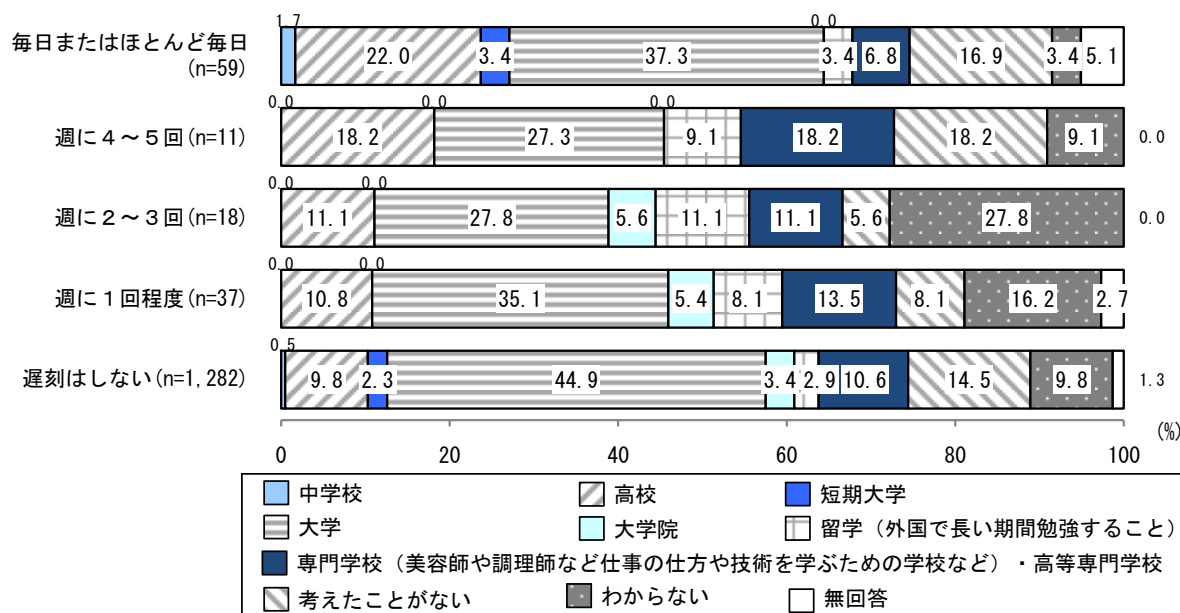
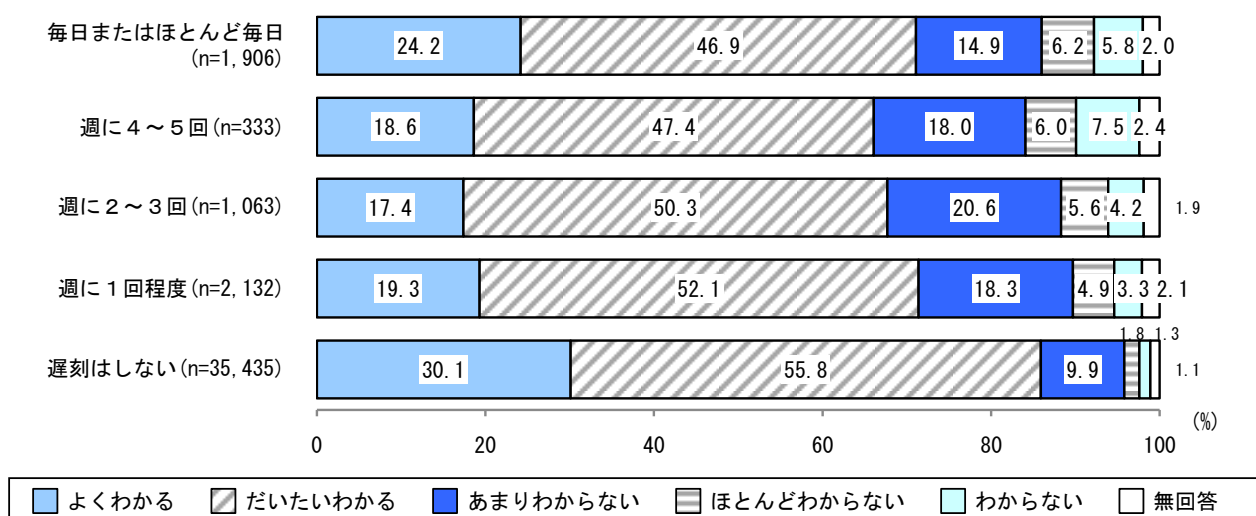


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」では遅刻はしない子どもの割合が44.9%で、最も高くなっている。また、遅刻の頻度が高くなるにつれ、「高校」と回答した割合が高くなっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

＜大阪府内全体＞



＜枚方市＞

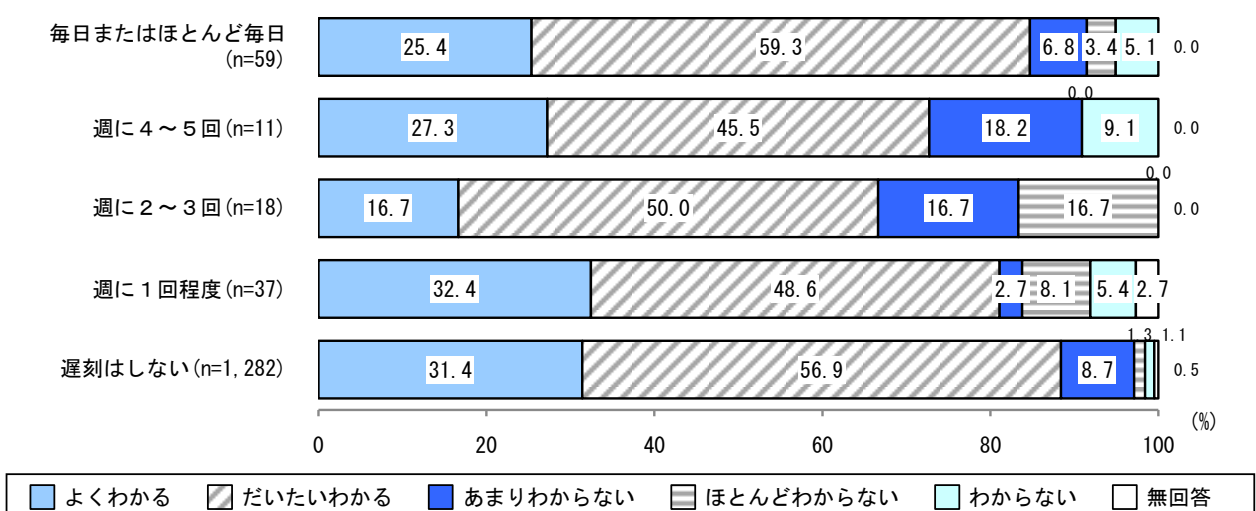
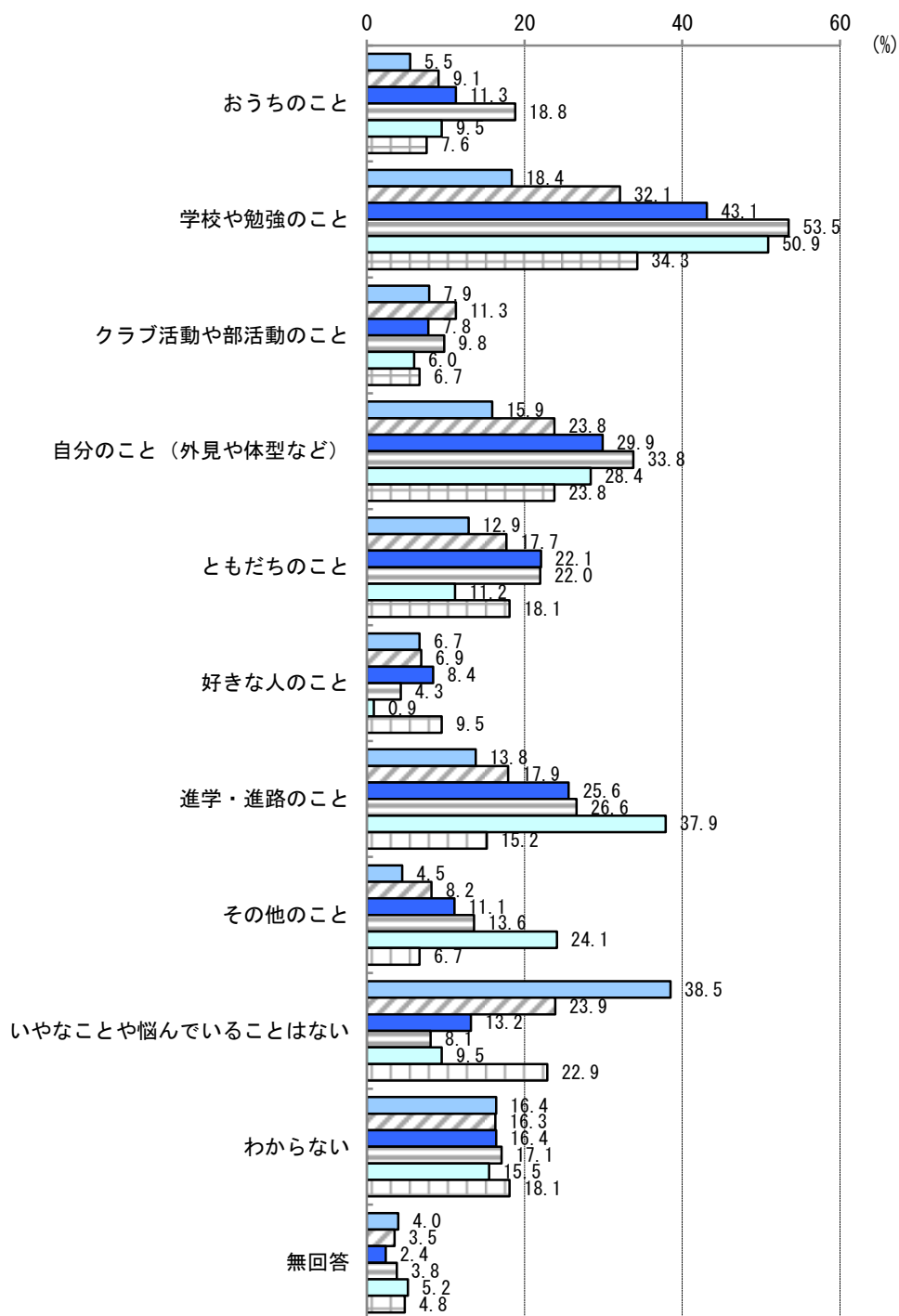


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は、週に1回程度遅刻をする子どもの割合が32.4%で最も高く、「わからない」は、週に4～5回遅刻をする子どもの割合が9.1%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661)
 ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
 ■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371)
 ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
 ■ 欠席が1年以上続いている (n=116)
 ■ わからない (n=105)

<枚方市>

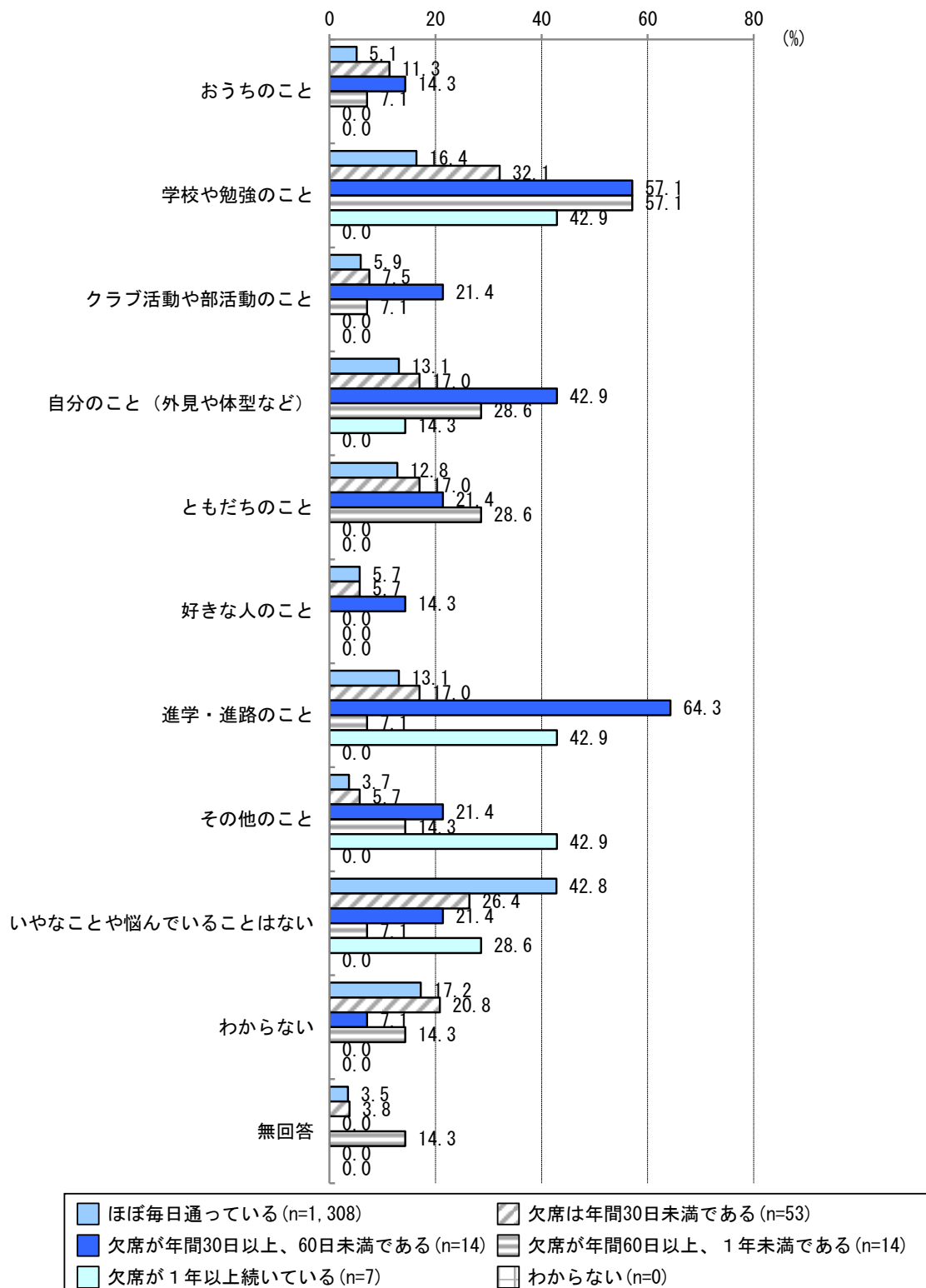
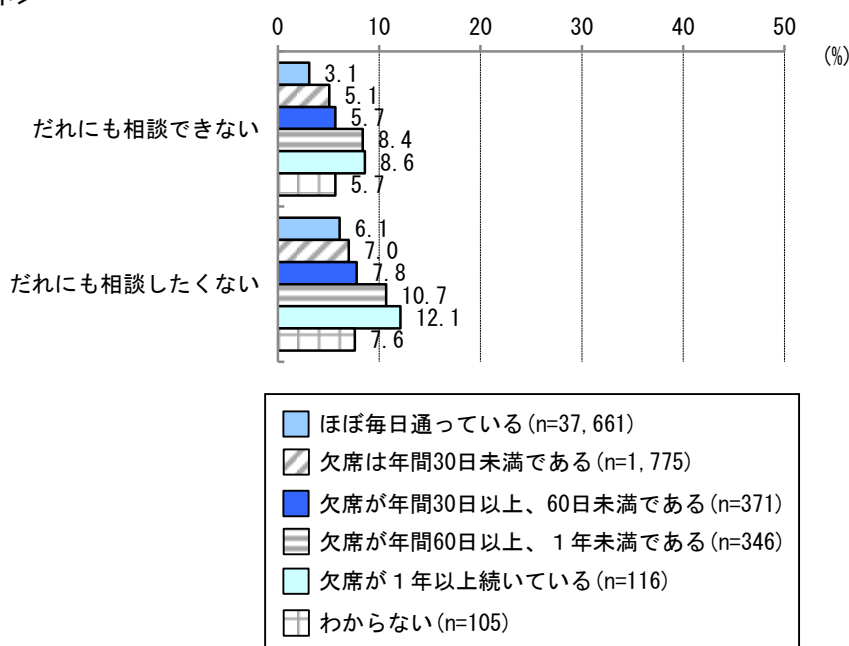


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合は、「ほぼ毎日通っている」が42.8%で最も高く、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が7.1%で最も低くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

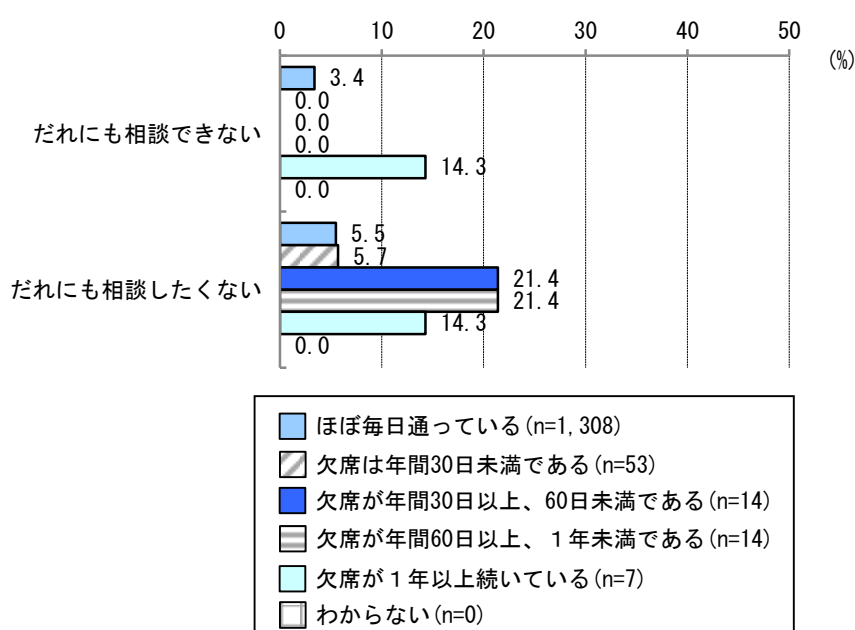
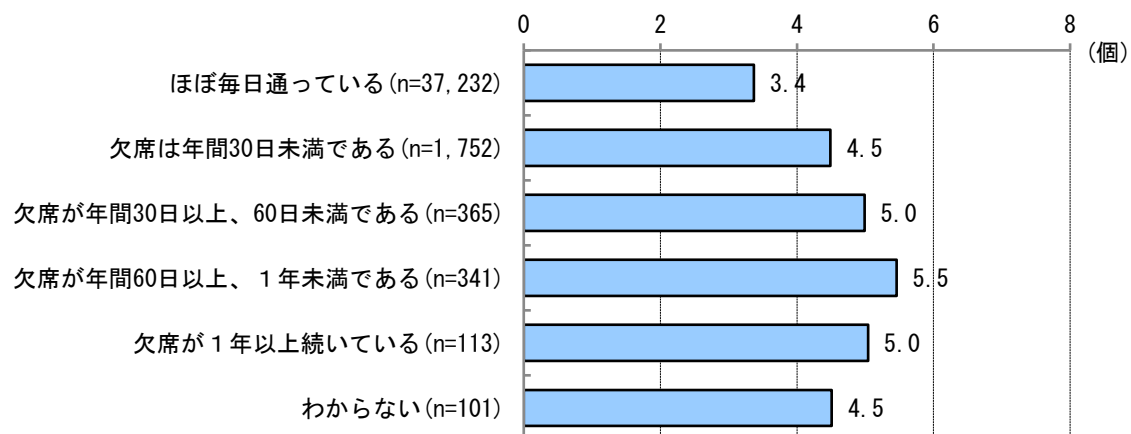


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」と回答した人の割合は、欠席が1年以上続いている人が14.3%で最も高く、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は、欠席が年間30日以上、60日未満であると欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した割合がともに21.4%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<枚方市>

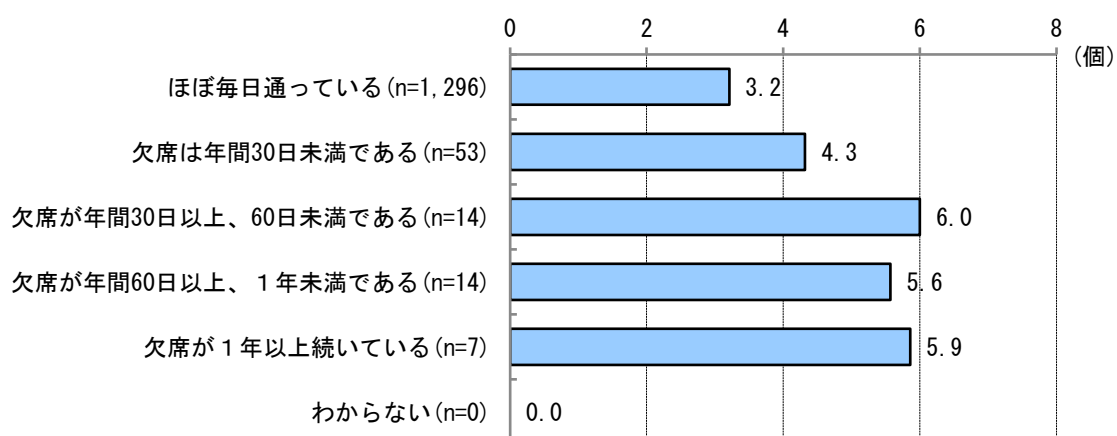
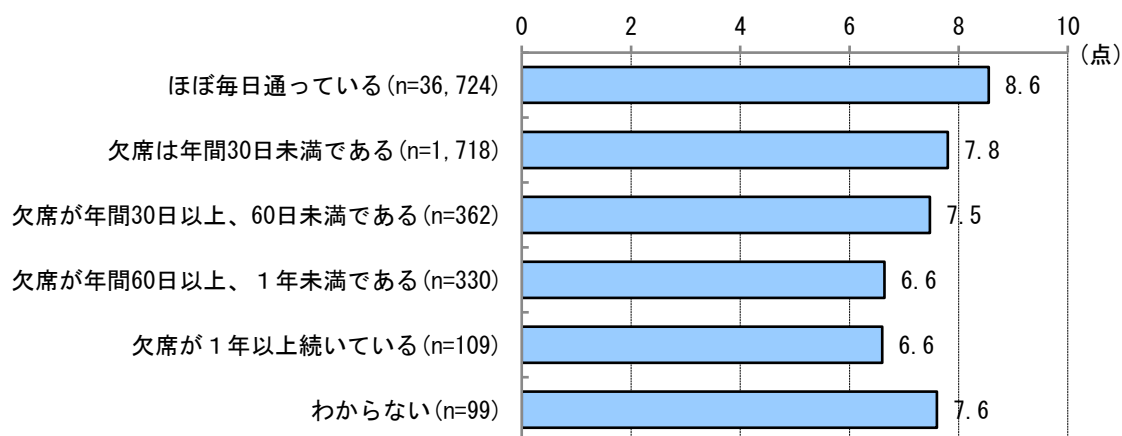


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「欠席が年間30日以上、60日未満である」と回答した人が6.0個で最も多く、次いで「欠席が1年以上続いている」と回答した人が5.9個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

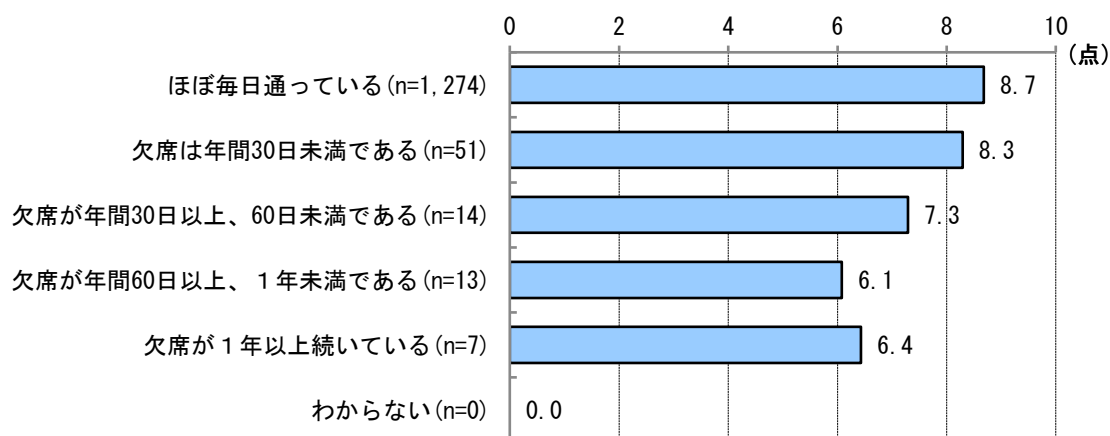
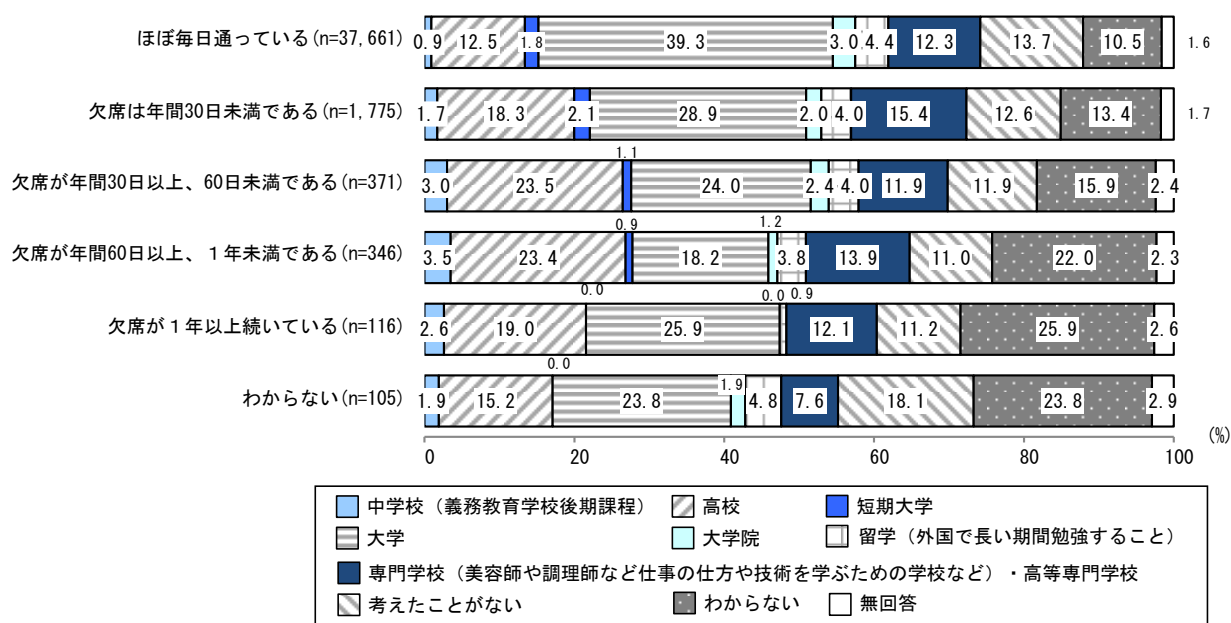


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人は8.7点で最も高く、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人は6.1点で最も低くなっている。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<枚方市>

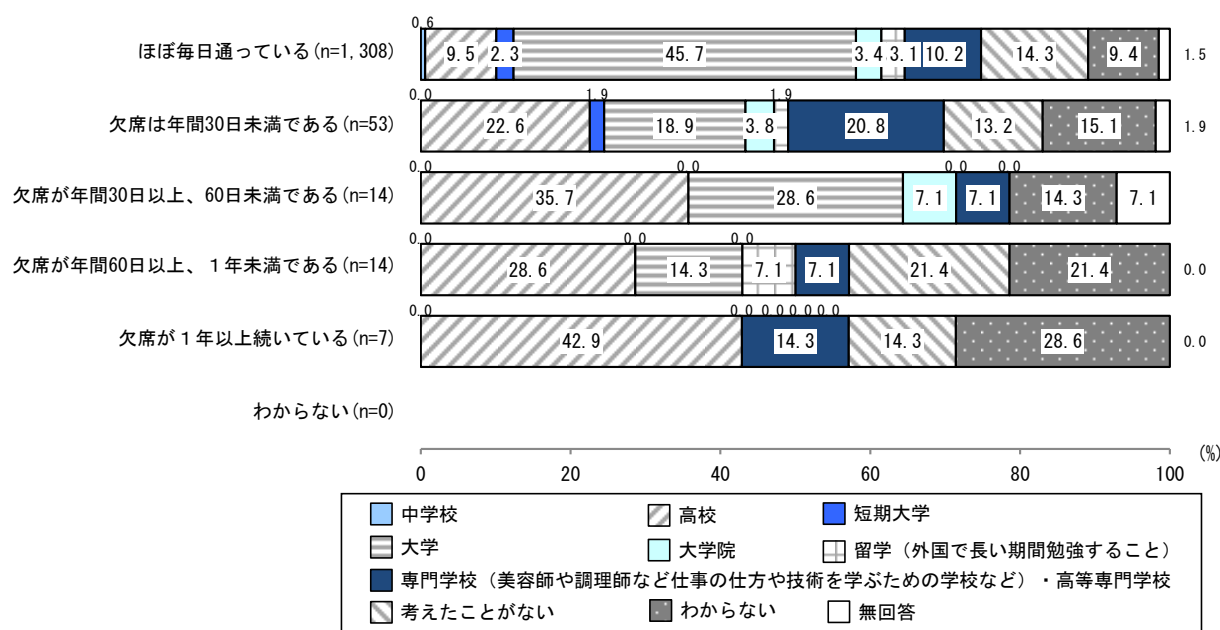
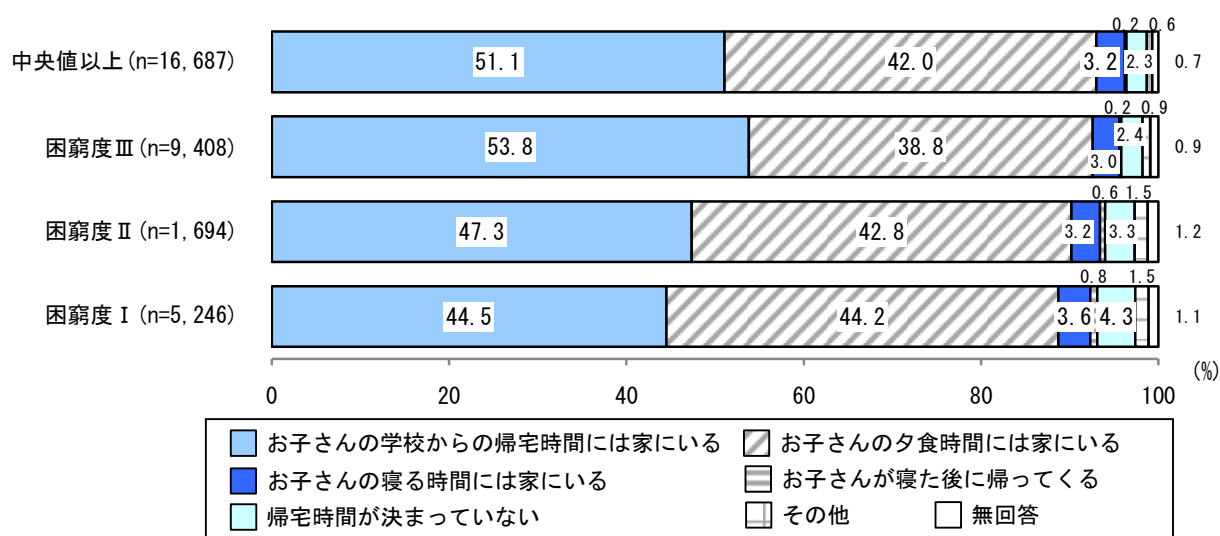


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した人の割合が45.7%で最も高く、「高校」は欠席が1年以上続いていると回答した人の割合が、42.9%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<枚方市>

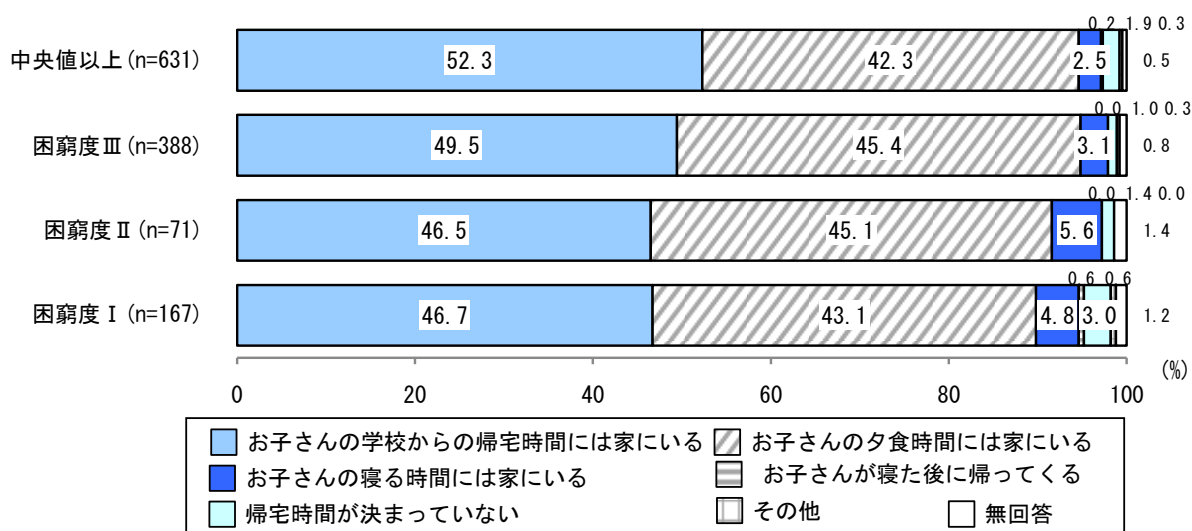
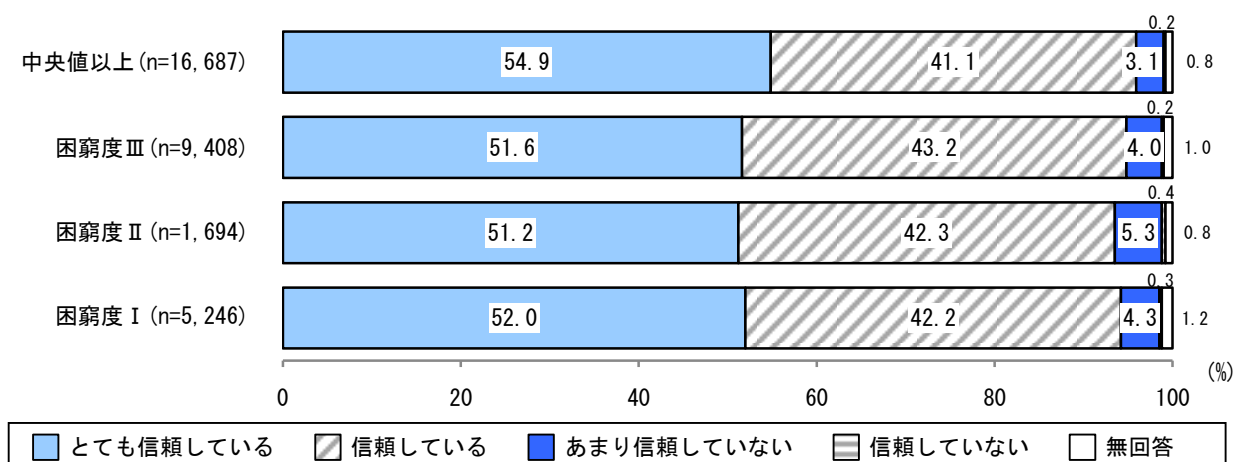


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」と回答した割合は、中央値以上が52.3%で最も高く、「帰宅時間が決まっていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が3.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

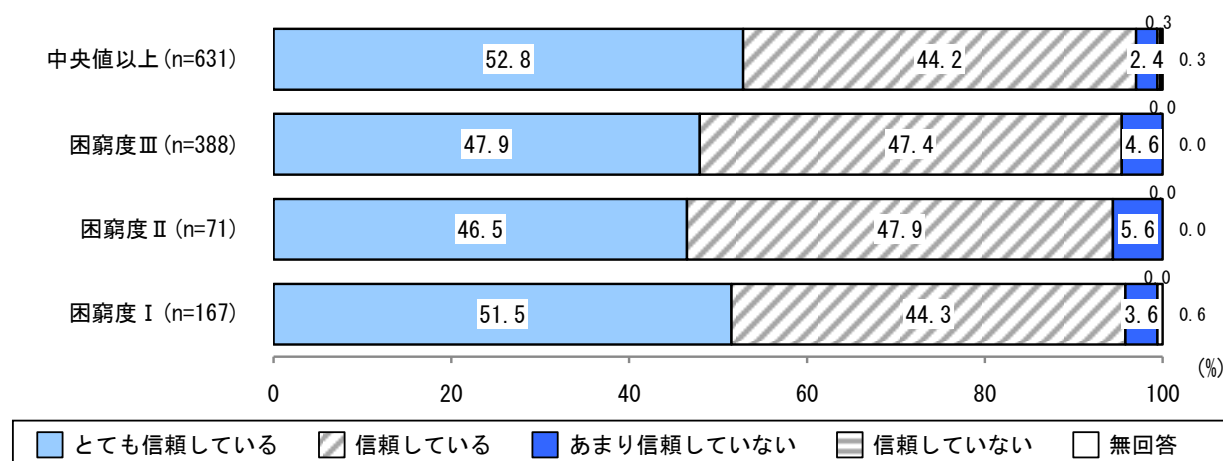
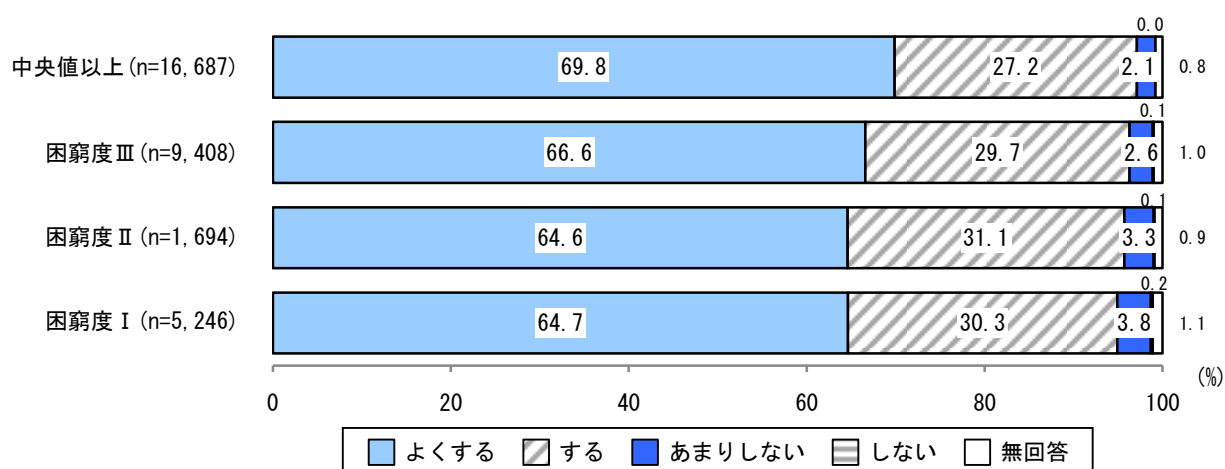


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は中央値以上群が52.8%で最も高く、「あまり信頼していない」と回答した割合は困窮度Ⅱ群が5.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

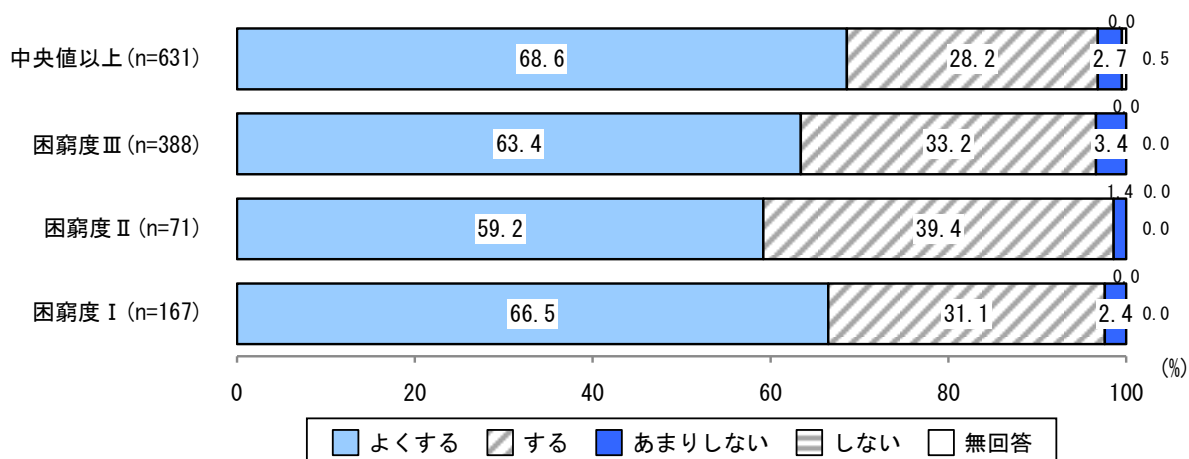
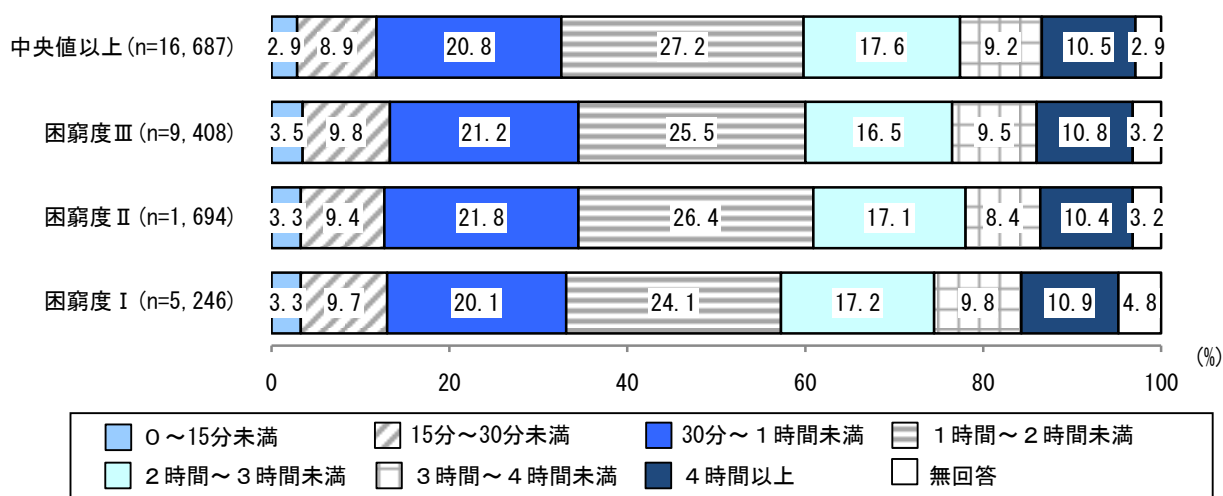


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、「よくする」と回答した割合は困窮度Ⅱ群が59.2%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

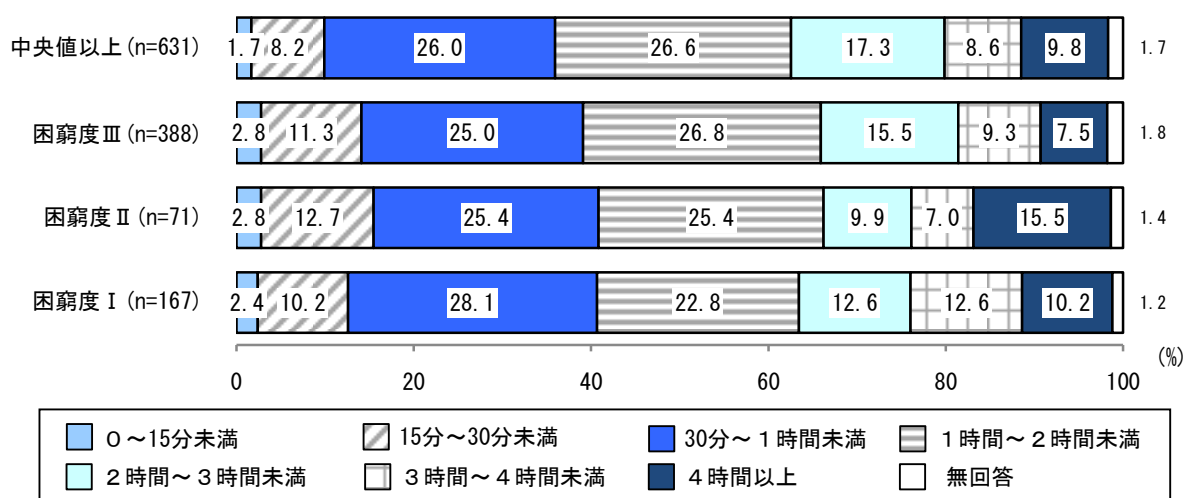
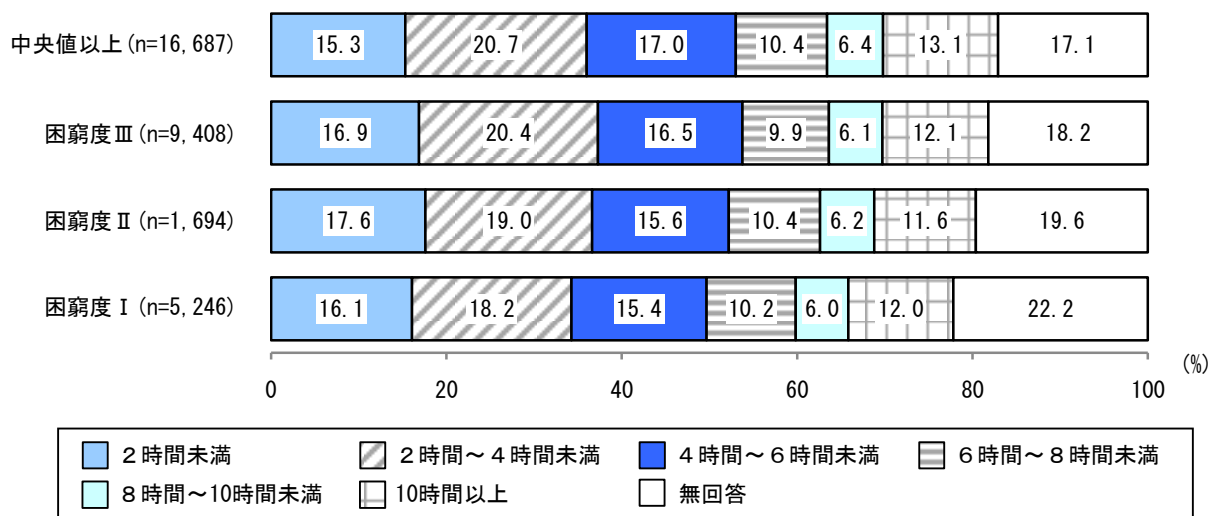


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が困窮度Ⅱ群で最も高く、15.5%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

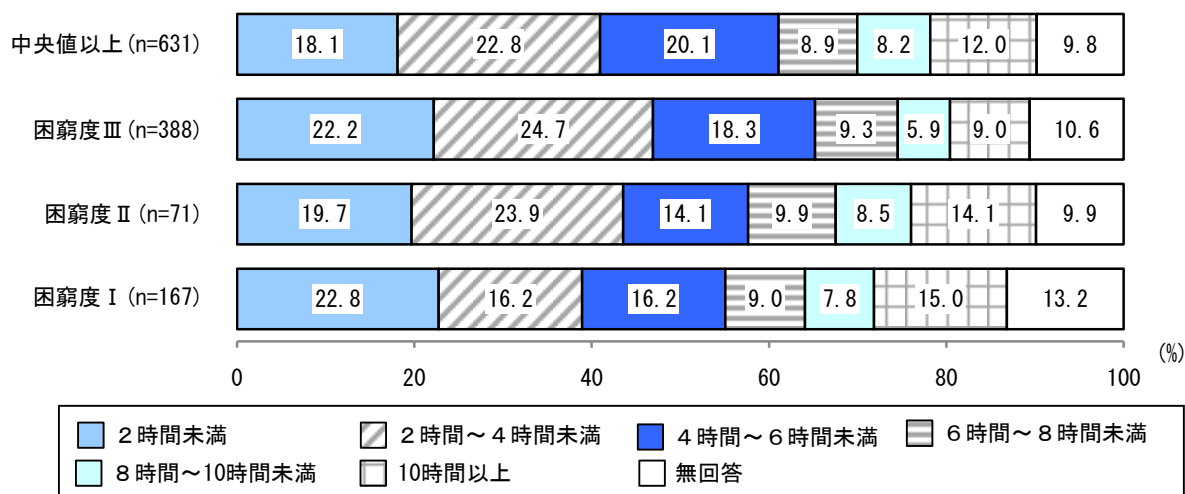
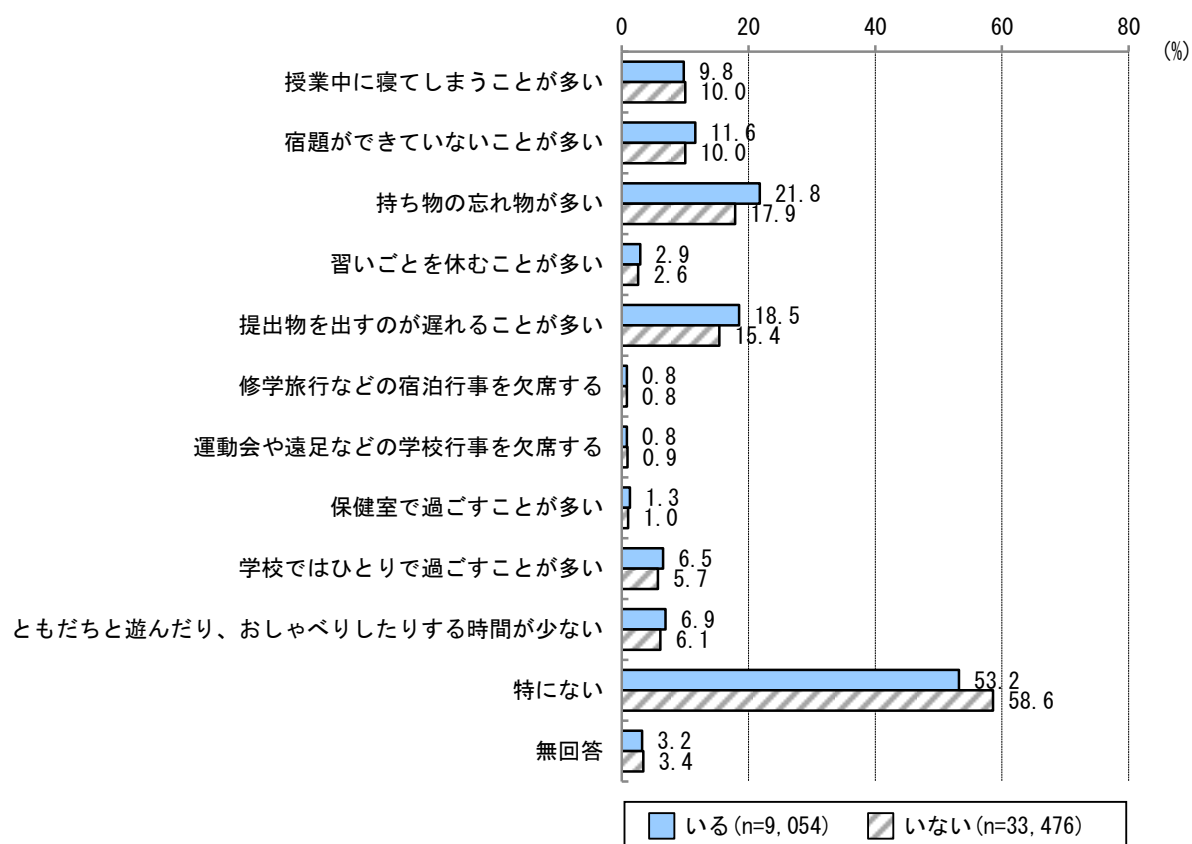


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合が困窮度Ⅰ群で最も高く、22.8%である。また、「2～4時間未満」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群が24.7%で最も高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<枚方市>

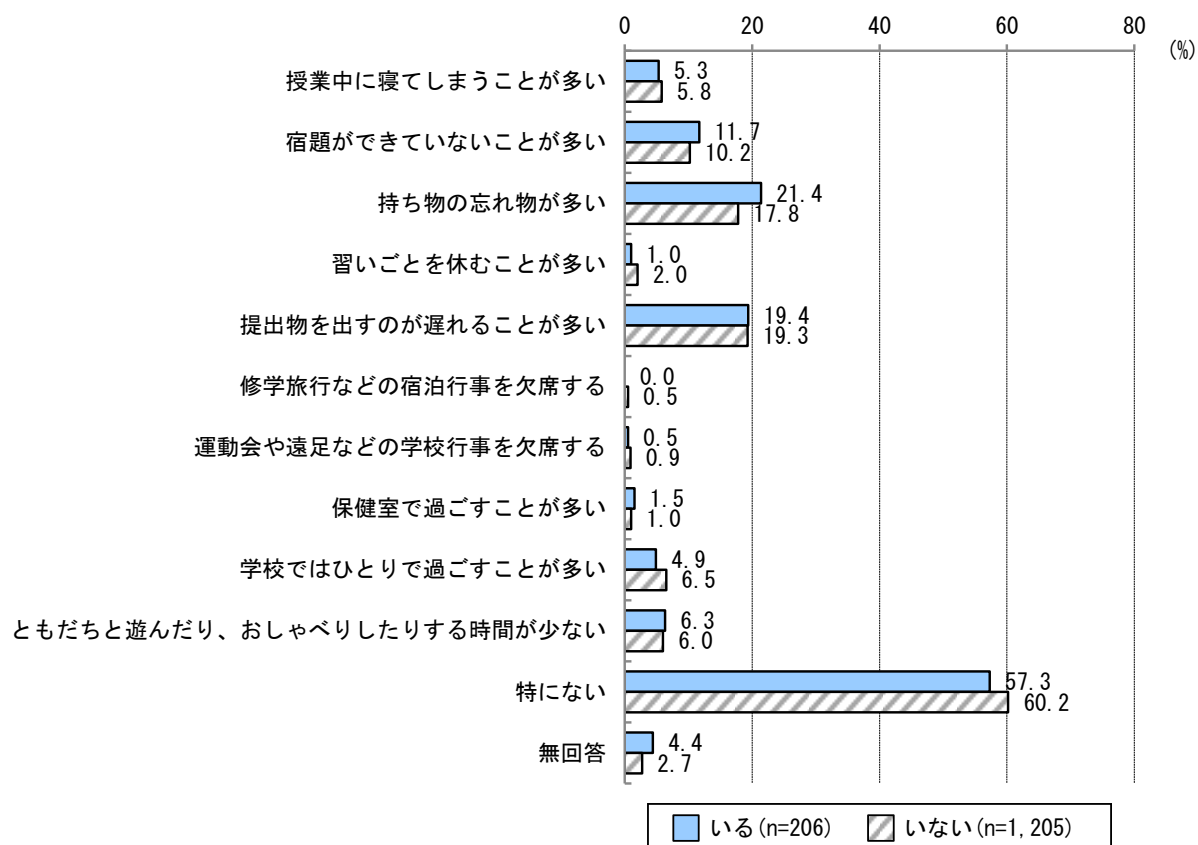
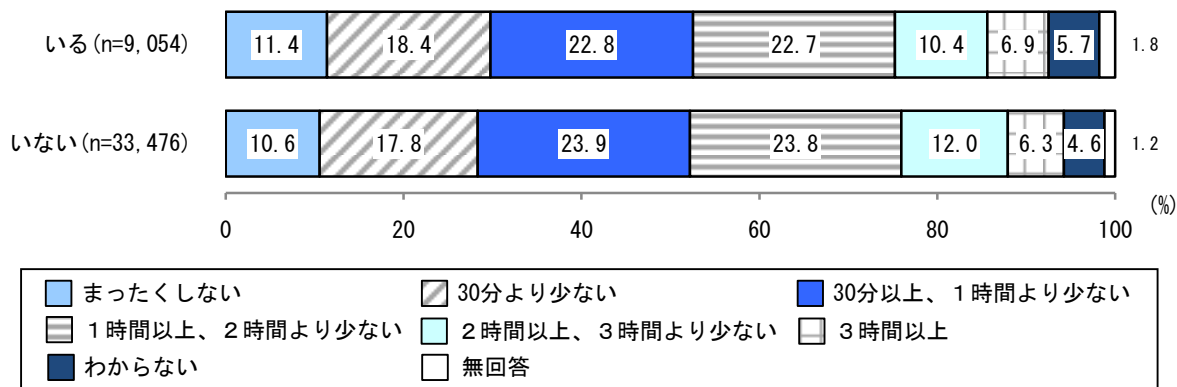


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「持ち物の忘れ物が多い」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

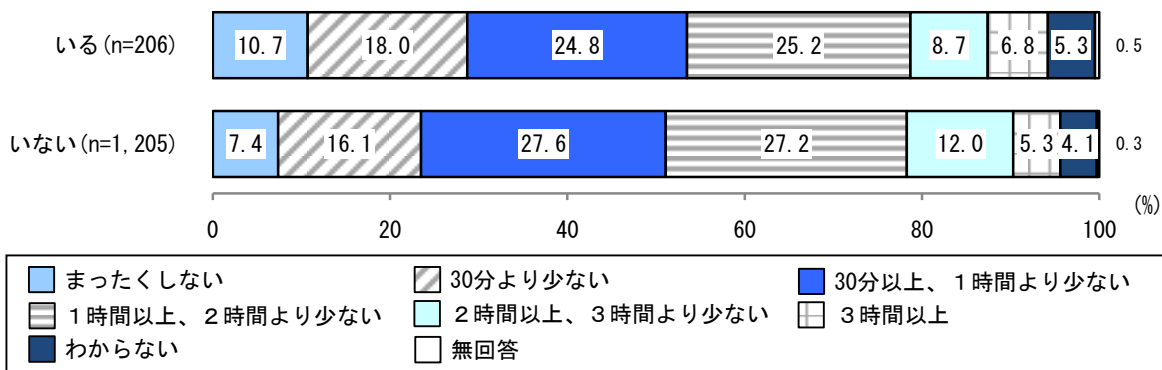
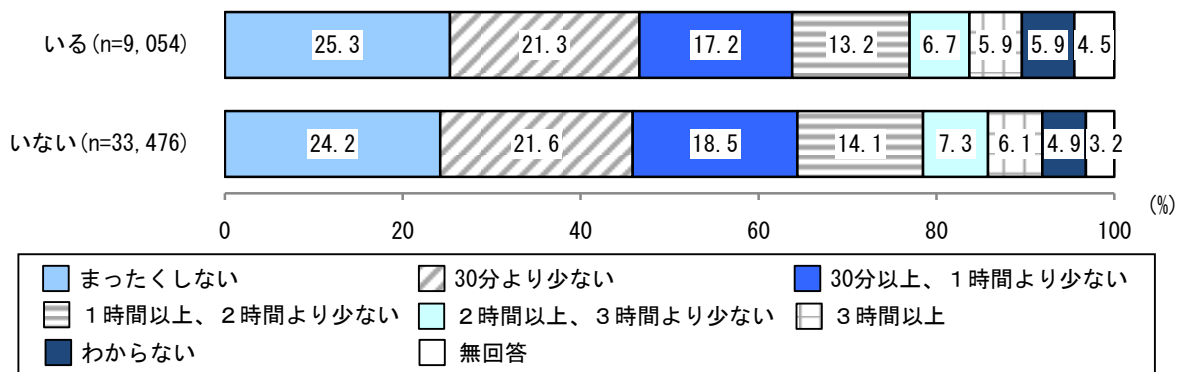


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」、「30分より少ない」、「3時間以上」と回答した割合は、世話をしている人がいない子どもより、いる子どものほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

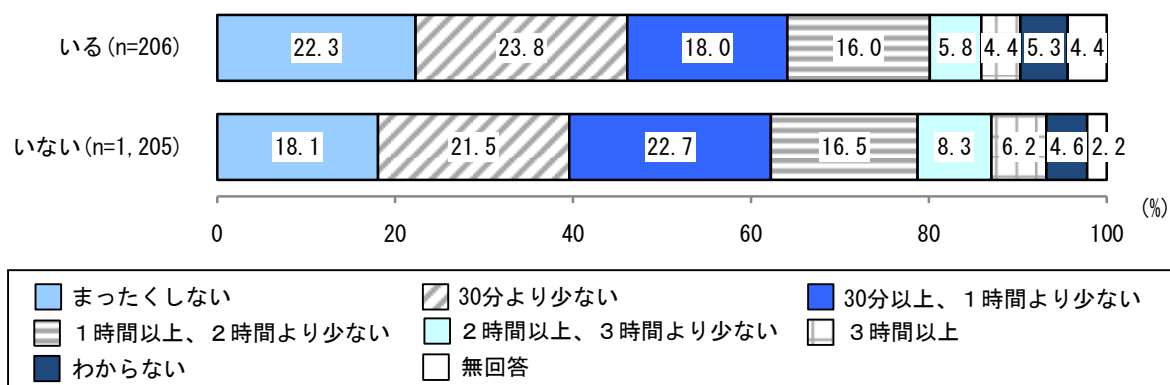


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、世話をしている人がいない子どもより、いる子どものほうが割合が高くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、「ほとんど毎日」(54.6%対48.4%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ、6.2ポイント高くなっている。また、保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」(52.3%対46.7%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ、5.6ポイント高くなっている。一方、おうちの大人の人と文化活動をする頻度では、「まったくしない」(26.5%対20.4%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ、6.1ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションの深さや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。保護者の子どもに対する信頼度を見ると、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「とても信頼している」(51.5%対44.8%)と回答した保護者の割合が6.7ポイント高くなっている。また、子どもの将来への期待度を見ると、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「とても期待している」と「期待している」の合計(84.8%対72.4%)が12.4ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことが、保護者の子どもに対する信頼の深さや期待の高さにも影響を及ぼしている可能性があり、遅刻頻度の多さは保護者と子どもの関係性の希薄さを暗示しうると考えられる。さらに、悩んでいることを見ると、「遅刻はしない」群では、「いやなことや悩んでいることはない」と回答する割合が最も高くなっている。一方、遅刻頻度の高い群では、「学校や勉強のこと」「自分のこと(外見や体型など)」「ともだちのこと」で悩んでいる子どもたちが多く、保護者から期待されていない希薄な関係性の状況の中で、様々な悩みを抱えこんでいる可能性も考えられる。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や学習理解度、そして進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。通学状況を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「ほぼ毎日通っている」(95.4%対89.8%)が5.6ポイント高くなっている。学校がある日の勉強時間では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくしない」(14.8%対5.2%)が9.6ポイント、学校がない日の勉強時間では、「まったくしない」(29.0%対12.7%)が16.3ポイント高くなっている。学習理解度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「あまりわからない」「よくわかる」(37.5%対23.2%)が14.3ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「大学」(49.8%対38.7%)が11.1ポイント、保護者の希望する進学先でも「大学」(74.0%対53.9%)が20.1ポイント高くなっており大きな差が開いている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「わからない」(14.2%対7.9%)が6.3ポイント、保護者の希望する進学先で「高校」(12.0%対4.6%)が7.4ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣が定着しにくく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望みにくく、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。

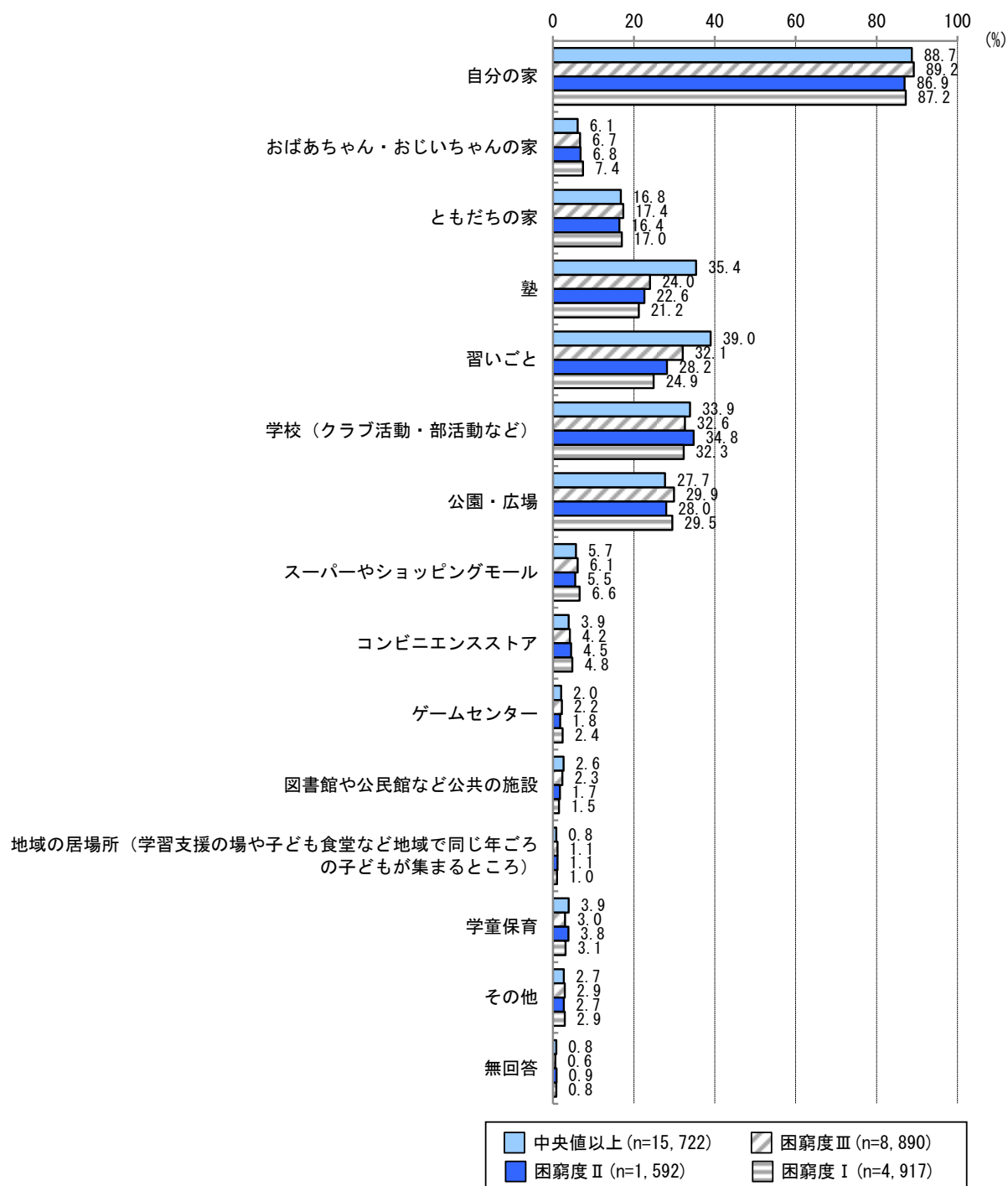
最後に、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性や学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(19.0%対6.8%)が12.2ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(47.6%対17.6%)が30.0ポイント高くなっている。また、朝食の頻度別に見ると、朝食を「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べる群

に比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(34.6%対7.0%)が27.6ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(46.2%対16.9%)が29.3ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことは、学習習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、朝の習慣が身についていないと遅刻につながり、授業を受けられていないため学習理解に影響が出ている可能性があると考えられる。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



<枚方市>

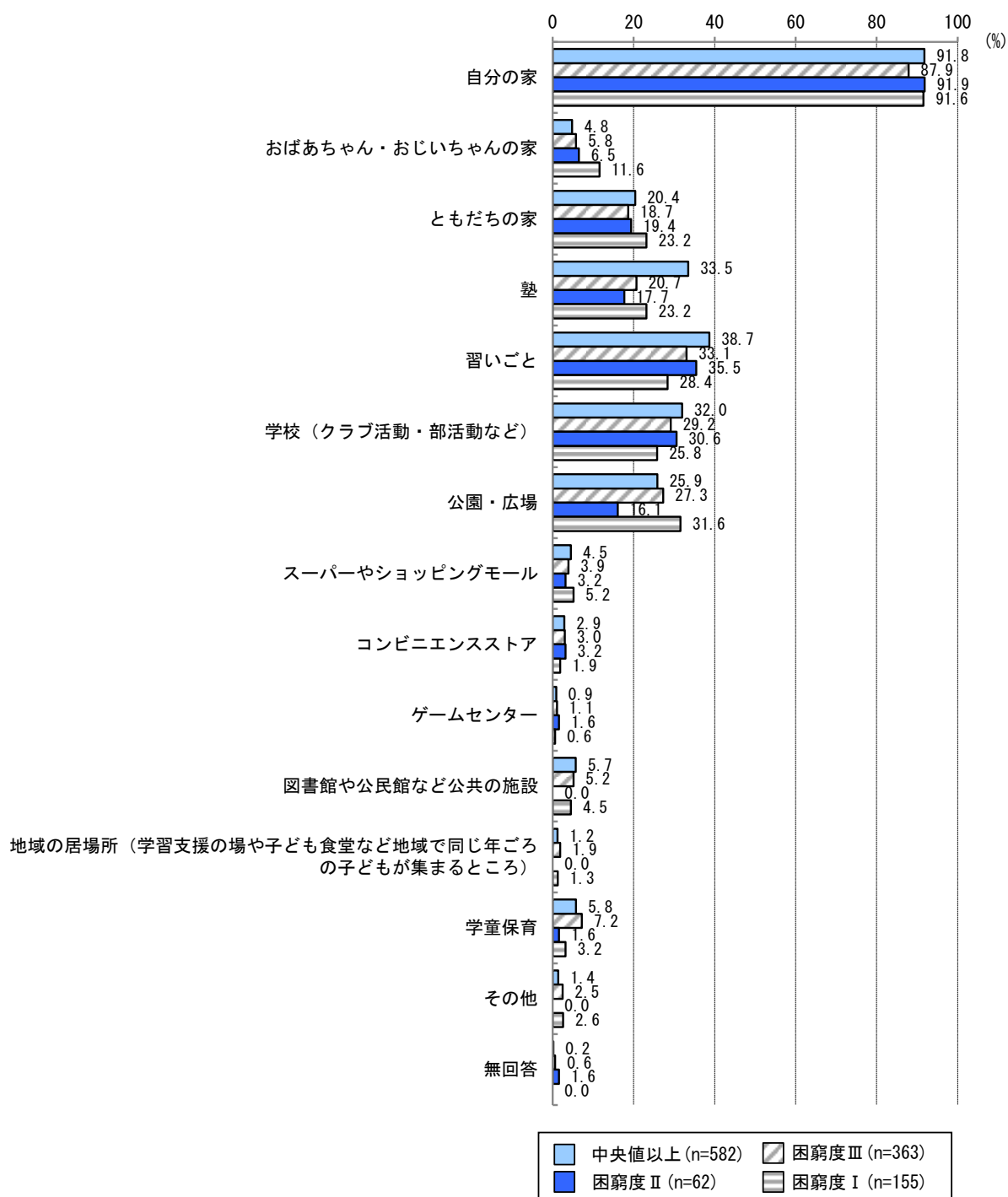
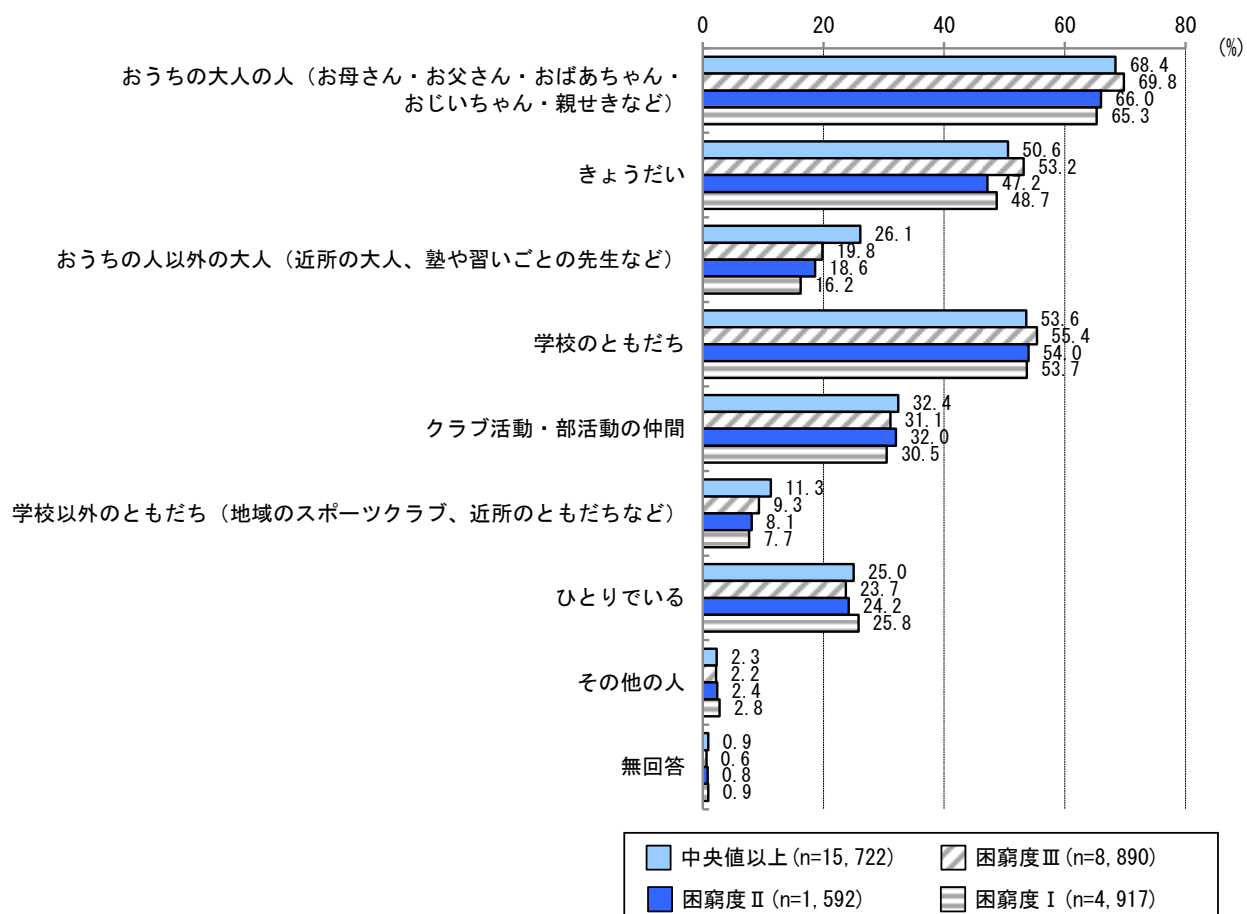


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」11.6%（中央値以上群に対して2.4倍）、「公園・広場」31.6%（同じく1.2倍）となっている。一方、中央値以上群では、「学童保育」5.8%（困窮度Ⅰ群に対して1.8倍）、「コンビニエンスストア」2.9%（同じく1.5倍）、「ゲームセンター」0.9%（同じく1.5倍）、「塾」33.5%（同じく1.4倍）、「習いごと」38.7%（同じく1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問 10）

<大阪府内全体>



<枚方市>

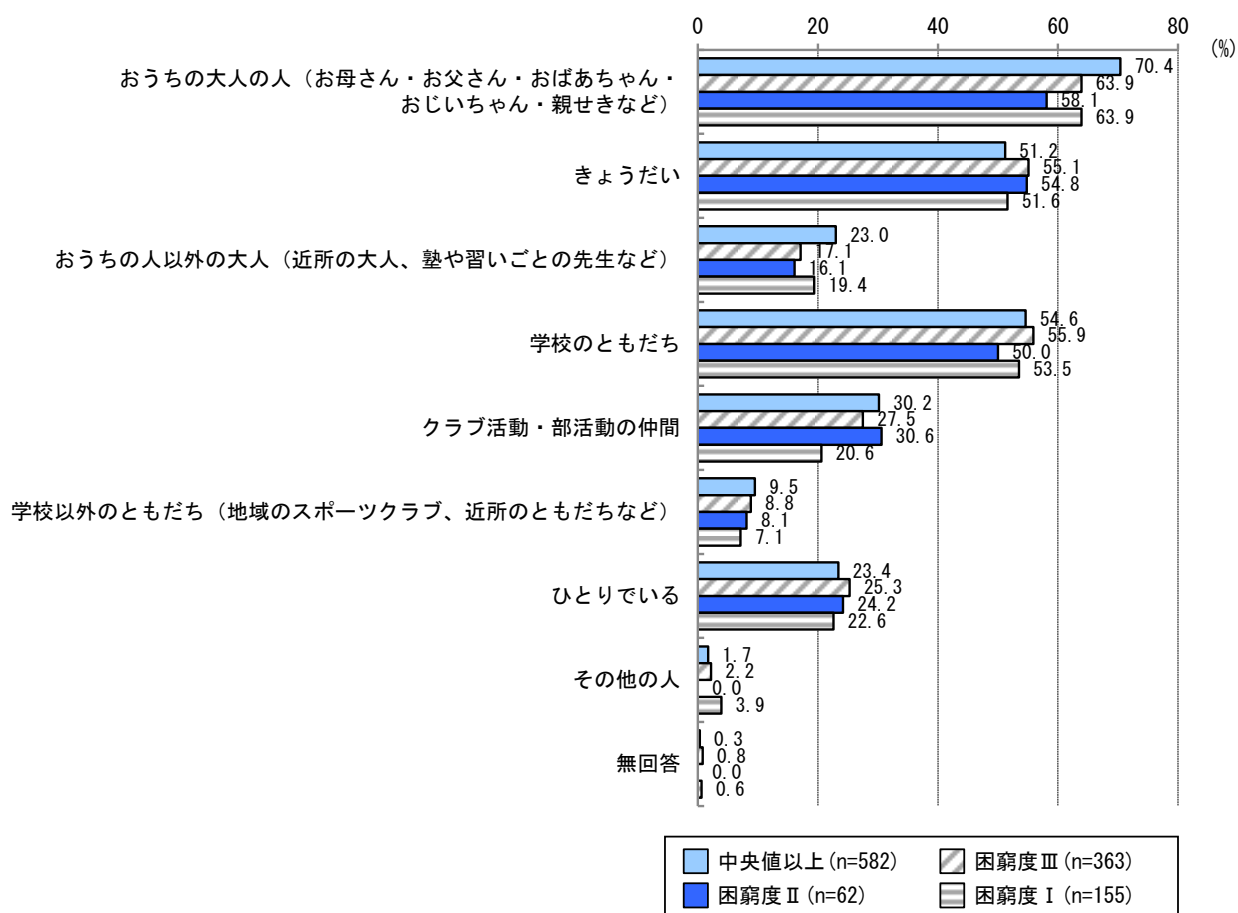
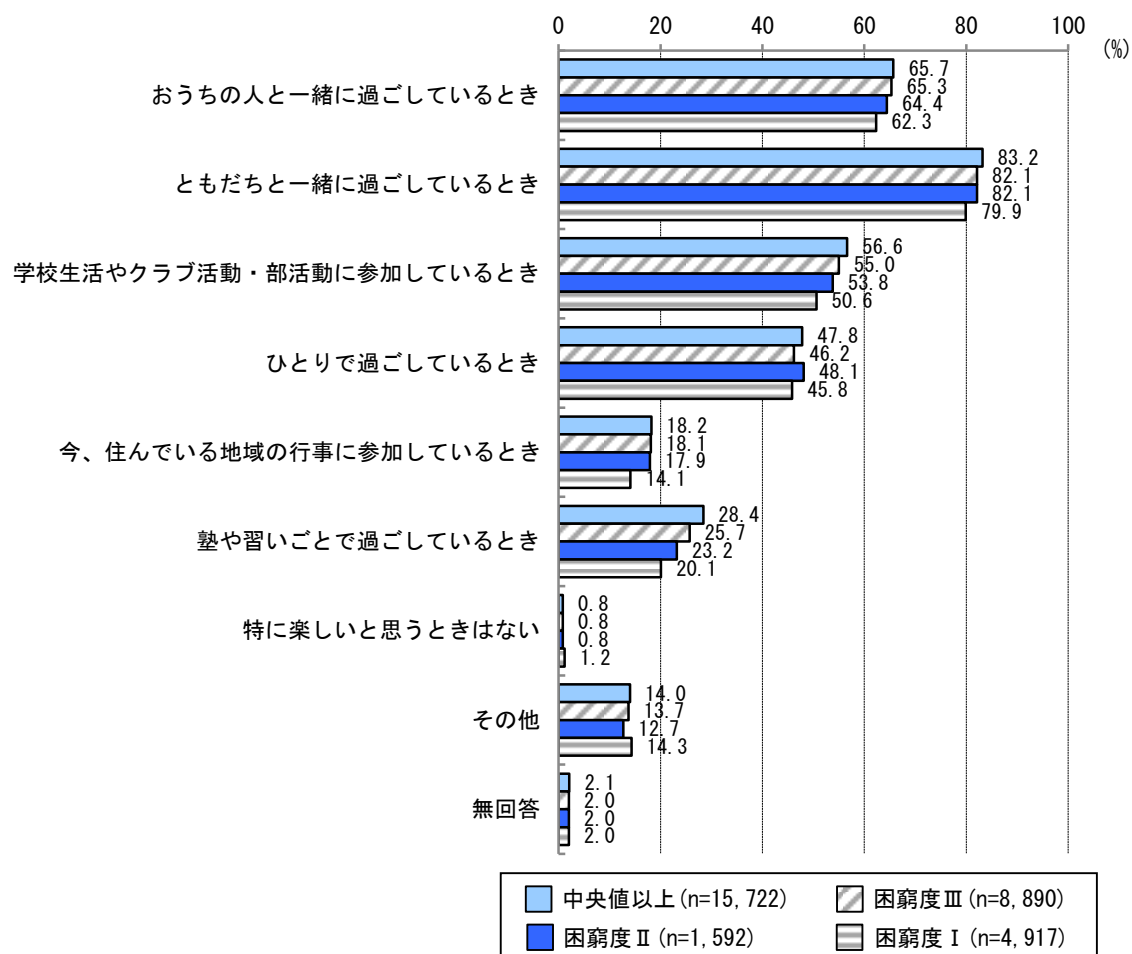


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「クラブ活動・部活動の仲間」30.2%（困窮度Ⅰ群に対して1.5倍）、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」9.5%（同じく1.3倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」23.0%（同じく1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<枚方市>

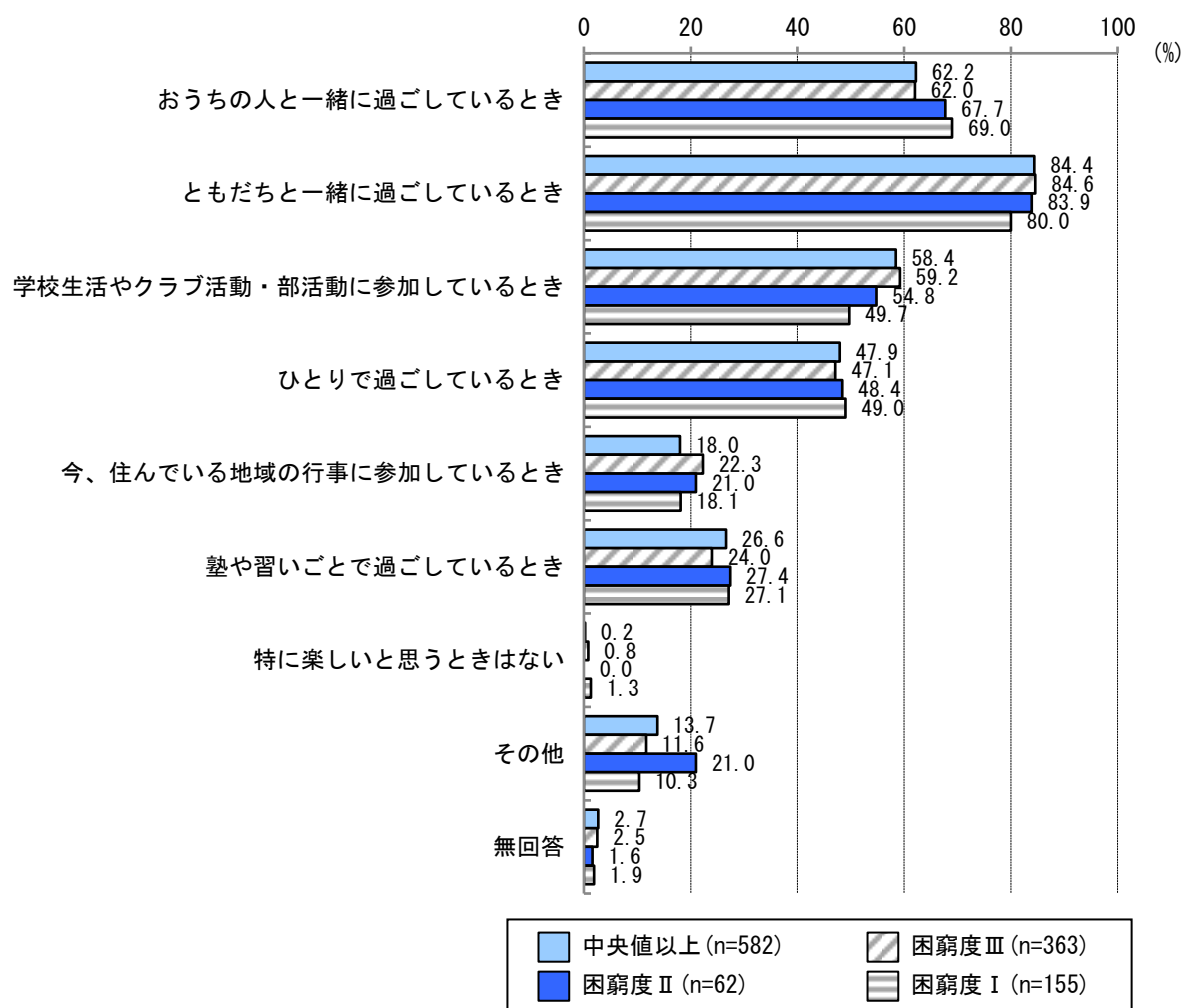
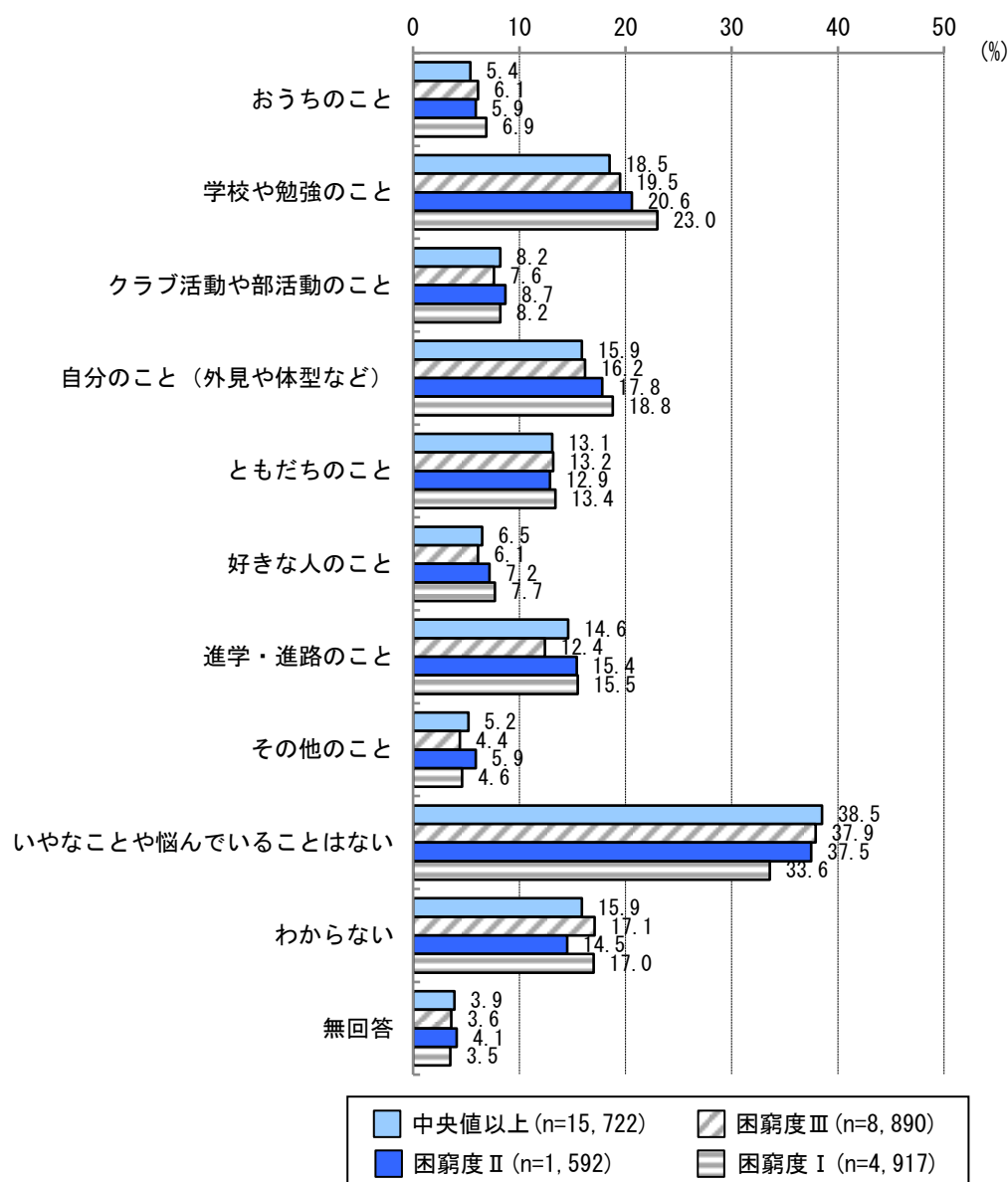


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」58.4%（困窮度Ⅰ群に対して1.2倍）、「ともだちと一緒に過ごしているとき」84.4%（同じく1.1倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<枚方市>

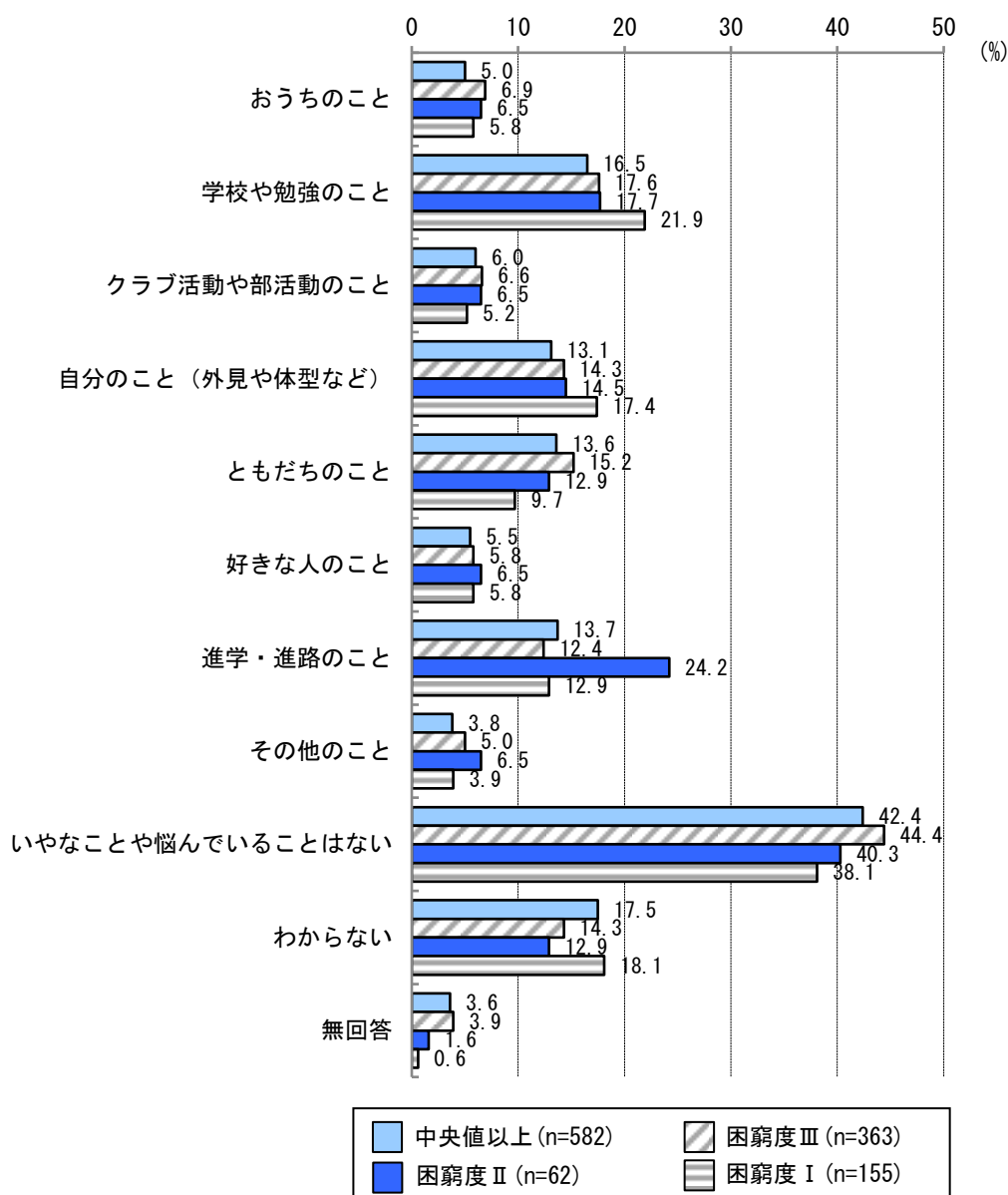
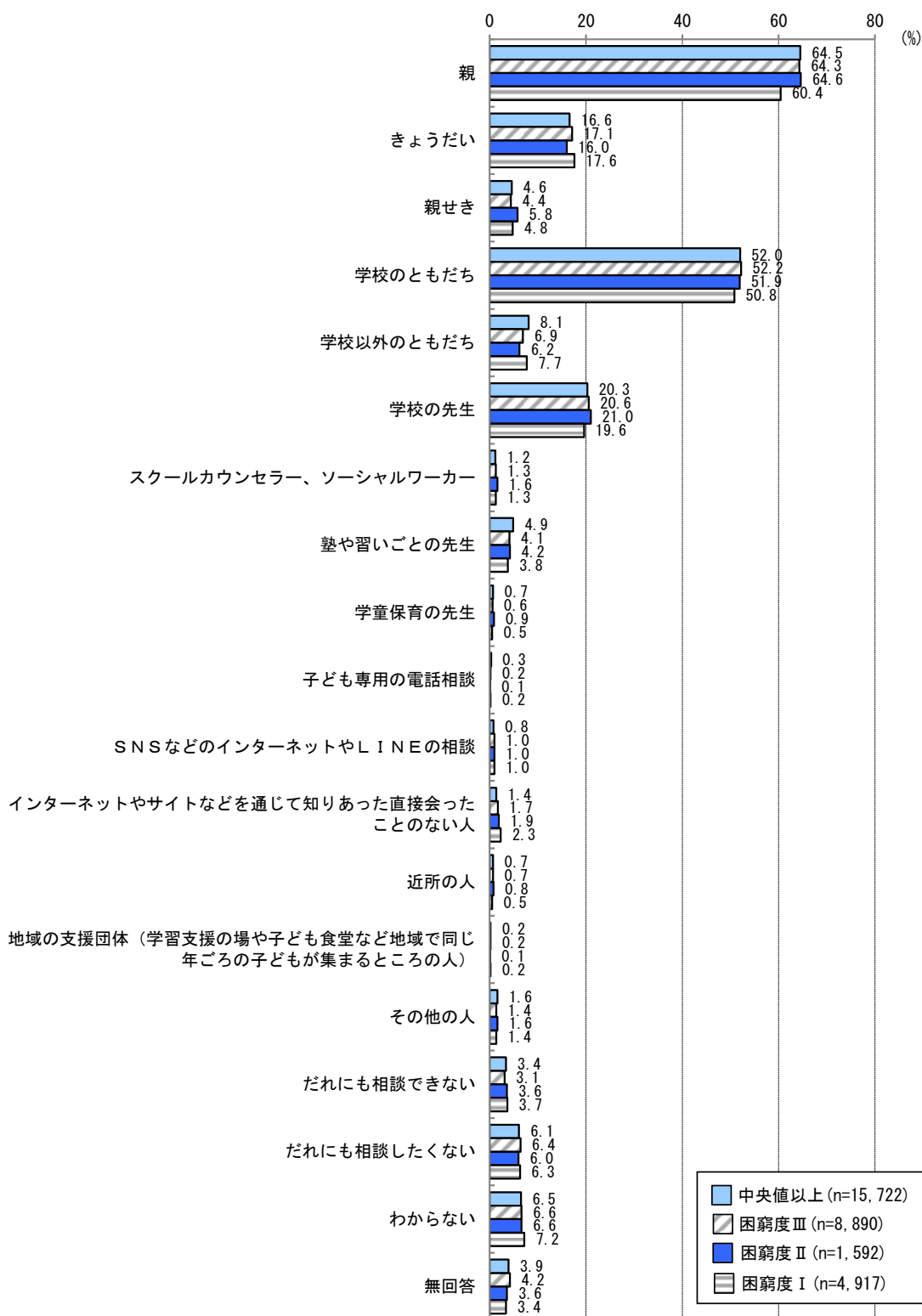


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「学校や勉強のこと」21.9%（中央値以上群に対して1.3倍）、「自分のこと（外見や体型など）」17.4%（同じく1.3倍）、「おうちのこと」5.8%（同じく1.2倍）が高く、中央値以上群では「ともだちのこと」13.6%（困窮度Ⅰ群に対して1.4倍）、「クラブ活動や部活動のこと」6.0%（同じく1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

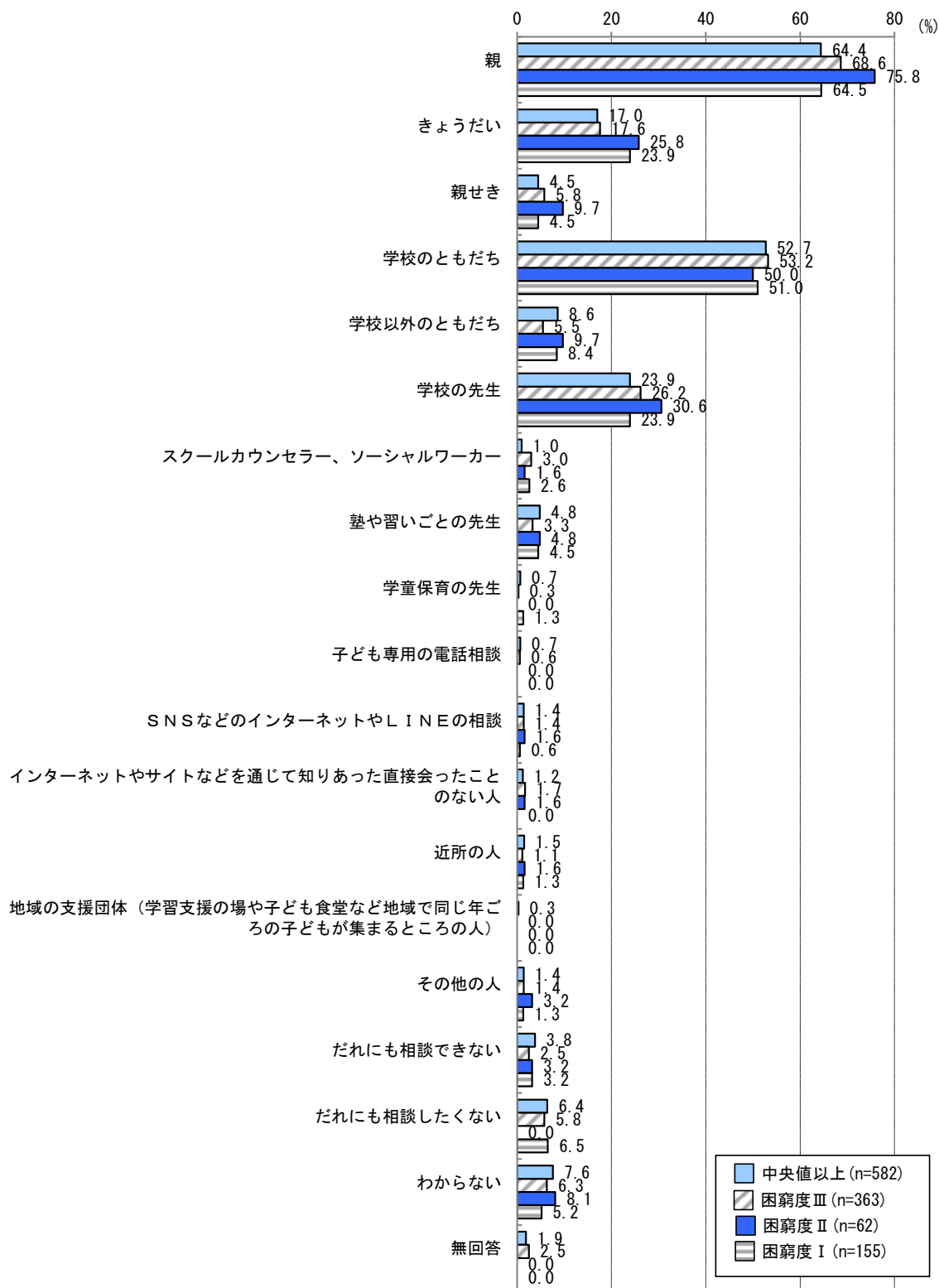
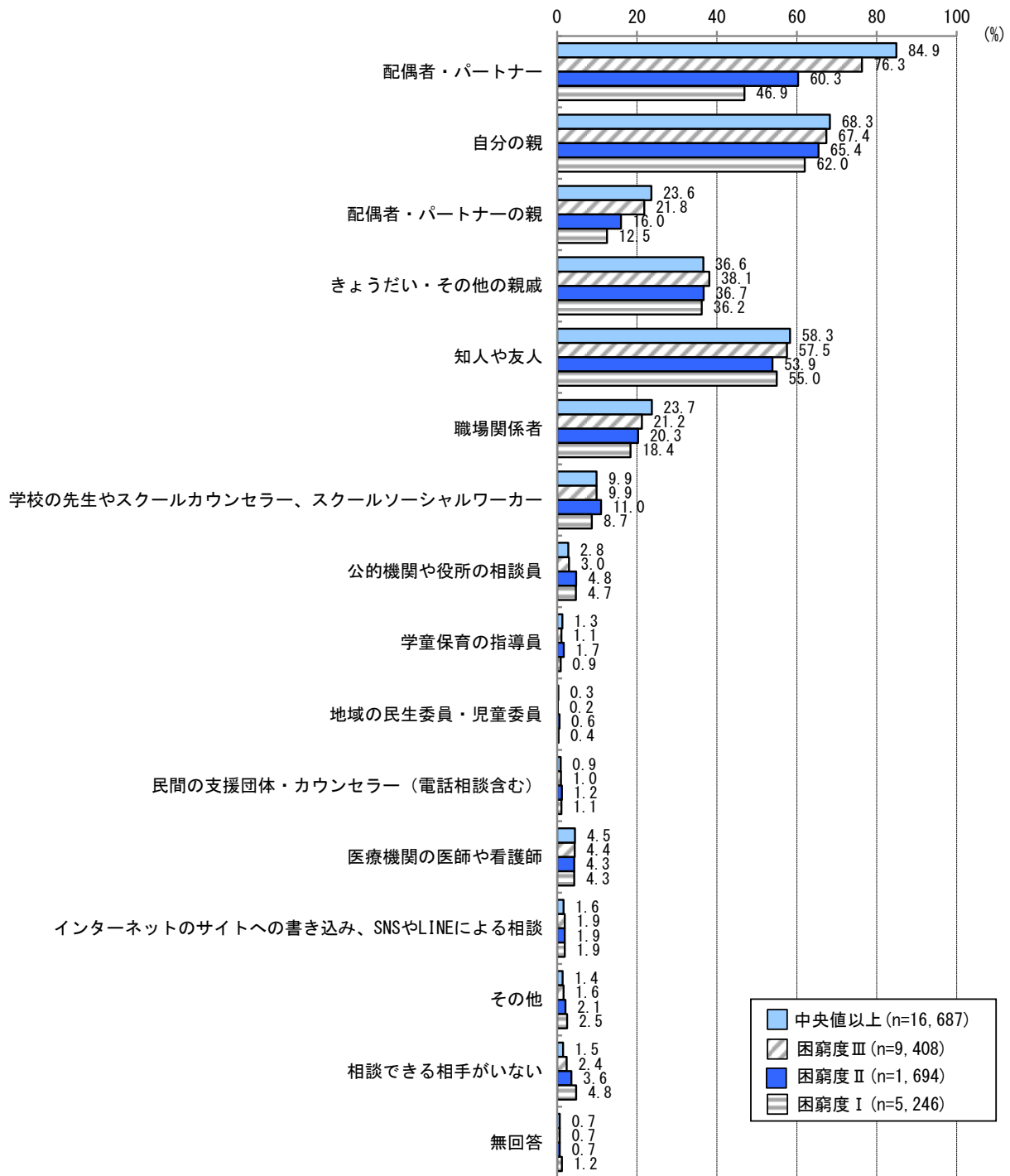


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」2.6%（中央値以上群に対して2.6倍）、「学童保育の先生」1.3%（同じく1.9倍）、「きょうだい」23.9%（同じく1.4倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

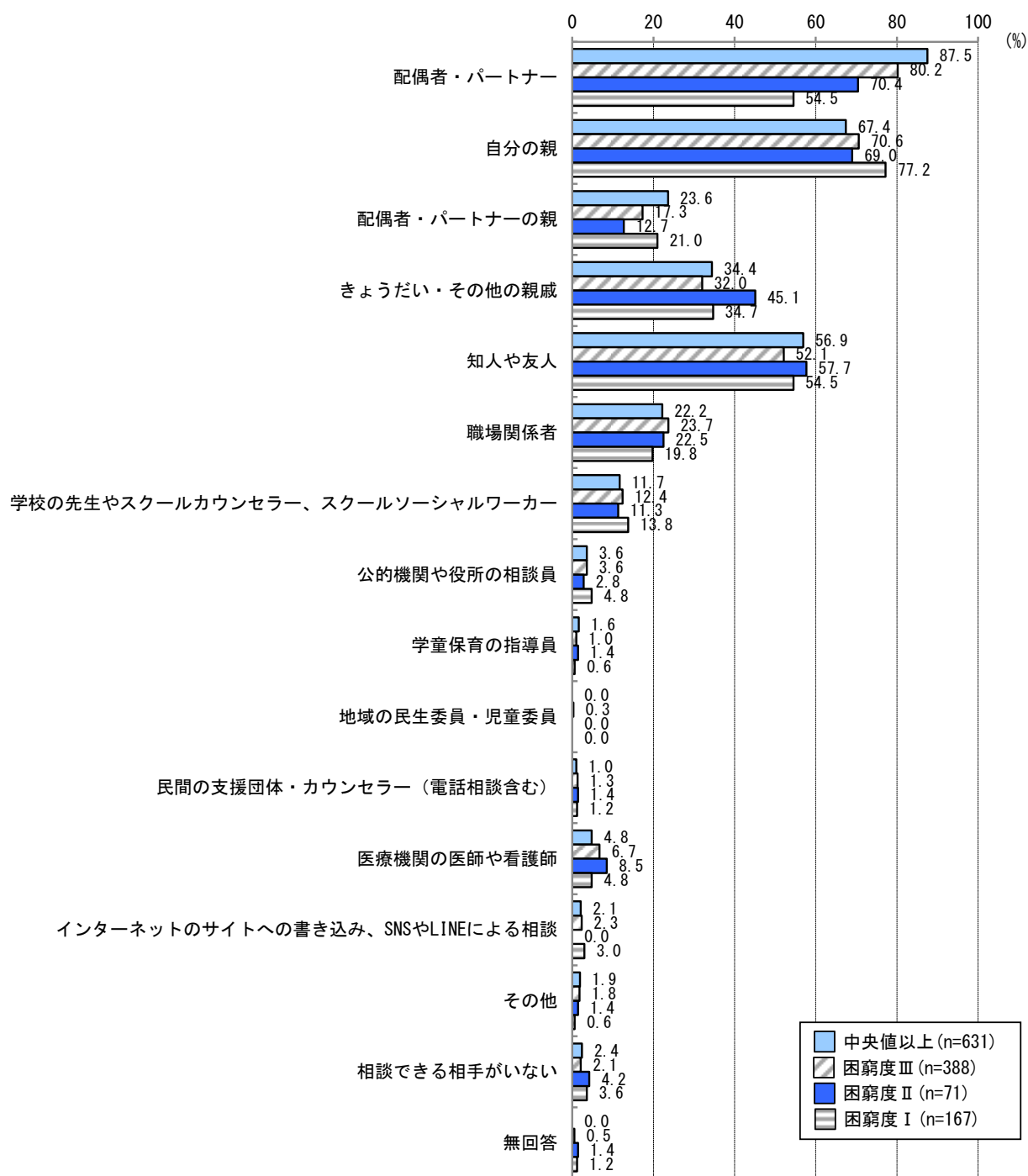
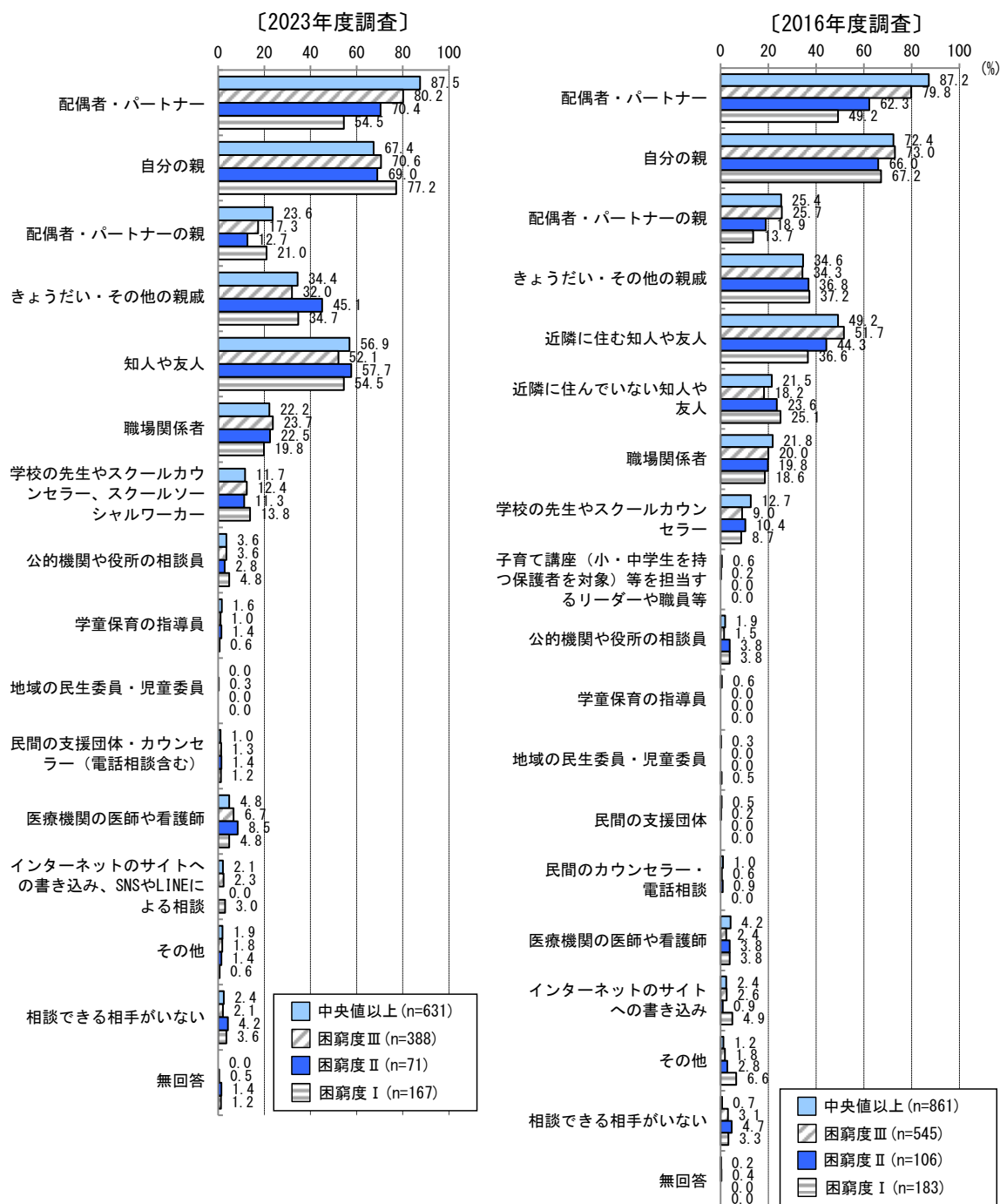


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」3.6%（中央値以上群に対して1.5倍）、「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」3.0%（同じく1.4倍）、「公的機関や役所の相談員」4.8%（同じく1.3倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「学童保育の指導員」1.6%（困窮度Ⅰ群に対して2.7倍）、「配偶者・パートナー」87.5%（同じく1.6倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／枚方市>



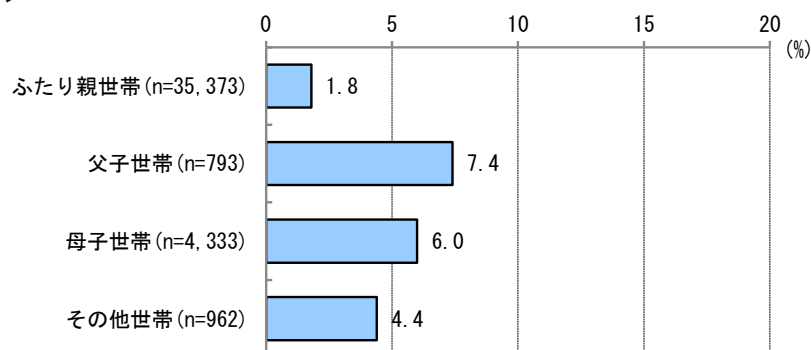
- ※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「配偶者・パートナー」「職場関係者」「学童保育の指導員」「医療機関の医師や看護師」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<枚方市>

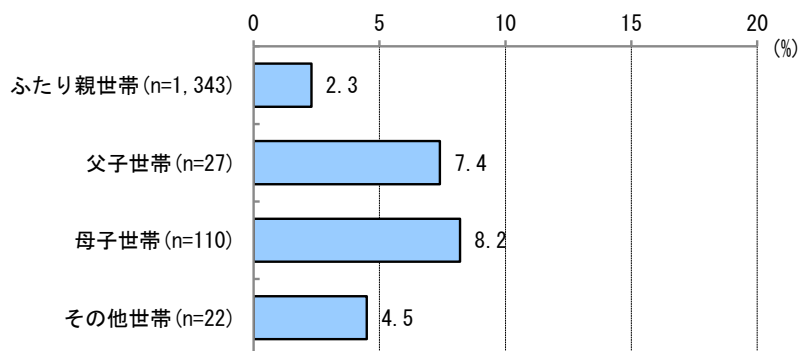


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、父子世帯で7.4%、母子世帯で8.2%いる。

<2016年度調査との比較／枚方市>

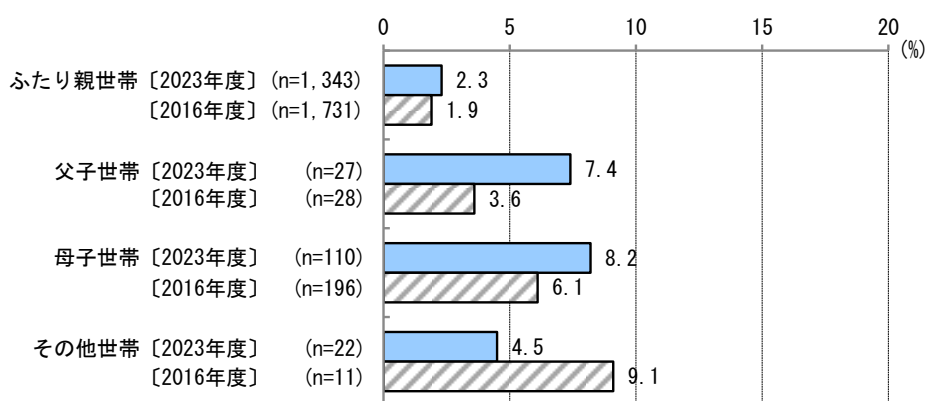
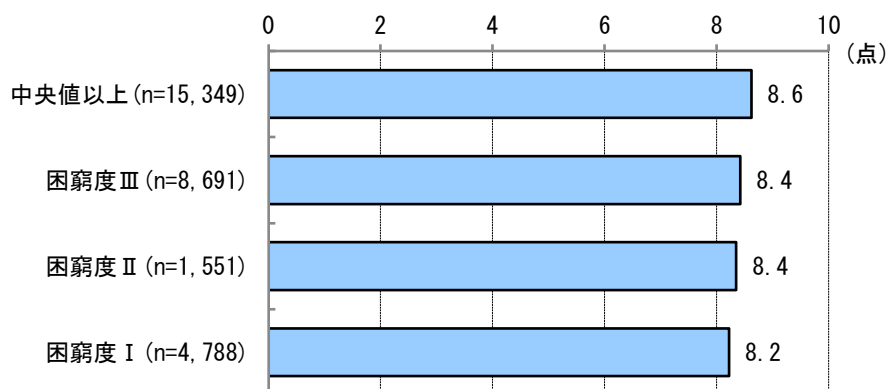


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、その他世帯は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

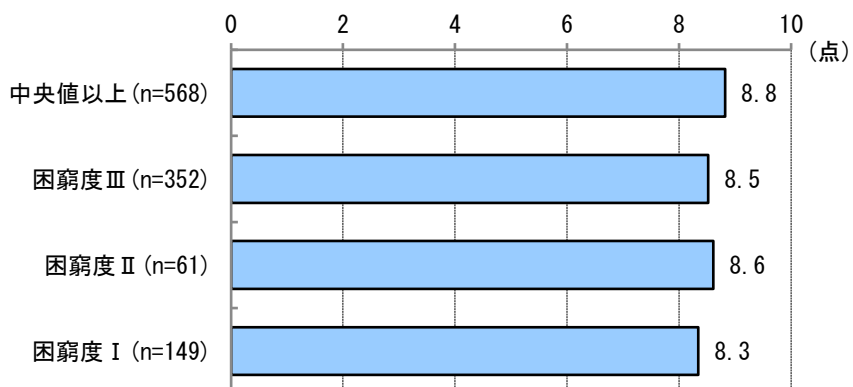
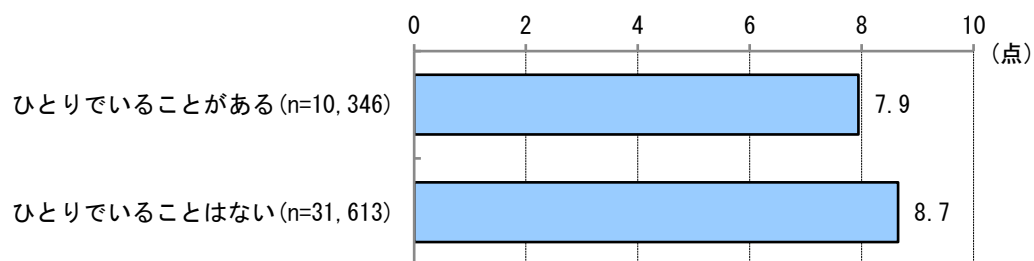


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、困窮度Ⅰ群のセルフ・エフィカシーが最も低くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

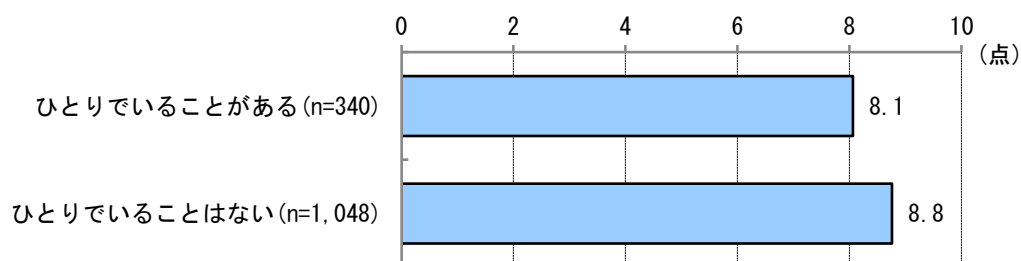


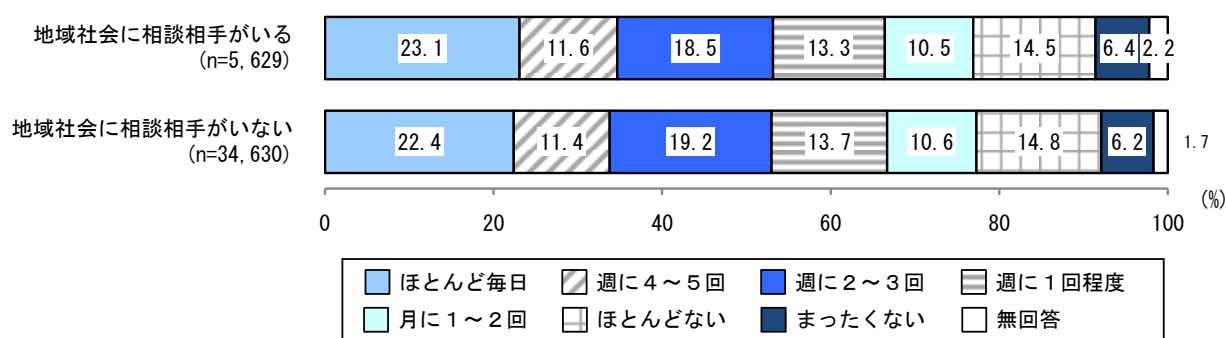
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそうでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<枚方市>

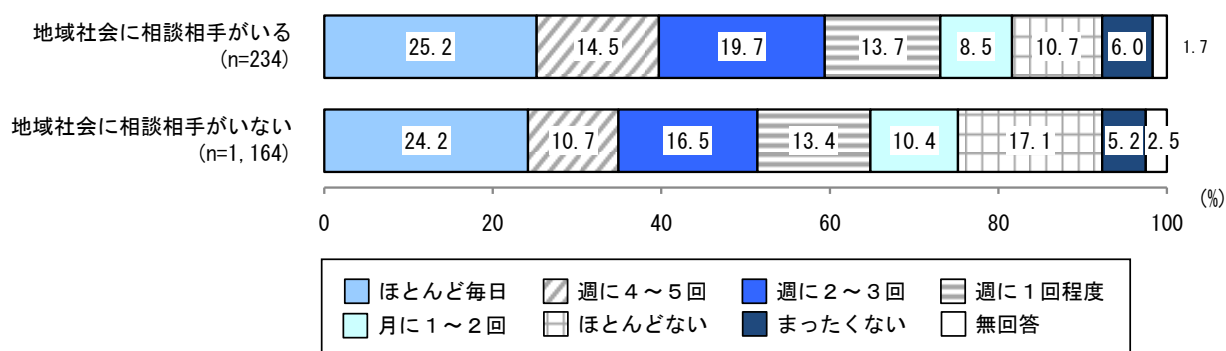
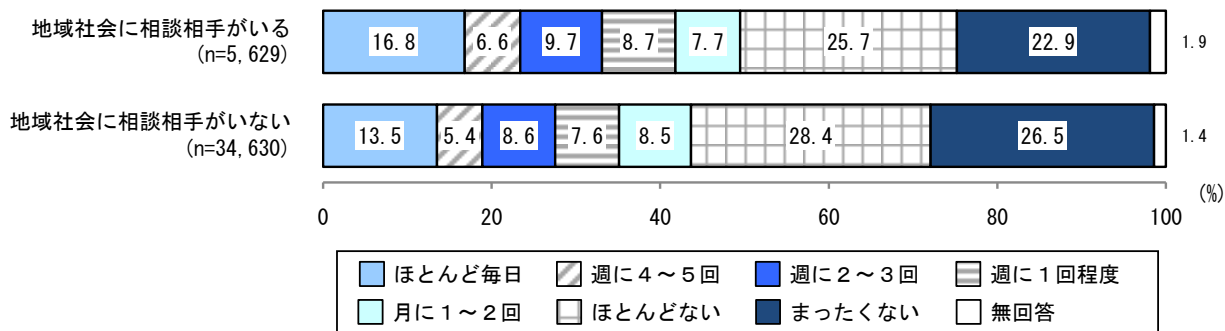


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」、「週に2～3回」、「週に1回程度」、「まったくない」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

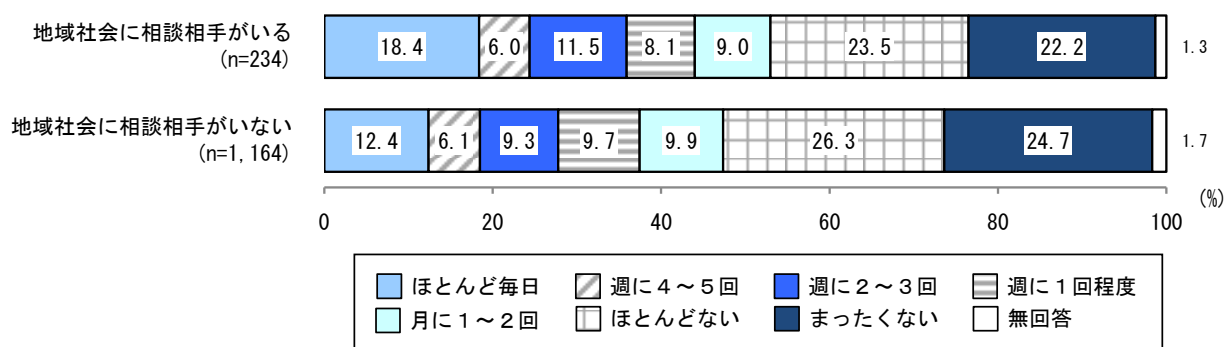
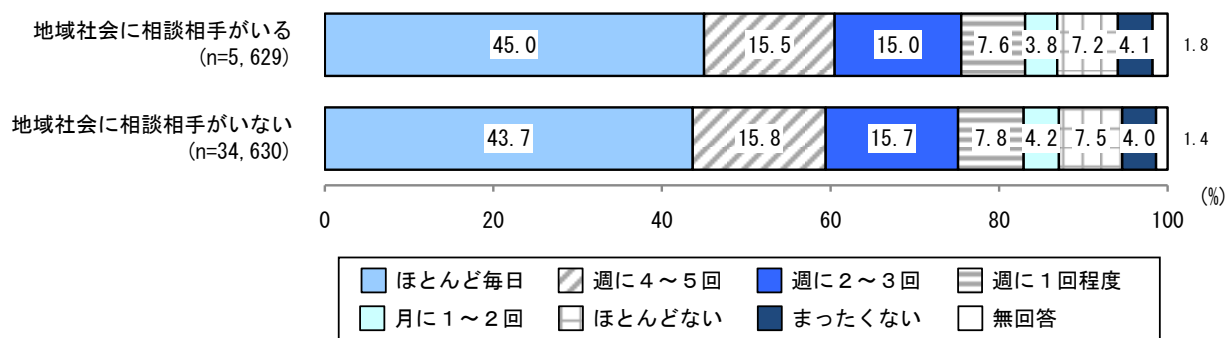


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」、「週に2～3回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥)

<大阪府内全体>



<枚方市>

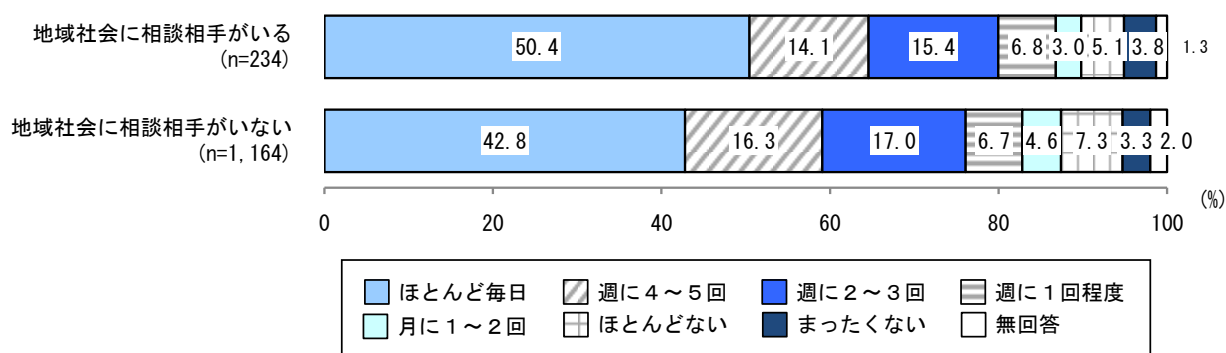
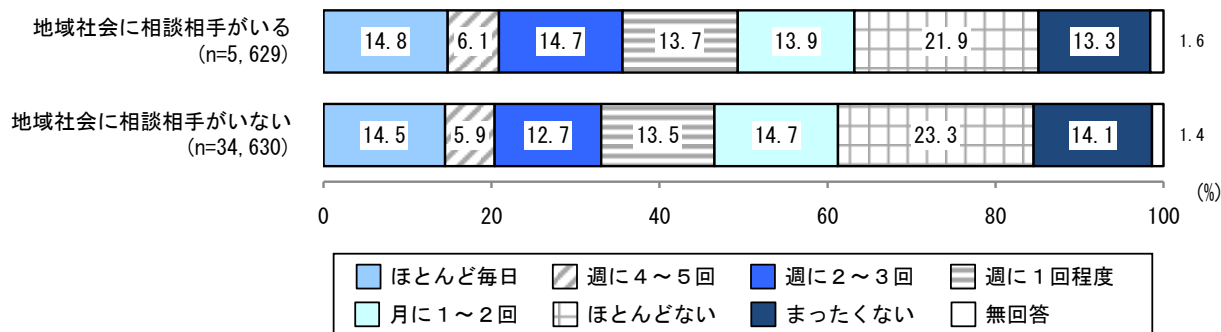


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に1回程度」、「まったく」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<枚方市>

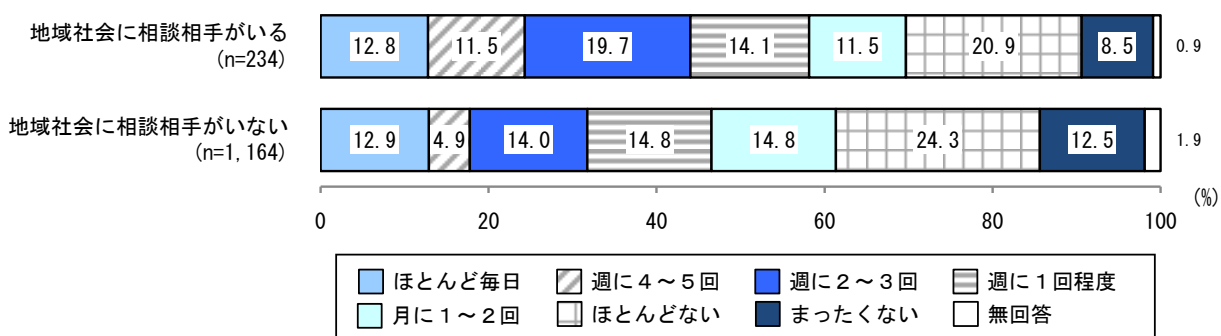
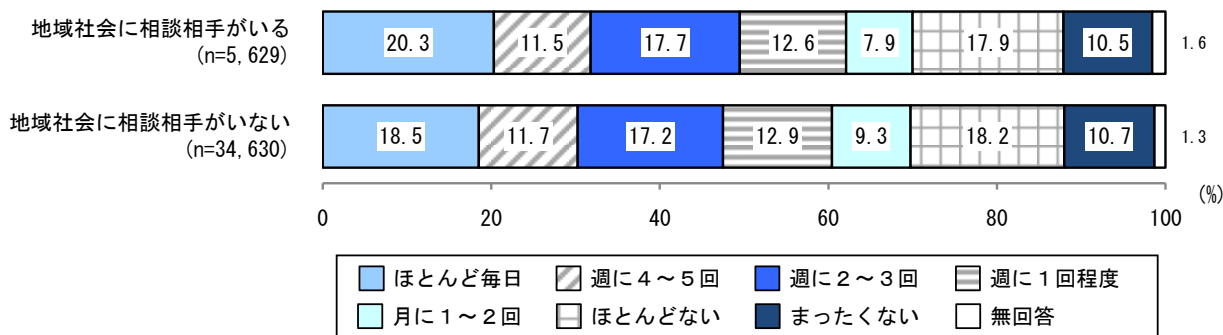


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」、「週に1回程度」、「月に1～2回」、「ほとんどない」、「まったくなく」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<枚方市>

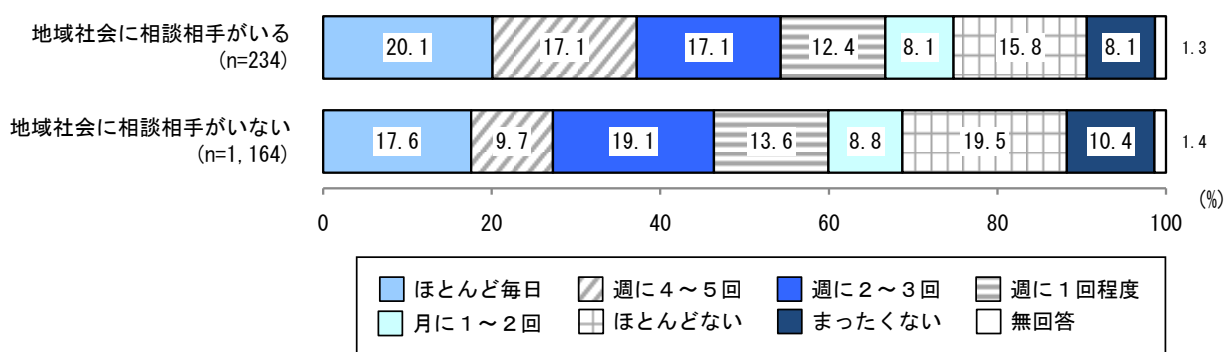
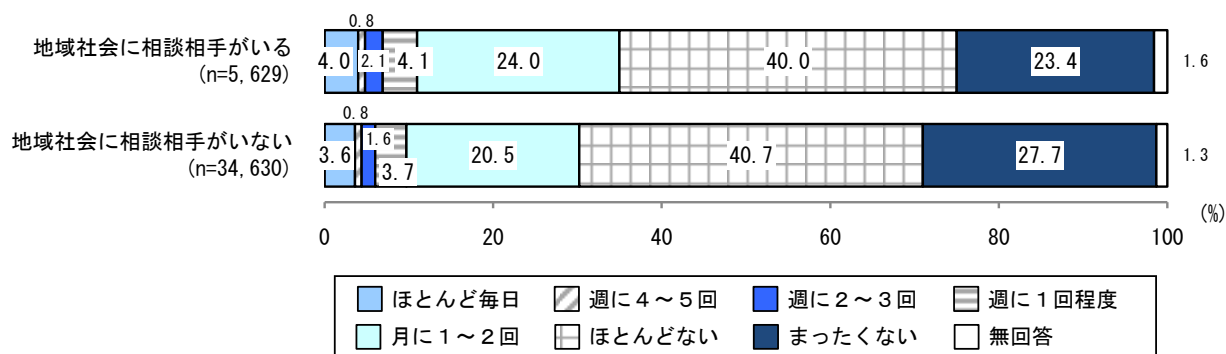


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<枚方市>

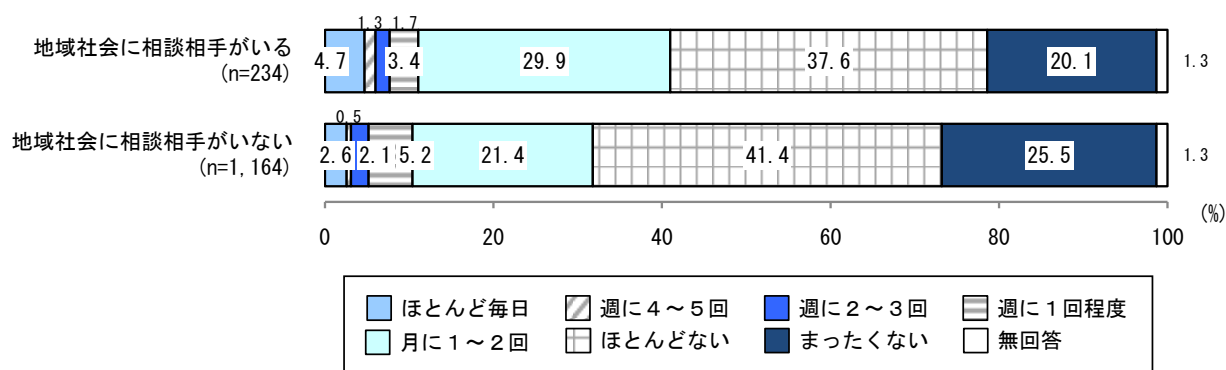
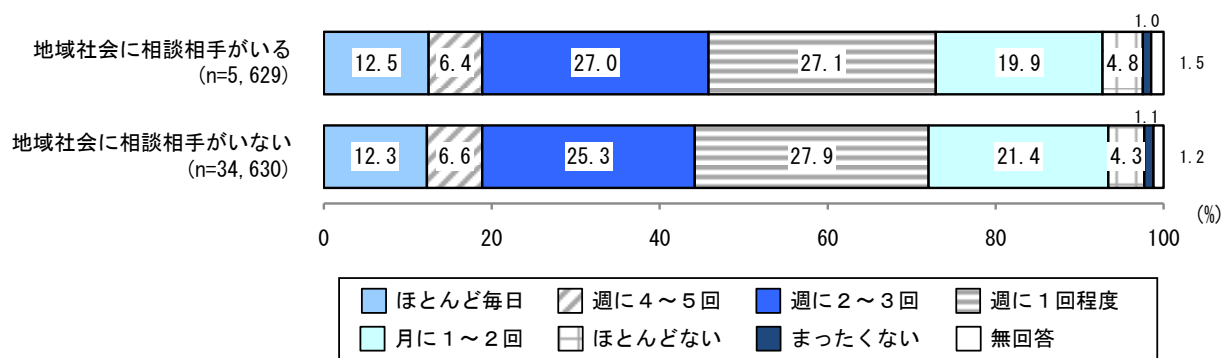


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と文化活動をするかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」、「月に1～2回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<枚方市>

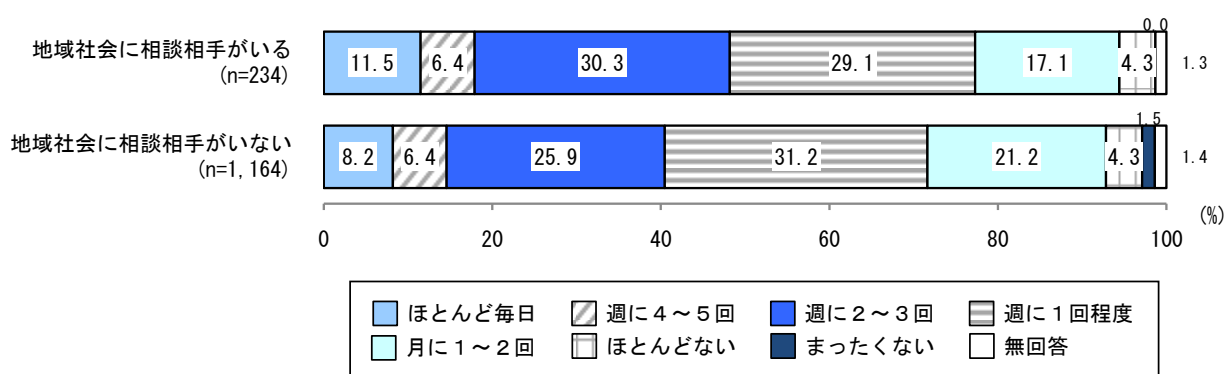
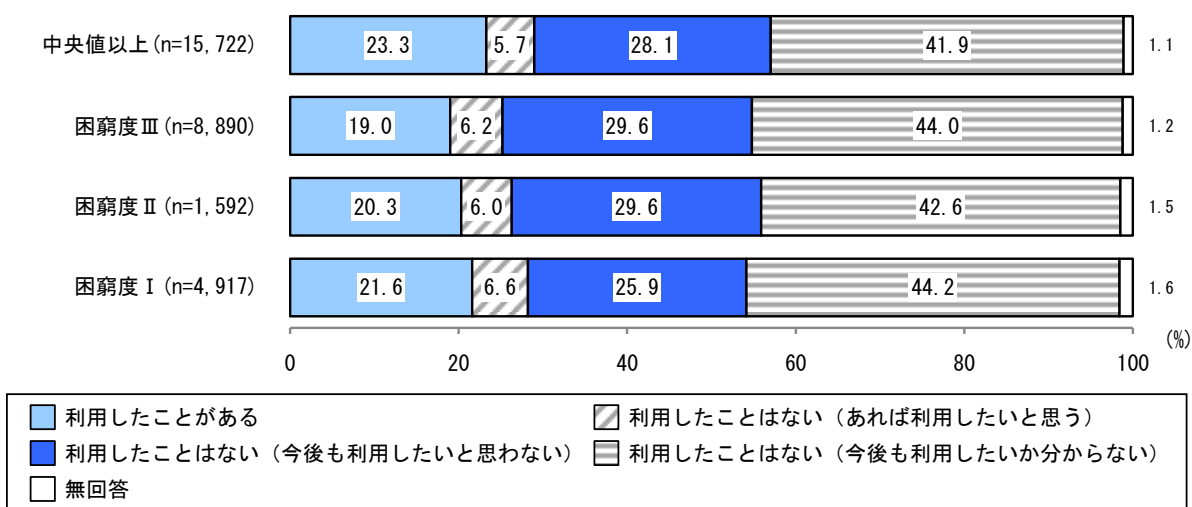


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに「ほとんど毎日」、「週に2～3回」と回答する割合が高かった。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

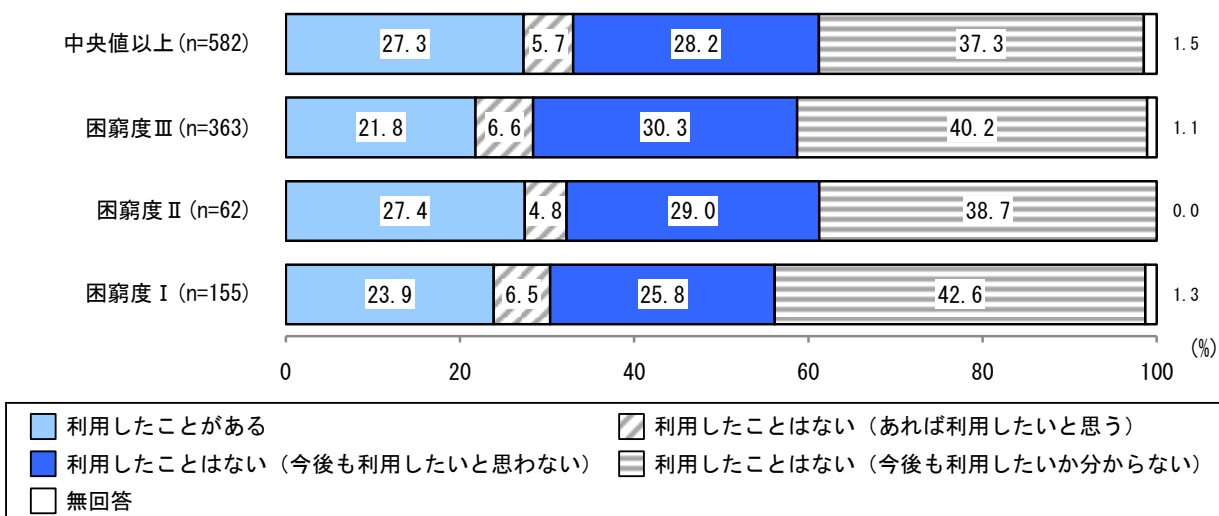
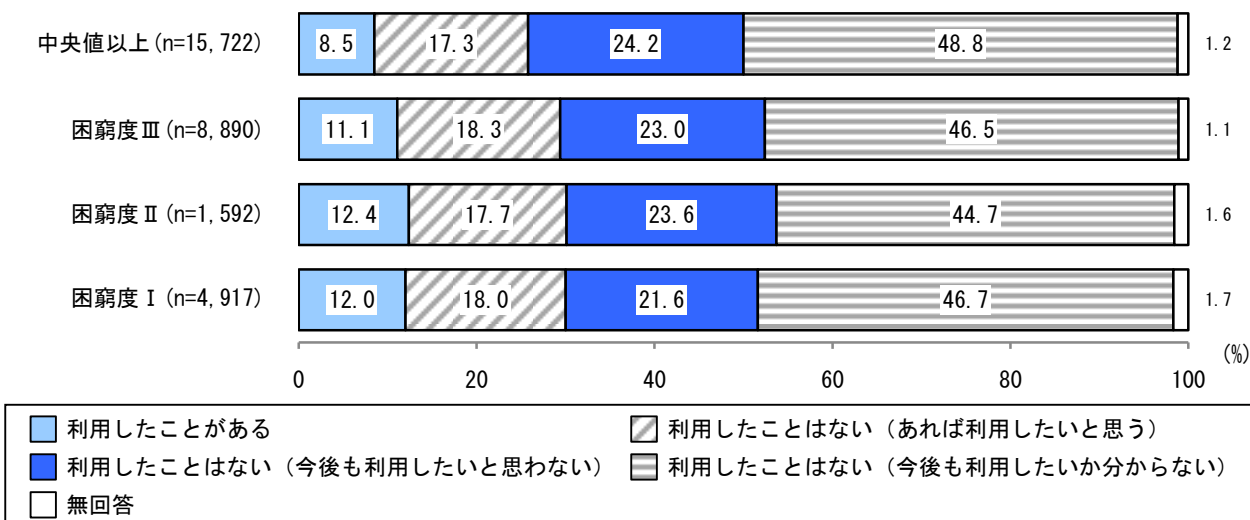


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で27.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

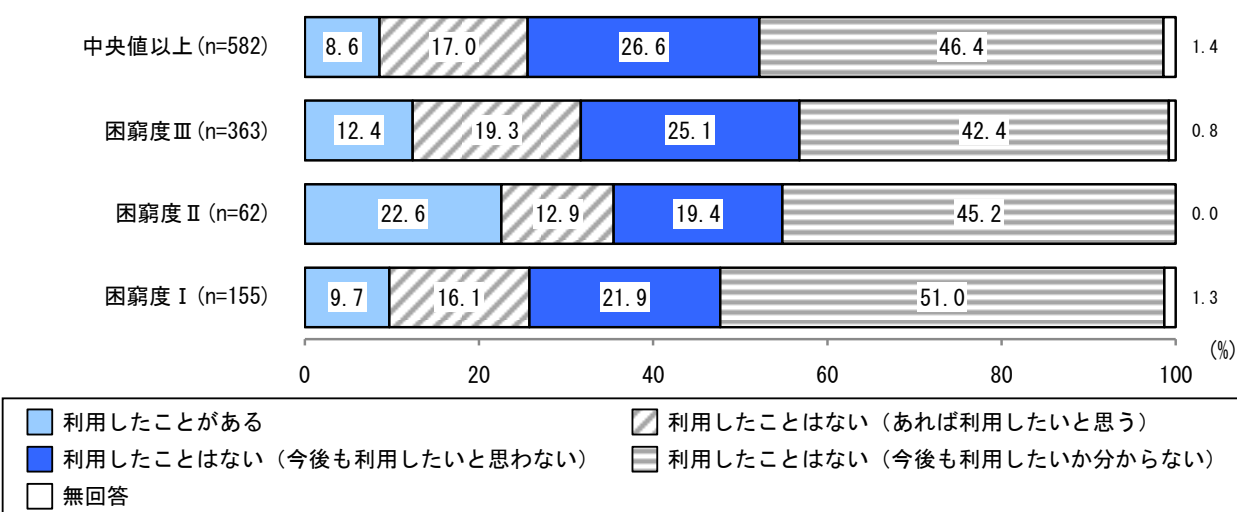
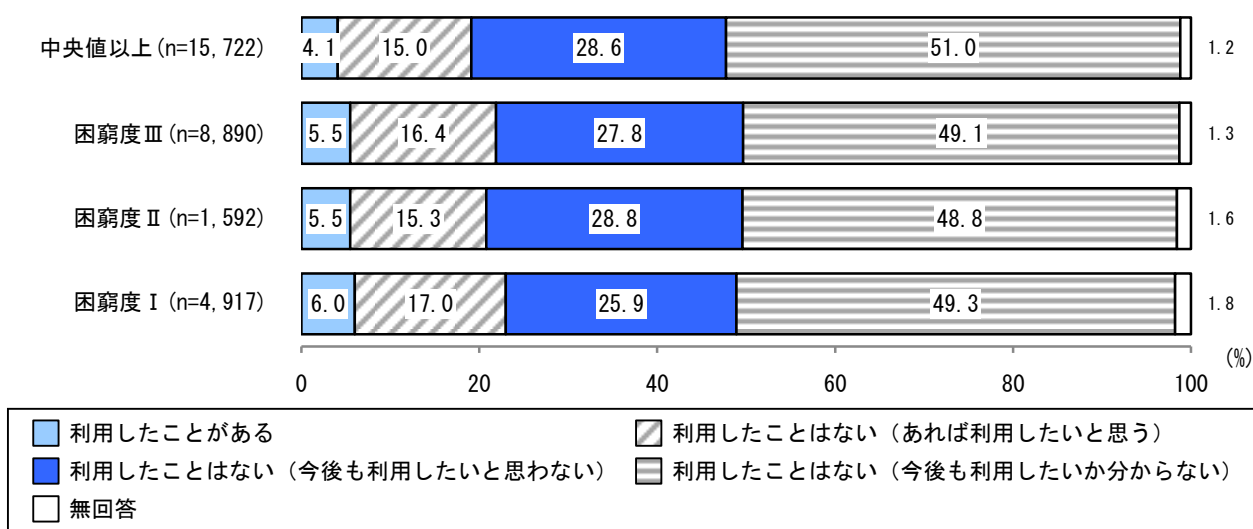


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」と回答する割合が困窮度Ⅰ群で51.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<枚方市>

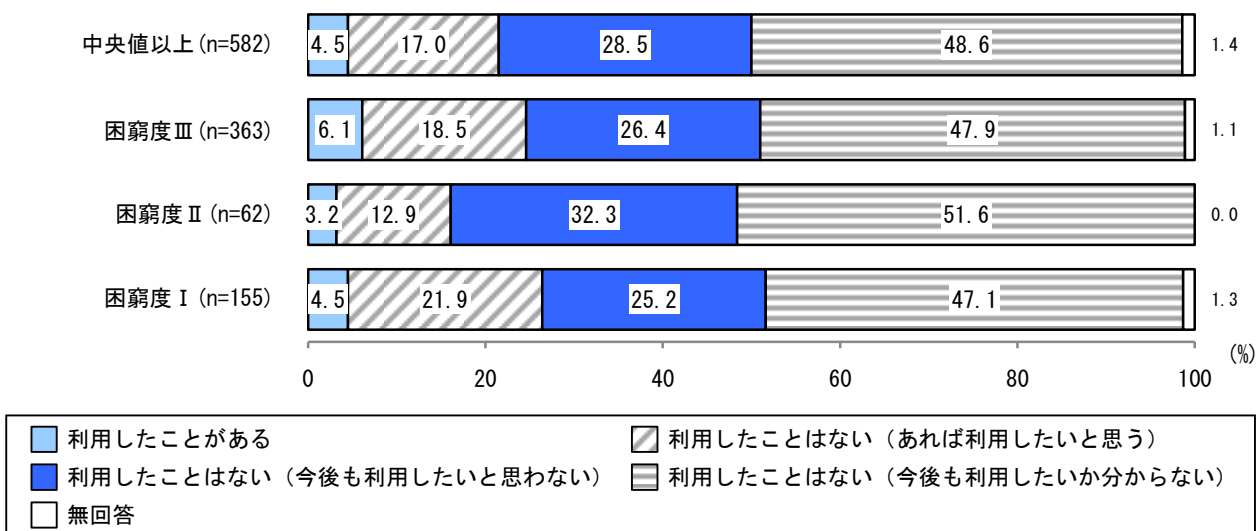
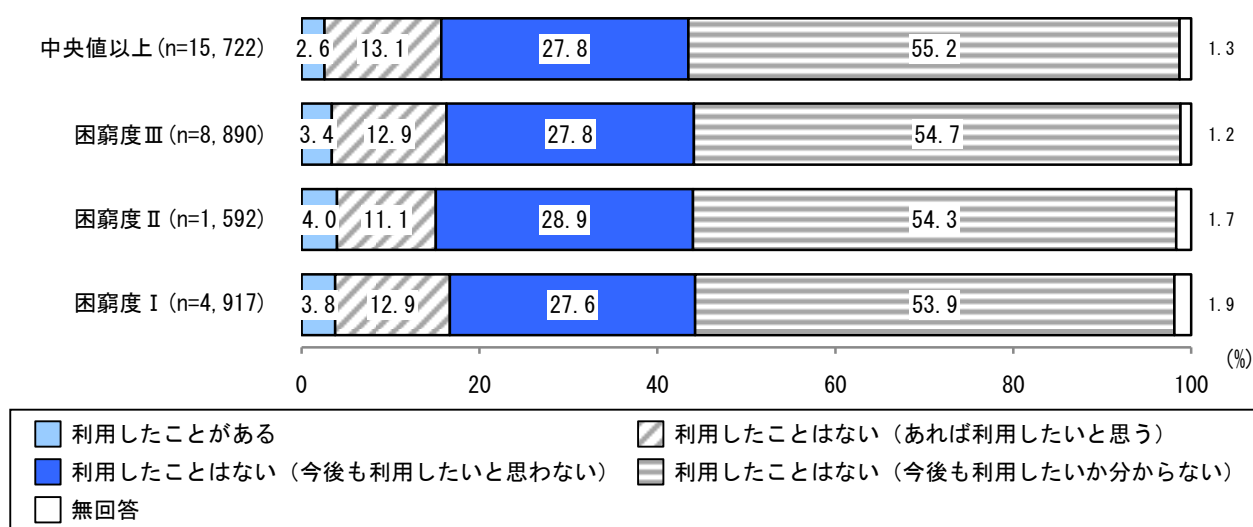


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅲ群で6.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<枚方市>

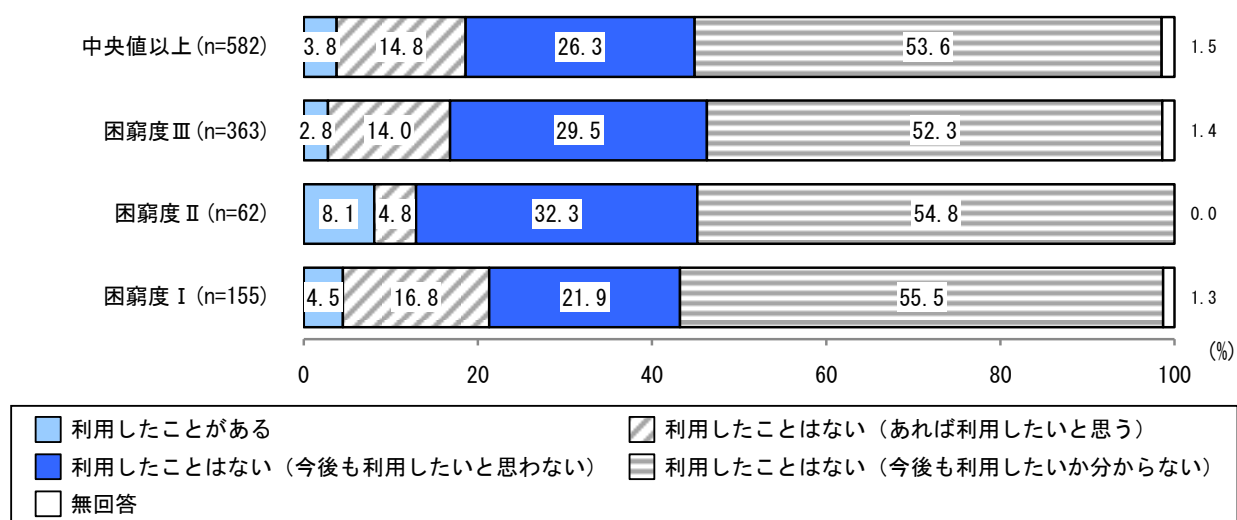
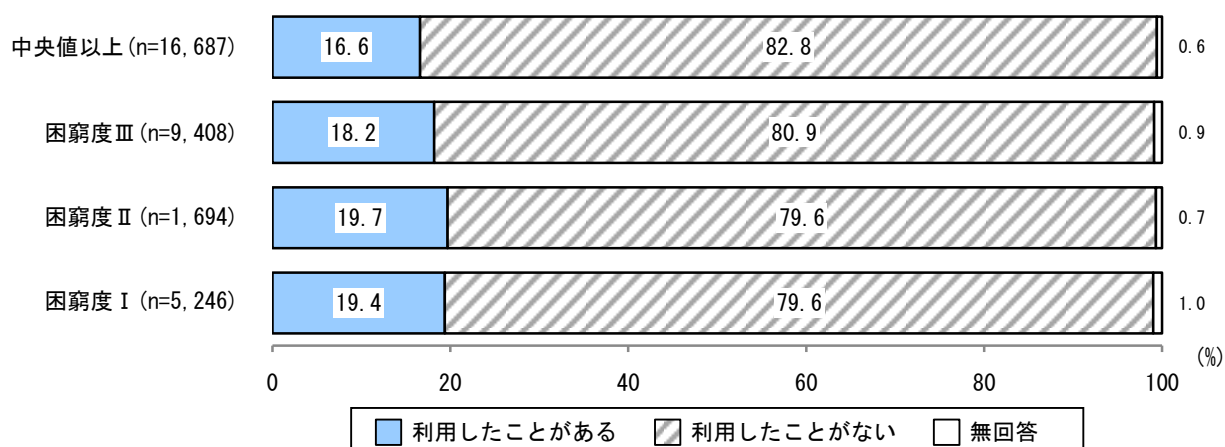


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、概ね困窮度が高まるにつれて、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」と回答する割合が高くなっている。一方、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で8.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

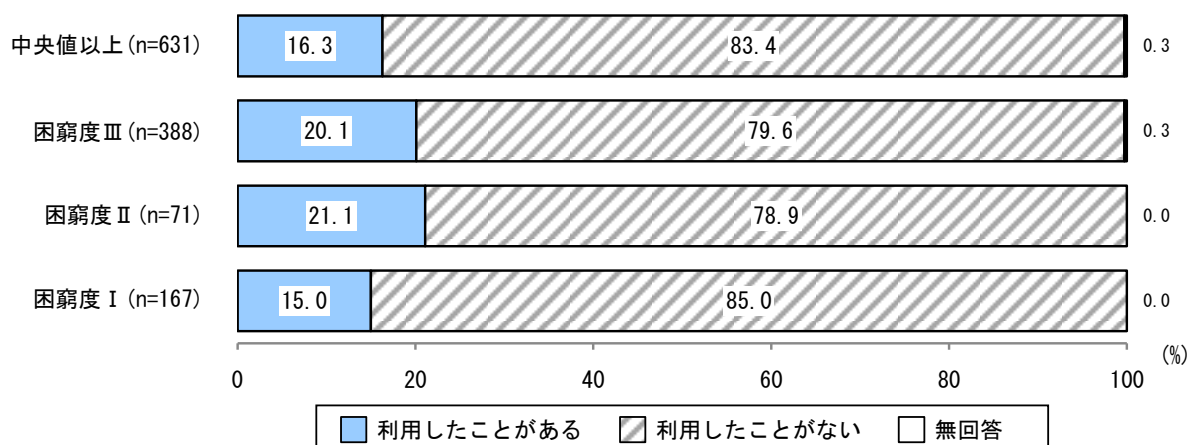
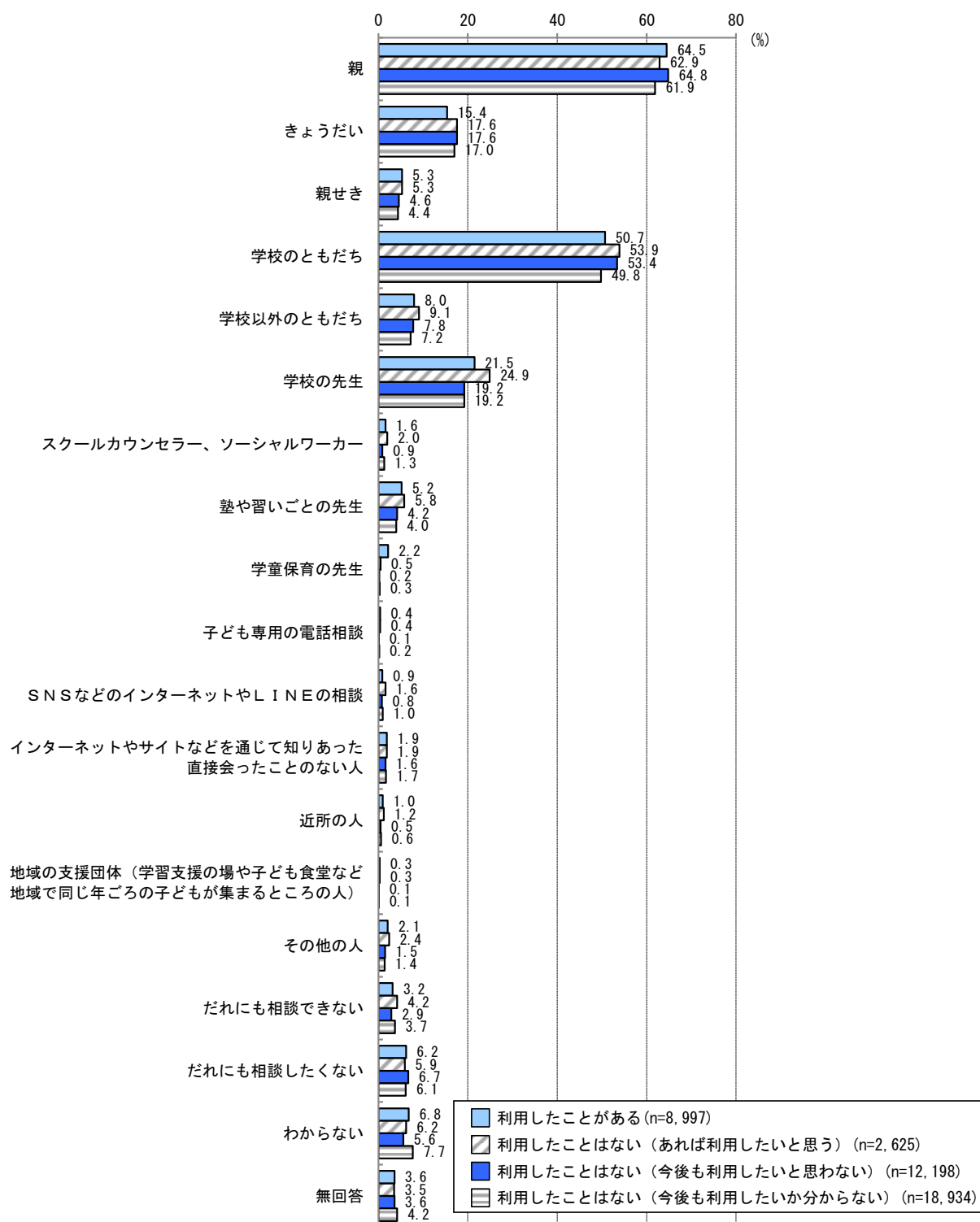


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は困窮度Ⅰ群が15.0%で最も低く、困窮度Ⅱ群が21.1%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

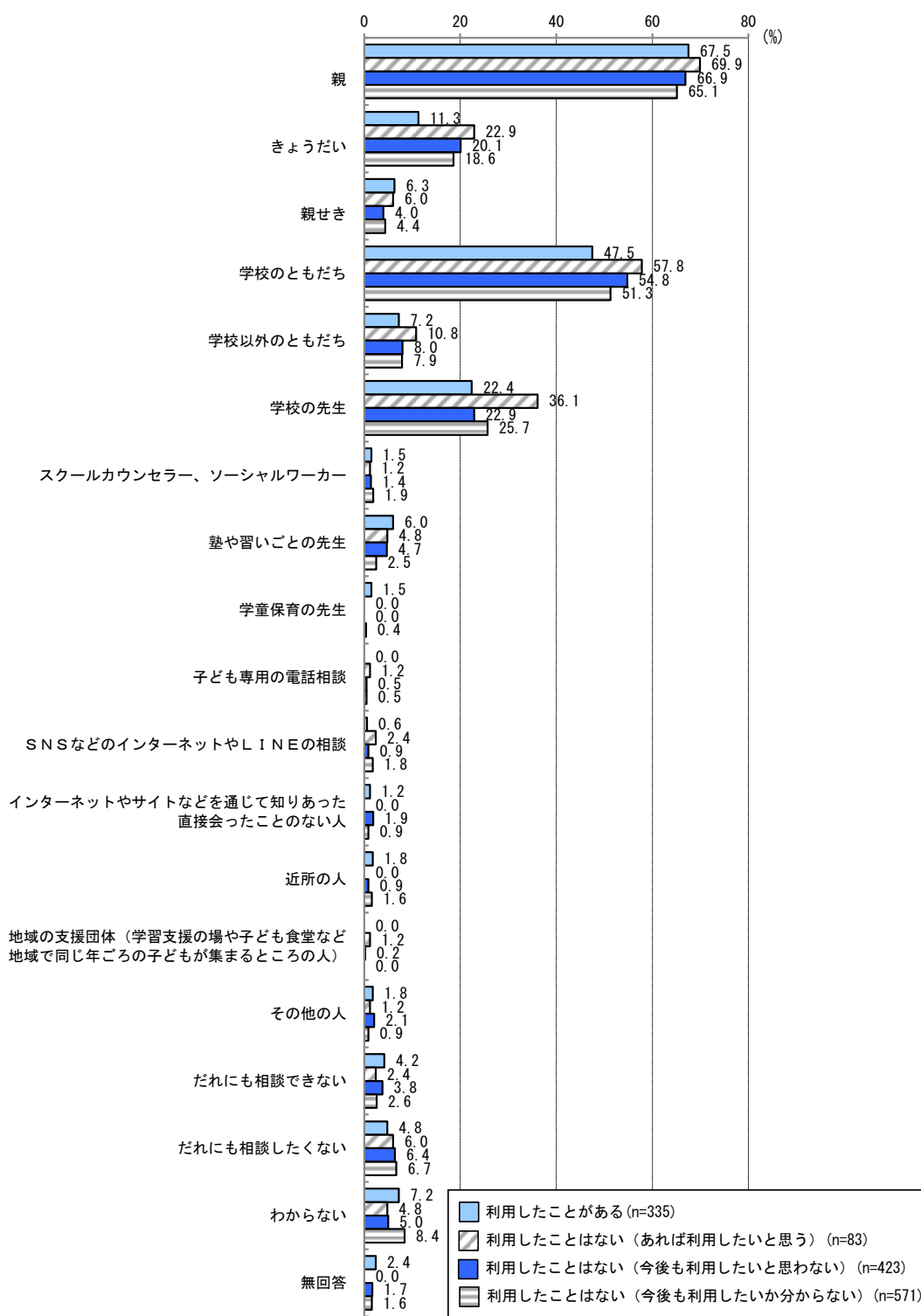
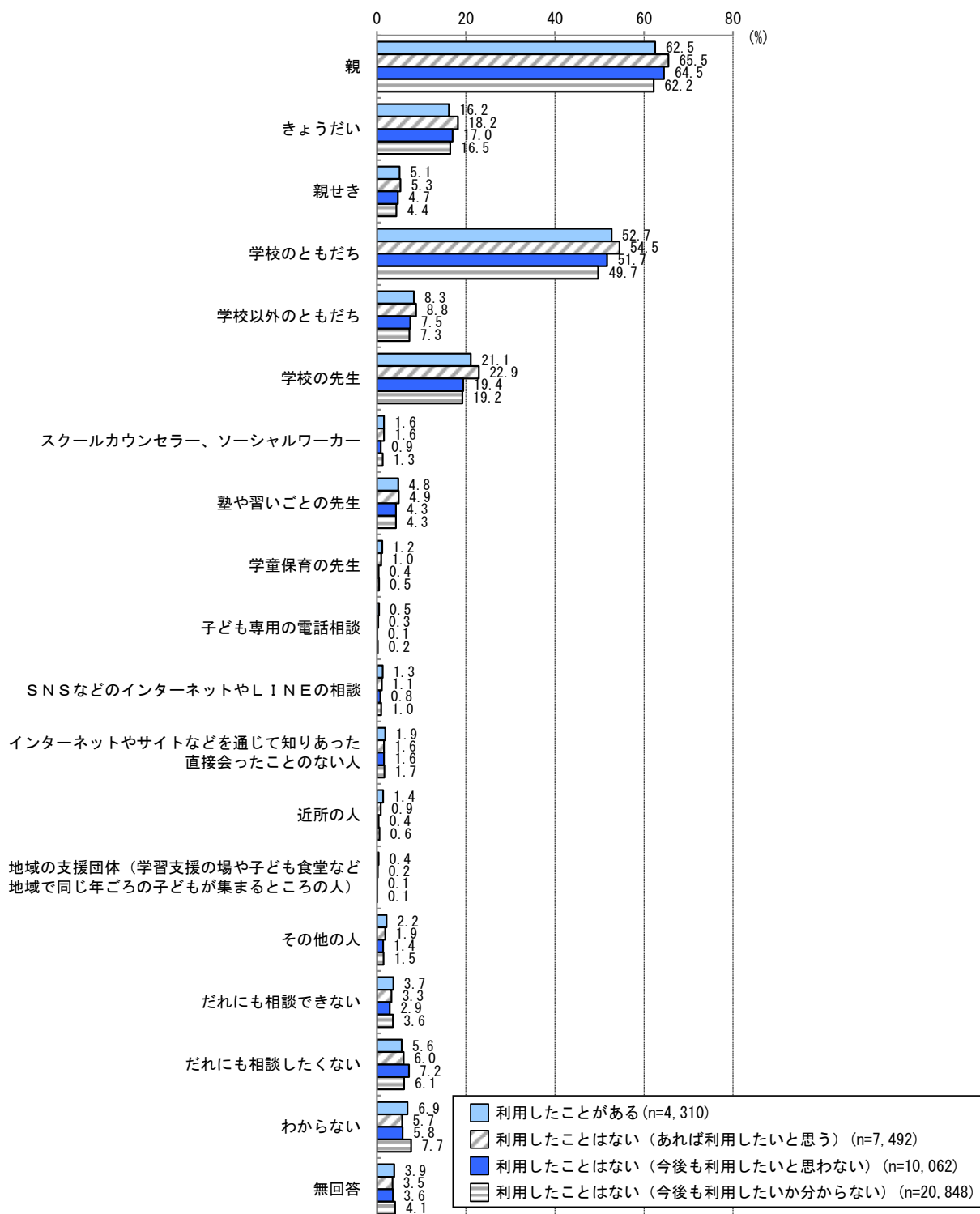


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人が69.9%で最も高く、次いで「利用したことがある」と回答した人が67.5%で高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25(1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

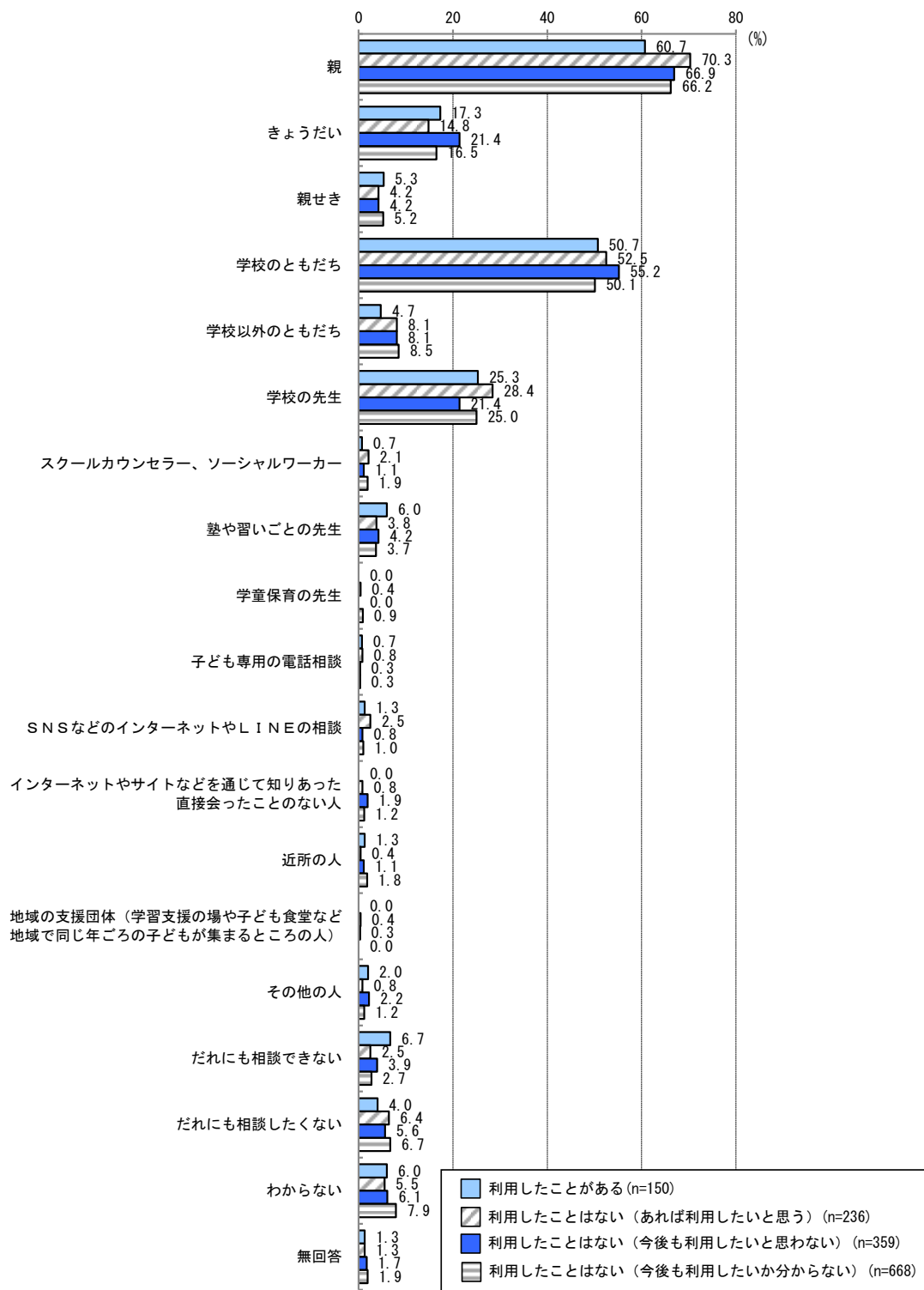
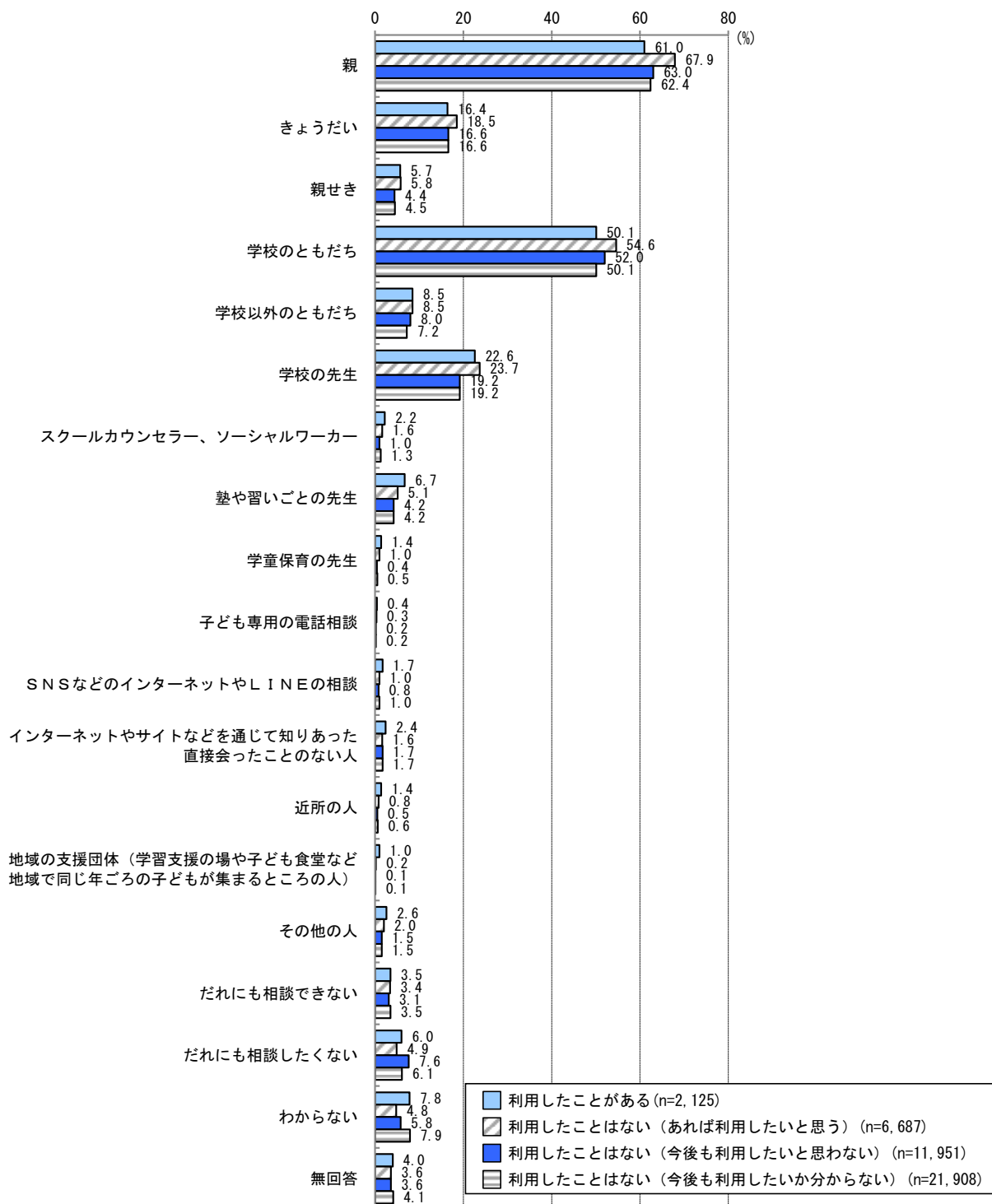


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「きょうだい」と回答した割合は、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」と回答した人が21.4%で最も高く、次いで「利用したことがある」と回答した人が17.3%で高くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

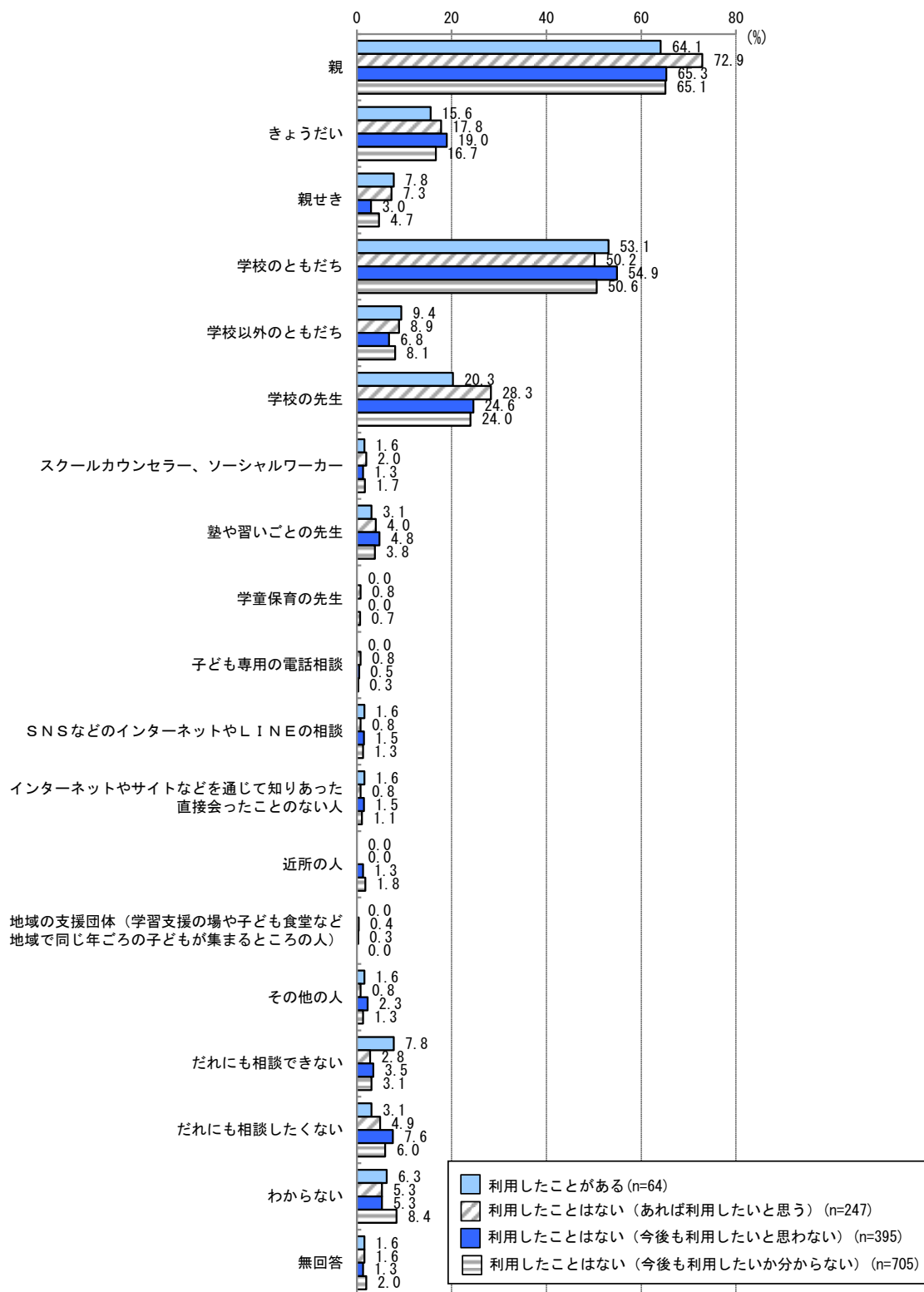
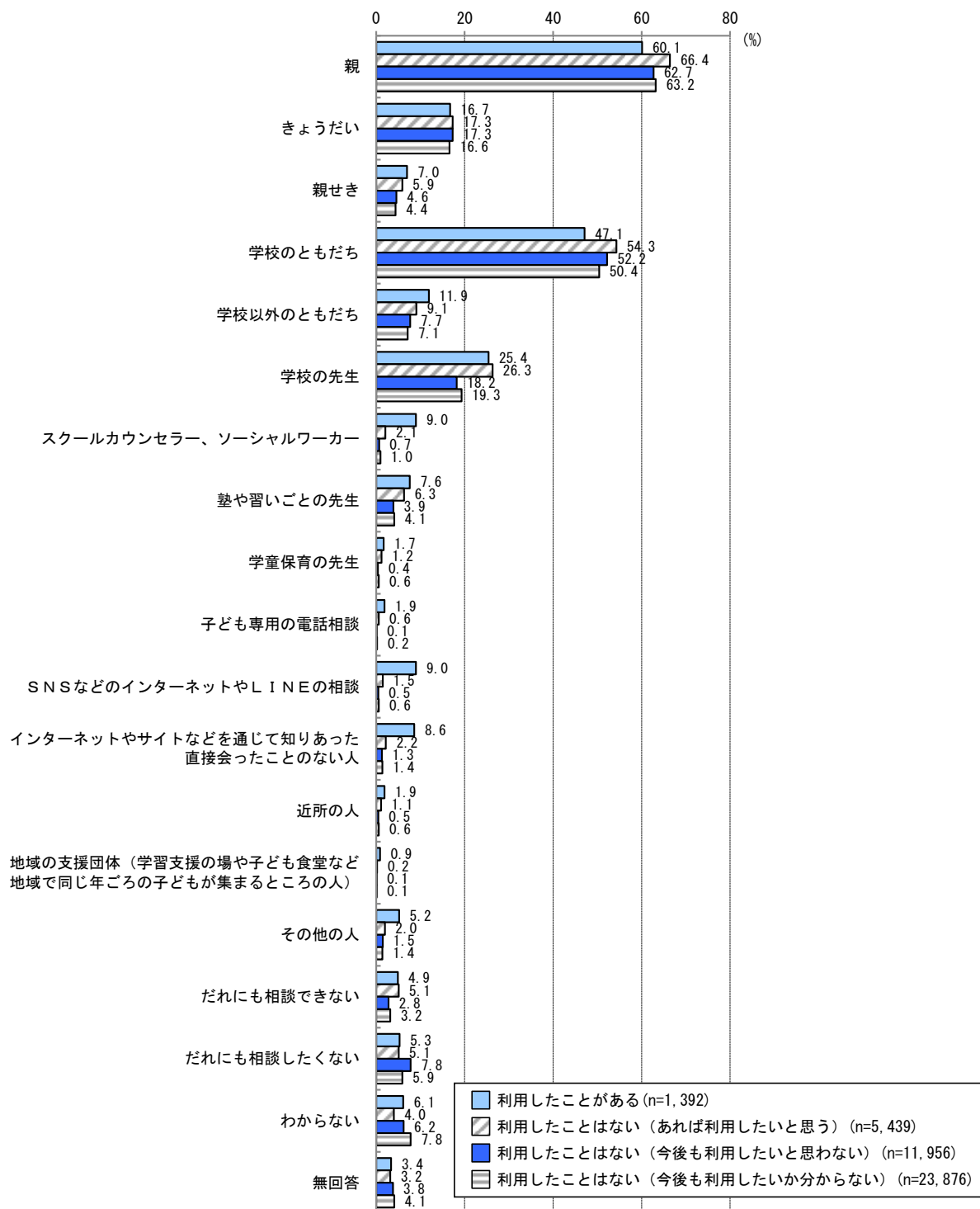


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人が72.9%で最も高く、「利用したことがある」と回答した人が64.1%で最も低くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

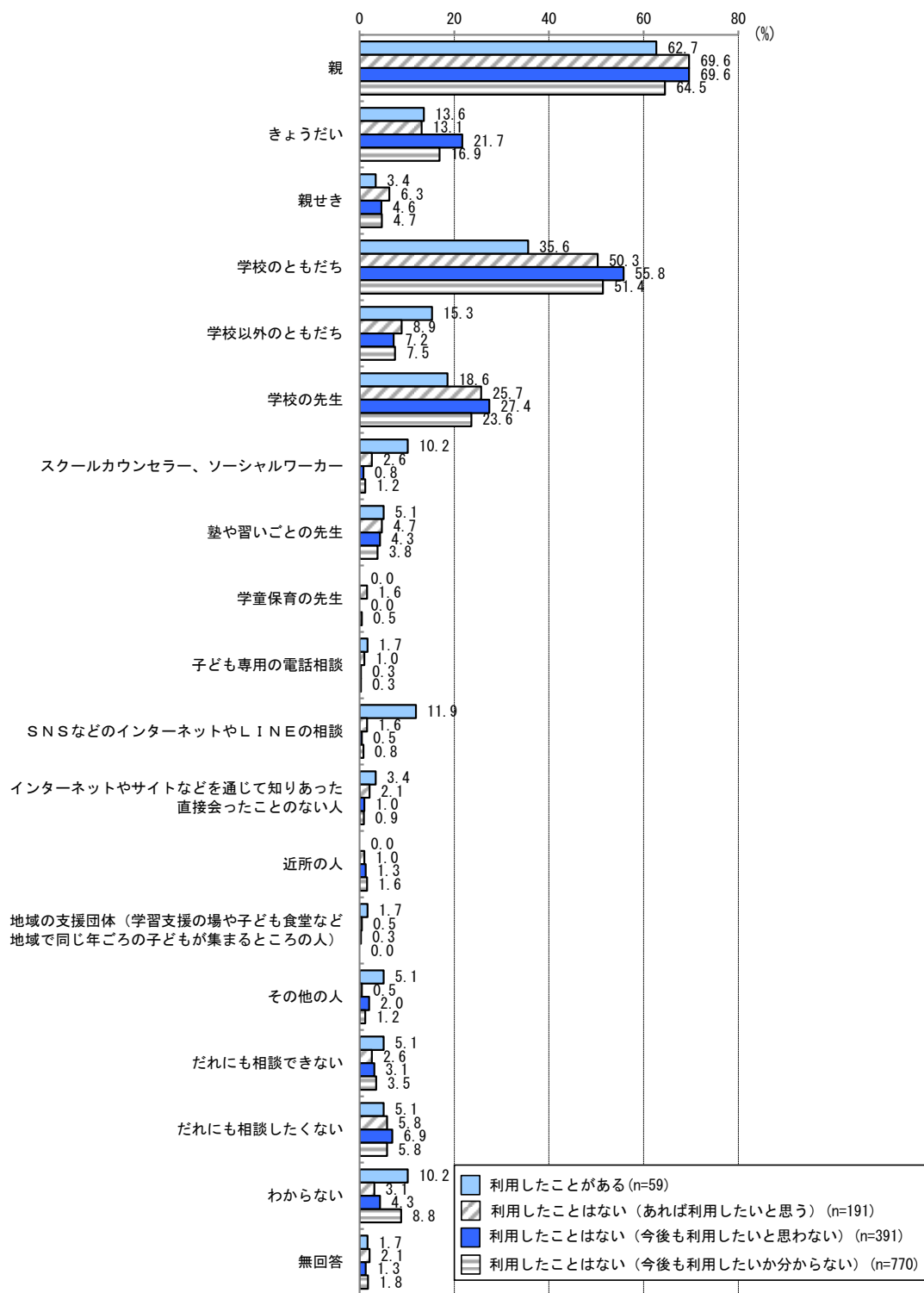
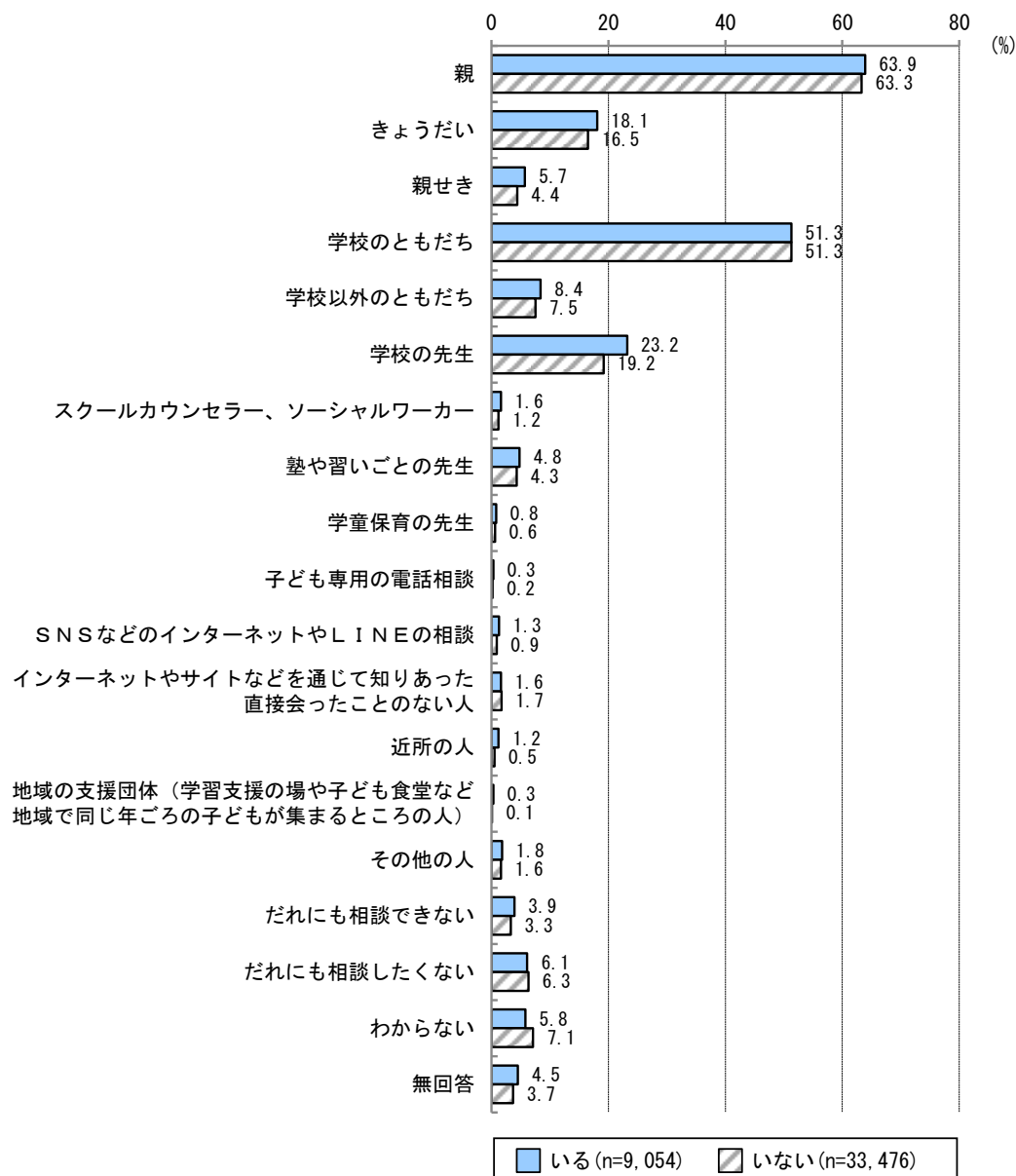


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」と回答した人がともに69.6%で最も高く、「利用したことがある」と回答した人が62.7%で最も低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

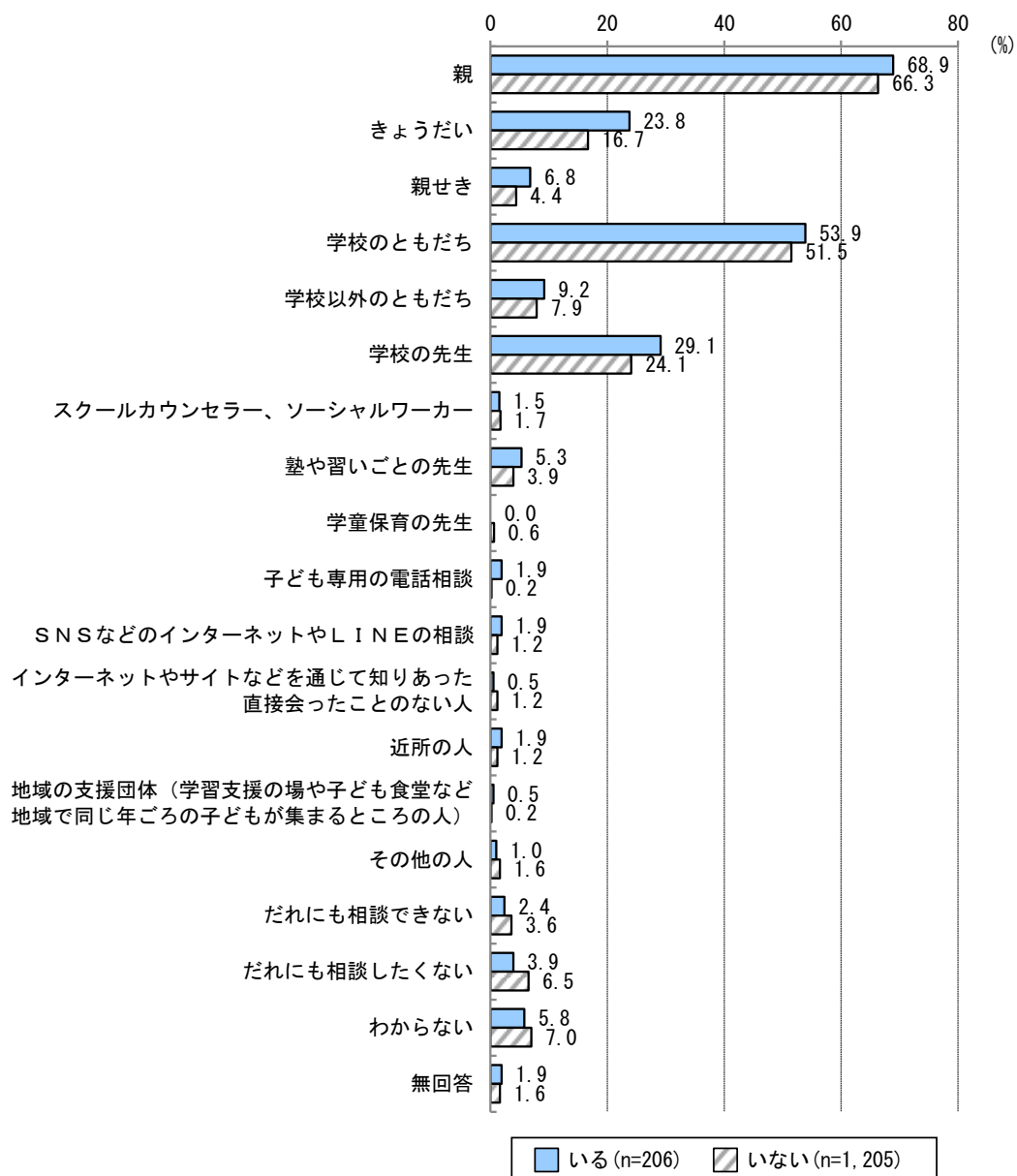
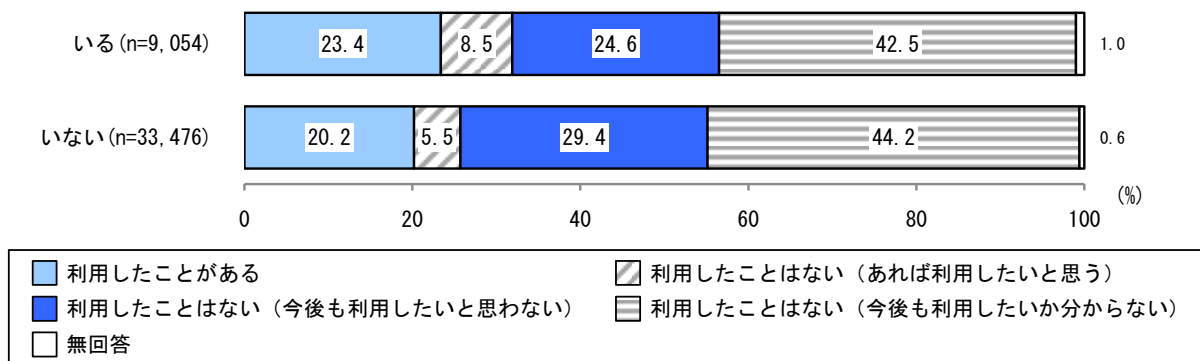


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「きょうだい」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高く、世話をしている人では23.8%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

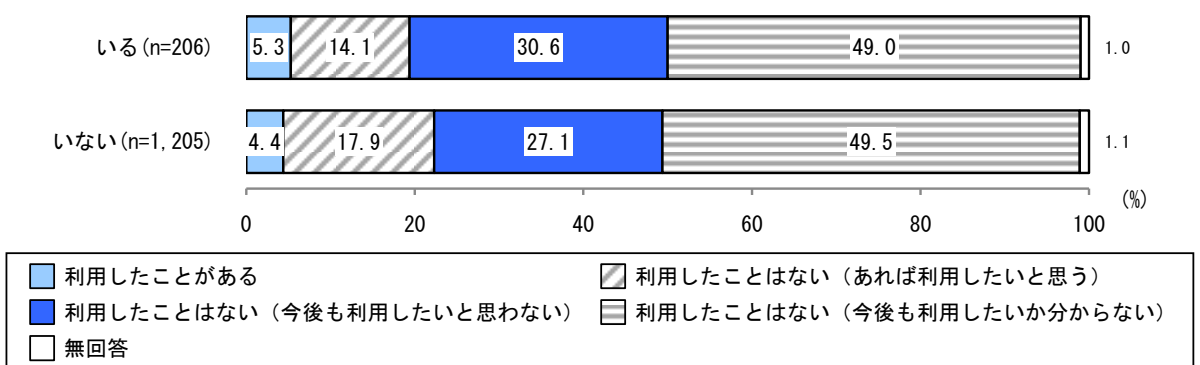
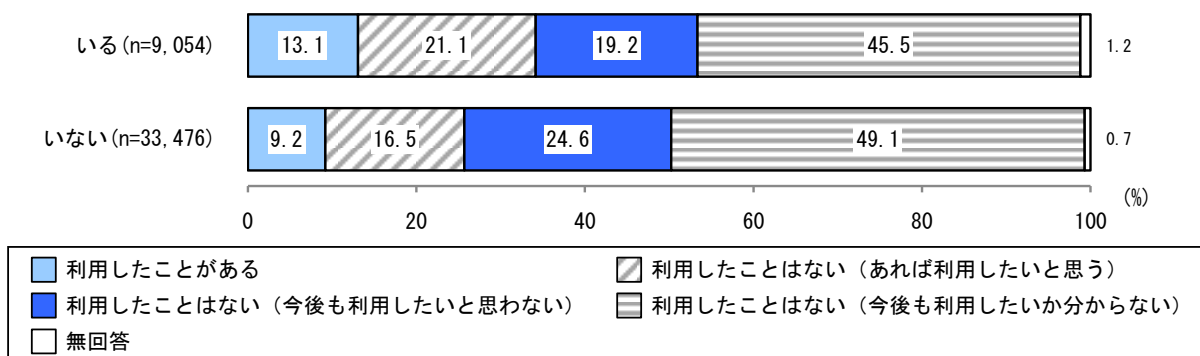


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (今後も利用したいと思わない)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

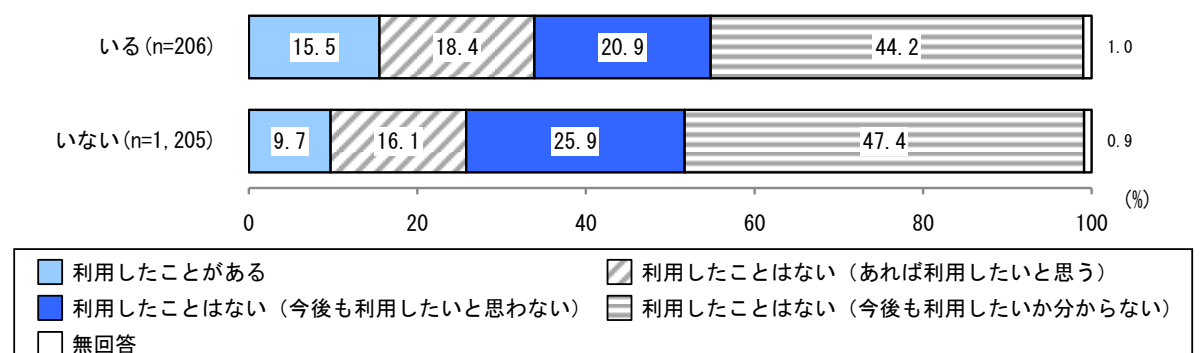
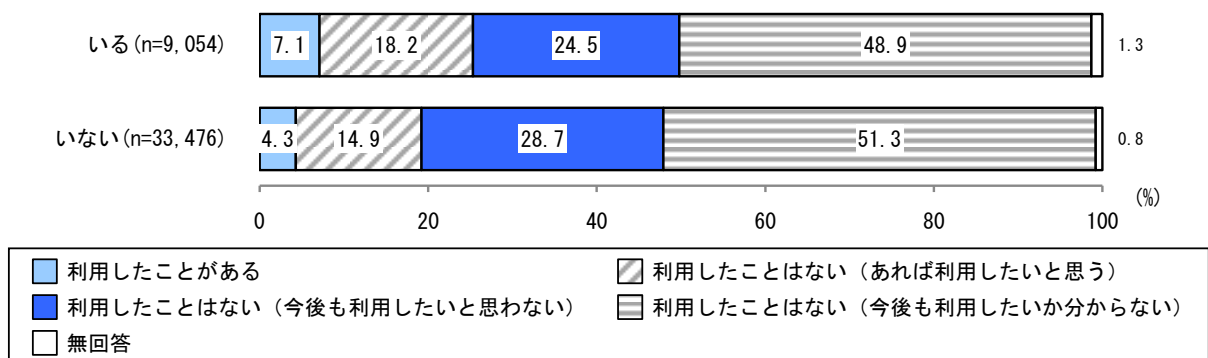


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

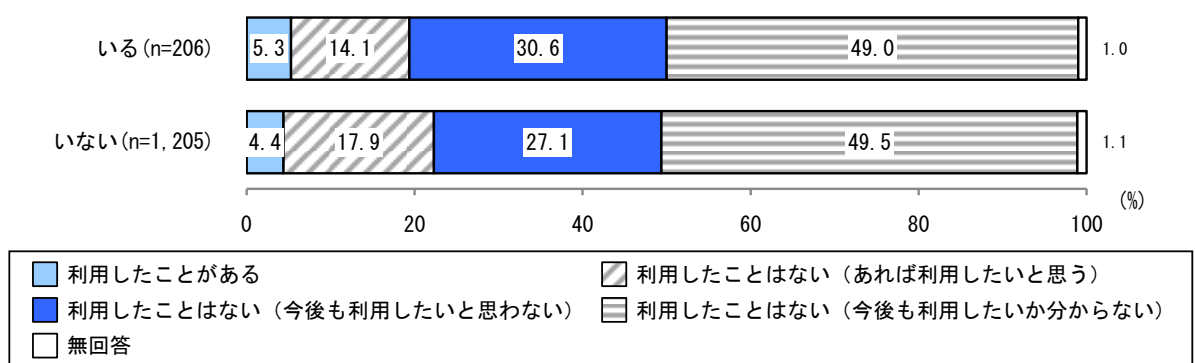
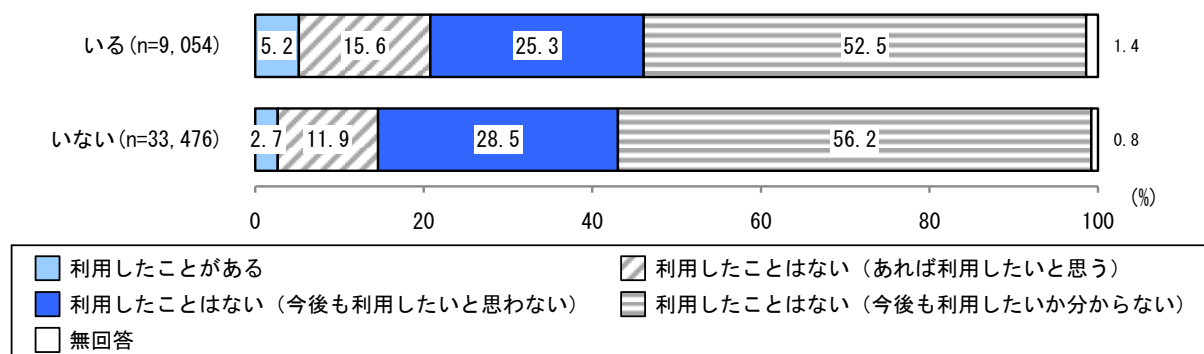


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<枚方市>

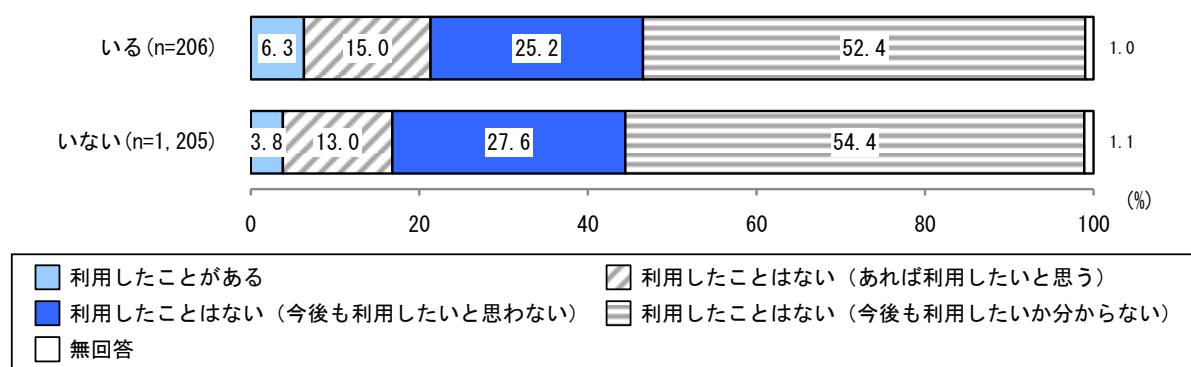
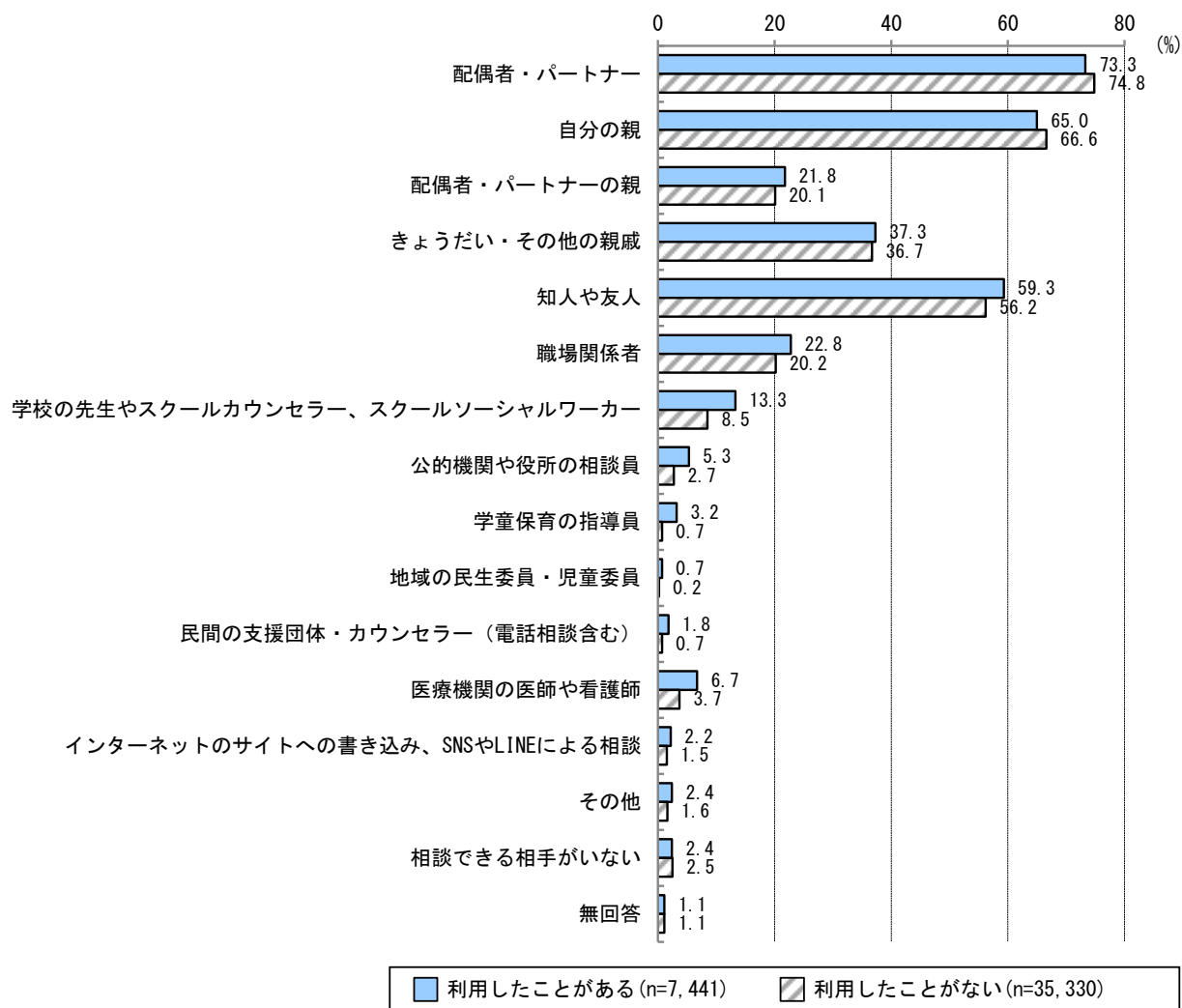


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<枚方市>

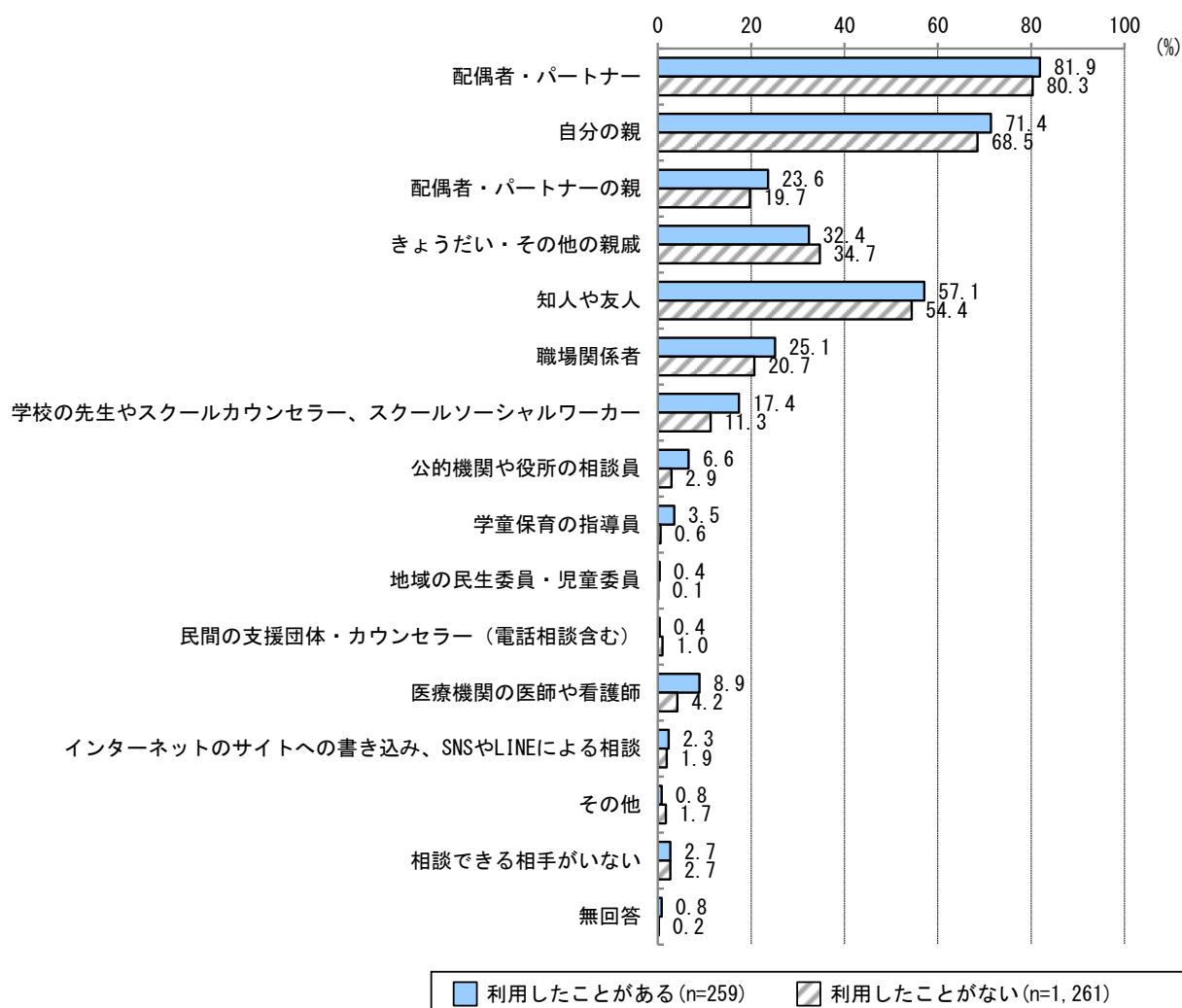
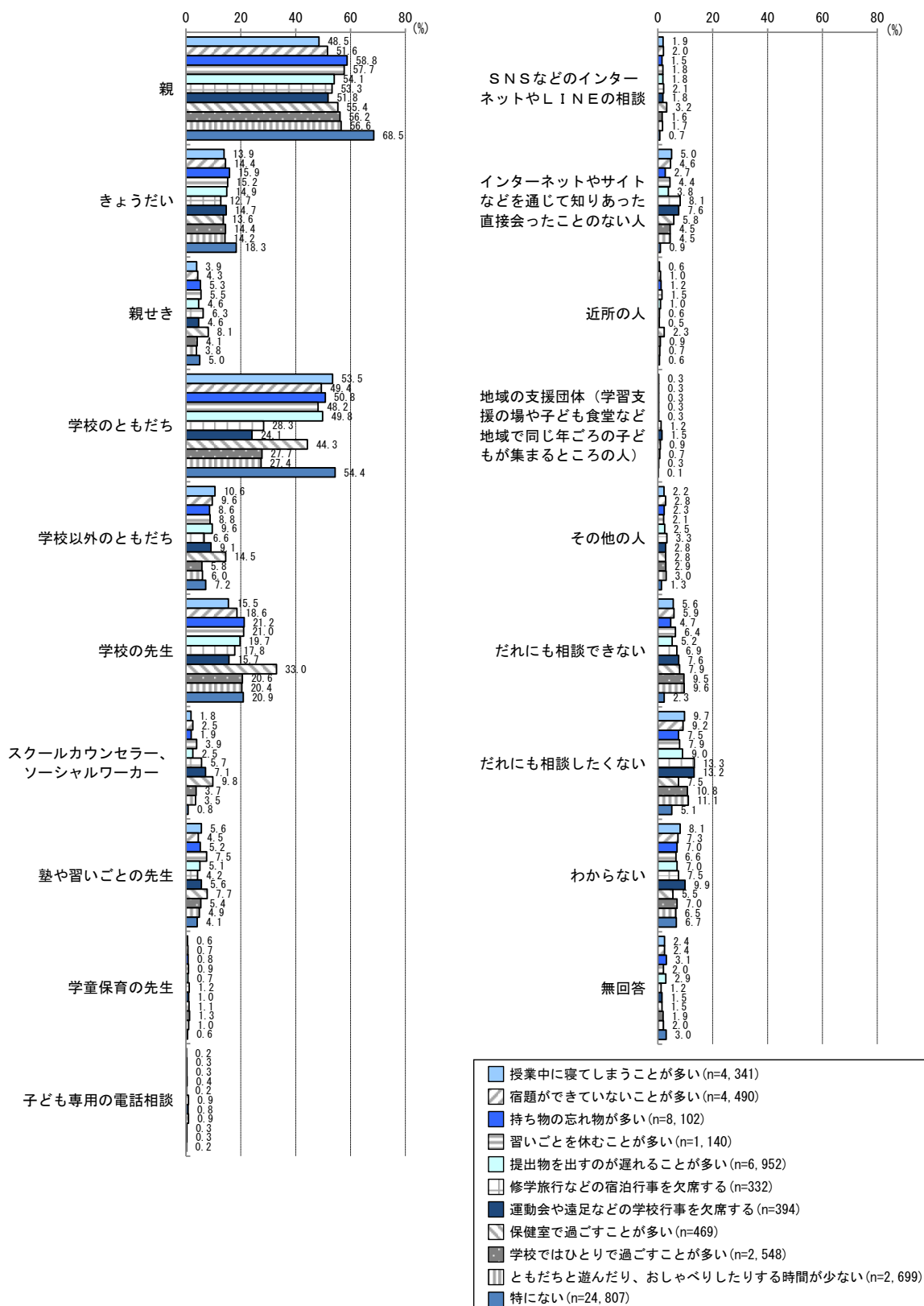


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、複数の項目で子どもの居場所を利用したことがない人より、利用したことがある人のほうが回答した割合が高くなっている。一方、「きょうだい・その他の親戚」と回答した人の割合は、利用したことがない人の方が回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 16×子ども票問 18)

＜大阪府内全体＞



<枚方市>

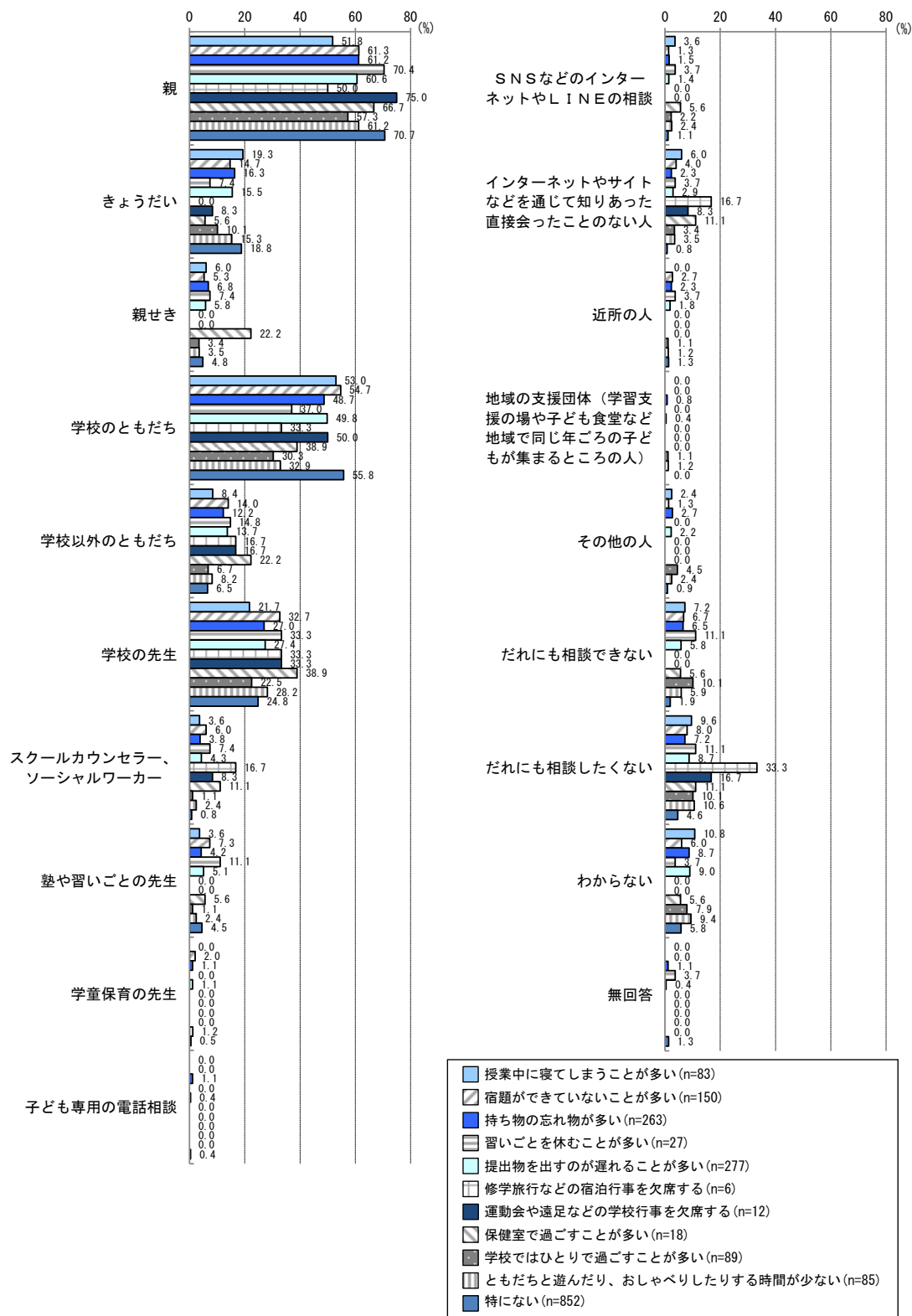
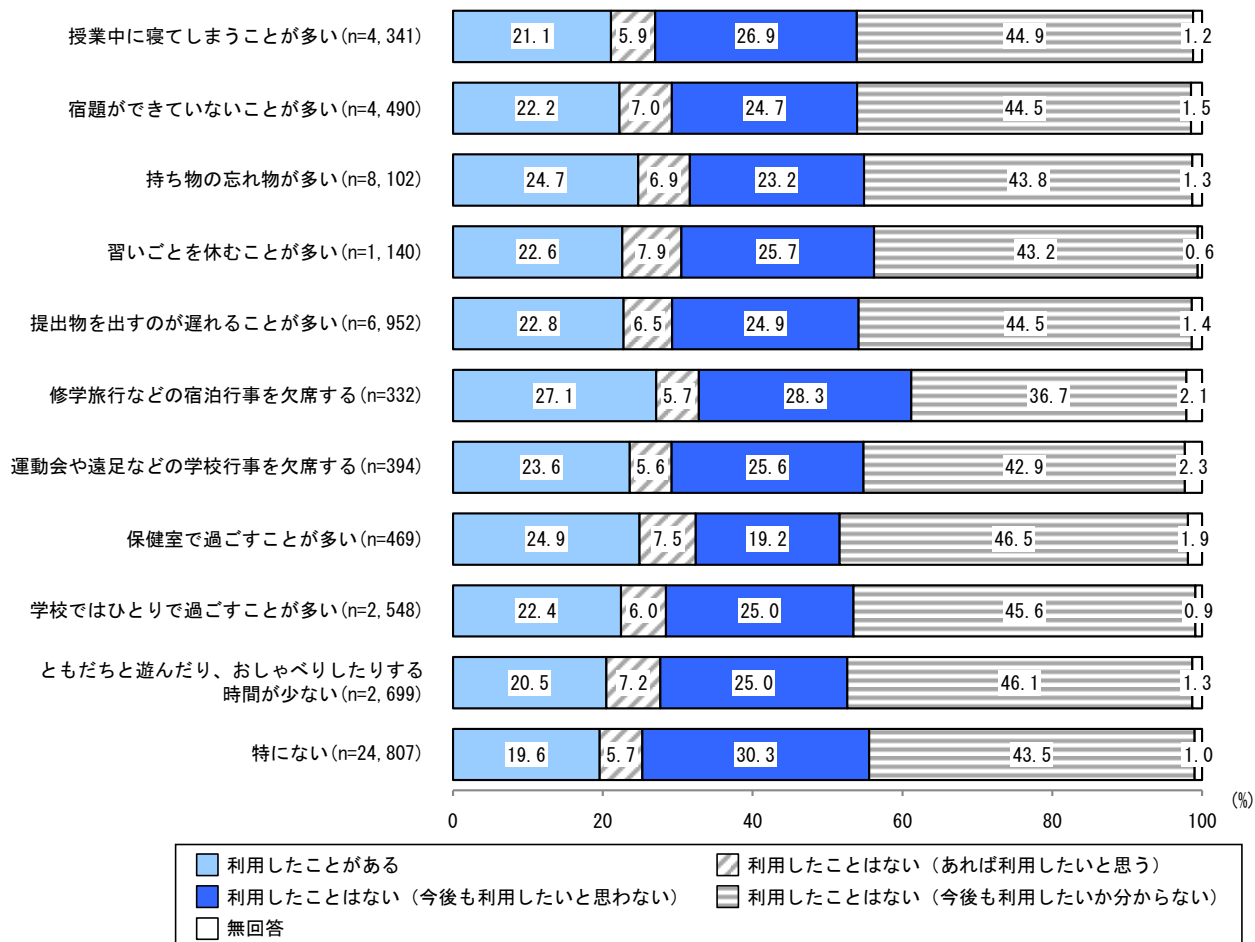


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した人の割合が75.0%で最も高く、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した人の割合が50.0%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

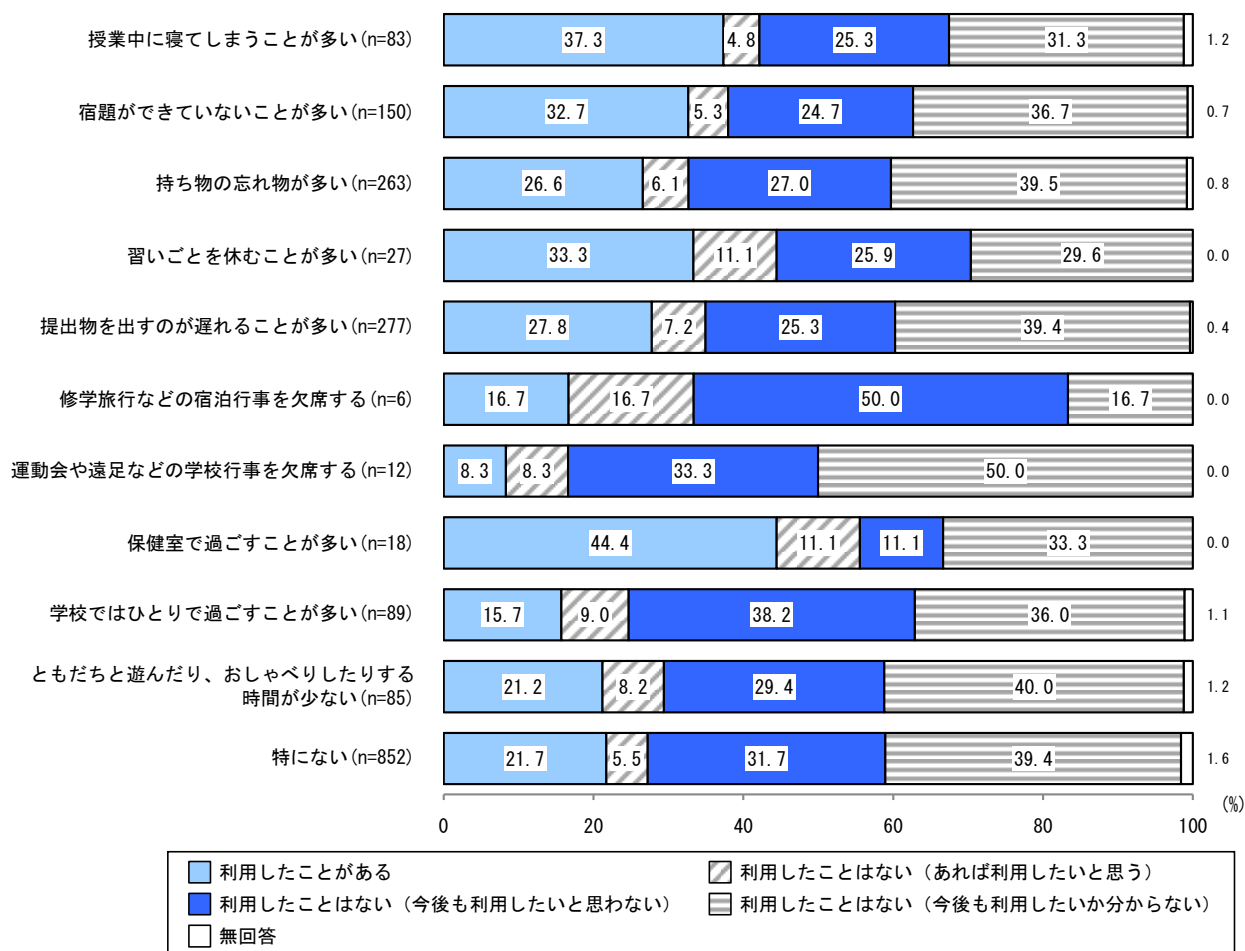
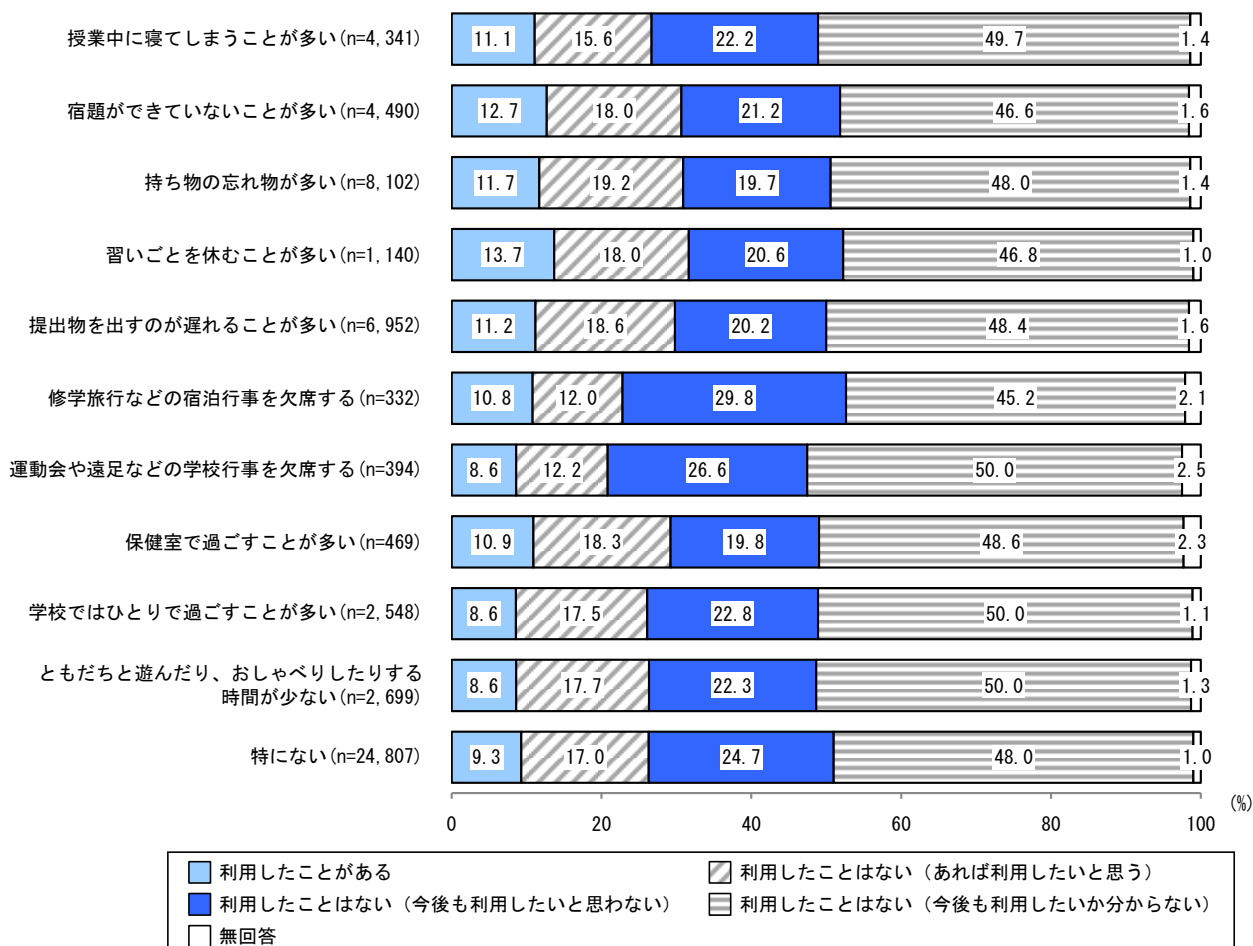


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が44.4%で、最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

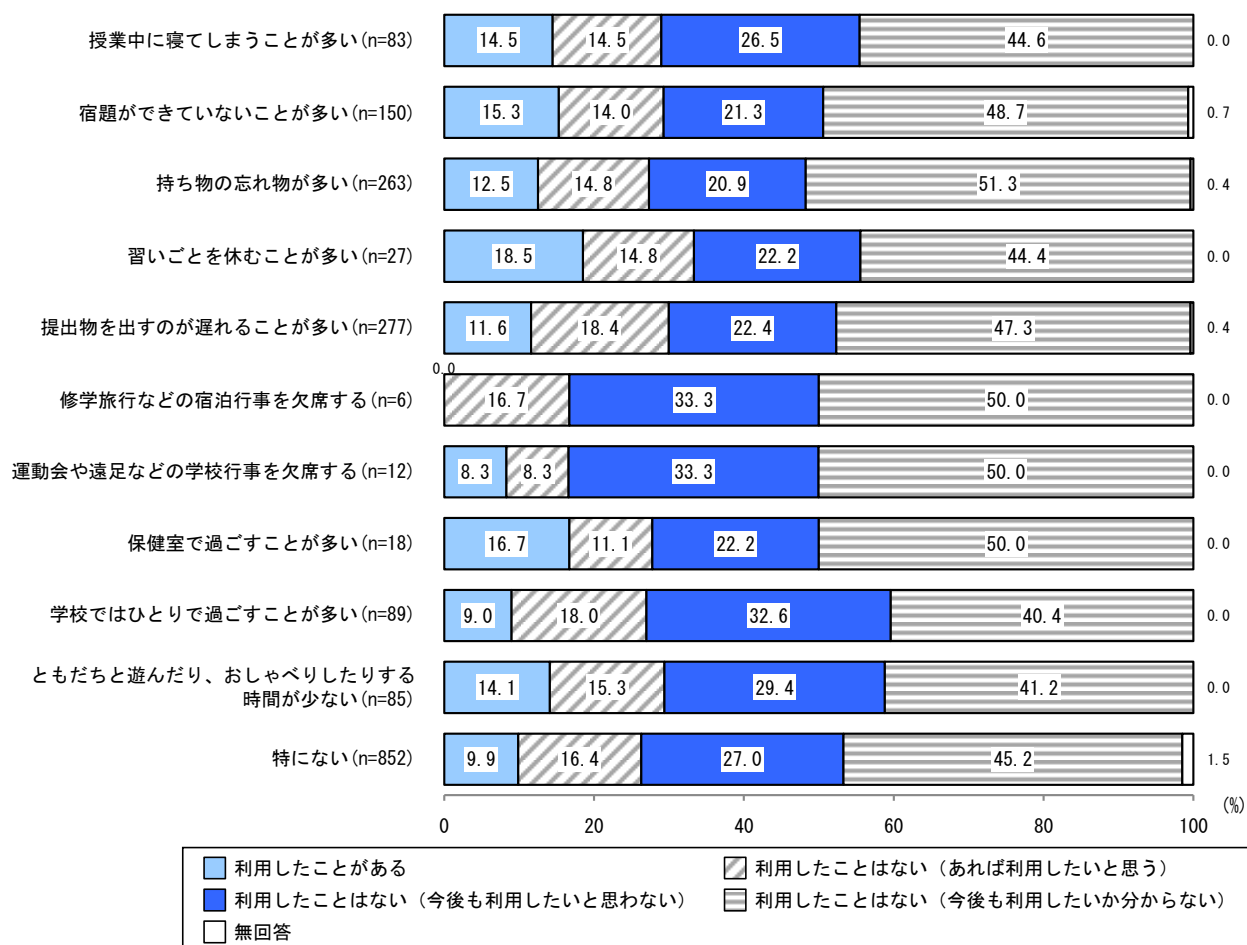
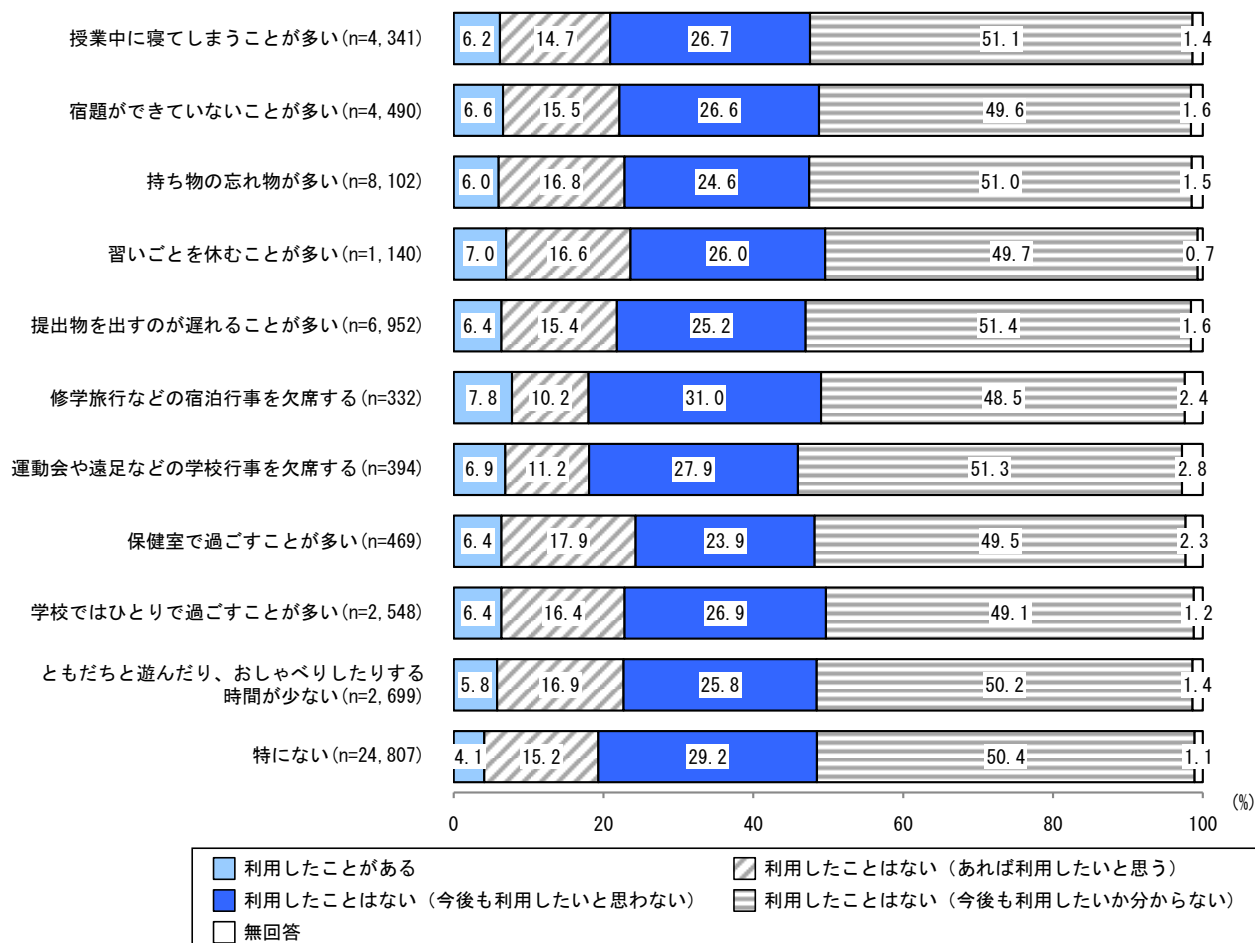


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」が18.5%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

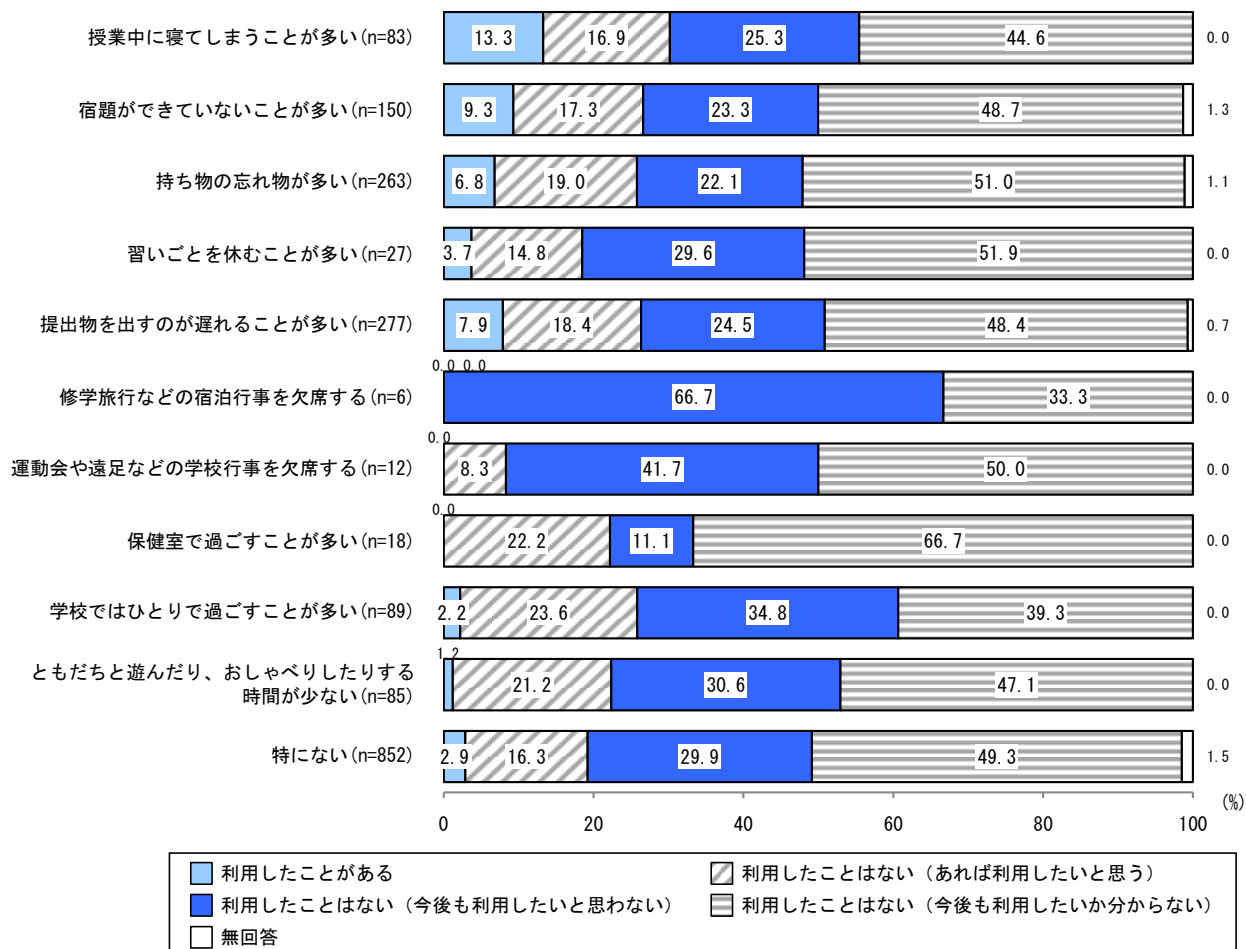
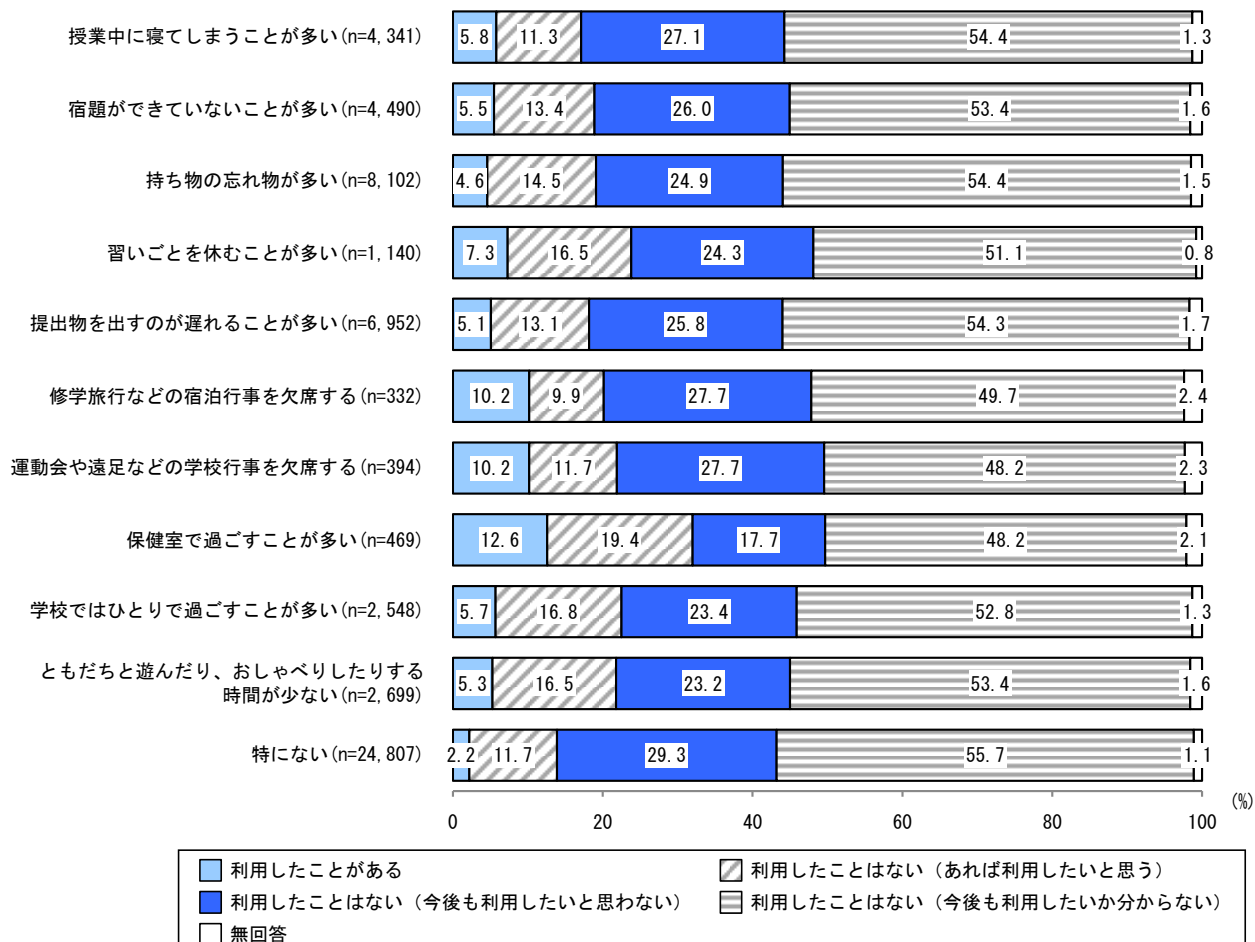


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「授業中に寝てしまうことが多い」が13.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

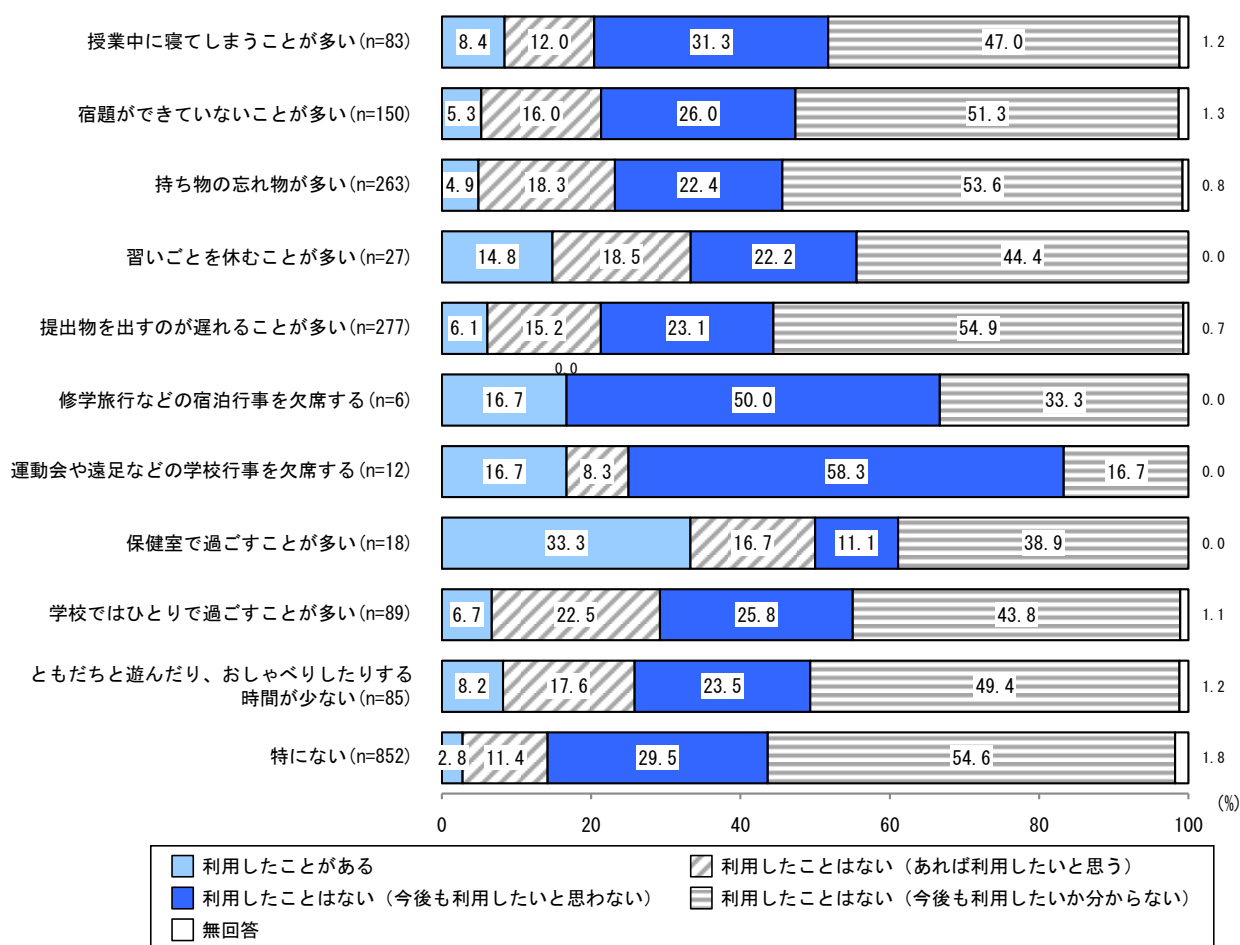
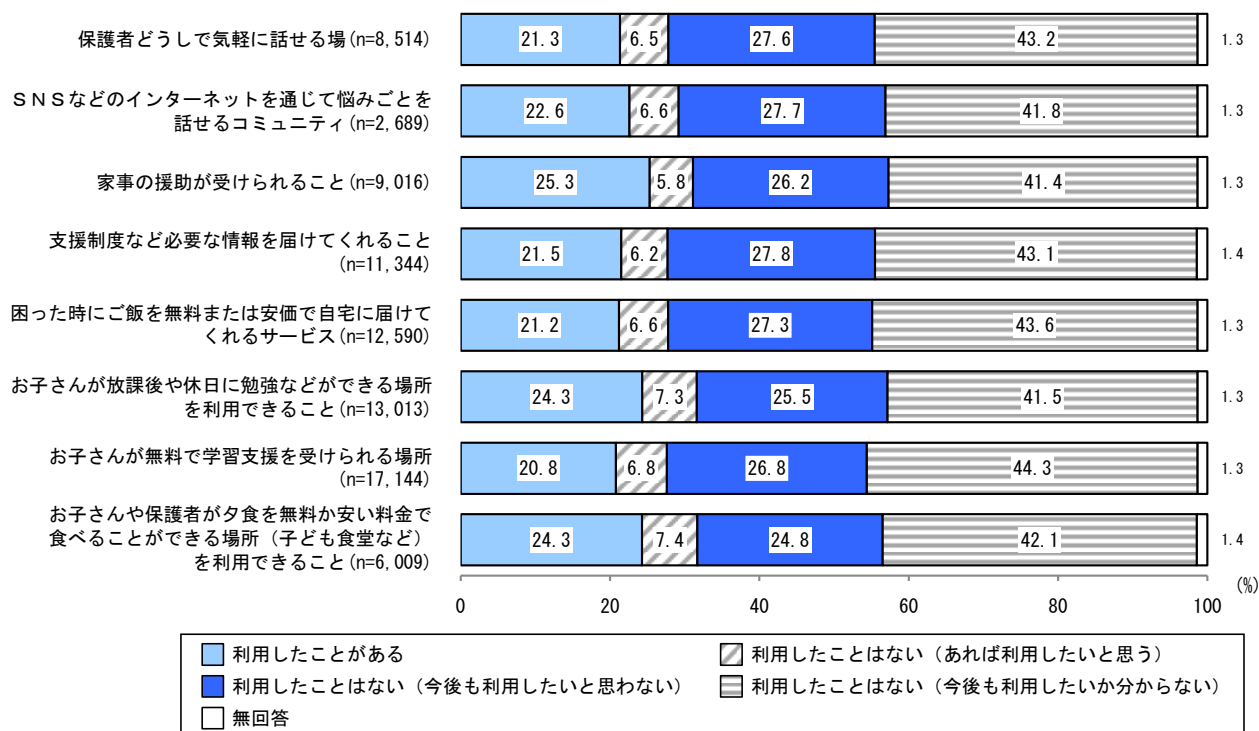


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が33.3%で最も高く、次いで「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」がともに16.7%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

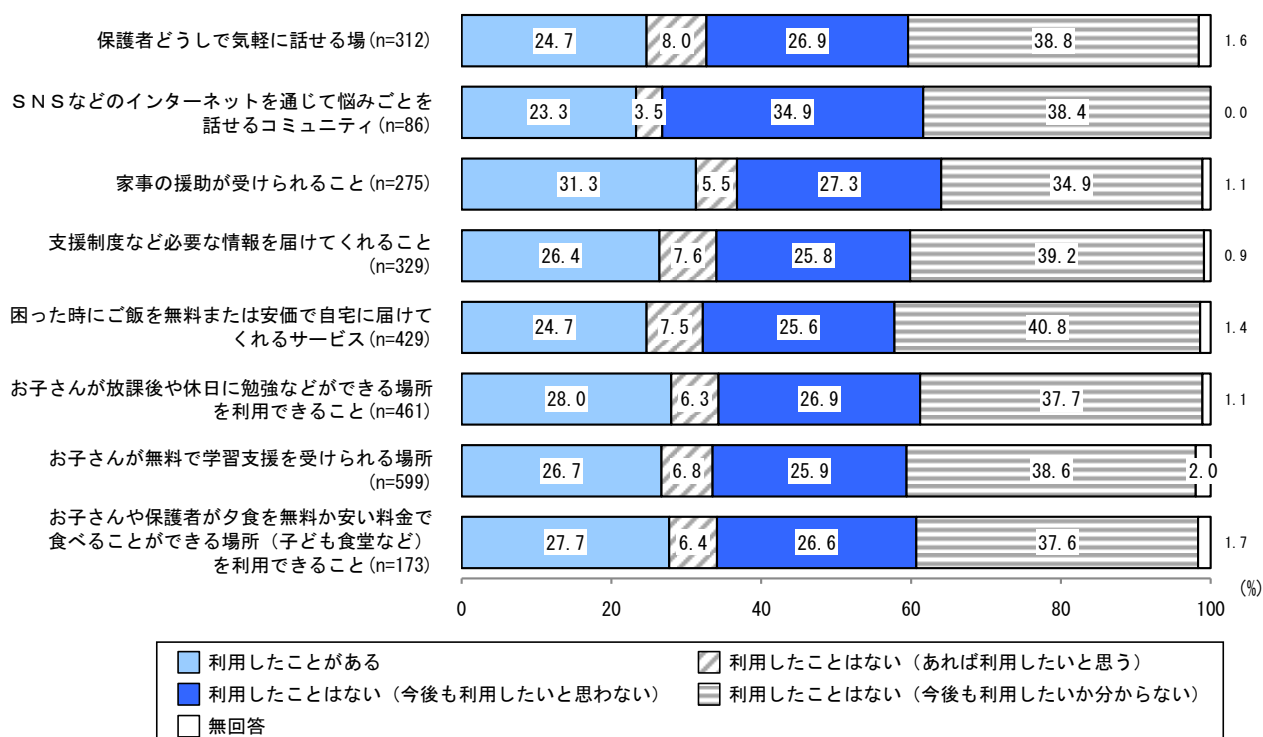
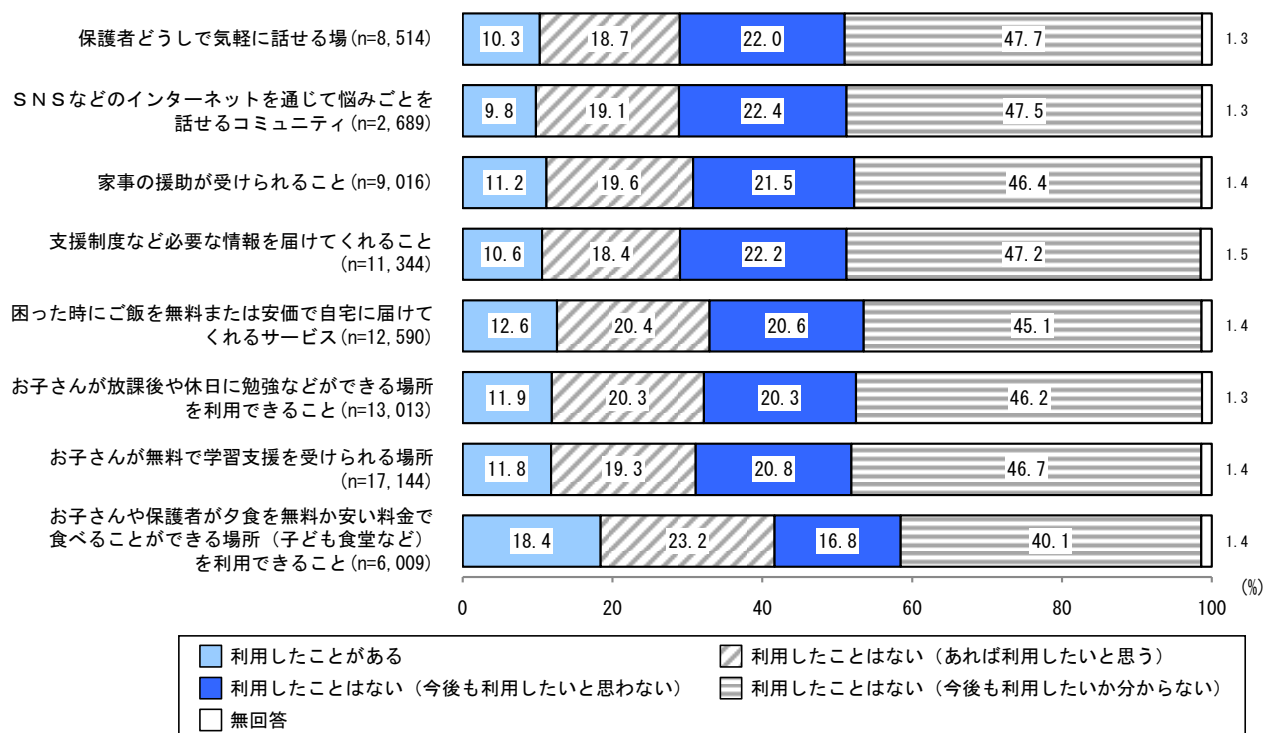


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「家事の援助が受けられること」が31.3%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が28.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

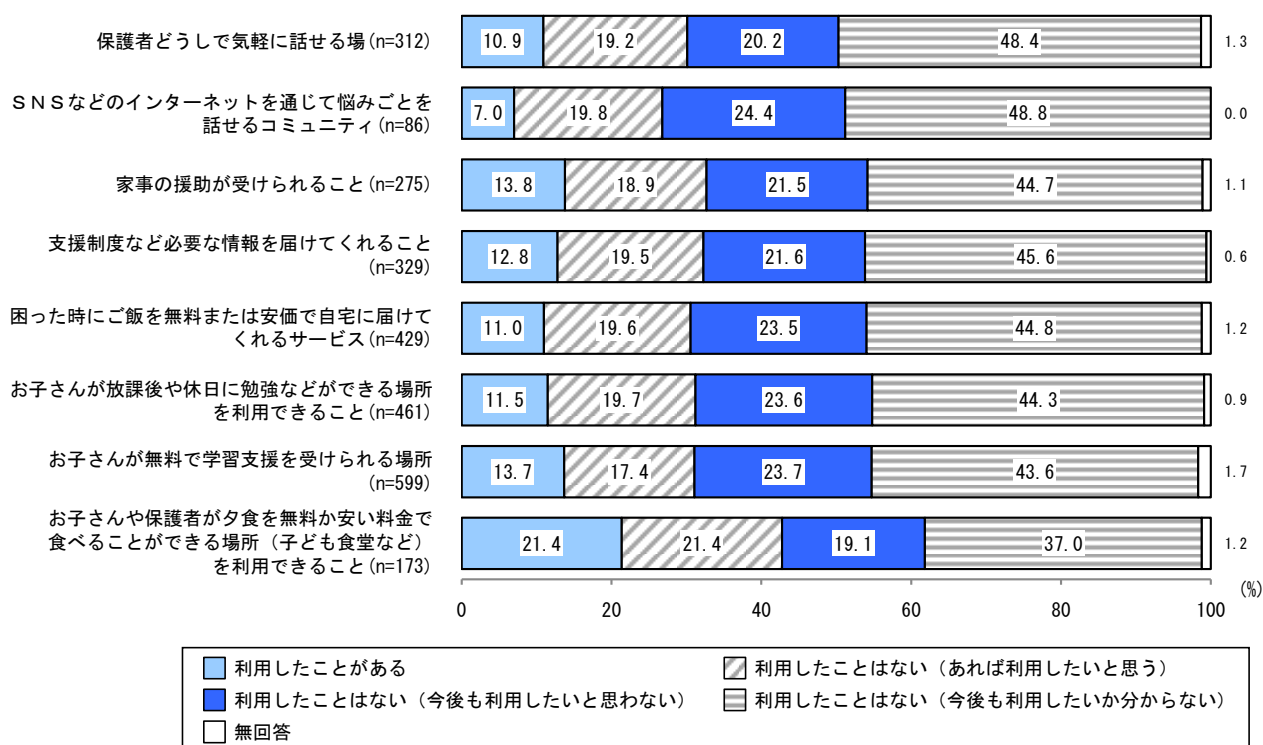
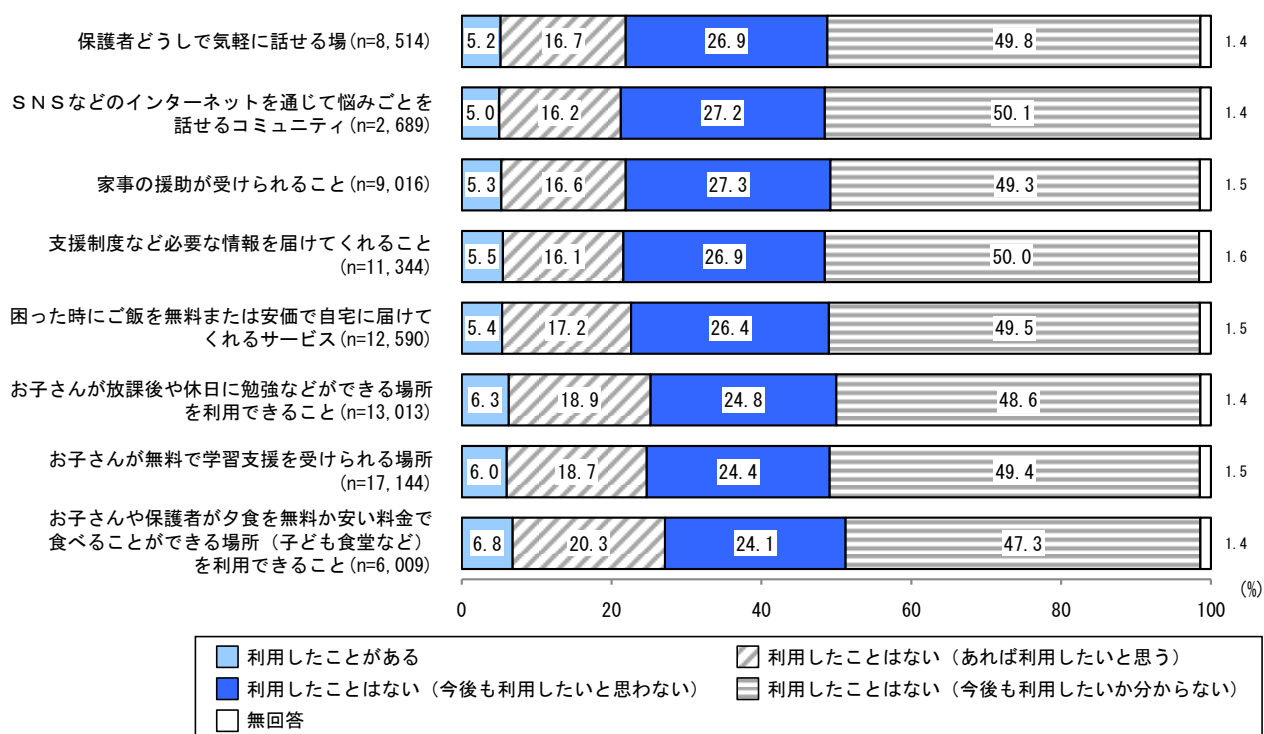


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が21.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

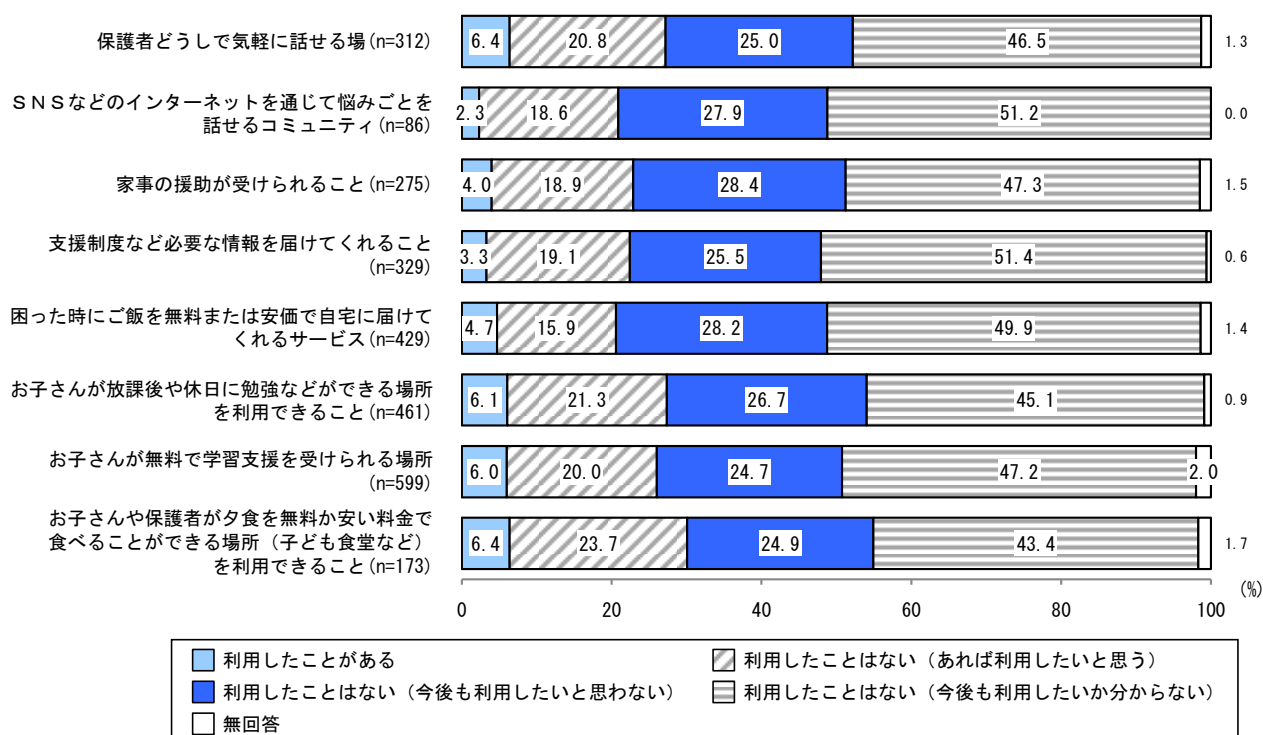
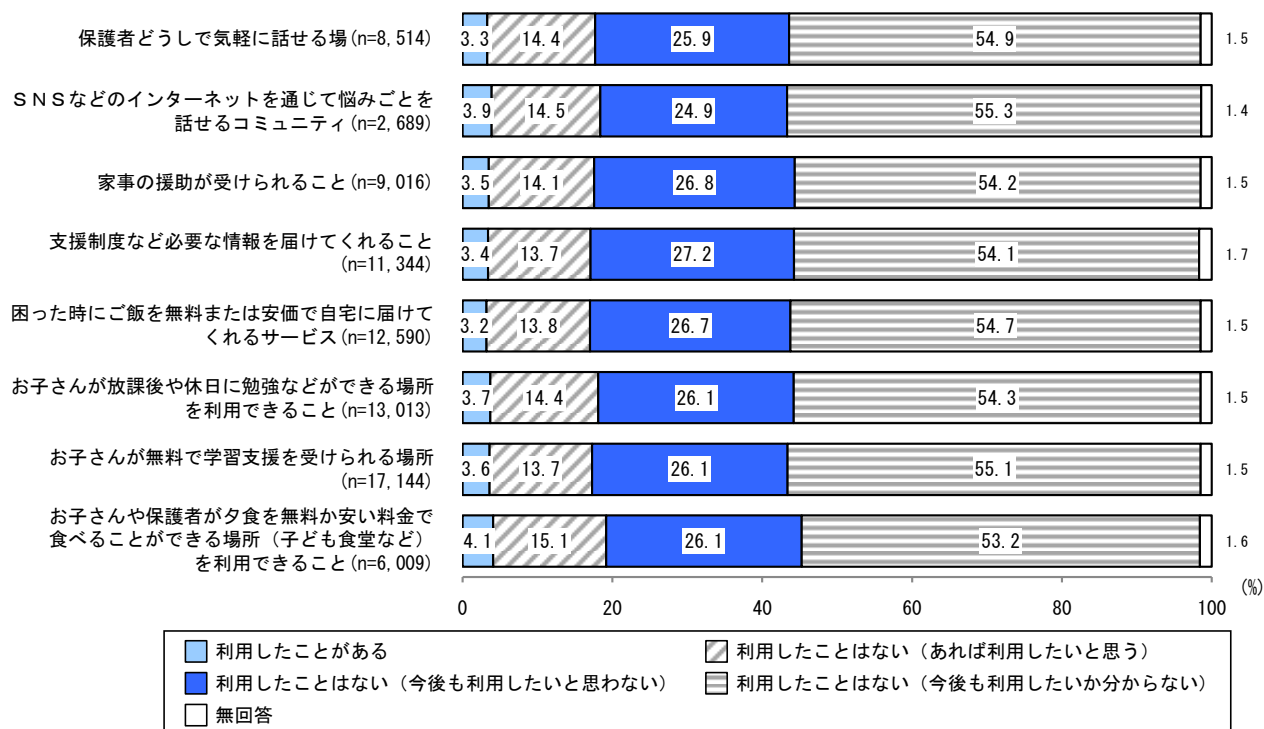


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が23.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<枚方市>

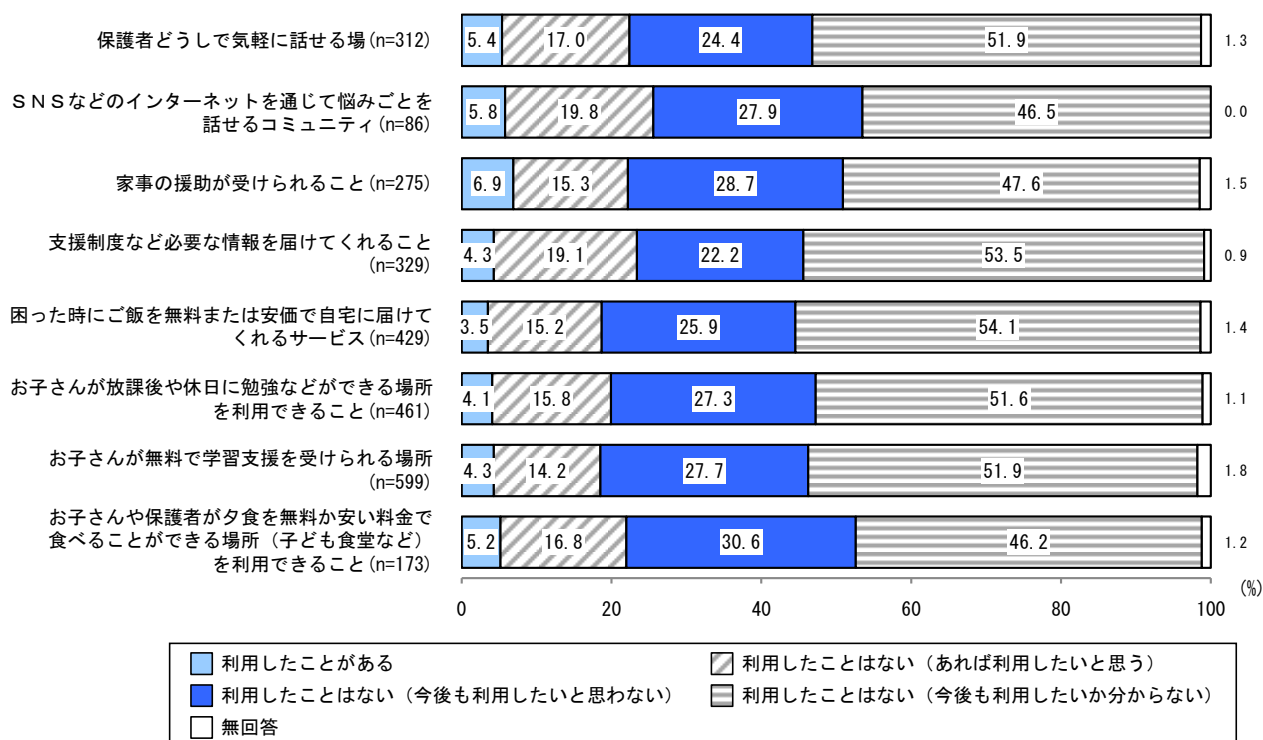
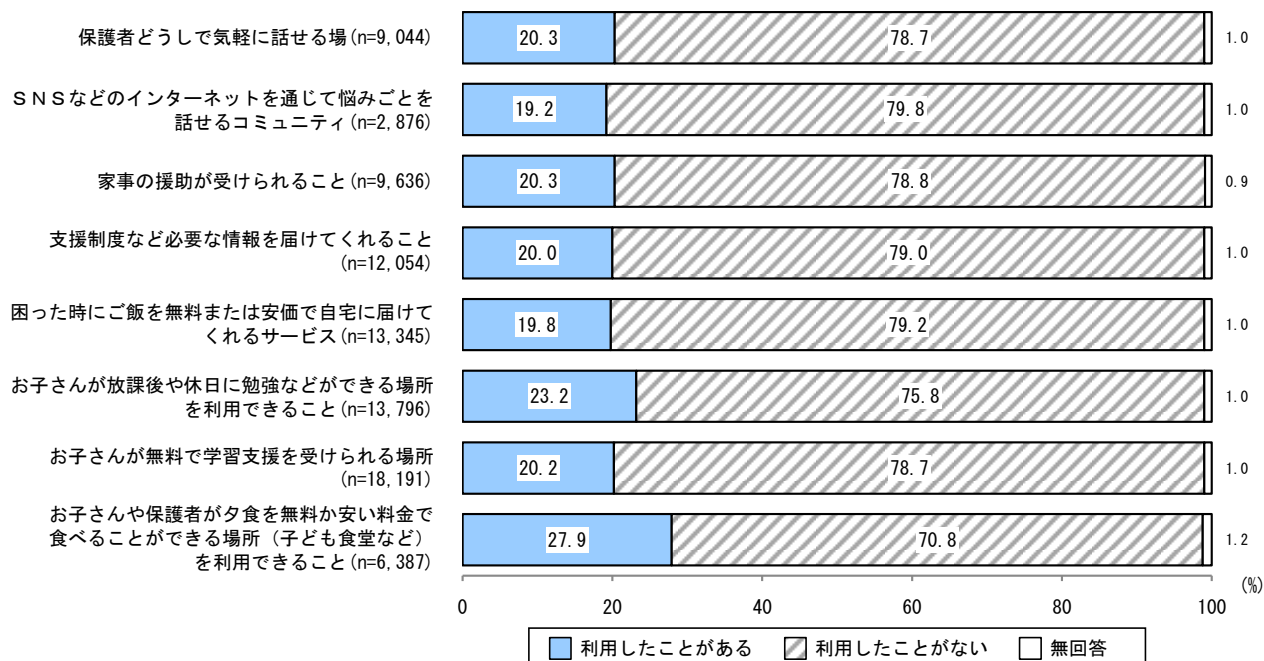


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が19.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<枚方市>

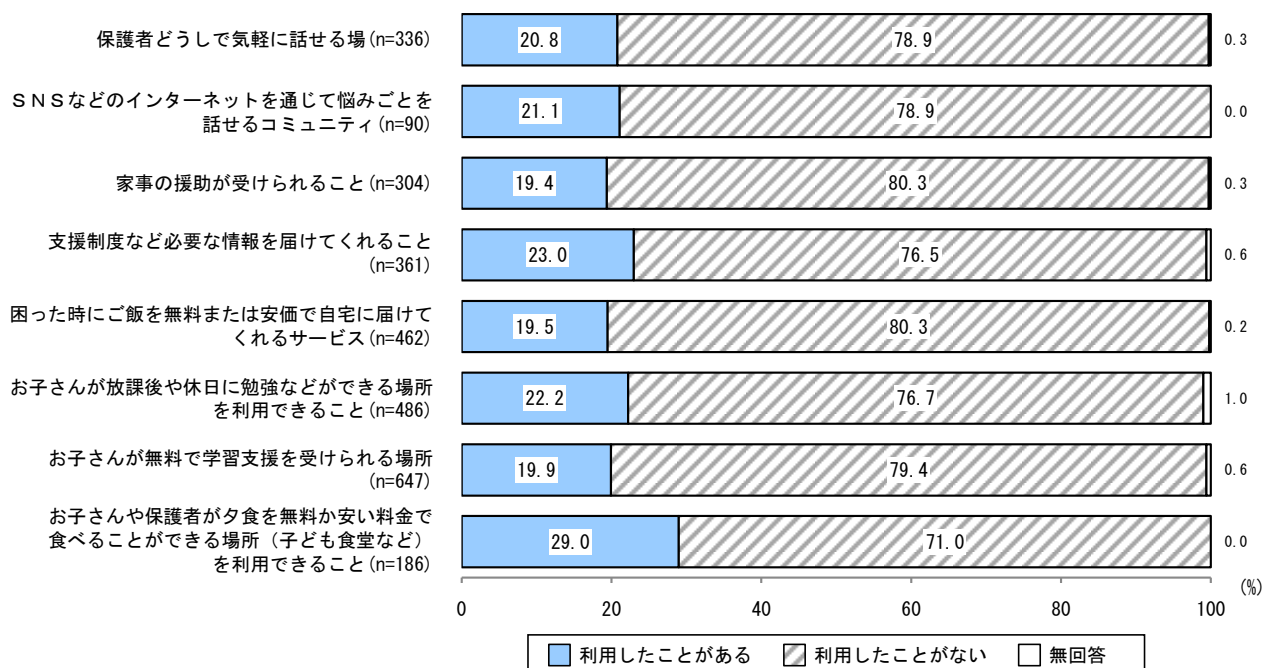
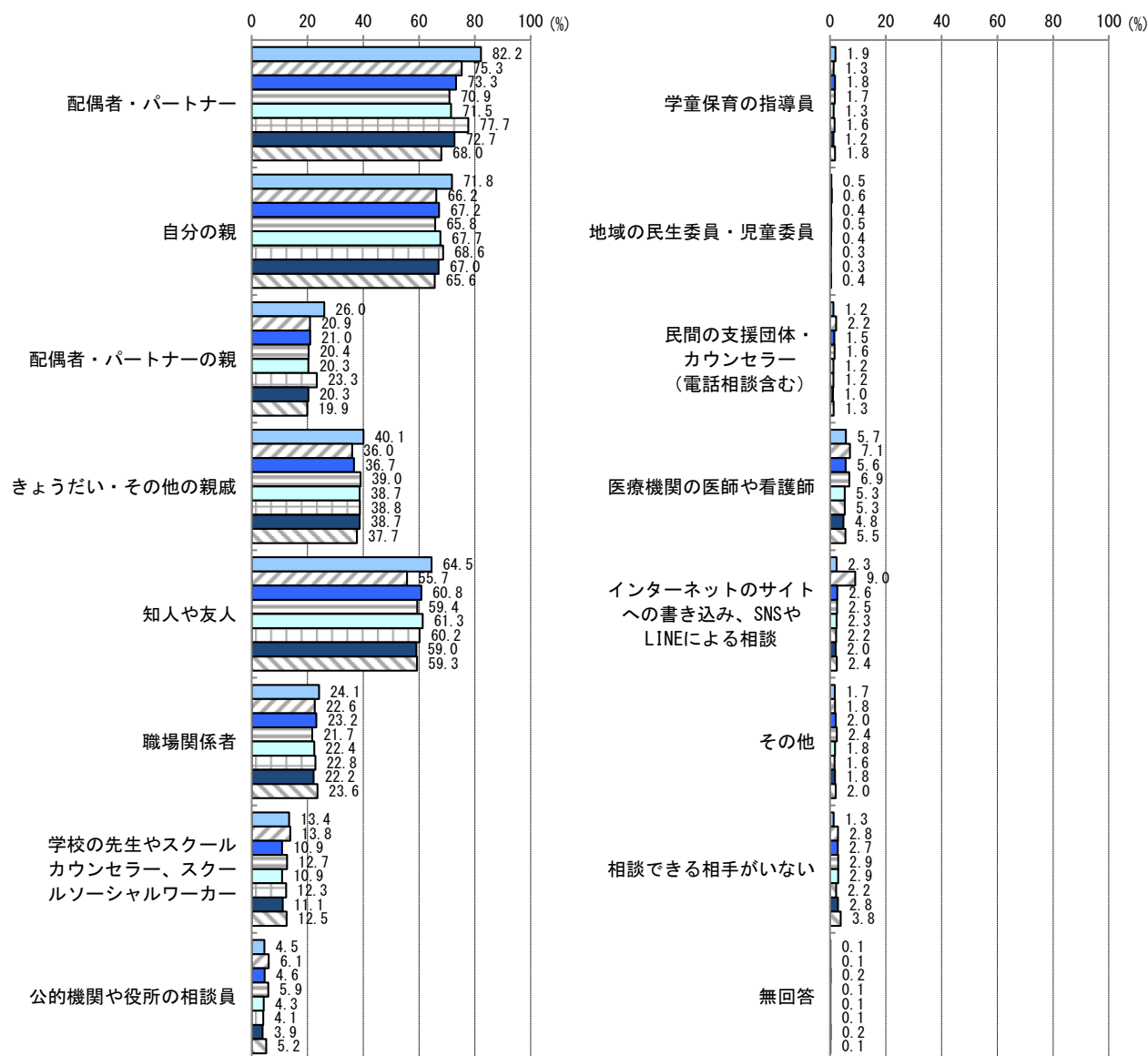


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金を食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が29.0%で最も高く、次いで「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が23.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9,044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2,876)
- 家事の援助が受けられること (n=9,636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12,054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13,345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13,796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18,191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6,387)

<枚方市>

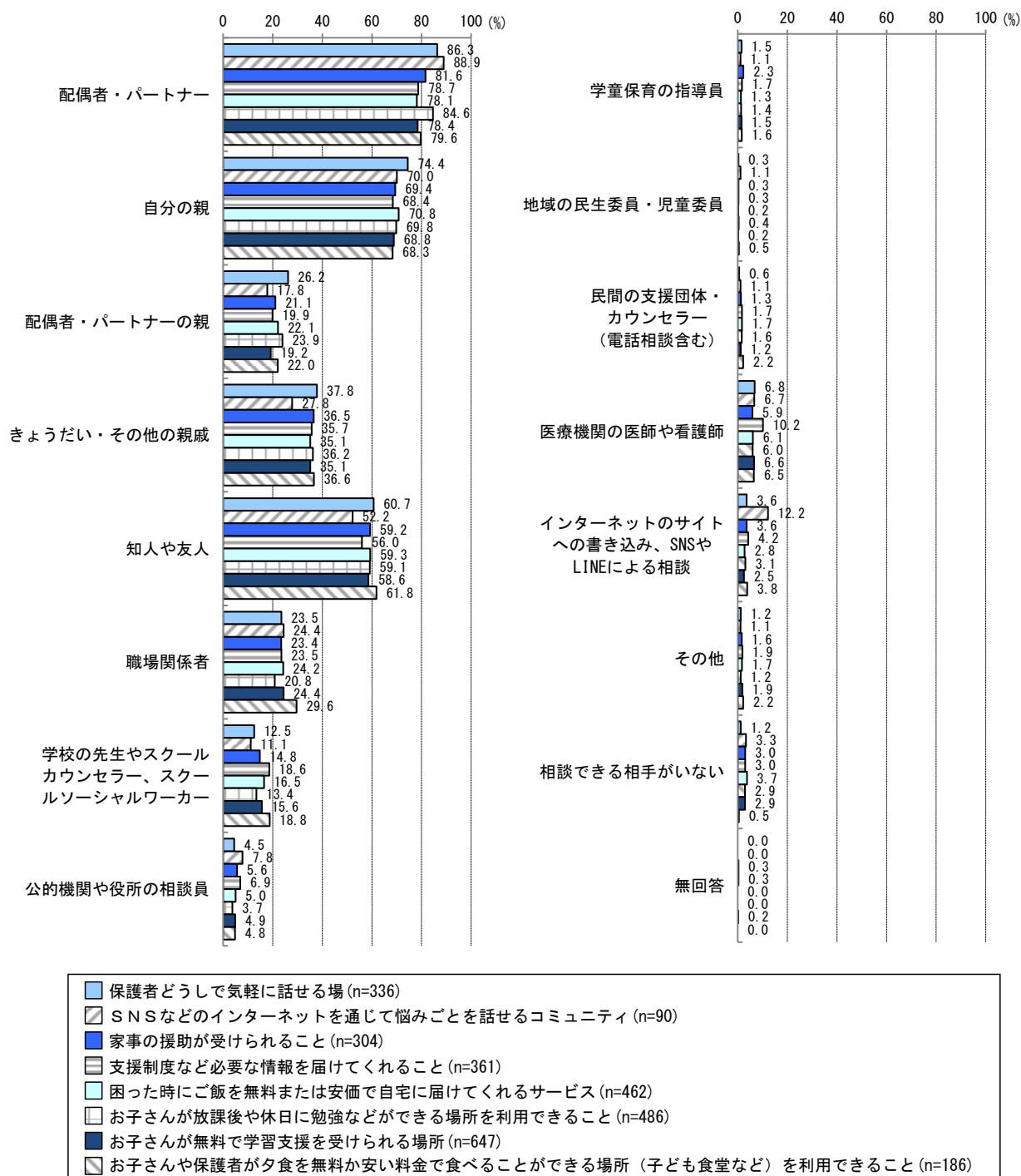


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が88.9%で最も高く、次いで「保護者どうして気軽に話せる場」が86.3%となっている。

＜対人関係に関する考察＞

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間の差が大きい項目に着目し分析結果を以下にまとめる。子どもが「放課後に過ごす場所」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾」(33.5%対23.2%)と「習いごと」(38.7%対28.4%)が10ポイント以上、「学校(クラブ活動・部活動など)」(32.0%対25.8%)の利用が5ポイント以上高くなっている一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」(11.6%対4.8%)、「公園・広場」(31.6%対25.9%)が5ポイント以上高くなっている。子どもが「放課後を一緒に過ごす人」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「うちの大人の人」(70.4%対63.9%)、「クラブ活動・部活動の仲間」(30.2%対20.6%)が5ポイント以上高くなっている。毎日の生活で楽しいことでは、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」(58.4%対49.7%)が5ポイント以上、「ともだちと一緒に過ごしているとき」(84.4%対80.0%)が高くなっている。一方、悩んでいることでは、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校や勉強のこと」(21.9%対16.5%)、「自分のこと(外見や体型など)」(17.4%対13.1%)、が約5ポイント高くなっている。また、子どもの自己効力感では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群よりも高く(平均点8.82対8.34)、放課後一人で過ごさない子どもは過ごす子どもよりも高くなっている(平均点8.76対8.06)。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆される。

子どもが「放課後や休日に自分や友達の家以外で利用した場所」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「利用したことがある」(16.3%対15.0%)が高く、とくに「平日の夜や休日に過ごすことができる場所(学童保育など)」(27.3%対23.9%)が高くなっている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(9.7%対8.6%)、「何でも相談できる場所」(4.5%対3.8%)の利用が高くなっている。嫌なことや悩んでいるときの相談相手は、自分が世話をしている人がいる子ども群はいない群と比べ、「きょうだい」(23.8%対16.7%)、「学校の先生」(29.1%対24.1%)が5ポイント以上高く、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所(学童保育など)」(26.2%対23.2%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(15.5%対9.7%)、「勉強を無料か安い料金でみてくれる場所」(5.3%対4.4%)、「何でも相談できる場所」(6.3%対3.8%)を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭や子どもが家族の世話を担っているケースでは、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆される。

本当に困ったときや悩みがあるときの保護者の相談相手・相談先では、子どもの居場所を利用したことがある群はない群と比べ、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(17.4%対11.3%)が5ポイント以上、「医療機関の医師や看護師」(8.9%対4.2%)、「配偶者・パートナーの親」(23.6%対19.7%)、「公的機関や役所の相談員」(6.6%対2.9%)が高くなっている。これらの結果から、子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。